

---

2012年度

---

# シラバス

# 英語学科

---



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

獨協大学

# シラバスの見方

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください◆

## I 英語学科授業科目について

### 【シラバスページの検索方法】

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。

科目名とページ番号をよく確認してください。

### 【履修不可について】

① 目次には「履修不可」学科が記載されています。

「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

② 表記方法

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

全：英語学科以外の全学部学科

言：言語文化学科

## II シラバス本文の見方(右図参照)

① 入学年度

② 入学年度に対応した科目名

③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④ 学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤ 授業で使用するテキスト、参考文献

⑥ 評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

### 【注意事項】

① 履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

② 定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

③ 履修登録

オンライン登録、事前抽選、学期ごとに1回目の授業で選考または抽選を行なう科目もあるので

必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認してください。

# 目次

## 2006～2012 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修科目を含む)-----	2
学科共通科目-----	6
学科専門科目-----	12
交流文化論開設科目一覧表-----	14
外国語学部共通科目開設一覧表-----	15
担当者別シラバス-----	16

## 【参考資料】（英語レベル表）

2006 年度以降入学者					
レベル	TOEIC®	TOEFL®			実用英語技能 検定
		PBT	CBT	iBT	
上級	700 点以上	520 点以上	190 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	157 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC®テストのスコアが履修条件を満たしていれば履修登録は可能です。

学外で受験したスコアを利用する場合は、証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

# 英語学科 授業科目(2006～2012年度入学者用)

## 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語学入門	鈴木 英一	春	火3	2	1	全	16
英語学入門	鈴木 英一	秋	火3	2	1	全	16
英語学入門	安井 美代子	春	金1	2	1	全	17
英語学入門	安井 美代子	秋	金1	2	1	全	17
英語圏の文学・文化入門	上野 直子	春	木5	2	1	全	18
英語圏の文学・文化入門	小林 愛明	秋	木4	2	1	全	18
英語圏の文学・文化入門	前沢 浩子	秋	木5	2	1	全	18
文化コミュニケーション入門	板場 良久	春	水2	2	1	全	19
文化コミュニケーション入門	板場 良久	秋	水2	2	1	全	19
文化コミュニケーション入門	板場 良久	春	金1	2	1	全	20
文化コミュニケーション入門	板場 良久	秋	金1	2	1	全	20
国際コミュニケーション入門	永野 隆行	春	火5	2	1	全	21
国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	春	水2	2	1	全	22
国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	全	22
英語音声学	青柳 真紀子	春	火1	2	1	全	23
英語音声学	青柳 真紀子	秋	火1	2	1	全	23
英語音声学	中田 ひとみ	春	火2	2	1	全	24
英語音声学	中田 ひとみ	秋	火2	2	1	全	24
Lecture Workshop I	各担当教員	春		2	1	全	25
Lecture Workshop II	各担当教員	秋		2	1	全	25
Comprehensive English I	E. 本橋	春	月2/水2	2	1	全	26
Comprehensive English II	E. 本橋	秋	月2/水2	2	1	全	26
Comprehensive English I	P. マッケビリー	春	月2/金2	2	1	全	27
Comprehensive English II	P. マッケビリー	秋	月2/金2	2	1	全	27
Comprehensive English I	A. R. ファルヴォ	春	月2/金3	2	1	全	28
Comprehensive English II	A. R. ファルヴォ	秋	月2/金3	2	1	全	28
Comprehensive English I	J. A. グレイ	春	月3/水3	2	1	全	29
Comprehensive English II	J. A. グレイ	秋	月3/水3	2	1	全	29
Comprehensive English I	M. ダーリン	春	月3/木4	2	1	全	30
Comprehensive English II	M. ダーリン	秋	月3/木4	2	1	全	30
Comprehensive English I	P. アップス	春	火1/水3	2	1	全	31
Comprehensive English II	P. アップス	秋	火1/水3	2	1	全	31
Comprehensive English I	D. ベーカー	春	火1/木4	2	1	全	32
Comprehensive English II	D. ベーカー	秋	火1/木4	2	1	全	32
Comprehensive English I	D. ベーカー	春	火2/木5	2	1	全	33
Comprehensive English II	D. ベーカー	秋	火2/木5	2	1	全	33
Comprehensive English I	R. ダラム	春	火2/木1	2	1	全	34
Comprehensive English II	R. ダラム	秋	火2/木1	2	1	全	34
Comprehensive English I	未定(掲示で確認)	春	月2/金3	2	1	全	35
Comprehensive English II	未定(掲示で確認)	秋	月2/金3	2	1	全	35
Comprehensive English I	P. ドーレ	春	水3/金1	2	1	全	36
Comprehensive English II	P. ドーレ	秋	水3/金1	2	1	全	36
Comprehensive English I	D. マッキャン	春	木1/金1	2	1	全	37
Comprehensive English II	D. マッキャン	秋	木1/金1	2	1	全	37
Comprehensive English I 再履修	K. ミーハン/J. A. グレイ	秋	月4/水5	2	1	全	38
Comprehensive English II 再履修	L. K. ハーキンス	春	月1/金3	2	1	全	39

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。



# 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
Comprehensive English Ⅲ (HONORS)	R. ジョーンズ	春	水1	1	2	全	40
Comprehensive English Ⅳ (HONORS)	R. ジョーンズ	秋	水1	1	2	全	40
Comprehensive English Ⅲ (HONORS)	J. ウォールドマン	春	木4	1	2	全	41
Comprehensive English Ⅳ (HONORS)	J. ウォールドマン	秋	木4	1	2	全	41
Comprehensive English Ⅲ	P. ドーレ	春	火3	1	2	全	42
Comprehensive English Ⅳ	P. ドーレ	秋	火3	1	2	全	42
Comprehensive English Ⅲ	M. フッド	春	火4	1	2	全	43
Comprehensive English Ⅳ	M. フッド	秋	火4	1	2	全	43
Comprehensive English Ⅲ	E. フランコ	春	水1	1	2	全	44
Comprehensive English Ⅳ	E. フランコ	秋	水1	1	2	全	44
Comprehensive English Ⅲ	E. フランコ	春	水2	1	2	全	45
Comprehensive English Ⅳ	E. フランコ	秋	水2	1	2	全	45
Comprehensive English Ⅲ	R. ジョーンズ	春	水2	1	2	全	46
Comprehensive English Ⅳ	R. ジョーンズ	秋	水2	1	2	全	46
Comprehensive English Ⅲ	J. A. グレイ	春	水4	1	2	全	47
Comprehensive English Ⅳ	J. A. グレイ	秋	水4	1	2	全	47
Comprehensive English Ⅲ	P. アップス	春	水4	1	2	全	48
Comprehensive English Ⅳ	P. アップス	秋	水4	1	2	全	48
Comprehensive English Ⅲ	A. R. ファルヴォ	春	金1	1	2	全	49
Comprehensive English Ⅳ	A. R. ファルヴォ	秋	金1	1	2	全	49
Comprehensive English Ⅲ	A. マグズ	春	金1	1	2	全	50
Comprehensive English Ⅳ	A. マグズ	秋	金1	1	2	全	50
Comprehensive English Ⅲ	K. フォード	春	金1	1	2	全	51
Comprehensive English Ⅳ	K. フォード	秋	金1	1	2	全	51
Comprehensive English Ⅲ 再履修	P. マッケビリー	春	月1	1	2	全	52
Comprehensive English Ⅳ 再履修	P. マッケビリー	秋	月1	1	2	全	52
Comprehensive English Ⅳ 再履修	P. マッケビリー	春	金3	1	2	全	53
Comprehensive English Ⅲ 再履修	P. マッケビリー	秋	金3	1	2	全	53
Reading Strategies I	E. 本橋	春	水1	1	1	全	54
Reading Strategies II	E. 本橋	秋	水1	1	1	全	54
Reading Strategies I	J. N. ウェンデル	春	水1	1	1	全	55
Reading Strategies II	J. N. ウェンデル	秋	水1	1	1	全	55
Reading Strategies I	青柳 真紀子	春	水1	1	1	全	56
Reading Strategies II	青柳 真紀子	秋	水1	1	1	全	56
Reading Strategies I	阿部 真	春	水1	1	1	全	57
Reading Strategies II	阿部 真	秋	水1	1	1	全	57
Reading Strategies I	上野 直子	春	水1	1	1	全	58
Reading Strategies II	上野 直子	秋	水1	1	1	全	58
Reading Strategies I	片山 亜紀	春	水1	1	1	全	59
Reading Strategies II	片山 亜紀	秋	水1	1	1	全	59
Reading Strategies I	工藤 和宏	春	水1	1	1	全	60
Reading Strategies II	工藤 和宏	秋	水1	1	1	全	60
Reading Strategies I	佐野 康子	春	水1	1	1	全	61
Reading Strategies II	佐野 康子	秋	水1	1	1	全	61
Reading Strategies I	鈴木 英一	春	水1	1	1	全	62
Reading Strategies II	鈴木 英一	秋	水1	1	1	全	62
Reading Strategies I	原 成吉	春	水1	1	1	全	63
Reading Strategies II	原 成吉	秋	水1	1	1	全	63
Reading Strategies I	羽山 恵	春	水1	1	1	全	64
Reading Strategies II	羽山 恵	秋	水1	1	1	全	64
Reading Strategies I	阿部 真	春	水3	1	1	全	65
Reading Strategies II	阿部 真	秋	水3	1	1	全	65
Reading Strategies II 再履修	靱江 静	春	月4	1	1	全	66
Reading Strategies I 再履修	靱江 静	秋	水4	1	1	全	66
Reading Strategies I 再履修	白川 貴子	春	水3	1	1	全	67
Reading Strategies I 再履修	白川 貴子	秋	水3	1	1	全	67
Reading Strategies II 再履修	国見 晃子	秋	木3	1	1	全	68

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

# 学科基礎科目

06～12年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
Reading Strategies III (HONORS)	E. 本橋	春	月5	1	2	全	69
Reading Strategies IV (HONORS)	E. 本橋	秋	月5	1	2	全	69
Reading Strategies III (HONORS)	A. ゴーリンジャー	春	水1	1	2	全	70
Reading Strategies IV (HONORS)	A. ゴーリンジャー	秋	水1	1	2	全	70
Reading Strategies III	阿部 真	春	月5	1	2	全	71
Reading Strategies IV	阿部 真	秋	月5	1	2	全	71
Reading Strategies III	E. 本橋	春	火4	1	2	全	72
Reading Strategies IV	E. 本橋	秋	火4	1	2	全	72
Reading Strategies III	佐藤 唯行	春	水1	1	2	全	73
Reading Strategies IV	佐藤 唯行	秋	水1	1	2	全	73
Reading Strategies III	鍋倉 健悦	春	水1	1	2	全	74
Reading Strategies IV	鍋倉 健悦	秋	水1	1	2	全	74
Reading Strategies III	前沢 浩子	春	水1	1	2	全	75
Reading Strategies IV	前沢 浩子	秋	水1	1	2	全	75
Reading Strategies III	J. J. ダゲン	春	水2	1	2	全	76
Reading Strategies IV	J. J. ダゲン	秋	水2	1	2	全	76
Reading Strategies III	阿部 真	春	水2	1	2	全	77
Reading Strategies IV	阿部 真	秋	水2	1	2	全	77
Reading Strategies III	片山 亜紀	春	水2	1	2	全	78
Reading Strategies IV	片山 亜紀	秋	水2	1	2	全	78
Reading Strategies III	原 成吉	春	水2	1	2	全	79
Reading Strategies IV	原 成吉	秋	水2	1	2	全	79
Reading Strategies III	阿部 真	春	木4	1	2	全	80
Reading Strategies IV	阿部 真	秋	木4	1	2	全	80
Reading Strategies III 再履修	金谷 優子	春	水3	1	2	全	81
Reading Strategies IV 再履修	金谷 優子	秋	水3	1	2	全	81
Reading Strategies IV 再履修	山中 章子	春	木3	1	2	全	82
Reading Strategies III 再履修	山中 章子	秋	木3	1	2	全	82
Writing Strategies	靱江 静	春	月3	1	1	全	83
Writing Strategies	長南 一豪	春	水3	1	1	全	84
Writing Strategies	門倉 弘枝	春	木4	1	1	全	85
Writing Strategies	山中 章子	春	木4	1	1	全	86
Writing Strategies	阿部 真	春	金2	1	1	全	87
Writing Strategies	金谷 優子	春	金2	1	1	全	88
Paragraph Writing	阿部 真	春	月3	1	1	全	89
Paragraph Writing	D. H. ケネディ	春	火2	1	1	全	90
Paragraph Writing	P. アップス	春	火3	1	1	全	91
Paragraph Writing	P. ドーレ	春	水2	1	1	全	92
Paragraph Writing	E. フランコ	春	水3	1	1	全	93
Paragraph Writing	J. スネール	春	木1	1	1	全	94
Paragraph Writing	佐原 彩子	春	木4	1	1	全	95
Paragraph Writing	A. マグズ	春	金2	1	1	全	96
Paragraph Writing	K. フォード	春	金2	1	1	全	97
Paragraph Writing	P. ドーレ	春	金2	1	1	全	98
Paragraph Writing	K. ミーハン	春	金3	1	1	全	99
Paragraph Writing	阿部 真	春	金3	1	1	全	100
Paragraph Writing	靱江 静	秋	月3	1	1	全	83
Paragraph Writing	長南 一豪	秋	水3	1	1	全	84
Paragraph Writing	門倉 弘枝	秋	木4	1	1	全	85
Paragraph Writing	山中 章子	秋	木4	1	1	全	86
Paragraph Writing	阿部 真	秋	金2	1	1	全	87
Paragraph Writing	金谷 優子	秋	金2	1	1	全	88

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科時間割表』を参照してください。

# 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
Basic Essay Writing	阿部 真	秋	月3	1	1	全	89
Basic Essay Writing	D. H. ケネディ	秋	火2	1	1	全	90
Basic Essay Writing	P. アップス	秋	火3	1	1	全	91
Basic Essay Writing	P. ドーレ	秋	水2	1	1	全	92
Basic Essay Writing	E. フランコ	秋	水3	1	1	全	93
Basic Essay Writing	J. スネール	秋	木1	1	1	全	94
Basic Essay Writing	佐原 彩子	秋	木4	1	1	全	95
Basic Essay Writing	A. マグズ	秋	金2	1	1	全	96
Basic Essay Writing	K. フォード	秋	金2	1	1	全	97
Basic Essay Writing	P. ドーレ	秋	金2	1	1	全	98
Basic Essay Writing	K. ミーハン	秋	金3	1	1	全	99
Basic Essay Writing	阿部 真	秋	金3	1	1	全	100
Basic Essay Writing 再履修	L. K. ハーキンス	春	月3	1	1	全	101
Basic Essay Writing 再履修	J. A. グレイ	秋	月5	1	1	全	102
E-learning I (Aグループ)	阿部 真	春	金5	1	1	全	103
E-learning II (Aグループ)	阿部 真	秋	金5	1	1	全	103
E-learning I (B・Cグループ)	安井 美代子	春	金5	1	1	全	104
E-learning II (B・Cグループ)	安井 美代子	秋	金5	1	1	全	104
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	春	火1	1	1	全	105
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	秋	火1	1	1	全	105
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	春	火3	1	1	全	106
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	秋	火3	1	1	全	106
Introductory Grammar	小早川 暁	春	火3	1	1	全	107
Introductory Grammar	小早川 暁	秋	火2	1	1	全	107
Introductory Grammar	河原 宏之	春	木1	1	1	全	108
Introductory Grammar	河原 宏之	秋	木1	1	1	全	108

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科時間割表』を参照してください。

# 学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

06～12年度入学者用

科目名(副題)	担当者	開講 区分	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Critically thinking things through)	小西 卓三	春秋	月2	2	2		109
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永 和博	春秋	月2	2	2		110
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インタビューやニュースのスク립トを読む)	鍋倉 健悦	春秋	月2	2	2		111
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Multiculturalism & Multicultural Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2		112
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法理論への誘い)	鈴木 英一	春秋	月3	2	2		113
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ミステリー&サスペンスを解説する / 米国とカリブ社会のアフリカ系作家によるショートストーリー)	三吉 美加	春秋	月3	2	2		114
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Origin and Evolution of Language)	J. N. ウェンデル	春秋	月4	2	2		115
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	大木 理恵子	春秋	月4	2	2		116
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (日本語学)	長南 一豪	春秋	月4	2	2		117
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法入門)	河原 宏之	春秋	月5	2	2		118
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代イギリス小説)	東郷 公德	春秋	月5	2	2		119
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビデオゲームと身体 / 映像表象の歴史と理論)	松本 健太郎	春秋	火1	2	2		120
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (James Joyce)	M. フッド	春秋	火2	2	2		121
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (コミュニケーションと文化)	工藤 和宏	春秋	火2	2	2		122
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language & Teaching)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2		123
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (音声科学入門)	青柳 真紀子	春秋	火3	2	2		124
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オーストラリアの詩)	国見 晃子	春秋	火3	2	2		125
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (コミュニケーションと異文化理解)	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2		126
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (戦後国際政治史)	永野 隆行	春秋	火3	2	2		127
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく)	福井 嘉彦	春秋	火3	2	2		128
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史 / 米国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	火4	2	2		129
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代国際関係論)	佐野 康子	春秋	火4	2	2		130
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	高田 宣子	春秋	火4	2	2		131
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (グローバルな眼でアジアを読む)	竹田 いさみ	春秋	火4	2	2		132

# 学科共通科目「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講 区分	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (The Learning Brain Lesson for Educa)	N. H. ジョスト	春秋	水1	2	2		133
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	春秋	水1	2	2		134
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	春秋	水1	2	2		135
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山 晴信	春秋	水2	2	2		136
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Culture and Communication)	C. B. 池口	春秋	水3	2	2		137
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アレン・ギンズバークの詩を読む)	小林 愛明	春秋	水3	2	2		138
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (イギリス児童文学)	白鳥 正孝	春秋	水4	2	2		139
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Japanese Art & Culture)	A. ゴーリンジャー	春秋	木2	2	2		140
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカにおける人種概念)	佐原 彩子	春秋	木2	2	2		141
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ小説)	島田 啓一	春秋	木2	2	2		142
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩を読む)	原 成吉	春秋	木2	2	2		143
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ビート詩人たちの預言)	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2		144
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (物語を読んで楽しむ)	佐藤 勉	春秋	木3	2	2		145
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (King Learを読む)	前沢 浩子	春秋	木3	2	2		146
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オープンスカイと北東アジア共通航空市場)	山路 顕	春秋	木3	2	2		147
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代における国際関係の展開)	伊藤 兵馬	春秋	木4	2	2		148
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (動詞の意味と文法)	小早川 暁	春秋	木4	2	2		149
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Reading for Academic Purpose)	T. ホサイン	春秋	金2	2	2		150
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (強制的異性愛社会からの脱出)	片山 亜紀	春秋	金2	2	2		151
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (SLA実証研究論文)	羽山 恵	春秋	金2	2	2		152
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカの広告文化史研究 ① / アメリカの広告文化史研究 ②)	板場 良久	春秋	金3	2	2		153
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (米国の対外政策)	高木 綾	春秋	金3	2	2		154
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷 優子	春秋	金4	2	2		155
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野 収	春秋	金4	2	2		156

# 学科共通科目

06～12年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
Academic Writing	K. ミーハン	春	月4	2	2	交	157
Academic Writing	L. K. ハーキンス	秋	月3	2	2	交	158
Academic Writing	M. ダーリン	春	月5	2	2	交	159
Academic Writing	M. ダーリン	秋	月5	2	2	交	159
Academic Writing	D. H. ケネディ	春	火1	2	2	交	160
Academic Writing	D. H. ケネディ	秋	火1	2	2	交	160
Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火1	2	2	交	161
Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火1	2	2	交	161
Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	交	162
Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	交	162
Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	交	163
Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	交	163
Academic Writing	M. フッド	春	火3	2	2	交	164
Academic Writing	M. フッド	秋	火3	2	2	交	164
Academic Writing	未定(掲示で確認)	春	月1	2	2	交	165
Academic Writing	R. ジョーンズ	春	水3	2	2	交	166
Academic Writing	R. ジョーンズ	秋	水3	2	2	交	166
Academic Writing	J. ウォールドマン	春	木2	2	2	交	167
Academic Writing	J. ウォールドマン	秋	木2	2	2	交	167
Academic Writing	R. ダラム	春	木2	2	2	交	168
Academic Writing	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	168
Academic Writing	E. フランコ	春	木3	2	2	交	169
Academic Writing	E. フランコ	秋	木3	2	2	交	169
Academic Writing	佐原 彩子	春	木3	2	2	交	170
Academic Writing	佐原 彩子	秋	木3	2	2	交	170
Academic Writing	K. フォード	春	金3	2	2	交	171
Academic Writing	K. フォード	秋	金3	2	2	交	171
翻訳	高田 宣子	春	火5	2	2	交	172
翻訳	高田 宣子	秋	火5	2	2	交	172
翻訳	上野 直子	秋	水2	2	2	交	173
翻訳	白鳥 正孝	春	水3	2	2	交	174
翻訳	柴田 耕太郎	春	木3	2	2	交	175
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2	交	175
翻訳	国見 晃子	秋	木4	2	2	交	176
翻訳	柴田 耕太郎	春	木4	2	2	交	177
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木4	2	2	交	177
翻訳	白川 貴子	春	水4	2	2	交	178
翻訳	白川 貴子	秋	水4	2	2	交	178
翻訳	山中 章子	春	木5	2	2	交	179
翻訳	山中 章子	秋	木5	2	2	交	179
翻訳	P. ネルム	春	金5	2	2	交	180
翻訳	P. ネルム	秋	金5	2	2	交	180



# 学科共通科目

06~12年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
College Grammar	靱江 静	秋	月4	2	2	交	181
College Grammar	長南 一豪	春	月5	2	2	交	182
College Grammar	長南 一豪	秋	月5	2	2	交	182
College Grammar	靱江 静	春	水3	2	2	交	183
College Grammar	靱江 静	秋	水3	2	2	交	183
College Grammar	靱江 静	春	水4	2	2	交	184
College Grammar	長南 一豪	春	水4	2	2	交	185
College Grammar	長南 一豪	秋	水4	2	2	交	185
College Grammar	河原 宏之	春	木2	2	2	交	186
College Grammar	河原 宏之	秋	木2	2	2	交	186
College Grammar	小早川 暁	春	木3	2	2	交	187
College Grammar	小早川 暁	秋	木3	2	2	交	187
College Grammar	府川 謹也	春	金2	2	2	交	188
College Grammar	府川 謹也	秋	金2	2	2	交	188
College Grammar	坂本 洋子	春	金3	2	2	交	189
College Grammar	坂本 洋子	秋	金3	2	2	交	189
College Grammar	坂本 洋子	春	金4	2	2	交	190
College Grammar	坂本 洋子	秋	金4	2	2	交	190
Communicative English	K. ミーハン	春	月1	2	2	交	191
Communicative English	K. ミーハン	秋	月1	2	2	交	191
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	月1	2	2	交	192
Communicative English	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	交	193
Communicative English	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	交	193
Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	194
Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	194
Communicative English	J. A. グレイ	春	月5	2	2	交	195
Communicative English	R. ダラム	春	火1	2	2	交	196
Communicative English	R. ダラム	秋	火1	2	2	交	196
Communicative English	D. ブラドリー	春	火2	2	2	交	197
Communicative English	D. ブラドリー	秋	火2	2	2	交	197
Communicative English	P. アップス	春	火2	2	2	交	198
Communicative English	P. アップス	秋	火2	2	2	交	198
Communicative English	J. N. ウェンデル	春	火3	2	2	交	199
Communicative English	J. N. ウェンデル	秋	火3	2	2	交	199
Communicative English	未定(掲示で確認)	秋	月1	2	2	交	200
Communicative English	R. ダラム	春	火3	2	2	交	201
Communicative English	R. ダラム	秋	火3	2	2	交	201
Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	202
Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	202
Communicative English	J. A. グレイ	春	水5	2	2	交	203
Communicative English	D. マツキャン	春	木2	2	2	交	204
Communicative English	D. マツキャン	秋	木2	2	2	交	204
Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	交	205
Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	交	205
Communicative English	M. ダーリン	春	木5	2	2	交	206
Communicative English	M. ダーリン	秋	木5	2	2	交	206
Communicative English	L. K. ハーキンス	春	金1	2	2	交	207
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金1	2	2	交	207
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金3	2	2	交	208

# 学科共通科目

06～12年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
Discussion	P. マッケビリー	春	月3	2	2	交	209
Discussion	P. マッケビリー	秋	月3	2	2	交	209
Discussion	J. ウォールドマン	春	月4	2	2	交	210
Discussion	J. ウォールドマン	秋	月4	2	2	交	210
Discussion	N. H. ジョスト	春	火5	2	2	交	211
Discussion	N. H. ジョスト	秋	火5	2	2	交	211
Discussion	C. B. 池口	春	水4	2	2	交	212
Discussion	C. B. 池口	秋	水4	2	2	交	212
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	交	213
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	交	213
Discussion	未定(掲示で確認)	春	金4	2	2	交	214
Discussion	未定(掲示で確認)	秋	金4	2	2	交	214
Public Speaking I	J. N. ウェンデル	春	月3	2	2	交	215
Public Speaking II	J. N. ウェンデル	秋	月3	2	2	交	215
Public Speaking I	C. B. 池口	春	水2	2	2	交	216
Public Speaking II	C. B. 池口	秋	水2	2	2	交	216
Public Speaking I	門倉 弘枝	春	木3	2	2	交	217
Public Speaking II	門倉 弘枝	秋	木3	2	2	交	217
Debate I	小西 卓三	春	月3	2	2	交	218
Debate II	小西 卓三	秋	月3	2	2	交	218
Debate I	N. H. ジョスト	春	火4	2	2	交	219
Debate II	N. H. ジョスト	秋	火4	2	2	交	219
通訳 I	鍋倉 健悦	春	火3	2	2	交	220
通訳 I	鍋倉 健悦	秋	火3	2	2	交	220
通訳 I	原口 友子	春	金3	2	2	交	221
通訳 I	原口 友子	秋	金3	2	2	交	221
通訳 I	原口 友子	春	金5	2	2	交	222
通訳 I	原口 友子	秋	金5	2	2	交	222
通訳 II	原口 友子	春	金4	2	2	交	223
通訳 II	原口 友子	秋	金4	2	2	交	223
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月1	2	2	交	224
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月1	2	2	交	224
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月2	2	2	交	225
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月2	2	2	交	225
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	火3	2	2	交	226
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	火3	2	2	交	226
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	水3	2	2	交	227
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	水3	2	2	交	227
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木3	2	2	交	228
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木3	2	2	交	228
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木4	2	2	交	229
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木4	2	2	交	229
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	春	金1	2	3	交	230
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	秋	金1	2	3	交	230

# 学科共通科目

06~12年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	交	231
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	交	231
メディア英語 I	海老沢 達郎	春	火2	2	2	交	232
メディア英語 I	海老沢 達郎	秋	火2	2	2	交	232
メディア英語 I	国見 晃子	春	火4	2	2	交	233
メディア英語 I	国見 晃子	秋	火4	2	2	交	233
メディア英語 I	小林 愛明	春	木3	2	2	交	234
メディア英語 I	小林 愛明	秋	木3	2	2	交	234
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	金2	2	2	交	235
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	金2	2	2	交	235
メディア英語 I	P. ネルム	春	金3	2	2	交	236
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金3	2	2	交	236
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	交	237
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	交	237
メディア英語 II	東郷 公德	春	月4	2	2	交	238
メディア英語 II	東郷 公德	秋	月4	2	2	交	238
メディア英語 II	P. ネルム	春	金4	2	2	交	239
メディア英語 II	P. ネルム	秋	金4	2	2	交	239
シネマ英語	D. ベーカー	春	火4	2	2	交	240
シネマ英語	D. ベーカー	秋	火4	2	2	交	240
シネマ英語	門倉 弘枝	春	木2	2	2	交	241
シネマ英語	門倉 弘枝	秋	木2	2	2	交	241
シネマ英語	T. ホサイン	春	金1	2	2	交	242
シネマ英語	T. ホサイン	秋	金1	2	2	交	242

# 学科専門科目

## 言語コミュニケーション

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語学の世界	府川 謹也	春	金1	2	2	交	243
英語学の世界	府川 謹也	秋	火5	2	2	交	243
言語情報処理Ⅰa	羽山 恵	春	木2	2	2	独・仏・交	244
言語情報処理Ⅰb	羽山 恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	244
言語情報処理Ⅰa	吉成 雄一郎	春	金2	2	2	独・仏・交	245
言語情報処理Ⅰb	吉成 雄一郎	秋	金2	2	2	独・仏・交	245
言語情報処理Ⅱa	吉成 雄一郎	春	金1	2	2		246
言語情報処理Ⅱb	吉成 雄一郎	秋	金1	2	2		246
英語発音教授法（06年度以降入学者）	青柳 真紀子	春	火2	2	2		247
英語発音教授法（06年度以降入学者）	青柳 真紀子	秋	火2	2	2		247
実践英語音声学（09年度以降入学者）	青柳 真紀子	春	火2	2	2		247
実践英語音声学（09年度以降入学者）	青柳 真紀子	秋	火2	2	2		247
音声・音韻論a	青柳 真紀子	春	木3	2	2		248
音声・音韻論b	青柳 真紀子	秋	木3	2	2		248
シンタクスa	鈴木 英一	春	月4	2	2		249
シンタクスb	鈴木 英一	秋	月4	2	2		249
意味論a	小早川 暁	春	水1	2	2		250
意味論b	小早川 暁	秋	水1	2	2		250
英語学特殊講義a	内田 富男	春	水2	2	2		251
英語学特殊講義b	内田 富男	秋	水2	2	2		251
英語学特殊講義a	安井 美代子	春	金2	2	2		252
英語学特殊講義b	安井 美代子	秋	金2	2	2		252
英語学文献研究a	小早川 暁	春	水2	2	3		253
英語学文献研究b	小早川 暁	秋	水2	2	3		253

## 文学コミュニケーション

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語圏の文学・文化	前沢 浩子	春	月4	2	2		254
英語圏の文学・文化	片山 亜紀	秋	金4	2	2		254
英語圏の小説 a	上野 直子	春	水2	2	2	全	255
英語圏の小説 b	島田 啓一	秋	木3	2	2	全	255
英語圏の詩 a	遠藤 朋之	春	木4	2	2	全	256
英語圏の詩 b	白鳥 正孝	秋	水3	2	2	全	256
英語圏の社会と思想 a	福井 嘉彦	春	火2	2	2	全	257
英語圏の社会と思想 b	福井 嘉彦	秋	火2	2	2	全	257
英語圏の歴史 a	佐藤 唯行	春	火2	2	2		258
英語圏の歴史 b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		258
英語圏のエリア・スタディーズ b	前沢 浩子	春	水3	2	2	交	259
英語圏のエリア・スタディーズ a	前沢 浩子	秋	水3	2	2	交	259
英語圏の文学・文化特殊講義 a	島田 啓一	春	木3	2	2		260
英語圏の文学・文化特殊講義 b	前沢 浩子	秋	月4	2	2		261
英語圏の文学・文化文献研究 a	上野 直子	春	火2	2	3		262
英語圏の文学・文化文献研究 b	上野 直子	秋	火2	2	3		262
英語圏の文学・文化文献研究 a	小林 愛明	春	水2	2	3		263

# 学科専門科目

## 異文化コミュニケーション

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
異文化間コミュニケーション論a,b	工藤 和宏	春	火5	2	2	言・養	264
異文化間コミュニケーション論a,b	工藤 和宏	秋	火5	2	2	言・養	264
異文化間コミュニケーション論a,b	鍋倉 健悦	春	火5	2	2	言・養	265
異文化間コミュニケーション論a,b	鍋倉 健悦	秋	火5	2	2	言・養	265
メディア・コミュニケーション論a	松本 健太郎	春	火2	2	2		266
メディア・コミュニケーション論b	松本 健太郎	秋	火2	2	2		266
スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	火4	2	2		267
スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	春	木3	2	2		267
スピーチ・コミュニケーション論a	小西 卓三	春	木2	2	2		268
スピーチ・コミュニケーション論b	小西 卓三	秋	木2	2	2		268
コミュニケーション論特殊講義a	町田 喜義	春	月3	2	3		269
コミュニケーション論特殊講義b	町田 喜義	秋	月3	2	3		269
コミュニケーション論特殊講義a	小西 卓三	春	木1	2	3		270
コミュニケーション論特殊講義b	小西 卓三	秋	木1	2	3		270
コミュニケーション論文献研究a	小西 卓三	春	月4	2	3		271
コミュニケーション論文献研究b	小西 卓三	秋	月4	2	3		271
コミュニケーション論文献研究a	柿田 秀樹	春	火5	2	3		272
コミュニケーション論文献研究b	柿田 秀樹	春	水2	2	3		272

## 国際コミュニケーション

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
グローバル社会論a,b	佐野 康子	春	火3	2	2	交	273
グローバル社会論a,b	佐野 康子	秋	火3	2	2	交	273
グローバル社会論a,b	竹田 いさみ	春	火3	2	2	交	274
グローバル社会論a,b	竹田 いさみ	秋	火3	2	2	交	274
英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2	2	2	交・法	275
英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月2	2	2	交・法	275
国際開発論	金子 芳樹	春	火2	2	2	交	276
国際協力論	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	交	277
国際交流論	小松 諄悦	春	金2	2	2	交	278
国際ツーリズム論	山路 顕	春	火5	2	2	交	279
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2	2	2	交	280
国際関係特殊講義a	竹田 いさみ	春	月3	2	2	交	281
国際関係特殊講義a	永野 隆行	春	木2	2	2		282
国際関係特殊講義b	小松 諄悦	秋	金2	2	2		283
国際関係特殊講義b	佐野 康子	秋	木3	2	2		284
国際関係文献研究a	金子 芳樹	春	火4	2	3		285
国際関係文献研究b	金子 芳樹	秋	火4	2	3		285
国際関係文献研究a	竹田 いさみ	春	水2	2	3		286
国際関係文献研究b	竹田 いさみ	秋	水2	2	3		286
国際関係文献研究a	高木 綾	春	金4	2	3		287
国際関係文献研究b	高木 綾	秋	金4	2	3		287

## 交流文化論(09年度以降入学者)

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
交流文化論(サステイナブル・ツーリズム論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養 経・法	289
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	春	火4	2	2	交・養 経・法	290
交流文化論(メディア・ライティング論)	横村 出	春	水4	2	2	交・養 経・法	291
交流文化論(航空産業論)	山路 顕	春	木2	2	2	交・養 経・法	292
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金2	2	2	交・養 経・法	293
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養 経・法	294
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養 経・法	295
交流文化論(ツーリズム文化論)	遠藤 充信	秋	火4	2	2	交・養 経・法	296
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	秋	火5	2	2	交・養 経・法	297
交流文化論(ツーリズム政策論)	山路 顕	秋	火5	2	2	交・養 経・法	298
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	山路 顕	秋	木2	2	2	交・養 経・法	299
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	秋	木4	2	2	交・養 経・法	300
交流文化論(ツーリズム・メディア論)	高橋 利男	秋	金1	2	2	交・養 経・法	301
交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	秋	金2	2	2	交・養 経・法	302
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金3	2	2	交・養 経・法	303
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養 経・法	304



# 外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	廣田 愛理	春	水2	2	1	養・経・法	305
総合講座	廣田 愛理	秋	水2	2	1	養・経・法	305
総合講座	谷口 亜沙子	春	水3	2	1	養・経・法	306
総合講座	谷口 亜沙子	秋	水3	2	1	養・経・法	306
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	307
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						308～310
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	内田 俊郎	秋	木4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						311～314
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	内田 俊郎	春	木2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田 俊郎	春	木4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田 俊郎	秋	木3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	
(HTML)情報科学各論	各担当教員						315
(HTML初級)	内田 俊郎	春	木3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	316
経済原論a	未定(掲示にて確認)	春	金2	2	2	養・経・法	317
経済原論b	未定(掲示にて確認)	秋	金2	2	2	養・経・法	317
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

06 年度以降 03 年度以降	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的:</b> 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の歴史を簡単に振り返り、英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する。		1. 英語史: 英語以前, 古英語 2. 英語史: 中英語 3. 英語史: 近代英語 4. 音声学・音韻論: 発話のメカニズム, 音素と異音 5. 音声学・音韻論: 音節, アクセント 6. 形態論: 語の特徴, 形態素分析 7. 形態論: 語形成課程の種類(借用, 逆形成, 混成, 複合) 8. 統語論(生成文法): 句構造, 格と意味役割; <u>中間試験</u> 9. 統語論(生成文法): 移動 10. 統語論(機能文法): 情報構造, 関係詞節 11. 統語論(機能文法): 指示関係, 視点, 数量詞の作用域 12. 意味論: 意味関係(多義性, 同義性, 能動文と受動文) 13. 意味論: 認知意味論のアプローチ(メタファーの理論) 14. 語用論: 文脈における言語の使用, 会話の協調原理 15. 語用論: ポライテネス, 発話行為; <u>期末試験</u>	
<b>講義概要:</b> 人間の言葉には歴史があり、現代の英語の姿を見る際に英語の歴史をみることは有益である。人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文を構成する最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語句の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文中での機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文が使用される文脈が文の意味解釈にどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。		<b>テキスト、参考文献</b> <b>教科書:</b> 西光義弘(編)(1999)『日英語対照による 英語学概論』くろしお出版。	
<b>評価方法</b> 中間試験(45%程度)と期末試験(45%程度)と出席状況(10%程度)に基づき総合的に評価する。単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。			

06 年度以降 03 年度以降	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的:</b> 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の歴史を簡単に振り返り、英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する。		1. 英語の現況・英語の系譜関係 2. 時代区分と各時期の特色(1): 英語の背景と時代区分 3. 時代区分と各時期の特色(2): 近代英語の成立 4. 時代区分と各時期の特色(3): 語順の確立 5. 綴り字: 綴り字と音声, 綴り字発音 6. 音声(1): 英語音声学, 音声器官, 音声記号 7. 音声(2): 英語の母音・子音体系, 連音の特徴 8. 語彙・語源: 語彙の変化, 語の構造; <u>中間試験</u> 9. 形態論(1): 語の基本構造, 形態素の種類と語の構成 10. 形態論(2): 語形成, 派生と屈折, 複合語 11. 統語論(1): 統語論とは何か, 構成素構造, 語順 12. 統語論(2): 変形生成文法の統語論 13. 意味論: 語の意味論, 文の意味論 14. 情報構造: 文の主題と情報構造, 強勢と文の情報構造 15. 語用論: 直示表現, 会話の含意; <u>期末試験</u>	
<b>講義概要:</b> 人間の言葉には歴史があり、現代の英語の姿を見る際に英語の歴史をみることは有益である。人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文を構成する最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語句の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文中での機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文が使用される文脈が文の意味解釈にどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。		<b>テキスト、参考文献</b> <b>教科書:</b> 安井稔(1987)『英語学概論』開拓社。	
<b>評価方法</b> 中間試験(45%程度)と期末試験(45%程度)と出席状況(10%程度)に基づき総合的に評価する。単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。			

06 年度以降 03 年度以降	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>contrastive と demonstrative はともに -ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なった音節にあります。では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」と答えるかもしれませんが、実は簡単な規則で予測できてしまいます。英語の母国語話者はこの規則を無意識な知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります。日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています。例えば「風（たこ）」と「風（かぜ）」の前に「大（おお）」を付けて発音してみてください。違いがあるはずですが、1つ1つ単語の発音を暗記しているからだと思うかもしれませんが、実はそうではありません。</p> <p>この授業では言語を意識的に分析してみることで、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます。扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無意識の言語知識（クイズ1）</li> <li>2. 英語の子音（クイズ2）</li> <li>3. 英語の母音（クイズ3）</li> <li>4. 英語の単語の成り立ち（クイズ4）</li> <li>5. 続き（クイズ5）</li> <li>6. 英語のアクセント（クイズ6）</li> <li>7. 中間試験（1～6週の範囲）</li> <li>8. 英語の文構造（クイズ7）</li> <li>9. 続き（クイズ8）</li> <li>10. 続き（クイズ9）</li> <li>11. 続き（クイズ10）</li> <li>12. 文構造と意味解釈（クイズ11）</li> <li>13. 子供の言語獲得・言語障害（クイズ12）</li> <li>14. 私たちにとって言語とは何か（クイズ13）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。プリントを配布する。		授業の最初に簡単な復習クイズを行う（上記の授業計画参照）。評価はこのクイズ（10%）と中間試験（40%）、定期試験（50%）による。	

06 年度以降 03 年度以降	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>contrastive と demonstrative はともに -ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なった音節にあります。では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」と答えるかもしれませんが、実は簡単な規則で予測できてしまいます。英語の母国語話者はこの規則を無意識な知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります。日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています。例えば「風（たこ）」と「風（かぜ）」の前に「大（おお）」を付けて発音してみてください。違いがあるはずですが、1つ1つ単語の発音を暗記しているからだと思うかもしれませんが、実はそうではありません。</p> <p>この授業では言語を意識的に分析してみることで、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます。扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無意識の言語知識（クイズ1）</li> <li>2. 英語の子音（クイズ2）</li> <li>3. 英語の母音（クイズ3）</li> <li>4. 英語の単語の成り立ち（クイズ4）</li> <li>5. 続き（クイズ5）</li> <li>6. 英語のアクセント（クイズ6）</li> <li>7. 中間試験（1～6週の範囲）</li> <li>8. 英語の文構造（クイズ7）</li> <li>9. 続き（クイズ8）</li> <li>10. 続き（クイズ9）</li> <li>11. 続き（クイズ10）</li> <li>12. 文構造と意味解釈（クイズ11）</li> <li>13. 子供の言語獲得・言語障害（クイズ12）</li> <li>14. 私たちにとって言語とは何か（クイズ13）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。プリントを配布する。		授業の最初に簡単な復習クイズを行う（上記の授業計画参照）。評価はこのクイズ（10%）と中間試験（40%）、定期試験（50%）による。	

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	上野直子（コーディネーター）・ 小林愛明・前沢浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。三名の講師が、それぞれの切り口でテーマを設定し、そのテーマのもとに、文学の作られ方、読み方について、連続講義を行う。様々に異なるアプローチをもつ文学批評や、その用語も紹介する。</p> <p>三つのテーマと講義内容の概略は以下のとおりである。</p> <p>1－5 回「文学とメディア」では、イギリス近現代において、劇場、印刷物、映画、インターネットなど、媒体（メディア）の変化がどのように文学ジャンルの成立や変容に影響を与えてきたかを考える。文学の生産と受容とを、近代英語の成立時から 21 世紀までを包括的に検討したうえで、6－10 回「共鳴と違和、そしてもうひとつの」では、読者が置かれた政治的・歴史的状況によって、同じテキストがどのように異なる意味を持つのかに注目する。また、英国中心に進められてきた講義は、ここでより大きな英語圏へと開かれる。11-15 回「理想と現実、アメリカの光と陰」では、文学（詩）とロック・ミュージックをテキストにしなが、アメリカの過去と現在が抱える問題を検証する。</p>		<p>&lt;文学とメディア&gt; 担当：前沢</p> <p>第1回：文学とメディア</p> <p>第2回：劇場と大衆文化の成立</p> <p>第3回：印刷文化と近代英語の成立</p> <p>第4回：イギリス映画の衰退と復活</p> <p>第5回：デジタル・テクノロジーと文学</p> <p>&lt;共感と違和、そしてもうひとつの物語&gt; 担当：上野</p> <p>第6回：世紀をこえるベストセラー <i>Jane Eyre</i> の魅力</p> <p>第7回：フェミニズム批評と <i>Jane Eyre</i></p> <p>第8回：ポストコロニアル批評と <i>Jane Eyre</i></p> <p>第9回：もうひとつの物語 <i>Wide Sargasso Sea</i></p> <p>第10回：ディアスポラと言葉という故郷</p> <p>&lt;理想と現実、アメリカの光と影&gt; 担当：小林</p> <p>第11回：Bob Dylan の “With God on Our Side” からみるアメリカの歴史</p> <p>第12回：アメリカ先住民の世界観</p> <p>第13回：詩集 <i>Leaves of Grass</i> にみる民主主義</p> <p>第14回：Billy Joel の “Goodnight Saigon” にみるベトナム戦争</p> <p>第15回：Bioregionalism からみるアメリカ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。		定期試験による。詳細は開講時に説明する。	

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	上野直子（コーディネーター）・ 小林愛明・前沢浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。三名の講師が、それぞれの切り口でテーマを設定し、そのテーマのもとに、文学の作られ方、読み方について、連続講義を行う。様々に異なるアプローチをもつ文学批評や、その用語も紹介する。</p> <p>三つのテーマと講義内容の概略は以下のとおりである。</p> <p>1－5 回「文学とメディア」では、イギリス近現代において、劇場、印刷物、映画、インターネットなど、媒体（メディア）の変化がどのように文学ジャンルの成立や変容に影響を与えてきたかを考える。文学の生産と受容とを、近代英語の成立時から 21 世紀までを包括的に検討したうえで、6－10 回「共鳴と違和、そしてもうひとつの」では、読者が置かれた政治的・歴史的状況によって、同じテキストがどのように異なる意味を持つのかに注目する。また、英国中心に進められてきた講義は、ここでより大きな英語圏へと開かれる。11-15 回「理想と現実、アメリカの光と陰」では、文学（詩）とロック・ミュージックをテキストにしなが、アメリカの過去と現在が抱える問題を検証する。</p>		<p>&lt;文学とメディア&gt; 担当：前沢</p> <p>第1回：文学とメディア</p> <p>第2回：劇場と大衆文化の成立</p> <p>第3回：印刷文化と近代英語の成立</p> <p>第4回：イギリス映画の衰退と復活</p> <p>第5回：デジタル・テクノロジーと文学</p> <p>&lt;共感と違和、そしてもうひとつの物語&gt; 担当：上野</p> <p>第6回：世紀をこえるベストセラー <i>Jane Eyre</i> の魅力</p> <p>第7回：フェミニズム批評と <i>Jane Eyre</i></p> <p>第8回：ポストコロニアル批評と <i>Jane Eyre</i></p> <p>第9回：もうひとつの物語 <i>Wide Sargasso Sea</i></p> <p>第10回：ディアスポラと言葉という故郷</p> <p>&lt;理想と現実、アメリカの光と影&gt; 担当：小林</p> <p>第11回：Bob Dylan の “With God on Our Side” からみるアメリカの歴史</p> <p>第12回：アメリカ先住民の世界観</p> <p>第13回：詩集 <i>Leaves of Grass</i> にみる民主主義</p> <p>第14回：Billy Joel の “Goodnight Saigon” にみるベトナム戦争</p> <p>第15回：Bioregionalism からみるアメリカ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。		定期試験による。詳細は開講時に説明する。	



06 年度以降 03 年度以降	文化コミュニケーション入門（水 2） 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず関心があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この 2 つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと思います。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいけません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 1：授業方針と注意事項</li> <li>2. 講義概要 2：研究チームの編成</li> <li>3. コミュニケーションという力（第 1 章）</li> <li>4. メディア（第 2 章）</li> <li>5. 個人・家族（第 3 章）</li> <li>6. ジェンダー・セクシュアリティ（第 4 章）</li> <li>7. 文化（第 5 章）</li> <li>8. 記号（第 6 章）</li> <li>9. 教育（第 7 章）</li> <li>10. 精神（第 8 章）</li> <li>11. 社会思想としてのコミュニケーション（第 9 章）</li> <li>12. 事例研究 1</li> <li>13. 事例研究 2</li> <li>14. コンサルテーション</li> <li>15. 研究発表</li> </ol> <p>（研究班の数により変更の可能性もあります。）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）		①研究発表（準備・発表・審査：90%） ②小テスト＝研究発表の資格審査（10%）	

06 年度以降 03 年度以降	文化コミュニケーション入門（水 2） 文化コミュニケーション概論 b	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず関心があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この 2 つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと思います。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいけません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 1：授業方針と注意事項</li> <li>2. 講義概要 2：研究チームの編成</li> <li>3. コミュニケーションという力（第 1 章）</li> <li>4. メディア（第 2 章）</li> <li>5. 個人・家族（第 3 章）</li> <li>6. ジェンダー・セクシュアリティ（第 4 章）</li> <li>7. 文化（第 5 章）</li> <li>8. 記号（第 6 章）</li> <li>9. 教育（第 7 章）</li> <li>10. 精神（第 8 章）</li> <li>11. 社会思想としてのコミュニケーション（第 9 章）</li> <li>12. 事例研究 1</li> <li>13. 事例研究 2</li> <li>14. コンサルテーション</li> <li>15. 研究発表</li> </ol> <p>（研究班の数により変更の可能性もあります。）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）		①研究発表（準備・発表・審査：90%） ②小テスト＝研究発表の資格審査（10%）	

06 年度以降 03 年度以降	文化コミュニケーション入門（金 1） 文化コミュニケーション概論 b	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず関心があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この 2 つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと思います。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいけません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 1：授業方針と注意事項</li> <li>2. 講義概要 2：研究チームの編成</li> <li>3. コミュニケーションという力（第 1 章）</li> <li>4. メディア（第 2 章）</li> <li>5. 個人・家族（第 3 章）</li> <li>6. ジェンダー・セクシュアリティ（第 4 章）</li> <li>7. 文化（第 5 章）</li> <li>8. 記号（第 6 章）</li> <li>9. 教育（第 7 章）</li> <li>10. 精神（第 8 章）</li> <li>11. 社会思想としてのコミュニケーション（第 9 章）</li> <li>12. 事例研究 1</li> <li>13. 事例研究 2</li> <li>14. コンサルテーション</li> <li>15. 研究発表</li> </ol> <p>（研究班の数により変更の可能性もあります。）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）		①研究発表（準備・発表・審査：90%） ②小テスト＝研究発表の資格審査（10%）	

06 年度以降 03 年度以降	文化コミュニケーション入門（金 1） 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず関心があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この 2 つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと思います。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいけません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（小テスト）を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 1：授業方針と注意事項</li> <li>2. 講義概要 2：研究チームの編成</li> <li>3. コミュニケーションという力（第 1 章）</li> <li>4. メディア（第 2 章）</li> <li>5. 個人・家族（第 3 章）</li> <li>6. ジェンダー・セクシュアリティ（第 4 章）</li> <li>7. 文化（第 5 章）</li> <li>8. 記号（第 6 章）</li> <li>9. 教育（第 7 章）</li> <li>10. 精神（第 8 章）</li> <li>11. 社会思想としてのコミュニケーション（第 9 章）</li> <li>12. 事例研究 1</li> <li>13. 事例研究 2</li> <li>14. コンサルテーション</li> <li>15. 研究発表</li> </ol> <p>（研究班の数により変更の可能性もあります。）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）		①研究発表（準備・発表・審査：90%） ②小テスト＝研究発表の資格審査（10%）	



06 年度以降 03 年度以降	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期の授業を通じて、国際関係研究（study of international relations）とはどのような学問なのかを「戦争」について考えることを通じて理解してもらう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p> <p>なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらう。</p>		<p>第1回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス</p> <p>第2回：グローバリゼーションとは何か？</p> <p>第3回：国際関係論はなぜ生まれたのか？</p> <p>第4回：国際関係における個人・国家 ～個人と国家の安全と国際関係の安定</p> <p>第5回：戦争とは何か①その定義</p> <p>第6回：戦争とは何か②国際関係の構造と戦争</p> <p>第7回：戦争とは何か③戦争と国家 ～戦争は何をもたらすのか</p> <p>第8回：戦争とは何か④戦争観の変化 ～正戦論、無差別戦争観、人道的介入</p> <p>第9回：戦争とは何か⑤国際関係における正義と戦争 ～オバマ米大統領のノーベル平和賞受賞スピーチから</p> <p>第10回：戦争とは何か⑥新しい紛争 ～21 世紀の紛争の特徴とは何か</p> <p>第11回：戦争とは何か⑦戦争の主体 ～「現代の傭兵」民間軍事会社（PMC）の登場</p> <p>第12回：戦争とは何か⑧核兵器と国際関係 ～オバマ米大統領の「核なき世界」演説から</p> <p>第13回：戦争とは何か⑨積極的平和と消極的平和 ～構造的暴力のない世界を目指して</p> <p>第14回：戦争とは何か⑩国際秩序と国家</p> <p>第15回：まとめ（質疑応答）&amp; 国際関係をさらに学ぶには</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する		不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。	

06 年度以降 03 年度以降	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第2～5週）と「国際社会の構造と変化」（第6～11週）「グローバル化の中の国際社会」（第12～第15週）の3つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p><b>1. イントロダクション</b> * 国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p><b>2～5. 国際関係の基礎シリーズ</b> * 20 世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p><b>6～11. 国際社会の構造と変化シリーズ</b> * 国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①自由民主主義と資本主義、②社会主義とその崩壊、③中国と北朝鮮の国家構造とその変化などを扱います。</p> <p><b>12～15. グローバル化の中の国際社会シリーズ</b> * 1990 年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、①国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報、②イスラムの台頭と影響、③地球環境問題の展開などを扱います。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。		学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。	

06 年度以降 03 年度以降	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 b	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第2～5週）と「国際社会の構造と変化」（第6～11週）「グローバル化の中の国際社会」（第12～第15週）の3つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージしてもらえよう考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p><b>1. イントロダクション</b> * 国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p><b>2～5. 国際関係の基礎シリーズ</b> * 20 世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p><b>6～11. 国際社会の構造と変化シリーズ</b> * 国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①自由民主主義と資本主義、②社会主義とその崩壊、③中国と北朝鮮の国家構造とその変化などを扱います。</p> <p><b>12～15. グローバル化の中の国際社会シリーズ</b> * 1990 年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、①国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報、②イスラムの台頭と影響、③地球環境問題の展開などを扱います。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。		学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。	

06 年度以降	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声により深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。</p> <p><u>講義概要</u> 音声学の基礎の講義であり、指定テキストは初習者のもので基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでおくことが必須となる。</p> <p><u>メッセージ</u> <u>第一回目の授業前に</u>テキストを入手し、第 1 章 (pp. 2-7) を読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域, 理論と応用, 音声の情報</li> <li>2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官(発声, 共鳴, 調音)</li> <li>3. 第 3 章 「音声表記」 IPA, 分類(有声/無声, 共鳴/阻害, 調音点/様式)</li> <li>4. 第 4 章 「母音」 分類 (位置, 円唇, 緊張), 基本母音</li> <li>5. 母音 (2) 日本語との比較, スペリングと母音, アクセントと母音</li> <li>6. 第 5 章 「子音」 有声/無声, 阻害音/共鳴, 調音点/様式</li> <li>7. 子音 (2) 日本語との比較</li> <li>8. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢 (第二アクセント) と母音</li> <li>9. 音節 (2) モーラ/音節, 音節の連続によるアクセント/リズム</li> <li>10. 第 7 章 「語強勢」</li> <li>11. 語強勢 (2) フット/リズム 日本語と英語</li> <li>12. 第 8 章 「音縮小」 第 9 章 「同時調音」</li> <li>13. 第 10 章 「イントネーション」</li> <li>14. 音声科学の発展 (言語学, 心理学, 工学・教育・医療・政策・社会学, etc.)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤寧, 佐藤努『現代の英語音声学』金星堂 (1997) その他 配布資料		出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には 2/3 以上の出席が求められる。出席は厳しい。	

06 年度以降	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声により深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。</p> <p><u>講義概要</u> 音声学の基礎の講義であり、指定テキストは初習者のもので基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでおくことが必須となる。</p> <p><u>メッセージ</u> <u>第一回目の授業前に</u>テキストを入手し、第 1 章 (pp. 2-7) を読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域, 理論と応用, 音声の情報</li> <li>2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官(発声, 共鳴, 調音)</li> <li>3. 第 3 章 「音声表記」 IPA, 分類(有声/無声, 共鳴/阻害, 調音点/様式)</li> <li>4. 第 4 章 「母音」 分類 (位置, 円唇, 緊張), 基本母音</li> <li>5. 母音 (2) 日本語との比較, スペリングと母音, アクセントと母音</li> <li>6. 第 5 章 「子音」 有声/無声, 阻害音/共鳴, 調音点/様式</li> <li>7. 子音 (2) 日本語との比較</li> <li>8. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢 (第二アクセント) と母音</li> <li>9. 音節 (2) モーラ/音節, 音節の連続によるアクセント/リズム</li> <li>10. 第 7 章 「語強勢」</li> <li>11. 語強勢 (2) フット/リズム 日本語と英語</li> <li>12. 第 8 章 「音縮小」 第 9 章 「同時調音」</li> <li>13. 第 10 章 「イントネーション」</li> <li>14. 音声科学の発展 (言語学, 心理学, 工学・教育・医療・政策・社会学, etc.)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤寧, 佐藤努『現代の英語音声学』金星堂 (1997) その他 配布資料		出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には 2/3 以上の出席が求められる。出席は厳しい。	

06 年度以降	英語音声学	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>目的</b> 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。		1. コース概要；音声学とは 言語学としての音声学；関連領域への実用性 2. 発声のメカニズム 音声器官；音の分類 3. 音声表記 IPA；イギリス英語とアメリカ英語；音素と異音 4. 母音の調音 分類；基本母音；前舌母音；後舌母音など 5. 子音の調音（1） 分類（有声/無声；調音点/様式）；鼻子音；閉鎖音 6. 子音の調音（2） 摩擦音；破擦音；接近音 7. Review 8. <中間テスト> 9. 音節について音節を示す現象；聞こえと音節；音節構造など 10. 語強勢（ストレス）とリズム 11. 音縮小 内容語と機能語；弱形的重要性 12. 同時調音とイントネーション 同化現象；イントネーションの役割 13. 音響音声学／科学としての音声学 14. Review 15. <期末テスト>	
<b>概要</b> 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で個々の音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。			
注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。携帯電話の辞書機能は使用禁止とする。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<b>教科書</b> 佐藤寧・佐藤努著『現代の英語音声学』（金星堂、1997 年） 参考文献は授業中に適宜指示する。		試験の他に課題提出や出席率を加味して総合評価する。 授業回数の 3/4 以上の出席を単位認定の必須条件とする。	

06 年度以降	英語音声学	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>目的</b> 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。		1. コース概要；音声学とは 言語学としての音声学；関連領域への実用性 2. 発声のメカニズム 音声器官；音の分類 3. 音声表記 IPA；イギリス英語とアメリカ英語；音素と異音 4. 母音の調音 分類；基本母音；前舌母音；後舌母音など 5. 子音の調音（1） 分類（有声/無声；調音点/様式）；鼻子音；閉鎖音 6. 子音の調音（2） 摩擦音；破擦音；接近音 7. Review 8. <中間テスト> 9. 音節（1）音節を示す現象；聞こえと音節；音節構造など 10. 語強勢（ストレス）とリズム 11. 音縮小 内容語と機能語；弱形的重要性 12. 同時調音とイントネーション 同化現象；イントネーションの役割 13. 音響音声学／科学としての音声学 14. Review 15. <期末テスト>	
<b>概要</b> 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で個々の音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。			
注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。携帯電話の辞書機能は使用禁止とする。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<b>教科書</b> 佐藤寧・佐藤努著『現代の英語音声学』（金星堂、1997 年） 参考文献は授業中に適宜指示する。		試験の他に課題提出や出席率を加味して総合評価する。 授業回数の 3/4 以上の出席を単位認定の必須条件とする。	

06 年度以降	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English.</p> <p>Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester.</p> <p>There are two objectives for the courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented.</p> <p>These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Introduction to narratives", "Introduction to Africa", "Introduction to Asian Englishes", and "Introduction to American History through Music".</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.		Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.	

06 年度以降	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English.</p> <p>Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester.</p> <p>There are two objectives for these courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented.</p> <p>These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Gender studies", "Introduction to international relations", "Film studies", and "Japanese culture".</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.		Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.	



06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1 – Introduction to Course &amp; Self-Introductions  Week 2 – Unit 1 –Getting to Know Others  Practice 1, 2 &amp; 3  Week 3 – Unit 1 (cont'd), Practice 4 &amp; Unit Assignment  Week 4 – Unit 2 – Getting Information on Campus  Ch. 2 – Asking for Information  Week 5 – Dream University Information Sharing  Week 6 – Ch. 3 – Controlling a Conversation  Week 7 – Ch. 4 – Active Listening Skills  Week 8 – Review of Unit 2 – Video &amp; Directed Discussion  Week 9 – Unit 4 – The Group Discussion  Ch.7 – Participating in a Group Discussion  Week 10 – Ch. 8 – Leading a Group Discussion  Week 11 – Ch. 9 – Reporting on a Group Discussion  Week 12 – Reading Summary &amp; Information Exchange  Week 13 – Unit 5 – The Peer Tutorial  Ch. 10 – Getting Advice  Week 14 &amp; Week 15 – Student Role Plays</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hemmet, A. & O'Connel, G., (1998). <i>Communicating on campus: Skills for academic speaking</i> , Alta Book Center Publishers. Supplementary hand-outs.		In-class participation (40%), Reading Summary Assignments x 2 (20%), Role Play Script & Performance (20%), and Homework (20%)	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1 – Introduction to Course &amp; Catching Up  Week 2 – Inspiring People  Week 3 – Characteristics &amp; Qualities of People  Week 4 – Discussion Leader Assignment #1  Week 5 – Society &amp; Family Pt. I  Week 6 – Society &amp; Family Pt. II  Week 7 – Group Directed Lessons – Groups 1, 2 &amp; 3  Week 8 – The Environment Pt. I  Week 9 – The Environment Pt. II  Week 10 – Extreme Weather  Week 11 –Discussion Leader Assignment #2  Week 12 – Global Affairs Pt. I  Week 13 – Global Affairs Pt. II  Week 14 – Group Directed Lessons – Groups 4, 5 &amp; 6  Week 15 – Work &amp; Industry /Documentary, <i>Life and Debt</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lebeau,L. & Rees, G.,(2008). <i>Language leader. Pre-Intermediate</i> , Pearson-Longman		In-class participation (40%), Discussion Leader Assignment x 2 (20%), Learning Diary (20%), and Homework (20%)	



06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1 – Introductions, Course Overview</p> <p>Week 2 – Getting to know you</p> <p>Week 3 – People the great communicators</p> <p>Week 4 – The way we live</p> <p>Week 5 – Living in the USA</p> <p>Week 6 – It all went wrong</p> <p>Week 7 – The Man with the Golden Gun</p> <p>Week 8 – Midterm Exam</p> <p>Week 9 – Let's go shopping!</p> <p>Week 10 – What do you want to do?</p> <p>Week 11 – What are your ambitions and plans?</p> <p>Week 12 – The best in the world</p> <p>Week 13 – Fame</p> <p>Week 14 – Review</p> <p>Week 15 – Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
American Headway Book 2 – John and Liz Soars Oxford University Press		Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, and Final Exam – 30%	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1 – Dos and don't's</p> <p>Week 2 – Going places</p> <p>Week 3 – The world's first megalopolis</p> <p>Week 4 – Scared to death</p> <p>Week 5 – When I was young</p> <p>Week 6 – Things that changed the world</p> <p>Week 7 – Three plants that changed the world</p> <p>Week 8 – Midterm Exam</p> <p>Week 9 – Dreams and reality</p> <p>Week 10 – Giving advice</p> <p>Week 11 – Making a living</p> <p>Week 12 – What is a good job?</p> <p>Week 13 – All you need is love</p> <p>Week 14 – Review</p> <p>Week 15 – Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
American Headway Book 2 – John and Liz Soars Oxford University Press		Class participation – 40%, Midterm Exam – 30% Final Exam – 30%	

06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Every week Students will proceed with Prints from a text to analyze pictures and photographs. These will be supplemented with listening activities focus on key words determined through the verbal context. Students will be required to make inferences from the given data. Power Point presentation will be given at the midterm and the final evaluations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Prints to be assigned		Quizzes 30%, Attendance 15%, Participation 15% Power Point Presentations 30%, Homework 10%	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Every week Students will proceed with Prints from a text to analyze pictures and photographs. These will be supplemented with listening activities focus on key words determined through the verbal context. Students will be required to make inferences from the given data. Power Point presentation will be given at the midterm and the final evaluations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Prints to be assigned		Quizzes 30%, Attendance 15%, Participation 15% Power Point Presentations 30%, Homework 10%	

06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction &amp; Assignment, View Unit</li> <li>Road Show I, unit 2 quiz 1, dicussion 1</li> <li>Road Show I, unit 3 quiz 2, dicussion 2</li> <li>Road Show I, unit 4 quiz 3, dicussion 3</li> <li>Road Show I, unit 5 quiz 4, dicussion 4</li> <li>Road Show I, unit 6 quiz 5, dicussion 5</li> <li>Road Show I, unit 7 quiz6 , dicussion 6</li> <li>Road Show I, unit 8 quiz 7, dicussion 7</li> <li>Road Show I, unit 9 quiz 8, dicussion 8</li> <li>Road Show I, unit 10 quiz 9, dicussion 9</li> <li>Road Show I, quiz 10, discussion 10</li> <li>Presentations and Discussions</li> <li>Presentations and Discussions</li> <li>Presentations and Discussions</li> <li>Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts downloaded.		Students will be graded according to their attendance, quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction &amp; Assignment, View Unit</li> <li>Road Show I, unit 2 quiz 1, dicussion 1</li> <li>Road Show I, unit 3 quiz 2, dicussion 2</li> <li>Road Show I, unit 4 quiz 3, dicussion 3</li> <li>Road Show I, unit 5 quiz 4, dicussion 4</li> <li>Road Show I, unit 6 quiz 5, dicussion 5</li> <li>Road Show I, unit 7 quiz6 , dicussion 6</li> <li>Road Show I, unit 8 quiz 7, dicussion 7</li> <li>Road Show I, unit 9 quiz 8, dicussion 8</li> <li>Road Show I, unit 10 quiz 9, dicussion 9</li> <li>Road Show I, quiz 10, discussion 10</li> <li>Speeches and Discussions</li> <li>Speeches and Discussions</li> <li>Speeches and Discussions</li> <li>Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts downloaded.		Students will be graded according to their attendance, quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.	

06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1: course introduction</p> <p>Week 2: unit 1</p> <p>Week 3: unit 1</p> <p>Week 4: unit 1</p> <p>Week 5: unit 2</p> <p>Week 6: unit 2</p> <p>Week 7: unit 2</p> <p>Week 8: unit 3</p> <p>Week 9: unit 3</p> <p>Week 10: unit 3</p> <p>Week 11: introduce project</p> <p>Week 12: project preparation</p> <p>Week 13: project preparation</p> <p>Week 14: presentations</p> <p>Week 15: review &amp; feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge		Students will be evaluated on tests, presentations and participation.	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1: unit 5</p> <p>Week 2: unit 5 continued</p> <p>Week 3: unit 5 continued</p> <p>Week 4: unit 6</p> <p>Week 5: unit 6 continued</p> <p>Week 6: unit 6 continued</p> <p>Week 7: unit 7</p> <p>Week 8: unit 7 continued</p> <p>Week 9: unit 7 continued</p> <p>Week 10: unit 8</p> <p>Week 11: unit 8 &amp; project</p> <p>Week 12: project preparation</p> <p>Week 13: presentations</p> <p>Week 14: presentations</p> <p>Week 15: review &amp; feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Interchange Third Edition Student's Book 3A Jack C. Richards Cambridge		Students will be evaluated on tests, presentations and participation.	

06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>My Life – students prepare poster presentations on aspects of their own life (hometown, high school, hobbies, family)</li> <li>What is a good poster?</li> <li>My Life preparation</li> <li>My Life preparation</li> <li>My Life poster presentations</li> <li>History Project - Students in this project will go around Tokyo and give a presentation</li> <li>History Project</li> <li>History Project</li> <li>History Project</li> <li>History Project</li> <li>Cultural Problems - East is East</li> <li>Cultural Problems - East is East</li> <li>Cultural Problems - East is East</li> <li>A Remarkable person – Power point final presentations</li> <li>Review of the semesters work</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		<ol style="list-style-type: none"> <li>Student Attendance</li> <li>Student participation</li> <li>Life Poster Presentation</li> <li>History Project</li> <li>Cultural problem essay</li> </ol>	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Gaijin Interview project</li> <li>Gaijin Interview project</li> <li>Gaijin Interview project</li> <li>Gaijin Interview project - PowerPoint Presentation</li> <li>Life cycle of a friend</li> <li>Life cycle of a friend</li> <li>Life cycle of a friend</li> <li>Life cycle of a friend</li> <li>Life cycle of a friend - Make a Movie</li> <li>Movie, essay and Interview</li> <li>Movie, essay and Interview</li> <li>Movie, essay and Interview</li> <li>Movie, essay and Interview</li> <li>How can we learn English</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		<ol style="list-style-type: none"> <li>Student Attendance</li> <li>Student participation</li> <li>Gaijin Interview Project</li> <li>Movie Essay</li> <li>Life cycle of a friend</li> </ol>	

06 年度以降	Comprehensive English I (火 1、木 4)	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Orientation</li> <li>First Impressions</li> <li>Communicative &amp; Cultural Awareness</li> <li>Self-study Guide</li> <li>Written Assignments &amp; MLA Format</li> <li>Asking Questions</li> <li>Topic: Food &amp; Drink</li> <li>Answering</li> <li>Topic: Character &amp; Personality</li> <li>Listening Skills</li> <li>Topic: Feelings</li> <li>Topic: Music</li> <li>Numbers &amp; Counting</li> <li>Topic: Travel</li> <li>Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There is no set textbook</p> <p>E-J/J-E dictionary required</p>		<p>Minimum two-thirds attendance required to pass</p> <p>Evaluation based upon continuous assessment of class participation and written assignments</p>	

06 年度以降	Comprehensive English II (火 1、木 4)	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Orientation</li> <li>Appropriate Topics &amp; Research</li> <li>Highlighting &amp; Outlining</li> <li>Writing 1<sup>st</sup> Draft, Typing 2<sup>nd</sup> Draft</li> <li>Error Correction &amp; Editing</li> <li>PowerPoint &amp; Presentation Practice</li> <li>Class Presentations</li> <li>Essay &amp; Presentation Feedback</li> <li>Write: Present: Discuss</li> <li>Write: Present: Discuss</li> <li>Final Presentation Set-up</li> <li>Final Presentation Preparation</li> <li>Final Class Presentations</li> <li>Essay &amp; Presentation Feedback</li> <li>Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There is no set textbook</p> <p>E-J/J-E dictionary required</p>		<p>Evaluation based upon quality of three written assignments and two presentations</p>	

06 年度以降	Comprehensive English I (火 2、木 5)	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Orientation</li> <li>First Impressions</li> <li>Communicative &amp; Cultural Awareness</li> <li>Self-study Guide</li> <li>Written Assignments &amp; MLA Format</li> <li>Asking Questions</li> <li>Topic: Food &amp; Drink</li> <li>Answering</li> <li>Topic: Character &amp; Personality</li> <li>Listening Skills</li> <li>Topic: Feelings</li> <li>Topic: Music</li> <li>Numbers &amp; Counting</li> <li>Topic: Travel</li> <li>Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There is no set textbook</p> <p>E-J/J-E dictionary required</p>		<p>Minimum two-thirds attendance required to pass</p> <p>Evaluation based upon continuous assessment of class participation and written assignments</p>	

06 年度以降	Comprehensive English II (火 2、木 5)	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Orientation</li> <li>Appropriate Topics &amp; Research</li> <li>Highlighting &amp; Outlining</li> <li>Writing 1<sup>st</sup> Draft, Typing 2<sup>nd</sup> Draft</li> <li>Error Correction &amp; Editing</li> <li>PowerPoint &amp; Presentation Practice</li> <li>Class Presentations</li> <li>Essay &amp; Presentation Feedback</li> <li>Write: Present: Discuss</li> <li>Write: Present: Discuss</li> <li>Final Presentation Set-up</li> <li>Final Presentation Preparation</li> <li>Final Class Presentations</li> <li>Essay &amp; Presentation Feedback</li> <li>Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There is no set textbook</p> <p>E-J/J-E dictionary required</p>		<p>Evaluation based upon quality of three written assignments and two presentations</p>	



06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <i>Introductions</i>, in modern English: eye contact; proper handshake; appropriate follow-up questions. Pair practice of <i>Introductions</i> in English.</p> <p>Week 2: Review/ practice of <i>Introductions</i>, using aliases. "How are you?": dynamic and conversational replies.</p> <p>Week 3: Practice of "How's it going?" Learning how to socialize with people from Western culture. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication</i>?</p> <p>Week 4: Expressing opinions, part one: "How do you feel about _____?" &amp; "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 5: Speaking about future plans: "What are your plans for Golden Week?" / "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 6: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 7: Song/ video exercise. Expressing opinions, part two. <i>Directions</i> asking for and communicating <i>street directions</i> and/or <i>train directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 8: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 9: Discussing and communicating about hobbies, in 'Western' style. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 10: Review of hobbies; and pair practice. Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest.</p> <p>Week 11: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of students' English abilities &amp; class performance.</p> <p>Week 12: Examining &amp; using of International vs. Domestic <i>etiquette</i> and <i>manners</i>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 13: Preparations for students' presentations. How to ask for and tell TIME, in English, Pair practice thereof.</p> <p>Week 14: Continuous assessment. Further practice in telling time in English. How to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 15: Body Language &amp; EQ Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations. Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your plans for the Summer, in English: "What are your plans for the Summer Break?", with pair practice thereof. Final student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A text may be chosen, if needed – after the instructor has had opportunities to assess student levels and needs.		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class: how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (approximately 25%); homework/test(s)/presentations (approximately 25%); and attendance (approximately 20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness</b> will also greatly affect your grade in this course. (<b>One late = 1/2 absence.</b>)</p>	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Speaking &amp; elaborating about your <i>Summer Break</i>, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercise.</p> <p>Week 2: "How often do you...?": discussing and communicating about usual activities. Pair practice. Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "How often do you...?", part two. Discussing your usual practices. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Song/ Video/ News listening exercise. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive <i>advice</i>, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: "Have you ever...?", with elaboration thereof. Pair practice. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation.</p> <p>Week 8: Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. "Have you ever...?", part two, with pair practice. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Research and discussion about American &amp; Canadian Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 12: "What do you usually do...?": discussing and communicating about Christmas &amp; New Year's activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 13: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and <i>Christmas cultures</i> in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 14: Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 15: "How was your Christmas?" &amp; "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about Winter Break. Pair practice. Writing down, discussing, and talking about specific "New Year's Resolutions", Discussing and elaborating about: <i>future plans</i> for the February &amp; March Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A text may be chosen, if needed – after the instructor has had opportunities to assess student levels and needs.		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. Students will be assessed often, on: how well each student <b>participates</b> in class: how well he/she <b>speaks and elaborates</b> (explains) in English, the ways in which each student <b>reasons</b> (thinks); how well he/she <b>uses</b> the information taught in class: how well each student works together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (approximately 25%); homework/test(s)/presentations (approximately 25%); and attendance (approximately 15-20%). These percentages may vary, depending upon student English abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness</b> will also greatly affect your grade in this course. (<b>One late = 1/2 absence.</b>)</p>	

06 年度以降	Comprehensive English I (月 2、金 3)	担当者	未定 (掲示で確認)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		To Be Announced.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced.		To Be Announced.	

06 年度以降	Comprehensive English II (月 2、金 3)	担当者	未定 (掲示で確認)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		To Be Announced.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced.		To Be Announced.	

06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Wk 1 Getting to know class, orientation-organisation, general introduction to and overview of content</p> <p>Wk 2-4 Receiving, reorganizing and expressing ideas</p> <p>Wk 5 Mid-term assessment #1</p> <p>Wk 6-9 Accumulate, classify and compile, and succinctly convey information</p> <p>Wk 10 Mid-term assessment #2</p> <p>Wk 11-13 Communication projects</p> <p>Wk 14 Review</p> <p>Wk 15 End of term assessment</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text. Materials will be provided by the teacher.		Students accumulate a passing grade by submitting completed homework on time, passing (3) assessments, as well as participating actively, and having a high attendance rate.	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Wk 1 Getting to know class, orientation-organisation, general introduction to and overview of content</p> <p>Wk 2-4 Focus - Speech Delivery Skills (SDS)</p> <p>Wk 5-6 Speech # 1 details, writing and practice</p> <p>Wk 7 SPEECH #1 TEST</p> <p>Wk 8-10 Focus – Technical Aspects of Speeches (TAS)</p> <p>Wk 11-12 TAS #2 (visual aids) AND Speech # 2 details, and writing</p> <p>Wk 13 Peer Review Proofreading</p> <p>Wk 14-15 SPEECH #2 TEST</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text. Materials will be provided by the teacher.		Students accumulate a passing grade by submitting completed homework and script drafts on time, passing (2) SEECH TESTS, as well as participating actively, and having a high attendance rate.	

06 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D. マッキャン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1 Introduction</p> <p>Week 2 Alphabet and card preparation</p> <p>Week 3 Newspaper headlines</p> <p>Week 4 Direct and reported speech</p> <p>Week 5 Shared free writing</p> <p>Week 6 Presentation introduction</p> <p>Week 7 Presentation preparation</p> <p>Week 8 Presentation delivery</p> <p>Week 9 Song lyrics</p> <p>Week 10 Song project</p> <p>Week 11 World music</p> <p>Week 12 Presentation preparation</p> <p>Week 13 Presentation delivery</p> <p>Week 14 Shared free writing</p> <p>Week 15 Revision and quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic contemporary media sources		<p>50% attendance and involvement</p> <p>25% class and home exercises</p> <p>25% quizzes and surveys</p>	

06 年度以降	Comprehensive English II	担当者	D. マッキャン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1 Summer free writing</p> <p>Week 2 Information exchange</p> <p>Week 3 Direct and reported speech</p> <p>Week 4 Newspaper articles</p> <p>Week 5 Discussion</p> <p>Week 6 Movie reviews</p> <p>Week 7 Movie presentation I</p> <p>Week 8 Movie presentation II</p> <p>Week 9 Movie presentation III</p> <p>Week 10 Cartoons and advertisements</p> <p>Week 11 Individual projects</p> <p>Week 12 Presentation preparation</p> <p>Week 13 Poster presentations</p> <p>Week 14 Final free writing</p> <p>Week 15 Retrospect</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic contemporary media sources		<p>50% attendance and involvement</p> <p>25% class and home exercises</p> <p>25% quizzes and surveys</p>	

06 年度以降	Comprehensive English I (再) 秋学期 月 4	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> Comprehensive English I (再) は、秋学期 月曜 4 限と水曜 5 限 (下段) をセットで受講してください。 </div> <p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Memories and keepsakes</li> <li>3. Opinions about food</li> <li>4. Crimes and mysteries</li> <li>5. Trends</li> <li>6. Errands</li> <li>7. Postgraduate plans</li> <li>8. Celebrations</li> <li>9. Fairy tales and folk stories</li> <li>10. The world of work</li> <li>11. Telecommunications</li> <li>12. Technology today</li> <li>13. Travel preparation</li> <li>14. Destinations</li> <li>15. Test- Poster presentation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
none		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

06 年度以降	Comprehensive English I (再) 秋学期 水 5	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> Comprehensive English I (再) は、秋学期 月曜 4 限 (上段) と水曜 5 限をセットで受講してください。 </div> <p>This one-term twice-a-week class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Demonstration / Assignment Choose Topics Today</li> <li>2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions</li> <li>3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions</li> <li>4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions</li> <li>5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions</li> <li>6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions</li> <li>7. Mid-term</li> <li>8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions</li> <li>9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions</li> <li>10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions</li> <li>11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions</li> <li>12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions</li> <li>13. Final</li> <li>14. Wrap-up of this semester's work.</li> <li>15. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts prepared by students Student led presentations		Students will be graded according to their attendance, quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.	



06 年度以降	Comprehensive English II (再) (月 1、金 3)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>This course will have the same format as the earlier semester and will build and expand upon the skills the students developed in the first part of the course.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.</p>		<p>The students will be evaluated on attendance, class participation, a speaking test and a written report.</p>	

06 年度以降	Comprehensive English III (水1) (HONORS)	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students! Challenge your English skills in this exciting and interesting class. This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. A willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Japanese work ethics.</li> <li>3 Attitudes towards women.</li> <li>4 Other gender issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:  Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40%  End of term speaking tests: 40%  Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06 年度以降	Comprehensive English IV (水1) (HONORS)	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students! Challenge your English skills in this exciting and interesting class. This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Brief introduction/welcome back to class.</li> <li>2 Computers and society.</li> <li>3 Ageing Society.</li> <li>4 The Automobile.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:  Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40%  End of term speaking tests: 40%  Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06 年度以降	Comprehensive English III (HONORS)	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements.</li> <li>2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days?</li> <li>3. Can man and woman be close without romance?</li> <li>4. This session will focus on environmental issues.</li> <li>5. Teenage life with student presentations.</li> <li>6. Is plagiarism a crime?</li> <li>7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>8. What are the options for pregnant teenagers?</li> <li>9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues.</li> <li>10. How important is appearance in a relationship?</li> <li>11. Should adult children move out? Quiz on previous issue.</li> <li>12. Should employees go out with their bosses?</li> <li>13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. The changing role of women in society.</li> <li>15. Explanation of summer homework projects.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.	

06 年度以降	Comprehensive English IV (HONORS)	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discussion will focus on summer projects.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Is money more important than life style?</li> <li>4. Story telling techniques.</li> <li>5. The problems faced by immigrants.</li> <li>6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations.</li> <li>7. Does technology create distance in relationships?</li> <li>8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue.</li> <li>9. Career choices.</li> <li>10. Story telling techniques.</li> <li>11. When is war justified?</li> <li>12. The art of compromise.</li> <li>13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. Unrequited love.</li> <li>15. Story telling techniques.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.	

06 年度以降	Comprehensive English III	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Expressing an opinion is something we all do daily. In this class, we will learn about, practice participating in, and lead group discussions. Conversation skills are an important part of discussion participation that we will focus on.</p> <p>In addition, deep reading of articles (teacher selected topics) will be necessary for your role as a successful discussion participant.</p> <p>The above skills and practices will help you develop your opinions, present your ideas, participate in and lead small and large group discussions with confidence.</p>		<p>Wk 1 Getting to know class, orientation-organisation, general introduction to and overview of content</p> <p>Wk 2-4 Facts, Opinions and Beliefs and deep reading, connect and communicate ideas</p> <p>Wk 5 Assessment #1</p> <p>Wk 6&amp;7 Information analysis, organization and summary, communication methods</p> <p>Wk 8 Assessment #2</p> <p>Wk 9&amp;10 Discussion leadership methods</p> <p>Wk 11-15 Discussion Leadership and Participation Assessment AND Final written report peer evaluation day</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text. Materials will be provided by the teacher.		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their discussion leadership.	

06 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Presenting you ideas and research in a coherent way is an essential life skill. This skill will take you a long way in your professional career.</p> <p>In this class, you will have the opportunity to research, practice with peers, and finally present an issue you have researched.</p> <p>You will begin by collecting ideas and background information and developing your ideas on the subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and teacher.</p> <p>Finally, you will present your research in class and be assessed on it. You will need to use other media (video, power point, pictures, etc) to support your presentation.</p> <p>You will also analyze other presentations in order to build on and improve your own presentation skills.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<p>Wk 1 Getting to know class, orientation-organisation, general introduction to and overview of content</p> <p>Wk 2-4 Presentation analysis, appropriate topic selection, critical review of ideas, data and information</p> <p>Wk 5 Assessment # 1</p> <p>Wk 6-8 Technical aspects of presentations, public speaking skills, presentation preparation methods</p> <p>Wk 9 Assessment # 2</p> <p>Wk 10-12 Final Speech test introduction &amp; overview, in-class working process, research and citation of sources, first draft of presentation due</p> <p>Wk 13 2<sup>nd</sup> draft due, in-class draft peer review</p> <p>Wk 14 &amp;15 Assessment #3 Final Presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text. Materials will be provided by the teacher.		Students accumulate a passing grade by submitting completed homework and speech drafts on time, passing (3) assessments, as well as participating actively, and having a high attendance rate.	

06 年度以降	Comprehensive English III	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of this course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English.</p> <p>Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives.</p> <p>This is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will use English Only for all classroom activities.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion  Week 2: Topic 1: Media Issues  Week 3: Media Issues, continued  Week 4: Topic 2: Overcoming Obstacles  Week 5: Overcoming Obstacles, continued  Week 6: Topic 3: Medicine and Health  Week 7: Medicine and Health, continued  Week 8: Topic 4: Animal Intelligence  Week 9: Animal Intelligence, continued  Week 10: Topic 5: Longevity  Week 11: Longevity, continued  Week 12: Presentation Skills  Week 13: Presentation Skills  Week 14: Workshop  Week 15: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
North Star Listening and Speaking 4		Grades will be based on participation, written assignments, and presentations.	

06 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of the spring semester, when the focus was on working in pairs and groups to practice critical thinking skills and raise awareness of key issues. This semester, we will continue building on the skills learned in the first semester and do more writing and presentations.</p> <p>Students will begin doing library research in this course as they seek to supplement their own knowledge and build support for the arguments they will make in their reports and presentations this semester. Though still working in pairs and groups, students will work independently as well, finding and evaluating sources, supporting claims, and making appeals.</p> <p>As in the first term, this is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will use English Only for all classroom activities.</p>		<p>Week 1: Library Basics  Week 2: Topic 6: Philanthropy  Week 3: Philanthropy, continued  Week 4: Topic 7: Education  Week 5: Education, continued  Week 6: Topic 8: Nutrition  Week 7: Nutrition, continued  Week 8: Topic 9: Immigration  Week 9: Immigration, continued  Week 10: Topic 10: Technology  Week 11: Technology, continued  Week 12: Writing Skills: Development  Week 13: Writing Skills: Focus  Week 14: Workshop  Week 15: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
North Star Listening and Speaking 4		Grades will be based on participation, written assignments, and presentations.	



06 年度以降	Comprehensive English III (水 1)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The class aims to provide interaction in an English native like environment.</p> <p>Students will study topics of national and international importance, using English newspaper articles.</p> <p>This course seeks to master competency in English fluency improving with speaking, reading, listening, writing, comprehension skills with pair and group work.</p> <p>Students will prepare a class presentation based on a topic of their choice and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start article # 1</p> <p>Week 2: Article # 2</p> <p>Week 3: Article # 3</p> <p>Week 4: Article # 4</p> <p>Week 5: Article # 5</p> <p>Week 6: Article # 6</p> <p>Week 7: Article # Quiz</p> <p>Week 8: Article # 7</p> <p>Week 9: Article # 8</p> <p>Week 10: Article # 9</p> <p>Week 11: Article # 10</p> <p>Week 12: Article # 11</p> <p>Week 13: Article # 12</p> <p>Week 14: Article # 13</p> <p>Week 15: Article # Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week.		Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.	

06 年度以降	Comprehensive English IV (水 1)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The class aims to provide interaction in an English native like environment.</p> <p>Students will study topics of national and international importance, using English newspaper articles.</p> <p>This course seeks to master competency in English fluency improving with speaking, reading, listening, writing, comprehension skills with pair and group work.</p> <p>Students will prepare a class presentation based on a topic of their choice and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start article # 1</p> <p>Week 2: Article # 2</p> <p>Week 3: Article # 3</p> <p>Week 4: Article # 4</p> <p>Week 5: Article # 5</p> <p>Week 6: Article # 6</p> <p>Week 7: Article # Quiz</p> <p>Week 8: Article # 7</p> <p>Week 9: Article # 8</p> <p>Week 10: Article # 9</p> <p>Week 11: Article # 10</p> <p>Week 12: Article # 11</p> <p>Week 13: Article # 12</p> <p>Week 14: Article # 13</p> <p>Week 15: Article # Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week.		Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.	

06 年度以降	Comprehensive English III (水 2)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The class aims to provide interaction in an English native like environment.</p> <p>Students will study topics of national and international importance, using English newspaper articles.</p> <p>This course seeks to master competency in English fluency improving with speaking, reading, listening, writing, comprehension skills with pair and group work.</p> <p>Students will prepare a class presentation based on a topic of their choice and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start article # 1</p> <p>Week 2: Article # 2</p> <p>Week 3: Article # 3</p> <p>Week 4: Article # 4</p> <p>Week 5: Article # 5</p> <p>Week 6: Article # 6</p> <p>Week 7: Article # Quiz</p> <p>Week 8: Article # 7</p> <p>Week 9: Article # 8</p> <p>Week 10: Article # 9</p> <p>Week 11: Article # 10</p> <p>Week 12: Article # 11</p> <p>Week 13: Article # 12</p> <p>Week 14: Article # 13</p> <p>Week 15: Article # Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week.		Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.	

06 年度以降	Comprehensive English IV (水 2)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The class aims to provide interaction in an English native like environment.</p> <p>Students will study topics of national and international importance, using English newspaper articles.</p> <p>This course seeks to master competency in English fluency improving with speaking, reading, listening, writing, comprehension skills with pair and group work.</p> <p>Students will prepare a class presentation based on a topic of their choice and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start article # 1</p> <p>Week 2: Article # 2</p> <p>Week 3: Article # 3</p> <p>Week 4: Article # 4</p> <p>Week 5: Article # 5</p> <p>Week 6: Article # 6</p> <p>Week 7: Article # Quiz</p> <p>Week 8: Article # 7</p> <p>Week 9: Article # 8</p> <p>Week 10: Article # 9</p> <p>Week 11: Article # 10</p> <p>Week 12: Article # 11</p> <p>Week 13: Article # 12</p> <p>Week 14: Article # 13</p> <p>Week 15: Article # Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week.		Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.	

06 年度以降	Comprehensive English III (水 2)	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Think, debate and discuss! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, and you should be prepared to study hard. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Japanese work ethics.</li> <li>3 Attitudes towards women.</li> <li>4 Other gender issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:  Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40%  End of term speaking tests: 40%  Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06 年度以降	Comprehensive English IV (水 2)	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Think, debate and discuss! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, and you should be prepared to study hard. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Brief introduction/welcome back to class.</li> <li>2 Computers and society.</li> <li>3 Ageing Society.</li> <li>4 The Automobile.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:  Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40%  End of term speaking tests: 40%  Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06 年度以降	Comprehensive English III	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course encourages students to utilize the four skills (reading, writing, listening and speaking) for leading discussions, giving presentations and basic communication with one another in English in order to build fluency and competence in the target language. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their actual individual communication time in the class. Students will choose or be assigned contemporary topics to base their presentation/discussion on and will also introduce appropriate reading materials in English including special vocabulary needed for understanding the presentation and discussion in class. There will be quizzes, discussions, and presentations.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Demonstration /Grouping/Assignment Choose Topics Today</li> <li>2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions</li> <li>3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions</li> <li>4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions</li> <li>5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions</li> <li>6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions</li> <li>7. Mid-term</li> <li>8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions</li> <li>9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions</li> <li>10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions</li> <li>11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions</li> <li>12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions</li> <li>13. Final</li> <li>14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews</li> <li>15. Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Handouts prepared by students Student led presentations</p>		<p>Students will be graded according to their attendance (missing class more than 3X=failure), quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.</p>	

06 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course encourages students to utilize the four skills (reading, writing, listening and speaking) for leading discussions with a larger focus on giving presentations than in the first semester, as well as, basic communication with one another in English in order to build fluency and competence in the target language. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their actual individual communication time in the class. Students will choose contemporary topics to base their presentation/ discussion on and will also introduce appropriate reading materials in English including special vocabulary needed for understanding the presentation and discussion in class. There will be quizzes, discussions, and presentations.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Demonstration /Grouping/Assignment Choose Topics Today</li> <li>2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions</li> <li>3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions</li> <li>4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions</li> <li>5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions</li> <li>6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions</li> <li>7. Mid-term</li> <li>8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions</li> <li>9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions</li> <li>10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions</li> <li>11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions</li> <li>12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions</li> <li>13. Final</li> <li>14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews</li> <li>15. Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Handouts prepared by students Student led presentations</p>		<p>Students will be graded according to their attendance (missing class more than 3X=failure), quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.</p>	

06 年度以降	Comprehensive English III	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve discussion and presentation skills.</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction In this class we will go through the grading policies. Goals of the Course</li> <li>2. The five paragraph essay and Poster presentation.</li> <li>3. My Future – Poster My Future - Preparation - how to prepare a for a presentation.</li> <li>4. Explanation on Fonts, colors and bullets in Power point Presentation</li> <li>5. My Future - Preparation</li> <li>6. My Future - Class Presentations ( Poster Project)</li> <li>7. Social Issue - Find an issue in society and research it in groups</li> <li>8. Social Issue - Start presenting newspaper clippings</li> <li>9. Social Issue - Class survey</li> <li>10. Social Issue - Preparation</li> <li>11. Social Issue - PowerPoint Presentation</li> <li>12. Social Issue - PowerPoint Presentation</li> <li>13. Cultural Problems - Introduction</li> <li>14. Cultural Issues – Movie “East is East”</li> <li>15. Cultural Issues – Movie “East is East”</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Student Attendance</li> <li>2. Student participation</li> <li>3. My Future Poster</li> <li>4. Social Issue PowerPoint</li> <li>5. Cultural Issues essay</li> </ol>	

06 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve discussion and presentation skills.</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Learning how to discuss in class.</li> <li>2. Discussion topic Gun Control</li> <li>3. Discussion topic - Global Warming</li> <li>4. Discussion topic - Japanese Population</li> <li>5. Discussion topic - Japanese Education</li> <li>6. Discussion topic - Homelessness in the World</li> <li>7. Discussion topic - Religion</li> <li>8. Students prepare the topics</li> <li>9. Students prepare the topics</li> <li>10. Students prepare the topics</li> <li>11. Final Movie and essay Good Will Hunting</li> <li>12. Final Movie and essay Good Will Hunting</li> <li>13. Final Movie and essay Good Will Hunting</li> <li>14. Final Movie and essay Good Will Hunting</li> <li>15. Final class and interview</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Student Attendance</li> <li>2. Student participation</li> <li>3. Student discussion Project</li> <li>4. Essay</li> </ol>	



06 年度以降	Comprehensive English III	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>To advance further students opportunities to communicate through listening, reading and writing at a higher level.</p> <p>To expand student skills in interpersonal communication,</p> <p>To refine the study skills learned in Comprehensive English I &amp; II necessary for success seminars in the third and fourth years in Dokkyo University English Programs.</p>		<p>Every week Students will proceed with Prints from a text to analyze pictures and photographs. These will be supplemented with listening activities focus on key words determined through the verbal context. Students will be required to make inferences from the given data. Power Point presentation will be given at the midterm and the final evaluations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Prints to be assigned		Quizzes 30%, Attendance 15%, Participation 15% Power Point Presentations 30%, Homework 10%	

06 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>To advance further students opportunities to communicate through listening, reading and writing at a higher level.</p> <p>To expand student skills in interpersonal communication,</p> <p>To refine the study skills learned in Comprehensive English I &amp; II necessary for success seminars in the third and fourth years in Dokkyo University English Programs.</p>		<p>Every week Students will proceed with Prints from a text to analyze pictures and photographs. These will be supplemented with listening activities focus on key words determined through the verbal context. Students will be required to make inferences from the given data. Power Point presentation will be given at the midterm and the final evaluations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Prints to be assigned		Quizzes 30%, Attendance 15%, Participation 15% Power Point Presentations 30%, Homework 10%	

06 年度以降	Comprehensive English III	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a topic-based intermediate level course focusing on listening and speaking. The topics are current and interesting. The information comes from the internet and newspapers. There is no textbook.</p> <p>There are two poster presentations during this semester.</p> <p>These posters are based on internet research. They are homework and part of your final grade.</p> <p>There is a speaking test at the end of the course.</p> <p>The style of the class is relaxed, fun but hardworking.</p> <p>Attendance policy:</p> <p>4 absences are a fail</p> <p>If you come after 9.10am, this is a 'late'.</p> <p>3 lates is one absense</p> <p>3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence).</p>		<p>Week 1: Introductions</p> <p>Week 2: Foreign countries 1</p> <p>Week 3: Foreign countries2 / intro to internet research</p> <p>Week 4: Poster presentation</p> <p>Week 5: Technology trends 1</p> <p>Week 6: Technology trends 2</p> <p>Week 7: Famous people 1</p> <p>Week 8: Famous people 2 / internet research techniques</p> <p>Week 9: Poster presentation</p> <p>Week 10: Health 1</p> <p>Week 11: Health 2</p> <p>Week 12: The Arts 1</p> <p>Week 13: The Arts 2</p> <p>Week 14: Practice for the speaking test</p> <p>Week 15: Speaking test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook. The teacher will provide all materials</p> <p>An electronic dictionary will be helpful</p>		<p>40% attendance &amp; class effort</p> <p>30% homework</p> <p>30% end of semester speaking test</p>	

06 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The topics are a little more challenging than semester one.</p> <p>Again, there are two poster presentations during this second semester. For the final poster, students are free to choose their own topic (with teacher advice if you need it)</p> <p>The posters are homework and part of your final grade.</p> <p>There is a speaking test at the end of the course.</p> <p><u>Attendance policy:</u></p> <p>4 absences (without a very good reason) are a FAIL.</p> <p>If you arrive after 9.10am, this is 'late'</p> <p>3 lates is an absense</p>		<p>Week 1: Education 1</p> <p>Week 2: Education 2</p> <p>Week 3: Business issues 1</p> <p>Week 4: Business issues 2</p> <p>Week 5: Poster presentation</p> <p>Week 6: Sport issues 1</p> <p>Week 7: Africa 1</p> <p>Week 8: New science 1</p> <p>Week 9: New science 2</p> <p>Week 10: Globalization 1</p> <p>Week 11: Poster presentation</p> <p>Week 12: Living Trends 1</p> <p>Week 13: Living Trends 2</p> <p>Week 14: Practice for the speaking test</p> <p>Week 15: Speaking test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook. The teacher will provide all materials</p> <p>An electronic dictionary will be helpful</p>		<p>40% attendance &amp; class effort</p> <p>30% homework</p> <p>30% end of semester speaking test</p>	

06 年度以降	Comprehensive English III	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This one-semester course focuses on students' reading and discussion skills. As well as further developing interpersonal communication and fluency, students will get practice in critical thinking through expressing opinions and justifying their arguments with sound reasoning. They will practice the skill of using mind maps for reporting and summarizing readings and researched information. Each student will be required to take the role of discussion leader, as well as be prepared to actively participate in discussions lead by their peers. In the first part of the semester discussions will be based on assigned readings. Later in the semester students choose social issues, find readings, prepare appropriate discussion questions, and give an oral report to a group of classmates.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course and class</li> <li>2. The language of reasoning and critical thinking</li> <li>3. Practicing the discussion leader role</li> <li>4. Response to assigned reading/discussion</li> <li>5. Response to assigned reading/discussion</li> <li>6. Response to assigned reading/discussion</li> <li>7. Response to assigned reading/discussion</li> <li>8. Choosing social issues for reading/research</li> <li>9. Class survey of peers</li> <li>10. Group collation of survey opinions and reasoning</li> <li>11. Oral report/discussion of chosen social issues</li> <li>12. Oral report/discussion of chosen social issues</li> <li>13. Oral report/discussion of chosen social issues</li> <li>14. Oral report/discussion of chosen social issues</li> <li>15. Course review and self-reflection</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Evaluation is based on attendance, speaking assignments, and classroom participation.	

06 年度以降	Comprehensive English IV	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
This one-semester course focuses on developing students' skills as presenter and discussion leader. This involves students giving academic presentations that demonstrate good delivery skills, such as voice volume, pace and intonation, varied audience eye contact, and use of notes. Presentations should also show a clear understanding of the structure and language requirements of the introduction, body and conclusion of a speech. The nature of visual material will also be considered. The two main assignments for this course will be a news article summary/discussion presentation and an informative or persuasive presentation using power point. Peer evaluation will also play an important part in this course.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course and class</li> <li>2. Brainstorming on what makes a good presentation</li> <li>3. Example news summary/discussion presentation</li> <li>4. Review of discussion skills and discussion leader role</li> <li>5. News article summary/discussion presentations</li> <li>6. News article summary/discussion presentations</li> <li>7. News article summary/discussion presentations</li> <li>8. News article summary/discussion presentations</li> <li>9. Review of presentation delivery skills</li> <li>10. Assessing visuals/assessment checklist</li> <li>11. Power point presentations/audience questions</li> <li>12. Power point presentations/audience questions</li> <li>13. Power point presentations/audience questions</li> <li>14. Power point presentations/audience questions</li> <li>15. Course review and self-reflection</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Evaluation is based on attendance, presentations, and classroom participation in discussion and questioning.	

06 年度以降 03 年度以降	Comprehensive English III (再) (月 1) COMMUNICATIVE ENGLISH I a (月 1)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will learn how to read more effectively and have the opportunity to share your ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects in this one-term class. You will learn the skills involved in effective group discussion. You will improve your reading skills using topical reading material from a textbook. You will develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate your findings.</p>		<p>Week 1- Course Introduction Week 2- How to Have a Conversation Week 3- How to Have a Conversation (part2) Week 4- Parts of a Discussion 1 Week 5- Parts of a Discussion 1 (continued) Week 6- Parts of a Discussion 2 Week 7- Parts of a Discussion 2 (continued) Week 8 –Students Choose Discussion Topic Week 9- Making Sense/Evaluating Opinions Week 10- What Are the Issues? Week 11- What Are the Issues? (continued) Week 12- Persuasive Opinions Week 13- Persuasive Opinions (continued) Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15-Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Discussion Matters – Building Effective Persuasion Skills Author: Philip Suthons Publisher: MacMillan Language House</p>		<p>Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination.</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Comprehensive English IV (再) (月 1) COMMUNICATIVE ENGLISH I b (月 1)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will learn how to read more effectively and have the opportunity to share your ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects in this one-term class. You will learn the skills involved in effective group discussion. You will improve your reading skills using topical reading material from a textbook. You will develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate your findings.</p>		<p>Week 1- Course Introduction Week 2- Generalizing and Theorizing Week 3- Generalizing and Theorizing (part 2) Week 4- First Major Discussion Week 5- First Major Discussion (continued) Week 6- Opposing Opinions and Rebuttal Reasons Week 7- Opposing Opinions and Rebuttal Reasons (continued) Week 8- Students Choose Discussion Topic Week 9- Disagreeing: A Path to New Knowledge Week 10- Collaborative Problem Solving Week 11- Collaborative Problem Solving (continued) Week 12- Final Discussion Week 13- Final Discussion (continued) Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Discussion Matters – Building Effective Persuasion Skills Author: Philip Suthons Publisher: MacMillan Language House</p>		<p>Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination.</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Comprehensive English IV (再) (金 3) COMMUNICATIVE ENGLISH I a (金 3)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will learn how to read more effectively and have the opportunity to share your ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects in this one-term class. You will learn the skills involved in effective group discussion. You will improve your reading skills using topical reading material from a textbook. You will develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate your findings.</p>		<p>Week 1- Course Introduction Week 2- Generalizing and Theorizing Week 3- Generalizing and Theorizing (part 2) Week 4- First Major Discussion Week 5- First Major Discussion (continued) Week 6- Opposing Opinions and Rebuttal Reasons Week 7- Opposing Opinions and Rebuttal Reasons (continued) Week 8- Students Choose Discussion Topic Week 9- Disagreeing: A Path to New Knowledge Week 10- Collaborative Problem Solving Week 11- Collaborative Problem Solving (continued) Week 12- Final Discussion Week 13- Final Discussion (continued) Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Discussion Matters – Building Effective Persuasion Skills Author: Philip Suthons Publisher: MacMillan Language House</p>		<p>Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination.</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Comprehensive English III (再) (金 3) COMMUNICATIVE ENGLISH I b (金 3)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will learn how to read more effectively and have the opportunity to share your ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects in this one-term class. You will learn the skills involved in effective group discussion. You will improve your reading skills using topical reading material from a textbook. You will develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate your findings.</p>		<p>Week 1- Course Introduction Week 2- How to Have a Conversation Week 3- How to Have a Conversation (part2) Week 4- Parts of a Discussion 1 Week 5- Parts of a Discussion 1 (continued) Week 6- Parts of a Discussion 2 Week 7- Parts of a Discussion 2 (continued) Week 8- Students Choose Discussion Topic Week 9- Making Sense/Evaluating Opinions Week 10- What Are the Issues? Week 11- What Are the Issues? (continued) Week 12- Persuasive Opinions Week 13- Persuasive Opinions (continued) Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Discussion Matters – Building Effective Persuasion Skills Author: Philip Suthons Publisher: MacMillan Language House</p>		<p>Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination.</p>	

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>• Reading aloud</li> <li>• Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>• Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		Week 1 – Introduction to Course & Each Other Week 2 – Pre-Reading Skills & Making Predictions Week 3 – Scanning for Specific Information, (group vocabulary project) Week 4 – Using Textual and Visual Content to Make Predictions, Reading for Details Week 5 – Skimming for Main Ideas & Identifying Supporting Ideas Week 6 – Making Inferences & Sharing Interpretations of a Text. (group vocabulary project) Week 7 – Importance of Transition & Signal Words, Recognizing Sequence of Events Week 8 – Paired Reading & Fluency Practice Week 9 – Author's Opinion & Organization of Argument, (group vocabulary project) Week 10 – Identifying Cause & Effect Week 11 – Paired Reading & Fluency Practice Week 12 – Predicting and Making References Week 13 – Referencing & Research Week 14 – Reporting Out & Summarizing Week 15 – Group reading & class vocabulary list	
テキスト、参考文献		評価方法	
Anderson, N.J., (2006). <i>Active skills for reading, book 1</i> . Heinle & Supplemental materials provided in-class		In-class participation (40%), quizzes and exam (20%), Vocabulary Group Project (20%), and assignments (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building</li> <li>• Previewing and predicting</li> <li>• Making inferences</li> <li>• Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>• Outlining</li> </ul>		Week 1 – Introduction to course & Catching-Up Week 2 – Making hypotheses (Guessing & Predicting) Week 3 – Skimming for Information in a variety of texts Teacher read aloud #2 ( <i>The Alchemist</i> ) & Skimming ahead to make predictions Week 4 – Scanning for Ideas in a variety of texts Week 5 – Review of Reading Strategies (Wks. 2- 4) Week 6 – Teacher read aloud #2 ( <i>The Alchemist</i> ), discussion & plot development chart Week 7 – Making Inferences Week 8 – Interpretations Week 9 – Review of Reading Strategies (Wks. 7 - 8) Week 10 – Teacher read aloud #3, discussion & character growth chart Week 11 – Deciphering Bias & Making Judgments Week 12 – Deducing Meaning from Context Week 13 – Summarizing, last teacher read aloud #4 ( <i>The Alchemist</i> ), & sample book reviews Week 14 – Review of Reading Strategies (Wks. 11- 13), Week 15 – Book Talk, <i>The Alchemist</i> (in groups)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Islam, C & Steenburgh, C. (2009). <i>A good read: Developing reading strategies for effective reading. Book 1. Cenage Learning</i> Coelho, P. (1993). <i>The alchemist</i> . NY: HarperTorch		In-class participation (40%), Vocabulary Project (20%), assignments (20%), & Book Review of <i>The Alchemist</i> (20%)	



06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	J . N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> 1. To increase students' vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To have clearer ideas of what a paragraph is <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>Reading aloud</li> <li>Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		1 Orientation and syllabus 2-3 The millennial generation 4-5 Cultural encounters 6-7 Consumer lifestyle 8-9 Aging 10-11 Youth in action 12-14 The environment 15 Summary and wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Global Outlook 2: Advanced Reading.</i> (2004). Brenda Dyer & Brenda Bushell. McGraw Hill.		Evaluation will be based on attendance, participation, preparation of the readings, and written assignments.	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	J . N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> 1. To increase students' vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building</li> <li>Previewing and predicting</li> <li>Making inferences</li> <li>Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>Outlining</li> </ul>		1 Orientation and syllabus 2-3 Value of work 4-5 Inequality 6-7 Wisdom 8-9 Culture and change 10-11 Managing nature 12-14 Democracy and liberty 15 Summary and wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Global Outlook 2: Advanced Reading.</i> (2004). Brenda Dyer & Brenda Bushell. McGraw Hill.		Evaluation will be based on attendance, participation, preparation of the readings, and written assignments.	

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase students' vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>Reading aloud</li> <li>Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction, Reading for Fun</li> <li>Paragraph reading <ul style="list-style-type: none"> <li>- Topic, Main Idea, Key words</li> <li>- Exercise Assignment</li> </ul> </li> <li>4. Paragraph reading <ul style="list-style-type: none"> <li>- Organization (Intro./Diss./Concl.)</li> <li>- Exercise Assignment</li> </ul> </li> <li>Paragraph reading <ul style="list-style-type: none"> <li>- Title, Concluding Sentence, Transitions</li> <li>- Exercise Assignment</li> </ul> </li> <li>6/7. Multiple paragraphs <ul style="list-style-type: none"> <li>- TS, Major points</li> <li>- Reading Report 1</li> </ul> </li> <li>Preview, Eye scope expansion <ul style="list-style-type: none"> <li>- Reading Assignment 1</li> </ul> </li> <li>Scanning (i) <ul style="list-style-type: none"> <li>- Reading Assignment 2</li> </ul> </li> <li>10/11. Skimming (i) <ul style="list-style-type: none"> <li>- Reading Assignment 3</li> </ul> </li> <li>12/13/14. Background Knowledge <ul style="list-style-type: none"> <li>- Reading Assignment 4, 5</li> <li>- Reading Report 2</li> </ul> </li> <li>Review Exercises</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示、配布資料		出席、授業参加を重視する。 毎回の課題、提出、試験などの総合評価による。 各項目において最低限をクリアすること。	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase students' vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building</li> <li>Previewing and predicting</li> <li>Making inferences</li> <li>Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>Outlining</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Intensive and extensive reading Fast Reading <ul style="list-style-type: none"> <li>- Reading Report 3</li> </ul> </li> <li>Multiple Paragraphs <ul style="list-style-type: none"> <li>- Topic 1</li> </ul> </li> <li>4. Scanning <ul style="list-style-type: none"> <li>- Topic 2</li> </ul> </li> <li>5/6. Skimming <ul style="list-style-type: none"> <li>- Topic 3</li> </ul> </li> <li>7/8. Fast Reading <ul style="list-style-type: none"> <li>- Topic 4</li> </ul> </li> <li>Topical Transitions <ul style="list-style-type: none"> <li>- Topic 5</li> </ul> </li> <li>Inter-paragraph Relations</li> <li>Paraphrasing and Summarizing <ul style="list-style-type: none"> <li>- Topic 6</li> </ul> </li> <li>12/13/14. Research Reading <ul style="list-style-type: none"> <li>- Reading Report 4</li> </ul> </li> <li>Review exercises</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示、他、配布資料		出席、授業参加を重視する。 毎回の課題、提出、試験などの総合評価による。 各項目において最低限をクリアすること。	

06 年度以降	Reading Strategies I (水 1)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>• Reading aloud</li> <li>• Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>• Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		(Unit number & focused strategies in classes) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unit 1 &amp; Predicting from titles, headings, visual aids</li> <li>2. Unit 2 &amp; Identify main ideas and supporting details</li> <li>3. Unit 3 &amp; Focusing on lexical cohesion</li> <li>4. Unit 4 &amp; Summarizing</li> <li>5. Unit 5 &amp; Paraphrasing to avoid plagiarism</li> <li>6. Unit 6 &amp; Making inference</li> <li>7. Unit 7 &amp; Focusing on signal words</li> <li>8. Unit 8 &amp; Skimming, scanning, and measuring wpm</li> <li>9. Unit 9 &amp; Vocabulary (parts of speech)</li> <li>10. Unit 10 &amp; Vocabulary (prefixes, suffixes, and roots)</li> <li>11. Unit 11 &amp; Vocabulary (synonyms, antonyms, general-specific relationship, word association)</li> <li>12. Unit 12 &amp; Vocabulary (genre-/discipline specific vocabulary)</li> <li>13. Unit 13 &amp; Vocabulary quiz</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Neil Anderson, <i>Active skills for Reading (Book 4)</i> , Heinle & Heinle.		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Vocabulary quiz (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies II (水 1)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building</li> <li>• Previewing and predicting</li> <li>• Making inferences</li> <li>• Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>• Outlining</li> </ul>		(Reading materials & focused strategies) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Short story &amp; focusing on genre-specific vocabulary</li> <li>2. Short story &amp; making inference</li> <li>3. Short story &amp; paraphrasing</li> <li>4. Short story &amp; summarizing</li> <li>5. Comparing and synthesizing short stories</li> <li>6. Academic paper &amp; focusing on text organization</li> <li>7. Academic paper &amp; focusing on lexical cohesion</li> <li>8. Academic paper &amp; paraphrasing and summarizing</li> <li>9. Academic paper &amp; synthesizing</li> <li>10. Book/Movie review &amp; understanding genre</li> <li>11. Book/Movie review &amp; comparing and synthesizing</li> <li>12. Creating an academic poster</li> <li>13. Creating an academic poster</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in each class		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Final project (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>• Reading aloud</li> <li>• Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>• Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. What is a paragraph?</li> <li>3. What is a passage?</li> <li>4--7. What you need to understand a passage (1)-(5)</li> <li>8 &amp; 9. Acquiring research skills. (1)&amp;(2)</li> <li>10--14. Authentic Reading (1)--(5)</li> <li>15. Wrap-up.</li> </ol> <hr/> Vocabulary quiz will be given in every class after the 4 <sup>th</sup> meeting.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Instructional and reading materials will be given to students throughout the term. A folder is needed to keep handouts.		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of homework, quiz and exam.	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building</li> <li>• Previewing and predicting</li> <li>• Making inferences</li> <li>• Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>• Outlining</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Warm-up reading</li> <li>2&amp;3. Rapid reading (1)&amp;(2)</li> <li>4--8. Analysing a text (1)--(5)</li> <li>9&amp;10 Rapid Reading (3)&amp;(4)</li> <li>11--14. Reading in depth (1)-(4)</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol> <hr/> Vocabulary quiz will be given when necessary.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Instructional and reading materials will be given to students throughout the term. A folder is needed to keep handouts.		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of homework, quiz and exam.	

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>• Reading aloud</li> <li>• Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>• Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. New Challenges (1)</li> <li>2. New Challenges (2)</li> <li>3. New Challenges (3)</li> <li>4. Teamwork and Competition (1)</li> <li>5. Teamwork and Competition (2)</li> <li>6. Teamwork and Competition (3)</li> <li>7. &lt; Assessment &gt;</li> <li>8. Gender and Relationships (1)</li> <li>9. Gender and Relationships (2)</li> <li>10. Gender and Relationships (3)</li> <li>11. Health and Leisure (1)</li> <li>12. Health and Leisure (2)</li> <li>13. Health and Leisure (3)</li> <li>14. &lt; Assessment &gt;</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wegmann & Knezevic, <i>Mosaic 1</i> (McGraw-Hill) *購入方法は授業開始時に伝えます。		課題、授業への参加、小テストを総合評価 (ただし4回を越えての欠席は評価対象としない)	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building</li> <li>• Previewing and predicting</li> <li>• Making inferences</li> <li>• Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>• Outlining</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. High Tech, Low Tech (1)</li> <li>2. High Tech, Low Tech (2)</li> <li>3. High Tech, Low Tech (3)</li> <li>4. Money Matters (1)</li> <li>5. Money Matters (2)</li> <li>6. Money Matters (3)</li> <li>7. &lt; Assessment &gt;</li> <li>8. Remarkable Individuals (1)</li> <li>9. Remarkable Individuals (2)</li> <li>10. Remarkable Individuals (3)</li> <li>11. Creativity (1)</li> <li>12. Creativity (2)</li> <li>13. Creativity (3)</li> <li>14. &lt; Assessment &gt;</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wegmann & Knezevic, <i>Mosaic 1</i> (McGraw-Hill) *購入方法は授業開始時に伝えます。		課題、授業への参加、小テストを総合評価 (ただし4回を越えての欠席は評価対象としない)	

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase students' vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>Reading aloud</li> <li>Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction to the course: The first challenge</li> <li>What I wish I knew when I was 20.</li> <li>Reading for pleasure and four reading skills</li> <li>Buy one, get two free (Seelig, Ch1)</li> <li>The upside-down circus (Seelig, Ch2)</li> <li>Bikini or die (Seelig, Ch3)</li> <li>Please take out your wallets (Seelig, Ch4)</li> <li>The secret sauce of Silicon Valley (Seelig, Ch5)</li> <li>No way ... Engineering is for girls (Seelig, Ch6)</li> <li>Turn lemonade into helicopters (Seelig, Ch7)</li> <li>Paint the target around the arrow (Seelig, Ch8)</li> <li>Will this be on the exam? (Seelig, Ch9)</li> <li>Experimental artifacts (Seelig, Ch10)</li> <li>Our next challenge? (Kudo et al., 2011)</li> <li>まとめ (授業は日本語と英語で行われます。)</li> </ol> <p>&lt;主要参考図書&gt;  加賀美常美代、横田雅弘、坪井健、工藤和宏 編 (2012) 『多文化社会の偏見・差別』 明石書店  荻谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法——誰でも持っている創造力のスイッチ』 講談社  国弘正雄、千田潤一 (2004) 『英会話・ぜったい・音読——続挑戦編』 講談社  黒川清、石倉洋子 (2006) 『世界級キャリアのつくり方——20代、30代からの“国際派”プロフェッショナルのすすめ』 東洋経済新報社</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
#1. <i>More Reading Power</i> , 2nd Edition (Mikulecky & Jeffries, 2003) #2. <i>What I wish I knew when I was 20</i> (Seelig, 2009) #3. <i>Bridging differences through dialogue</i> . (Kudo et al, 2011: <a href="http://humanlibrary.org/paper-from-dokkyo-university-japan..html">http://humanlibrary.org/paper-from-dokkyo-university-japan..html</a> )		英語でのプレゼンテーション (30%)、ドリル課題 (30%)、書評 (英文で 500~1,000 語程度) (30%)、授業参加 (10%)	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase students' vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building</li> <li>Previewing and predicting</li> <li>Making inferences</li> <li>Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>Outlining</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction to the course: Do you like cheese?</li> <li>What is your cheese? A stupid question!?</li> <li>The story behind the story &amp; A gathering (Johnson, pp.12-24)</li> <li>The story of <i>Who Moved My Cheese?</i> (Johnson, pp. 25-46)</li> <li>The story of <i>Who Moved My Cheese?</i> (Johnson, pp. 47-66)</li> <li>The story of <i>Who Moved My Cheese?</i> (Johnson, pp. 67-76)</li> <li>A discussion (Johnson, pp. 77-94)</li> <li><i>I moved your cheese</i> (Malhotra, pp. ix-8)</li> <li><i>I moved your cheese</i> (Malhotra, pp. 9-28)</li> <li><i>I moved your cheese</i> (Malhotra, pp. 29-49)</li> <li><i>I moved your cheese</i> (Malhotra, pp. 50-66)</li> <li><i>I moved your cheese</i> (Malhotra, pp. 67-73)</li> <li>The cheese experience</li> <li>Cheese party!</li> <li>Wrap up</li> </ol> <p>* All the coursework will be done in English.</p> <p>[Recommended reading]  Iyengar, S. (2010). <i>The art of choosing</i>. New York: Twelve.  Sen, A. (2006). <i>Identity and violence: The illusion of destiny</i>. New York: Norton.  玄田有史 (2010) 『希望のつくり方』 岩波書店  佐野真一 (2012) 『あんぼん——孫正義伝』 小学館  税所篤快 (2011) 『前へ！前へ！前へ！？——足立区の落ちこぼれが、バングラデシュでおこした奇跡』 木楽舎</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
#1. <i>More Reading Power</i> , 2nd Edition (Mikulecky & Jeffries, 2003) #2. <i>Who moved my cheese?</i> (Johnson, 1998) #3. <i>I moved your cheese</i> (Malhotra, 2011)		英語でのプレゼンテーション (30%)、ドリル課題 (30%)、書評 (英文で 500~1,000 語程度) (30%)、授業参加 (10%)	



06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>• Reading aloud</li> <li>• Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>• Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		第1回 ガイダンス 第2回～第14回 テキストに沿って進める。 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Scott Miles, <i>Essential Reading 3</i> , Macmillan, 2008. DUO にて購入すること		出席、授業への参加状況、単語テスト、課題、学期末試験にて評価する。	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building</li> <li>• Previewing and predicting</li> <li>• Making inferences</li> <li>• Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>• Outlining</li> </ul>		第1回 ガイダンス 第2回～第14回 テキストに沿って進める。 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Amanda French, <i>Essential Reading 4</i> , Macmillan, 2008.		出席、授業への参加状況、単語テスト、課題、学期末試験にて評価する。	

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>• Reading aloud</li> <li>• Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>• Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lesson 1, Reading 1: Signing Kyoto Protocol</li> <li>2. Lesson 1, Reading 2: Summer Time in Japan?</li> <li>3. Lesson 2, Reading 1: One Hundred Yen Shop</li> <li>4. Lesson 2, Reading 2: Internet Boom in Kabul</li> <li>5. Lesson 3, Reading 1: Obesity in Mexico</li> <li>6. Lesson 3, Reading 2: Anti-Semitism</li> <li>7. Lesson 4, Reading 1: Language Switching</li> <li>8. Lesson 4, Reading 2: Brain Scanning; <u>MIDTERM EXAM</u></li> <li>9. Lesson 5, Reading 1: The Victim of a Crime</li> <li>10. Lesson 5, Reading 2: Turkey and the EU</li> <li>11. Lesson 6, Reading 1: Medical Divide</li> <li>12. Lesson 6, Reading 2: Work Sharing and Job Sharing</li> <li>13. Lesson 7, Reading 1: Political Systems</li> <li>14. Lesson 7, Reading 2: Bushi (Warrior) Society</li> <li>15. Review and Summary; <u>TERM EXAM</u></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 石谷由美子 & Emma Andrews (著) <i>Outlook on Society: Skills for Better Reading II</i> . (南雲堂) 2011年.		中間試験 (40%) と期末試験 (40%) と出席状況 (10% 程度) と授業における平常点 (10% 程度) に基づき総合的に評価する. 単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる.	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building</li> <li>• Previewing and predicting</li> <li>• Making inferences</li> <li>• Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>• Outlining</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lesson 8, Reading 1: History of Calendar</li> <li>2. Lesson 8, Reading 2: Chocolate War</li> <li>3. Lesson 9, Reading 1: Finland and the IT Race</li> <li>4. Lesson 9, Reading 2: Einstein and the Atomic Bomb</li> <li>5. Lesson 10, Reading 1: Critical Reading</li> <li>6. Lesson 10, Reading 2: The Bubble Economy</li> <li>7. Lesson 11, Reading 1: Von Wieser's Law; <u>MIDTERM EXAM</u></li> <li>8. Lesson 11, Reading 2: The Prisoner's Dilemma</li> <li>9. Lesson 12, Reading 1: Outsourcing</li> <li>10. Lesson 12, Reading 2: Pay-off</li> <li>11. Lesson 13, Reading 1: Unhappy without War?</li> <li>12. Lesson 13, Reading 2: Food Imports in Japan</li> <li>13. Supplement, Reading 1: Sociology and Anthropology</li> <li>14. Supplement, Reading 2: Employment Systems</li> <li>15. Review and Summary; <u>TERM EXAM</u></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 石谷由美子 & Emma Andrews (著) <i>Outlook on Society: Skills for Better Reading II</i> . (南雲堂) 2011年.		中間試験 (40%) と期末試験 (40%) と出席状況 (10% 程度) と授業における平常点 (10% 程度) に基づき総合的に評価する. 単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる.	

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>• Reading aloud</li> <li>• Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>• Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		<p>チカーナ（メキシコ系米国人の女性）作家のベストセラー小説をテキストにしながら、思春期の少女が経験する現実の世界を、人種・ジェンダー・階級・地域性などの視点から、アメリカのなかの「異」文化を読み解く。</p> <p>授業は二人のリポーターによるプレゼンテーション形式で行う。リポーターは担当するチャプターの試訳を用意し、英語の構文や文法、文化的社会的背景について不明な点を明らかにし、メーリングリストで受講者に事前に送る。各自はそれをもとに授業準備をし、クラスでは、疑問点についてディスカッションしながら、1年間で128ページすべてを読破する。また、この作品についての批評も読む予定。</p> <p>最初の授業でペアーと担当チャプターを決める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sandra Cisneros, <i>The House on Mango Street</i> . London: Bloomsbury Pub Ltd, 2004. (ISBN: 978-0747560876)		プレゼンテーションと授業への参加度、そして定期試験で決める。なお欠席が授業回数の1/3を越えた場合は単位を認定しない。	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building</li> <li>• Previewing and predicting</li> <li>• Making inferences</li> <li>• Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>• Outlining</li> </ul>		<p>チカーナ（メキシコ系米国人の女性）作家のベストセラー小説をテキストにしながら、思春期の少女が経験する現実の世界を、人種・ジェンダー・階級・地域性などの視点から、アメリカのなかの「異」文化を読み解く。</p> <p>授業は二人のリポーターによるプレゼンテーション形式で行う。リポーターは担当するチャプターの試訳を用意し、英語の構文や文法、文化的社会的背景について不明な点を明らかにし、メーリングリストで受講者に事前に送る。各自はそれをもとに授業準備をし、クラスでは、疑問点についてディスカッションしながら、1年間で128ページすべてを読破する。また、この作品についての批評も読む予定。</p> <p>最初の授業でペアーと担当チャプターを決める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sandra Cisneros, <i>The House on Mango Street</i> . London: Bloomsbury Pub Ltd, 2004. (ISBN: 978-0747560876)		プレゼンテーションと授業への参加度、そして定期試験で決める。なお欠席が授業回数の1/3を越えた場合は単位を認定しない。	

06 年度以降	Reading Strategies I	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> 1. To increase students' vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To have clearer ideas of what a paragraph is <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>Reading aloud</li> <li>Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		1. 【ガイダンス】 2. Reading (1) 3. Reading (2) 4. Reading (3) 5. Reading (4) 6. Reading (5) 7. Reading (6) 8. Reading (7) 9. Reading (8) 10. Reading (9) 11. Reading (10) 12. Reading (11) 13. プレゼンテーション準備 14. プレゼンテーション (1) 15. プレゼンテーション (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>A Visit to Amazing Kansai-based Companies</i> , 松柏社		出席＋単語テスト＋授業活動への参加度＋期末試験により評価する	

06 年度以降	Reading Strategies II	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> 1. To increase students' vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building</li> <li>Previewing and predicting</li> <li>Making inferences</li> <li>Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>Outlining</li> </ul>		1. 【ガイダンス】 2. <i>Charlie and the Chocolate Factory</i> (1) 3. <i>Charlie and the Chocolate Factory</i> (2) 4. <i>Charlie and the Chocolate Factory</i> (3) 5. Reading and summary writing (1) 6. Reading and summary writing (2) 7. Reading and summary writing (3) 8. Reading and summary writing (4) 9. Reading and summary writing (5) 10. Reading and summary writing (6) 11. Reading and summary writing (7) 12. Reading and summary writing (8) 13. Reading and summary writing (9) 14. Reading and summary writing (10) 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Charlie and the Chocolate Factory</i> , Puffin 自分で選んだ洋書		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する	

06 年度以降	Reading Strategies I (水 3)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To have clearer ideas of what a paragraph is</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>• Reading aloud</li> <li>• Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>• Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		(Unit number & focused strategies in classes) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unit 1 &amp; Predicting from titles, headings, visual aids</li> <li>2. Unit 2 &amp; Identify main ideas and supporting details</li> <li>3. Unit 3 &amp; Focusing on lexical cohesion</li> <li>4. Unit 4 &amp; Summarizing</li> <li>5. Unit 5 &amp; Paraphrasing to avoid plagiarism</li> <li>6. Unit 6 &amp; Making inference</li> <li>7. Unit 7 &amp; Focusing on signal words</li> <li>8. Unit 8 &amp; Skimming, scanning, and measuring wpm</li> <li>9. Unit 9 &amp; Vocabulary (parts of speech)</li> <li>10. Unit 10 &amp; Vocabulary (prefixes, suffixes, and roots)</li> <li>11. Unit 11 &amp; Vocabulary (synonyms, antonyms, general-specific relationship, word association)</li> <li>12. Unit 12 &amp; Vocabulary (genre-/discipline specific vocabulary)</li> <li>13. Unit 13 &amp; Vocabulary quiz</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Neil Anderson, <i>Active skills for Reading (Book 4)</i> , Heinle & Heinle.		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Vocabulary quiz (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies II (水 3)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase students' vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Vocabulary building</li> <li>• Previewing and predicting</li> <li>• Making inferences</li> <li>• Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>• Outlining</li> </ul>		(Reading materials & focused strategies) <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Short story &amp; focusing on genre-specific vocabulary</li> <li>2. Short story &amp; making inference</li> <li>3. Short story &amp; paraphrasing</li> <li>4. Short story &amp; summarizing</li> <li>5. Comparing and synthesizing short stories</li> <li>6. Academic paper &amp; focusing on text organization</li> <li>7. Academic paper &amp; focusing on lexical cohesion</li> <li>8. Academic paper &amp; paraphrasing and summarizing</li> <li>9. Academic paper &amp; synthesizing</li> <li>10. Book/Movie review &amp; understanding genre</li> <li>11. Book/Movie review &amp; comparing and synthesizing</li> <li>12. Creating an academic poster</li> <li>13. Creating an academic poster</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in each class		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Final project (20%)	

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies II (再) 英語リーディング・ストラテジーズ b	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> 1. To increase students' vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand how a text is organized  <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building</li> <li>Previewing and predicting</li> <li>Making inferences</li> <li>Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>Outlining</li> </ul>		1. 授業概要 2. 読解力レベル診断テスト 3. プレ・リーディングスキルを磨く 4. 重要な情報や概念（メインアイデア）を理解する 5. 詳細情報を理解する 6. アイデアの結びつきをシグナルワードから理解する 7. 指示語が誰を指すか、何を指すかを把握する 8. パラグラフ構造：「比較」と「対照」を学ぶ 9. パラグラフ構造：「原因と結果」を学ぶ 10. パラグラフ構造：「時間順序」を学ぶ 11. パラグラフ構造：「空間順序」を学ぶ 12. 重要な情報を「要約する」ストラテジーを磨く 13. 必要な情報をスピーディに把握するストラテジー 14. 視覚的な情報を効果的に使用する 15. 「事実」と「意見」を区別する	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：卯城裕司他 (2008) <i>Reader's Ark</i> (『英語リーディングの冒険』) 金星堂 参考文献：なし		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。 なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（5 回欠席すると単位認定しない）。	

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies I (再) 英語リーディング・ストラテジーズ a	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> 1. To increase students' vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To have clearer ideas of what a paragraph is  <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>Reading aloud</li> <li>Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		1. 授業概要 2. 読解力レベル診断テスト 3. 英文の内容を予測する 4. メインアイデアを理解する < 1 > 5. メインアイデアを理解する < 2 > 6. メインアイデアを理解する < 3 > 7. 詳細情報を理解する 8. シグナルワードを理解する < 1 > 9. シグナルワードを理解する < 2 > 10. 指示語を理解する < 1 > 11. 指示語を理解する < 2 > 12. パラグラフ構造 < 1 > 13. パラグラフ構造 < 2 > 14. パラグラフ構造 < 3 > 15. パラグラフ構造 < 4 >	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：卯城裕司他 (2009) <i>Reader's Ark Basic</i> (『英語リーディングの冒険：基礎編』) 金星堂 参考文献：なし		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。 なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（5 回欠席すると単位認定しない）。	



06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies I (再) 英語リーディング・ストラテジーズ a	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> 1. To increase students' vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To have clearer ideas of what a paragraph is <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>Reading aloud</li> <li>Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		第 1 回 オリエンテーション 第 2 回から第 14 回 使用テキストを購読 第 15 回 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。		出席回数、授業への参加態度、課題の取り組みを総合的に評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies I (再) 英語リーディング・ストラテジーズ a	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of the semester</u> 1. To increase students' vocabulary 2. To develop basic reading skills 3. To understand reading materials without translating into Japanese 4. To have clearer ideas of what a paragraph is <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building (ex., vocabulary journal, prefix, suffix, infix, guessing the meaning of the word)</li> <li>Reading aloud</li> <li>Previewing and predicting before reading (ex., using pictures and other visual clues, forewords, etc.)</li> <li>Recognizing patterns in paragraphs (main idea/topic, topic sentence, supporting details)</li> </ul>		第 1 回 オリエンテーション 第 2 回から第 14 回 使用テキストを購読 第 15 回 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。		出席回数、授業への参加態度、課題の取り組みを総合的に評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies II (再) 英語リーディング・ストラテジーズ b	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Overall objectives of this semester</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase students' vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol> <u>Focuses and activities</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>Vocabulary building</li> <li>Previewing and predicting</li> <li>Making inferences</li> <li>Recognizing patterns of text organization (cause and effect, contrast, comparison, process, chronology, etc.)</li> <li>Outlining</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>中間テスト</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		※ 成績は以下の配分で評価します。 中間テスト 40%、期末テスト 40%、授業内発表 20% ※ 遅刻 3 回（30 分以内）で 1 回の欠席とみなします。 欠席 5 回した時点で単位取得が不可能となります。	

06 年度以降	Reading Strategies III (月 5) (HONORS)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Making Meaning of Myths &amp; Symbols In Our Lives</p> <p>Cultures around the world throughout history have been guided by the myths and symbols that join individuals together in a shared cultural narrative of beliefs, rituals and cultural knowledge. Myths and symbols are universal, yet each culture has adapted these universal forms, or archetypes, and established symbols rich in meaning to suit the indigenous needs of their own social, religious, ethnic and geographical conditions. In this course we will read, discuss and consider the myths and symbols that reflect the different interpretations and spiritual expressions of our shared human experience on the planet.</p> <p>In the Spring term we will gain a general overview and understanding of the place of myths and symbols in our lives.</p>		<p>Week 1 Introduction to Course &amp; Each Other  Week 2 – Myths: Fact, Fiction or Both?  Week 3-4 –Creation Myths from Around the World  Week 5-6 – Myth &amp; Gender  Week 7-8 – Myth &amp; Religion  Week 9 -10 – Symbolism &amp; Religious Symbols  Week 11-12 – The Hero's Journey  Week 13 Personal Cultural Icon (or Symbol)  Week 14-15– Personal Myths Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lemming, D.A. (2002). <i>Myth: A biography of belief</i> . New York: Oxford Press & selected readings		In-class Participation & Homework (50%) Discussion Leader Assignment x 2 (20%) Reading Strategies Journal & Summaries (30%)	

06 年度以降	Reading Strategies IV (月 5) (HONORS)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Making Meaning of Myths &amp; Symbols In Our Lives</p> <p>As a continuation of the Spring course, we will continue to read, discuss and consider the myths and symbols that reflect the different interpretations and spiritual expressions of our shared human experience on the planet. Specifically, in the Fall term we will look at myths and symbols in a variety of stories by applying the motifs and archetypes we discovered in the Spring term to better understand the linkages between myths, symbols, and stories throughout cultures across time and around the world.</p>		<p>Week 1 – Introduction to Course &amp; Catching-Up  Week 2-3 – The World of the Hero  Week 4 – The Legacy of the Ancestors  Week 5 – The Primary World  Week 6 – Student Led Discussion (Personal Choice)  Week 7 – Five Women  Week 8 – Name and No Name  Week 9 – Restoring the Adult  Week 10 – On Unknowing  Week 11 – Student Led Discussion (Personal Choice)  Week 12 – On Forgiving Oneself  Week 13 – Student Presentation (On Story, Symbols &amp; Myth in Japanese Myths 7 Folktales)  Week 14 – Student Presentation (On Story, Symbols &amp; Myth in Japanese Myths 7 Folktales)  Week 15 – Student Presentation (On Story, Symbols &amp; Myth in Japanese Myths &amp; Folktales)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Travers, P.L. (1989). <i>What the bee knows: Reflections on myth, symbol and story</i> . New York: Penguin Books		In-class Participation & Homework (40%) Discussion Leader Assignment x 2 (20%) Reading Strategies Journal & Summaries (20%); Final Presentation (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies III (HONORS)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading Strategies III (Honors) is an advanced level reading course designed to help students develop effective skills, strategies and practices for improving their reading and vocabulary. Based on a variety of readings selected for their sentiment and humor, as well as for their relevance to present-day society, it is the aim of the instructor that through the course of the semester students come to develop a genuine fondness for and interest in reading English.</p> <p>Focus readings will include essays, memoirs, contemporary fiction, and recently-published newspaper articles from authors/journalists Raymond Carver, Gary Shteyngart, David Sedaris, Amy Tan, Ernest Hemingway and Jonathan Franzen, among others.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read</li> <li>3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read</li> <li>4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>5. Reading 1: Group discussion / Final read and review</li> <li>6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read</li> <li>7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>8. Reading 2: Group discussion / Final read and review</li> <li>9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read</li> <li>10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>11. Reading 3: Group discussion / Final read and review</li> <li>12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read</li> <li>13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>14. Reading 4: Group discussion / Final read and review</li> <li>15. Final Assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of in-class and homework assignments (30%), and achievement on a final essay (30%).	

06 年度以降	Reading Strategies IV (HONORS)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading Strategies IV (Honors) is an advanced level reading course designed to help students develop effective skills, strategies and practices for improving their reading and vocabulary. Based on a variety of readings selected for their sentiment and humor, as well as for their relevance to present-day society, it is the aim of the instructor that through the course of the semester students come to develop a genuine fondness for and interest in reading English.</p> <p>Focus readings will include essays, memoirs, contemporary fiction, and recently-published newspaper articles from authors/journalists Raymond Carver, Gary Shteyngart, David Sedaris, Amy Tan, Ernest Hemingway and Jonathan Franzen, among others.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read</li> <li>3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read</li> <li>4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>5. Reading 1: Group discussion / Final read and review</li> <li>6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read</li> <li>7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>8. Reading 2: Group discussion / Final read and review</li> <li>9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read</li> <li>10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>11. Reading 3: Group discussion / Final read and review</li> <li>12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read</li> <li>13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>14. Reading 4: Group discussion / Final read and review</li> <li>15. Final Assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of in-class and homework assignments (30%), and achievement on a final essay (30%).	

06 年度以降	Reading Strategies III (月 5)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>“Reading Strategies” can be defined as ways or manners selected to achieve a specific purpose in reading. Thus, in each class we will read materials with a clear purpose. The overall objectives of this course are: (1) To increase vocabulary; (2) To understand reading material; (3) To understand reading and vocabulary learning strategies.</p> <p>Reading materials will be a non-fiction novel including various topical issues including university school life, intelligent property, copyright, internet business, computer science, computer-mediated communication. Students will be expected to participate actively in not only individual reading activities but also pair, group, classroom discussion on various matters before, during, and after reading. Each class will be conducted in English mainly.</p>		<p>(Chapter number &amp; focused strategies)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and providing basic info of the novel</li> <li>2. Chapter 1 &amp; Intensive reading</li> <li>3. Chapter 2 &amp; Identify main ideas and supporting details</li> <li>4. Chapter 3 &amp; Lexical cohesion</li> <li>5. Chapter 4 &amp; Summarizing</li> <li>6. Chapter 5 &amp; Paraphrasing</li> <li>7. Chapter 6 &amp; Skimming and Scanning</li> <li>8. Chapter 7 &amp; Guessing unknown words</li> <li>9. Chapter 8 &amp; Making inference</li> <li>10. Chapter 9 &amp; Genre-/topic-specific vocabulary</li> <li>11. Chapter 10 &amp; Translating</li> <li>12. Chapter 11 &amp; Focusing on topical issues</li> <li>13. Chapter 12 &amp; Computer-assisted reading</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ben Mezrich, <i>The Accidental Billionaires</i> , Anchor Books, 2009.		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Vocabulary quiz (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies IV (月 5)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the first half of this course, we will continue to read a non-fiction novel. The overall objectives of this course are: (1) To increase vocabulary; (2) To be able to utilize various learning resources to read more efficiently and effectively; (3) To be able to write an academic report by summarizing, paraphrasing, comparing, synthesizing multiple sources, critically thinking, and using reading materials as a “model” for speaking/writing.</p> <p>Students will be expected to participate actively in not only individual reading activities and classroom discussion but also collaborative and computer-assisted activities. Achievement will be assessed by weekly assignments and final project work.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Chapter 13, 14</li> <li>2. Chapter 15, 16</li> <li>3. Chapter 17, 18</li> <li>4. Chapter 19, 20</li> <li>5. Chapter 21-25</li> <li>6. Chapter 26-30</li> <li>7. Summarizing</li> <li>8. Reviewing</li> <li>9. Relating the story to other topical issues</li> <li>10. Referring to online book reviews and comparing them</li> <li>11. Writing and presenting critical reviews</li> <li>12. Writing and presenting critical reviews</li> <li>13. Writing and presenting critical reviews and peer-evaluation</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ben Mezrich, <i>The Accidental Billionaires</i> , Anchor Books, 2009.		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Final project (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies III (火 4)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
This is an integrated skills reading course where you will build upon the skills and strategies you learned in your 1 <sup>st</sup> year reading courses. The text integrates such critical reading skills as skimming, scanning, and building vocabulary while further developing the essential reading strategies required to comprehend more advanced texts. In this course you will become more skilled at: interpreting figurative language (i.e. metaphors, similes, allusions and allegories), pulling out main ideas, exploring the underlying structure of a text, making inferences and deciphering the author's point of view, or bias. This course is designed to integrate these reading skills by providing students opportunities to move beyond fragmented or decoded reading toward more global comprehension and evaluation of texts that are connected thematically.		Week 1 – Introduction to Course & Each Other Weeks 2-3 – Unit 1 -Express Yourself ( Fashion Forward: Styles from the Street Ch.1) Weeks 4-5 – Unit 1- Express Yourself (Challenging Nature: Riding the Waves, Ch. 2) Week 6 – Quiz #1 Week 7-8 – Unit 1 – Express Yourself (The Maori: Cultural Expression in the Land of the Long White Cloud, Ch. 3) Week 9 – Student Choice –Summarizing & Reporting Out Week 10-11 – Unit 2 - The Grand Tour (Pompeii: Uncovering the Past, Ch. 5) Week 12-13 – Unit 2 – The Grand Tour (Theme Parks: The Illusion of a Grand Tour, Ch. 7) Week 14 – Quiz #2 Week 15 – Student Choice –Summarizing & Reporting Out	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pacheco, B.M. & Gregg, J.Y. (2006). <i>The powerful reader, High Intermediate</i> . Macmillan Language House		In-class participation (40%), 2 quizzes (20%), Student Choice Summary (20%), and assignments (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies IV (火 4)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
As a continuation of the Spring course, students will continue to explore interesting themes while applying the strategies and skills that will allow them to move beyond fragmented or decoded reading toward more global comprehension and evaluation of texts.		Week 1 – Course Overview & Catching-Up Week 2-3 – A Tourist's View (Ch.8 – New York: A Perfect Day in Chocolate City) Week 4 – A Tourist's View – Selected travel literature Week 5 – Student Travel Text & Quiz #1 Week 6-8 – Unit 3 - The Human Condition (The Noble Nobel: For the Benefit of Mankind Week 9 – <i>Nobelity</i> (video) & Quiz #2 Week 10 – Student Pick – Vote for Most Nobel Noble Week 11-12 – Unit 3 - The Human Condition (Humor and the Human Condition, Ch.10) Week 13-14 – Unit 3- Art Speaks, War is Hell, Ch. 12) Week 15 – Artist Biography (small group)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pacheco, B.M. & Gregg, J.Y. (2006). <i>The powerful reader, High Intermediate</i> . Macmillan Language House		In-class participation (40%), 2 quizzes (20%), Artist or Noble Nobel Biography (20%), and assignments (20%)	



06 年度以降	Reading Strategies III	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p>		<p>最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。		筆記試験をします。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分にカウントします。	

06 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		<p>最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

06 年度以降	Reading Strategies III	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法をいくら知識として覚えていても、その応用力がなければ、英語を十分に読みこなせるようにはならない。</p> <p>「なんとなく解かる」という曖昧な読み方をつづけていたのでは、いつまでたっても、細かな内容やニュアンスを読み取れるようにはならないのである。そこで当講座では、<u>英文法の応用力アップを目的</u>として授業を進めていきたい。</p> <p>なお、授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>当授業では、学生は文法の応用力アップを目的としていろいろな英文の解説に取り組むことになる。内容の委細については、今の時点では未定であるが、TOEIC®の文法問題を広く用いたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		平常の授業での評価	

06 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		出席、平常の授業での評価	

06 年度以降	Reading Strategies III	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：児童文学を読む（アメリカ）</p> <p>Louis Sachar, <i>Holes</i> (2000) を読む。1999年にアメリカでニューベリー賞を受けベストセラーとなった児童文学である。英語は比較的平易であるが、巧みに組み立てられた物語の構造や、一人の平凡な少年の成長の過程など、大人が読んでも十分に読み応えがある。全部で230ページほどの長さだが、14週間で読み切る予定である。物語の中に引き込まれて読書を楽しむという経験を英語（の授業）でする契機にしてほしい。</p> <p>毎週、ある程度の長さを読んでくると、部分的に精読することを並行して行う。毎回、授業の最初に小テストを行う。（１）指定された範囲を読んで状況や筋書きなどの内容をきちんと読みとれたか、（２）精読用に選んだ部分について細かな表現や語彙を正確にとらえているかを、授業中に確認する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方についての説明と Chapters 1-2</li> <li>2. Chapters 3-5</li> <li>3. Chapters 6-8</li> <li>4. Chapters 9-12</li> <li>5. Chapters 13-16</li> <li>6. Chapters 17-20</li> <li>7. Chapters 21-24</li> <li>8. Chapters 25-28</li> <li>9. Chapters 29-32</li> <li>10. Chapters 33-36</li> <li>11. Chapters 37-40</li> <li>12. Chapters 41-44</li> <li>13. Chapters 45-48</li> <li>14. Chapters 49-50</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Louis Sachar, <i>Holes</i> , New York: Yearling Books, 2000.		毎回の小テストと宿題のワークシートで成績評価をする。4 回以上の欠席があった場合、成績評価の対象としない。	

06 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：児童文学を読む（イギリス、オーストラリア）</p> <p>前半は <i>Stone Cold</i> を読む イギリスでその年に出版された児童書で最も優れたものに与えられる Carnegie Medal を 1994 年に受賞している。児童書ではあるが、テーマは「ホームレス」であり、都会の冷酷さを、殺人事件を追うサスペンスとともに描いている。</p> <p>内容を把握し、物語の展開を楽しむとともに、二人の語り手という手法の面白さや、若者の視点で書かれている表現の特徴について理解を深めることをめざす。またホームレスや貧困という現代社会の問題についても考え、それらについての参考文献も読む。</p> <p>後半は <i>Two Weeks with the Queen</i> を読む 10 代前半の少年少女を対象として書かれている児童文学であるが、テーマは「死」である。子供の視点を通して、癌や AIDS という病と人はどう向き合うか、家族や友人はどう支え合うか、またゲイへの差別はどのようにあらわれるかを読者は考えることになる。</p> <p>ストーリーを追ひ、そこに描きこまれた問題を抽出し、さらにそれについて調べてみることも行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Stone Cold</i>, pp. 1-10</li> <li>2. <i>Stone Cold</i>, pp. 11-21</li> <li>3. <i>Stone Cold</i>, pp. 22-35</li> <li>4. <i>Stone Cold</i>, pp. 36-50</li> <li>5. <i>Stone Cold</i>, pp. 51-61</li> <li>6. <i>Stone Cold</i>, pp. 62-74</li> <li>7. <i>Stone Cold</i>, pp. 75-91</li> <li>8. <i>Stone Cold</i>, pp. 92-105</li> <li>9. <i>Stone Cold</i>, pp. 106-116</li> <li>10. <i>Stone Cold</i>, pp. 117-132</li> <li>11. <i>Two Weeks with the Queen</i>, Chapters 1-4</li> <li>12. <i>Two Weeks with the Queen</i>, Chapters 5-8</li> <li>13. <i>Two Weeks with the Queen</i>, Chapters 9-11</li> <li>14. <i>Two Weeks with the Queen</i>, Chapters 12-16</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert Swindells, <i>Stone Cold</i> , London: Puffin, 1995. Morris Gleitzman, <i>Two Weeks with the Queen</i> , London: Puffin, 1999.		毎回の小テストと宿題のワークシートで成績評価をする。4 回以上の欠席があった場合、成績評価の対象としない。	

06 年度以降	Reading Strategies III	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall objectives of the Reading Strategies III course are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Increase academic vocabulary.</li> <li>2) Read a variety of reading material.</li> <li>3) Develop effective reading skills.</li> <li>4) Read materials outside of class.</li> </ol> <p>Throughout this course, we will be working towards the above objectives using the selected text and associated readings.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 3: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 4: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 5: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 6: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 7: Selected readings &amp; assignments; Quiz I.</p> <p>Week 8: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 9: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 10: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 11: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 12: Selected readings &amp; assignments; Quiz II.</p> <p>Week 13: Video presentation, part I.</p> <p>Week 14: Video presentation, part II.</p> <p>Week 15: Consolidation &amp; Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kleinbaum, N.H. <i>Dead Poet's Society</i> . (Hyperion.)		Grading will be based on class participation, assignments, quizzes and a final assessment.	

06 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall objectives of the Reading Strategies III course are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Increase academic vocabulary.</li> <li>2) Read a variety of reading material.</li> <li>3) Develop effective reading skills.</li> <li>4) Read materials outside of class.</li> </ol> <p>Throughout this course, we will be working towards the above objectives using the selected text and associated readings.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 3: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 4: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 5: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 6: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 7: Selected readings &amp; assignments; Quiz I.</p> <p>Week 8: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 9: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 10: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 11: Selected readings &amp; assignments.</p> <p>Week 12: Selected readings &amp; assignments; Quiz II.</p> <p>Week 13: Video presentation, part I.</p> <p>Week 14: Video presentation, part II.</p> <p>Week 15: Consolidation &amp; Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided.		Grading will be based on class participation, assignments, quizzes, and a final assessment.	

06 年度以降	Reading Strategies III (水 2)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>“Reading Strategies” can be defined as ways or manners selected to achieve a specific purpose in reading. Thus, in each class we will read materials with a clear purpose. The overall objectives of this course are: (1) To increase vocabulary; (2) To understand reading material; (3) To understand reading and vocabulary learning strategies.</p> <p>Reading materials will be a non-fiction novel including various topical issues including university school life, intelligent property, copyright, internet business, computer science, computer-mediated communication. Students will be expected to participate actively in not only individual reading activities but also pair, group, classroom discussion on various matters before, during, and after reading. Each class will be conducted in English mainly.</p>		<p>(Chapter number &amp; focused strategies)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and providing basic info of the novel</li> <li>2. Chapter 1 &amp; Intensive reading</li> <li>3. Chapter 2 &amp; Identify main ideas and supporting details</li> <li>4. Chapter 3 &amp; Lexical cohesion</li> <li>5. Chapter 4 &amp; Summarizing</li> <li>6. Chapter 5 &amp; Paraphrasing</li> <li>7. Chapter 6 &amp; Skimming and Scanning</li> <li>8. Chapter 7 &amp; Guessing unknown words</li> <li>9. Chapter 8 &amp; Making inference</li> <li>10. Chapter 9 &amp; Genre-/topic-specific vocabulary</li> <li>11. Chapter 10 &amp; Translating</li> <li>12. Chapter 11 &amp; Focusing on topical issues</li> <li>13. Chapter 12 &amp; Computer-assisted reading</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ben Mezrich, <i>The Accidental Billionaires</i> , Anchor Books, 2009.		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Vocabulary quiz (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies IV (水 2)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the first half of this course, we will continue to read a non-fiction novel. The overall objectives of this course are: (1) To increase vocabulary; (2) To be able to utilize various learning resources to read more efficiently and effectively; (3) To be able to write an academic report by summarizing, paraphrasing, comparing, synthesizing multiple sources, critically thinking, and using reading materials as a “model” for speaking/writing.</p> <p>Students will be expected to participate actively in not only individual reading activities and classroom discussion but also collaborative and computer-assisted activities. Achievement will be assessed by weekly assignments and final project work.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Chapter 13, 14</li> <li>2. Chapter 15, 16</li> <li>3. Chapter 17, 18</li> <li>4. Chapter 19, 20</li> <li>5. Chapter 21-25</li> <li>6. Chapter 26-30</li> <li>7. Summarizing</li> <li>8. Reviewing</li> <li>9. Relating the story to other topical issues</li> <li>10. Referring to online book reviews and comparing them</li> <li>11. Writing and presenting critical reviews</li> <li>12. Writing and presenting critical reviews</li> <li>13. Writing and presenting critical reviews and peer-evaluation</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ben Mezrich, <i>The Accidental Billionaires</i> , Anchor Books, 2009.		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Final project (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies III	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1 年次のRSI/IIに引き続き、リーディングのスキルを上げていくための授業です。次のことを目標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語のしくみを理解しながら語彙を増やすこと</li> <li>・ リーディングのスキル（previewing, scanning, skimmingなど）を目的に応じて使いこなせるようになること</li> <li>・ 授業外で自分で選んだ本を多読し、リーディングの力を総合的に伸ばすこと</li> </ul> <p>講義概要</p> <p>1 年次向けのテキストの上級編を使う予定です。テキストの各章にそれぞれ三回かけて進めます。授業中にこなせないもの、授業外でじっくり取り組んでほしいものは課題とします。</p> <p>また、授業で進めていくテキストの他に、各自多読用の本を選んで記録をつけてもらいます。</p> <p>詳しいやりかたは授業開始時に説明するほか、授業を進めながら調整します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Language and Learning (1)</li> <li>2. Language and Learning (2)</li> <li>3. Language and Learning (3)</li> <li>4. Danger and Daring (1)</li> <li>5. Danger and Daring (2)</li> <li>6. Danger and Daring (3)</li> <li>7. &lt; Assessment &gt;</li> <li>8. Gender and Relationships (1)</li> <li>9. Gender and Relationships (2)</li> <li>10. Gender and Relationships (3)</li> <li>11. Beauty and Aesthetics (1)</li> <li>12. Beauty and Aesthetics (2)</li> <li>13. Beauty and Aesthetics (3)</li> <li>14. &lt; Assessment &gt;</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wegmann & Knezevic, <i>Mosaic 2</i> (McGraw-Hill) *購入方法は授業開始時に伝えます。		課題、授業への参加、小テストを総合評価 （ただし4回を越えての欠席は評価対象としない）	

06 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Transitions (1)</li> <li>2. Transitions (2)</li> <li>3. Transitions (3)</li> <li>4. The Mind (1)</li> <li>5. The Mind (2)</li> <li>6. The Mind (3)</li> <li>7. &lt; Assessment &gt;</li> <li>8. Working (1)</li> <li>9. Working (2)</li> <li>10. Working (3)</li> <li>11. Breakthroughs (1)</li> <li>12. Breakthroughs (2)</li> <li>13. Breakthroughs (3)</li> <li>14. &lt; Assessment &gt;</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wegmann & Knezevic, <i>Mosaic 2</i> (McGraw-Hill) *購入方法は授業開始時に伝えます。		課題、授業への参加、小テストを総合評価 （ただし4回を越えての欠席は評価対象としない）	



06 年度以降	Reading Strategies III	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading Classic Rock</p> <p>Classic Rock の中から代表的な 30 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。ロック・ミュージックの 50 年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。</p> <p>2 人 1 組のレポーターを中心に、個々の作品が生まれた歴史的・政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブに英語圏の文化を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. An Introduction</li> <li>2. “America” by Paul Simon</li> <li>3. “Eleanor Rigby” by the Beatles</li> <li>4. “The Boxer” by Paul Simon</li> <li>5. “Across the Universe” by the Beatles</li> <li>6. “Me and Bobby McGee” by Janis Joplin</li> <li>7. “Sympathy for the Devil” by Rolling Stones</li> <li>8. “Sweet Baby James” by James Taylor</li> <li>9. “Big Yellow Taxi” by Joni Mitchell</li> <li>10. “At Seventeen” by Janis Ian</li> <li>11. “The River” by Bruce Springsteen</li> <li>12. “Good Night Saigon” by Billy Joel</li> <li>13. “The Last Resort” by the Eagles</li> <li>14. “The Pretender” by Jackson Browne</li> <li>15. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントは担当者が用意する。		プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決める。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはしない。	

06 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Reading Classic Rock</p> <p>Classic Rock の中から代表的な 30 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。ロック・ミュージックの 50 年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。</p> <p>2 人 1 組のレポーターを中心に、個々の作品が生まれた歴史的・政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブに英語圏の文化を考える。</p> <p>秋学期は、Bob Dylan の作品を取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. “Blowin’ in the wind”</li> <li>2. “A Hard Rain’s A-Gonna Fall”</li> <li>3. “The Times They Are a-Changin’”</li> <li>4. “With God on Our Side”</li> <li>5. “My Back Pages”</li> <li>6. “Mr. Tambourine Man”</li> <li>7. “Like a rolling Stone”</li> <li>8. “Desolation Row”</li> <li>9. “I Want You”</li> <li>10. “Sad-Eyed Lady of the Lowlands”</li> <li>11. “All Along the Watchtower”</li> <li>12. “Idiot Wind”</li> <li>13. “Hurricane”</li> <li>14. “One More Cup of Coffee (Valley Below)”</li> <li>15. “Jokerman”</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lyrics は、 <a href="http://bobdylan.com">bobdylan.com</a> よりダウンロード。		プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決める。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはしない。	

06 年度以降	Reading Strategies III (木 4)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>“Reading Strategies” can be defined as ways or manners selected to achieve a specific purpose in reading. Thus, in each class we will read materials with a clear purpose. The overall objectives of this course are: (1) To increase vocabulary; (2) To understand reading material; (3) To understand reading and vocabulary learning strategies.</p> <p>Reading materials will be a non-fiction novel including various topical issues including university school life, intelligent property, copyright, internet business, computer science, computer-mediated communication. Students will be expected to participate actively in not only individual reading activities but also pair, group, classroom discussion on various matters before, during, and after reading. Each class will be conducted in English mainly.</p>		<p>(Chapter number &amp; focused strategies)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and providing basic info of the novel</li> <li>2. Chapter 1 &amp; Intensive reading</li> <li>3. Chapter 2 &amp; Identify main ideas and supporting details</li> <li>4. Chapter 3 &amp; Lexical cohesion</li> <li>5. Chapter 4 &amp; Summarizing</li> <li>6. Chapter 5 &amp; Paraphrasing</li> <li>7. Chapter 6 &amp; Skimming and Scanning</li> <li>8. Chapter 7 &amp; Guessing unknown words</li> <li>9. Chapter 8 &amp; Making inference</li> <li>10. Chapter 9 &amp; Genre-/topic-specific vocabulary</li> <li>11. Chapter 10 &amp; Translating</li> <li>12. Chapter 11 &amp; Focusing on topical issues</li> <li>13. Chapter 12 &amp; Computer-assisted reading</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ben Mezrich, <i>The Accidental Billionaires</i> , Anchor Books, 2009.		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Vocabulary quiz (20%)	

06 年度以降	Reading Strategies IV (木 4)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the first half of this course, we will continue to read a non-fiction novel. The overall objectives of this course are: (1) To increase vocabulary; (2) To be able to utilize various learning resources to read more efficiently and effectively; (3) To be able to write an academic report by summarizing, paraphrasing, comparing, synthesizing multiple sources, critically thinking, and using reading materials as a “model” for speaking/writing.</p> <p>Students will be expected to participate actively in not only individual reading activities and classroom discussion but also collaborative and computer-assisted activities. Achievement will be assessed by weekly assignments and final project work.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Chapter 13, 14</li> <li>2. Chapter 15, 16</li> <li>3. Chapter 17, 18</li> <li>4. Chapter 19, 20</li> <li>5. Chapter 21-25</li> <li>6. Chapter 26-30</li> <li>7. Summarizing</li> <li>8. Reviewing</li> <li>9. Relating the story to other topical issues</li> <li>10. Referring to online book reviews and comparing them</li> <li>11. Writing and presenting critical reviews</li> <li>12. Writing and presenting critical reviews</li> <li>13. Writing and presenting critical reviews and peer-evaluation</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ben Mezrich, <i>The Accidental Billionaires</i> , Anchor Books, 2009.		Attendance and participation (20%); In-class achievement (20%); Weekly assignments (40%); Final project (20%)	

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies III (再) 英語専門講読入門 a	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本の文化、特に神話について書かれた英文を読んで、文章読解力をつけるとともに、自国の文化についての理解を深める。</p> <p>[精読] 以下に詳述するように精読を行い、英文読解力をつける。</p> <p>1 : 論理的接続語(logical connectors)について学び、文章の流れを正確に把握する力を身につける。</p> <p>2 : 語彙数を増やすのは勿論のこと、言葉についての正確な知識を学ぶ。また、文脈から、あるいは接辞から、知らない言葉も推測することのできる力を身につける。</p> <p>3 : 文中の言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読むことができるようになる。</p> <p>[速読] 授業で精読した文章に関連する別の文章を読み、短い時間で、正確にその要旨をつかむ訓練をする。</p>		<p>1: Introduction</p> <p>2: ①Mythology and the Japanese World</p> <p>3: "</p> <p>4: ②Great Tradition and the Little Traditions</p> <p>5: "</p> <p>6: ③External Sources of Japanese Traditions</p> <p>7: "</p> <p>8: ④Japanese Topography and Geography</p> <p>9: "</p> <p>10: ⑤Japanese Population</p> <p>11: "</p> <p>12: ⑥Japanese History and Traditions</p> <p>13: "</p> <p>14: "</p> <p>15: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布 (初回にまとめて教材のプリントを配布しますので、受講希望者は必ず初回に出席して下さい。)		出席 (30%)、期末試験(30%)、提出物(30%)、授業態度(10%)を総合評価。1/3 以上の欠席不可。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies IV (再) 英語専門講読入門 b	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、日本の文化、特に神話について書かれた英文を読んで、文章読解力をつけるとともに、日本の文化についての理解を深める。</p> <p>[精読と表現] 以下に詳述するように精読を行い、文章を正確に理解し、更に、読んだ内容について自分の考えをまとめる力を身につける。</p> <p>1 : 論理的接続語(logical connectors)について学び、文章の流れを正確に把握する。</p> <p>2 : 語彙数を増やすのは勿論のこと、言葉についての正確な知識を学ぶ。また、文脈から、あるいは接辞から、知らない言葉も推測することのできる力を身につける。</p> <p>3 : 文中の言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読むことができるようになる。</p> <p>4 : 要点を正確に把握する。</p> <p>5 : 自分の考えを簡潔に表わす。</p> <p>[速読] 授業で精読した文章に関連する別の文章を読み、短い時間で、正確にその要旨をつかむ訓練をする。</p>		<p>1: ① Introduction</p> <p>2: ②Japanese Mythic Traditions: Shinto</p> <p>3: "</p> <p>4: ③Kojiki and Nihonshoki</p> <p>5: "</p> <p>6: ④the foundation myths</p> <p>7: "</p> <p>8: ⑤Mythic Traditions: Buddhism</p> <p>9: "</p> <p>10: ⑥Japanese family system</p> <p>11: "</p> <p>12: ⑦Myth in the Modern World</p> <p>13: "</p> <p>14: "</p> <p>15: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布 (初回にまとめて教材のプリントを配布しますので、受講希望者は必ず初回に出席して下さい。)		出席 (30%)、期末試験(30%)、提出物(30%)、授業態度(10%)を総合評価。1/3 以上の欠席不可。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies IV (再) 英語専門講読入門 b	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では短編小説を精読していきます。英語学科に所属している学生としては「なんとなく分かる」で読み進めるのでは不足でしょう。英語をきちんと分析しながら読み、文脈などを詳細に理解することや作品を味わうこと、そして言葉の使い方やニュアンスまで読み取れるようになることを授業の目的とします。一般的に「英語ができる」といった時に求められるのは、英語と日本語をつなぐ能力です。英語で書いてあることを文脈を含めて正しく理解し、日本語に置き換える能力を培ってください。</p> <p>そのため、授業参加前に必ず予習してくる、そして辞書を丹念に読むことは必須です。</p>		<p>1. 授業の概要 2－14. 作品精読 15. 春学期のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>American Fantastic Tales: Terror and the Uncanny from the 1940s to Now.</i> Peter Straub ed. New York: The Library of America, 2009. など短編小説を使用。プリントを配布する。		授業への参加 (30%)、テストなどの課題 (70%)	

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies III (再) 英語専門講読入門 a	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では短編小説を精読していきます。英語学科に所属している学生としては「なんとなく分かる」で読み進めるのでは不足でしょう。英語をきちんと分析しながら読み、文脈などを詳細に理解することや作品を味わうこと、そして言葉の使い方やニュアンスまで読み取れるようになることを授業の目的とします。「英語ができる」といった時に求められるのは、英語と日本語をつなぐ能力です。英語で書いてあることを文脈を含めて正しく理解し、日本語に置き換える能力を培ってください。</p> <p>そのため、授業参加前に必ず予習してくる、そして辞書を丹念に読むことは必須です。</p>		<p>1. 授業の概要 2－14. 作品精読 15. 秋学期のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>American Fantastic Tales: Terror and the Uncanny from the 1940s to Now.</i> Peter Straub ed. New York: The Library of America, 2009. など短編小説を使用。プリントを配布する。		授業への参加 (30%)、小テストなどの課題 (70%)	

06 年度以降	Writing Strategies	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long course for Group C in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and before moving on to introductory academic writing. Accuracy is the main focus.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students to write grammatical sentences</li> <li>To increase students' awareness of common grammatical problems in writing made by EFL students</li> <li>To introduce self-help strategies so that students can analyze their problems and revise their writing (e.g. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>授業概要</li> <li>フリーライティングとアイディアの整理方法 (1)</li> <li>フリーライティングとアイディアの整理方法 (2)</li> <li>時を表す表現 (1)</li> <li>時を表す表現 (2)</li> <li>修飾語句 (1)</li> <li>修飾語句 (2)</li> <li>人物描写 (1)</li> <li>人物描写 (2)</li> <li>パラグラフとは (1)</li> <li>パラグラフとは (2)</li> <li>エッセイを書く (1)</li> <li>エッセイを書く (2)</li> <li>エッセイを書く (3)</li> <li>授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：大井恭子他 (2011) Writing Power (Revised Edition) 研究社</p> <p>参考文献：なし</p>		出席状況、授業貢献度、毎授業時の課題提出とその評価を総合して成績評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>授業概要</li> <li>パラグラフパターン 1:順序立て (1)</li> <li>パラグラフパターン 1:順序立て (2)</li> <li>パラグラフパターン 2:定義付け (1)</li> <li>パラグラフパターン 2:定義付け (2)</li> <li>パラグラフパターン 3:分類 (1)</li> <li>パラグラフパターン 3:分類 (2)</li> <li>パラグラフパターン 4:類似点と相違点 (1)</li> <li>パラグラフパターン 4:類似点と相違点 (2)</li> <li>パラグラフパターン 5:原因と結果 (1)</li> <li>パラグラフパターン 5:原因と結果 (2)</li> <li>パラグラフパターン 6:論証文 (1)</li> <li>パラグラフパターン 6:論証文 (2)</li> <li>パラグラフパターン 7:手紙</li> <li>授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:大井恭子他 (2011) Writing Power (Revised Edition) 研究社</p> <p>参考文献:なし</p>		出席状況、授業貢献度、毎授業時の課題提出とその評価を総合して成績評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

06 年度以降	Writing Strategies	担当者	長南 一豪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long course for Group C in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and before moving on to introductory academic writing. Accuracy is the main focus.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students to write grammatical sentences</li> <li>To increase students' awareness of common grammatical problems in writing made by EFL students</li> <li>To introduce self-help strategies so that students can analyze their problems and revise their writing (e.g. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>授業のイントロダクション</li> <li>1 : Introducing People</li> <li>1 : Organization</li> <li>1 : Grammar and Capitalization</li> <li>1 : Sentence Structure</li> <li>1 : Writing</li> <li>2 : Listing-Order Paragraphs</li> <li>2 : Organization</li> <li>2 : Sentence Structure</li> <li>2 : Writing</li> <li>3 : Giving Instructions</li> <li>3 : Organization</li> <li>3 : Sentence Structure and Punctuation</li> <li>3 : Writing</li> <li>まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hogue, A, <i>First Steps in Academic Writing</i> , Second Edition, Pearson-Longman. (書店で各自購入のこと)		期末試験(50%)と課題提出・出席・授業参加(50%)を評価対象とします。	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	長南 一豪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>授業のイントロダクション</li> <li>4 : Describing a Place</li> <li>4 : Organization</li> <li>4 : Grammar and Sentence Structure</li> <li>4 : Writing</li> <li>5 : Stating Reasons and Using Examples</li> <li>5 : Organization</li> <li>5 : Sentence Structure and Punctuation</li> <li>5 : Writing</li> <li>6 : Expressing Your Opinion</li> <li>6 : Organization</li> <li>6 : Sentence Structure and Punctuation</li> <li>6 : Writing</li> <li>Appendices : Journal Writing</li> <li>まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hogue, A, <i>First Steps in Academic Writing</i> , Second Edition, Pearson-Longman. (書店で各自購入のこと)		期末試験(50%)と課題提出・出席・授業参加(50%)を評価対象とします。	



06 年度以降	Writing Strategies	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long course for Group C in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and before moving on to introductory academic writing. Accuracy is the main focus.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students to write grammatical sentences</li> <li>To increase students' awareness of common grammatical problems in writing made by EFL students</li> <li>To introduce self-help strategies so that students can analyze their problems and revise their writing (e.g. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.)</li> </ol>		<p>Schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 1: 'Who am I?' (1) connecting sentences</li> <li>Unit 1: " (2) connecting sentences</li> <li>Unit 2: 'Special places'—prepositional phrases</li> <li>Unit 3: 'An ideal partner'—parallel structure</li> <li>Unit 4: 'Snapshot'—present or past?</li> <li>Unit 5: 'My seal'—commas with because</li> <li>Unit 6: 'It's a party!'—so that and to</li> <li>Unit 7: 'Thank-you letter'—before and after</li> <li>Unit 8: 'Movie review'—pronouns</li> <li>Unit 9: 'Friendship'—combining sentences with so</li> <li>Unit 10: 'Superhero powers'—expressing wishes</li> <li>Unit 11: 'Advertisements'—persuasive language</li> <li>Unit 12: 'Lessons learned'—Word choice</li> <li>Summary of the course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook: Curtis Kelly & Arlen Gargagliano, 'Writing from Within Intro', Cambridge University Press, 10 <sup>th</sup> printing 2009.		Evaluation: Students will be evaluated on attendance, active participation, writing assignments and their progress in writing.	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 1: 'About Me' general and specific information</li> <li>Unit 1: same as the above</li> <li>Unit 2: 'Career Consultant'—logical organization 1</li> <li>Unit 3: 'A Dream Come True'—facts and examples in paragraphs</li> <li>Unit 4: 'Invent!'—definition paragraphs</li> <li>Unit 5: 'It Changed My Life!'—cause-and-effect paragraphs</li> <li>Unit 6: 'Exciting Destinations'—process paragraphs</li> <li>Unit 7: 'Research Survey'—classification style</li> <li>Unit 8: 'The Power Interview'—comparison-contrast paragraphs</li> <li>Unit 9: 'Personal Goals'—Persuasive paragraphs</li> <li>Unit 10: 'Architect'—logical organization 2</li> <li>Unit 11: 'My Role Models'—paragraph Links</li> <li>Unit 12: 'Be a Reporter'—newspaper style</li> <li>Summary of the course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook: Curtis Kelly & Arlen Gargagliano, 'Writing from Within Intro', Cambridge University Press, 19 <sup>th</sup> printing 2010.		Evaluation: Students will be evaluated on attendance, active participation, writing assignments and their progress in writing.	

06 年度以降	Writing Strategies	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long course for Group C in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and before moving on to introductory academic writing. Accuracy is the main focus.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students to write grammatical sentences</li> <li>To increase students' awareness of common grammatical problems in writing made by EFL students</li> <li>To introduce self-help strategies so that students can analyze their problems and revise their writing (e.g. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2-14. 演習</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol> <p>授業では、プリントを使って「きちんと伝わる文章」を書けるようにする。さまざまな角度から短い文章を書く練習を続けることによって、間違いやすい文法事項などを確認する。日本語の内容を考えてできるだけ正確に英文を作る練習を中心に進めるが、その際英語と日本語の違いを意識して英語の特徴を学ぶ。</p> <p>内容が相手に伝わらなければ意味がないので、勢いで作文せず自分の文章を批判的・客観的に分析できるようにすること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		平常点（参加度・課題）40%、定期試験 60%	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、春学期の復習</li> <li>2. Topic sentence</li> <li>3. Supporting sentences</li> <li>4. Concluding sentences</li> <li>5. Paragraph の構成の仕方</li> <li>6. Explaining your character</li> <li>7. Describing your daily life</li> <li>8. Expressing an opinion</li> <li>9. Giving advice and instructions</li> <li>10. Comparing and Contrasting</li> <li>11. Explaining Japanese culture</li> <li>12. Describing data expressed in graphs</li> <li>13. Summarizing what you have read</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
静哲人著『構造から学べるパラグラフライティング入門—Writing Facilitator』松柏社 ISBN 978-4-88198-537-3 ￥1800（税別）		平常点（参加度・課題）40%、定期試験 60%	

06 年度以降	Writing Strategies	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long course for Group C in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and before moving on to introductory academic writing. Accuracy is the main focus.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students to write grammatical sentences</li> <li>To increase students' awareness of common grammatical problems in writing made by EFL students</li> <li>To introduce self-help strategies so that students can analyze their problems and revise their writing (e.g. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.)</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the course &amp; diagnostic test</li> <li>2. Sentence structure &amp; free writing</li> <li>3. Clauses and phrases &amp; free writing</li> <li>4. Relatives &amp; free writing</li> <li>5. Tenses consistency and voices &amp; free writing</li> <li>6. Articles, singular/plural, S/V agreement &amp; free writing</li> <li>7. Introduction of paragraph writing</li> <li>8. Descriptive writing &amp; analyzing model paragraphs</li> <li>9. Descriptive writing &amp; peer review</li> <li>10. Expository writing &amp; analyzing model paragraphs</li> <li>11. Expository writing &amp; peer review</li> <li>12. Argumentative writing &amp; analyzing model paragraphs</li> <li>13. Timed writing</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue, <i>Writing Academic English Fourth Edition</i> , Pearson Education.		Attendance and participation (20%); in-class achievement (20%); written assignments (60%)	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the course &amp; diagnostic test</li> <li>2. Grammar issues &amp; free writing</li> <li>3. Grammar issues &amp; paragraph organization</li> <li>4. Grammar issues &amp; essay organization</li> <li>5. Timed writing (sentence writing) &amp; peer feedback</li> <li>6. Descriptive task &amp; brainstorming and outlining</li> <li>7. Descriptive task &amp; self-revision and peer-feedback</li> <li>8. Expository task &amp; model text analysis and signal words</li> <li>9. Expository task &amp; self-/peer evaluation using rubric</li> <li>10. Timed writing (paragraph writing) &amp; peer-feedback</li> <li>11. Expository task &amp; unity and coherence</li> <li>12. Expository task &amp; unity and coherence</li> <li>13. Timed writing</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue, <i>Writing Academic English Fourth Edition</i> , Pearson Education.		Attendance and participation (20%); in-class achievement (20%); written assignments (60%)	

06 年度以降	Writing Strategies	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long course for Group C in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and before moving on to introductory academic writing. Accuracy is the main focus.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students to write grammatical sentences</li> <li>To increase students' awareness of common grammatical problems in writing made by EFL students</li> <li>To introduce self-help strategies so that students can analyze their problems and revise their writing (e.g. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction:</li> <li>Chap.1: Paragraph Format / noun</li> <li>" / article</li> <li>" / tense</li> <li>Chap. 2: Narrative Paragraphs / tense</li> <li>" / auxiliary verb</li> <li>" /auxiliary verb</li> <li>Chap. 3: Paragraph Structure / passive</li> <li>" / relative clause</li> <li>" / noun clause</li> <li>Chap.4: Descriptive Paragraphs /</li> <li>" /Compound sentences</li> <li>" / Paragraph Unity</li> <li>"</li> <li>Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Introduction to Academic Writing</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout		Attendance (30%)、Final Test / Report (30%) 、 class participation and assignments (40%)	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction:</li> <li>Chap. 5 Logical Division of Ideas</li> <li>" / transitional signals</li> <li>" / nouns and pronouns</li> <li>Chap. 6: Process Paragraphs/ Clauses</li> <li>" / Complex sentences</li> <li>"</li> <li>Chap. 7: Comparison/ Contrast Paragraphs</li> <li>" / Comparison Signals</li> <li>" / Contrast Signals</li> <li>Chap. 8: Definition Paragraphs/ Appositives</li> <li>" / Adjective Clauses</li> <li>" / Subject Pronouns, etc.</li> <li>"</li> <li>Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Introduction to Academic Writing</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout		Attendance (30%)、Final Test / Report (30%) 、 class participation and assignments (40%)	

06 年度以降	Paragraph Writing (月 3)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a ‘good’ paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a ‘good’ essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the course &amp; diagnostic test</li> <li>2. Grammar issues &amp; free writing</li> <li>3. Grammar issues &amp; paragraph organization</li> <li>4. Grammar issues &amp; essay organization</li> <li>5. Timed writing (sentence writing) &amp; peer feedback</li> <li>6. Descriptive task &amp; brainstorming and outlining</li> <li>7. Descriptive task &amp; self-revision and peer-feedback</li> <li>8. Expository task &amp; model text analysis and signal words</li> <li>9. Expository task &amp; self-/peer evaluation using rubric</li> <li>10. Timed writing (paragraph writing) &amp; peer-feedback</li> <li>11. Expository task &amp; unity and coherence</li> <li>12. Expository task &amp; unity and coherence</li> <li>13. Timed writing</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue, <i>Writing Academic English Fourth Edition</i> , Pearson Education.		Attendance and participation (20%); in-class achievement (20%); written assignments (60%)	

06 年度以降	Basic Essay Writing (月 3)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students’ writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of ‘good’ essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the basic organization</li> <li>2. Descriptive essay &amp; analyzing model essay</li> <li>3. Descriptive essay &amp; genre-specific vocabulary, unity and coherence</li> <li>4. Descriptive essay &amp; paraphrasing and summarizing</li> <li>5. Descriptive essay &amp; timed writing</li> <li>6. Argumentative essay &amp; analyzing model essay</li> <li>7. Argumentative essay &amp; genre-specific vocabulary, unity and coherence</li> <li>8. Argumentative essay &amp; paraphrasing and summarizing</li> <li>9. Argumentative essay &amp; timed writing</li> <li>10. Writing book/movie storyline &amp; analyzing model text</li> <li>11. Writing book/movie review &amp; analyzing model text</li> <li>12. Writing academic poster &amp; synthesizing</li> <li>13. Writing academic poster &amp; timed writing</li> <li>14, 15 Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue, <i>Writing Academic English Fourth Edition</i> , Pearson Education.		Attendance and participation (20%); in-class achievement (20%); written assignments (60%)	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	D. H. ケネディ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a ‘good’ paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a ‘good’ essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction and the writing process</li> <li>2. Quiz 1 / Paragraph basics</li> <li>3. Paragraph basics – 1<sup>st</sup> major paragraph assigned</li> <li>4. Quiz 2 / Focusing ideas</li> <li>5. The topic sentence</li> <li>6. Quiz 3 / The topic sentence – 2<sup>nd</sup> major paragraph assigned</li> <li>7. The body and support</li> <li>8. The conclusion</li> <li>9. Quiz 4 / Paragraph review</li> <li>10. Paragraph review – 3<sup>rd</sup> major paragraph assigned</li> <li>11. Sentence focus</li> <li>12. Sentence combining / Sentence variety</li> <li>13. Review of semester course content</li> <li>14. Writing test</li> <li>15. Review and feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Great Writing 2: Great Paragraphs (Third Edition)</i>, by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Elena Vestri Solomon (Heinle Cengage Learning, 2010).</p>		<p>Attendance, classwork, and homework (35%), 4 quizzes (20%), 3 major paragraphs (15%), final test (30%)</p>	

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	D. H. ケネディ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students’ writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of ‘good’ essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction and paragraph review (definition paragraphs)</li> <li>2. Opinion paragraphs – the gateway to academic essays</li> <li>3. Expanding a paragraph into an essay (Essay 1)</li> <li>4. Basic essay structure / Essay introductions</li> <li>5. Thesis statements</li> <li>6. Body paragraphs and conclusions</li> <li>7. Outlining essays</li> <li>8. Students begin essay project (Essay 2)</li> <li>9. Student and teacher feedback on thesis statement and outline</li> <li>10. Student and teacher feedback on first draft</li> <li>11. Writing for clarity and conciseness: improving sentence focus</li> <li>12. Review of essay structure and coherence</li> <li>13. The small details: punctuation, spell checks, and formatting</li> <li>14. Final essays due</li> <li>15. Review and student feedback on course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Great Writing 2: Great Paragraphs (Third Edition)</i>, by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Elena Vestri Solomon (Heinle Cengage Learning, 2010).</p>		<p>Attendance, classwork, and homework (50%), Essay 1 (20%), Essay 2 (30%)</p>	



06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a ‘good’ paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a ‘good’ essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Week One - Introduction to class. Write something about yourself</p> <p>Week Two - Describe the features of English - Letter- word –sentence – paragraph - essay</p> <p>Week Three - Writing Rules part one – Interview a friend</p> <p>Week four – Writing Rules Part two</p> <p>Week Five - Introduce peer editing</p> <p>Week Six – Walk around the campus</p> <p>Week Seven – Dokkyo Times</p> <p>Week Eight – Basic structure of a paragraph</p> <p>Week Nine – Identifying topic sentences</p> <p>Topic - Family</p> <p>Week Ten - More on Topic sentences: Topic - Food</p> <p>Week Eleven – Concluding sentences: Topic - Music</p> <p>Week Twelve – more on concluding sentences: Topic - Sport</p> <p>Week Thirteen - Students Prepare for final paragraphs</p> <p>Week Fourteen - Students Prepare for final paragraphs</p> <p>Week Fifteen - Students hand in assignment. Last class activities and revision of the semester.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>“Success with College Writing” by Dorothy E Zemach / Lisa A Rumisek Macmillan Publishers</p>		<p>1) Attendance 2) Writing projects – students must hand in a portfolio of paragraphs from the semester</p> <p>3) Attitude in class</p>	

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students’ writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of ‘good’ essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Week One – Review the first semester work</p> <p>Week Two – Look at the different genres of paragraphs.</p> <p>Week Three – Descriptive paragraph – hometown review</p> <p>Week Four – Descriptive paragraph continued</p> <p>Week Five – Process Paragraph - write a recipe</p> <p>Week Six - Process Paragraph - continued</p> <p>Week Seven – opinion paragraph – Restaurant review</p> <p>Week Eight- Opinion continued</p> <p>Week Nine – compare and contrast paragraphs</p> <p>Week Ten – Introduction of the five paragraph essay</p> <p>Week Eleven – Five paragraph essays continued</p> <p>Week Twelve – Compare and contrast essay</p> <p>What is the best style of accommodation in an overseas country</p> <p>Week Thirteen - Compare and contrast essay</p> <p>Week Fourteen - Students Prepare for final portfolio</p> <p>Week Fifteen - Hand in final portfolio</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>“Success with College Writing” by Dorothy E Zemach / Lisa A Rumisek Macmillan Publishers</p>		<p>1) Attendance 2) Writing projects 3) Attitude in class</p>	

06 年度以降	Paragraph Writing (水 2)	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Wk 1 Getting to know class, orientation-organisation, general introduction to and overview of content</p> <p>Wk 2-4 Introduction to the concepts of a paragraph, a good topic sentence, paragraph identification and re-construction practice</p> <p>Wk 5 Mid term test #1</p> <p>Wk 6-8 In depth analysis of paragraph organisation</p> <p>Wk 9-10 Paragraph writing mini-projects (in pairs)</p> <p>Wk 11 Mid term test #2</p> <p>Wk 12-14 Paragraph writing assignments (individual)</p> <p>Wk 15 End of term test AND submission deadline for individual writing assignment</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text. Materials will be provided by the teacher.		Students accumulate a passing grade by completing and submitting homework and assignments on time, passing (3) tests, as well as participating actively, and having a high attendance rate.	

06 年度以降	Basic Essay Writing (水 2)	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Wk 1 Getting to know class, orientation-organisation, general introduction to and overview of content</p> <p>Wk 2-4 Review the concepts of a paragraph, and topic sentence, introduce basic structure patterns of essays, practice identification and re-construction of sample essays</p> <p>Wk 5 Mid term test #1</p> <p>Wk 6-8 In depth analysis of essay writing structures, tools, patterns, idea coherence and styles</p> <p>Wk 9-10 Essay writing project (in pairs)</p> <p>Wk 11 Mid term test #2</p> <p>Wk 12-14 Essay writing assignments (individual)</p> <p>Wk 15 End of term test AND submission deadline for individual writing assignment</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text. Materials will be provided by the teacher.		Students accumulate a passing grade by completing and submitting homework and assignments on time, passing (3) tests, as well as participating actively, and having a high attendance rate.	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start writing topic # 1</p> <p>Week 2: Writing Topic # 2</p> <p>Week 3: Writing Topic # 3</p> <p>Week 4: Writing Topic # 4</p> <p>Week 5: Writing Topic # 5</p> <p>Week 6: Writing Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Writing Topic # 7</p> <p>Week 9: Writing Topic # 8</p> <p>Week 10: Writing Topic # 9</p> <p>Week 11: Writing Topic # 10</p> <p>Week 12: Writing Topic # 11</p> <p>Week 13: Writing Topic # 12</p> <p>Week 14: Writing Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 2.		Assessment will be based on attendance, class participation, quizzes and the writing of a number of papers.	

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start writing topic # 1</p> <p>Week 2: Writing Topic # 2</p> <p>Week 3: Writing Topic # 3</p> <p>Week 4: Writing Topic # 4</p> <p>Week 5: Writing Topic # 5</p> <p>Week 6: Writing Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Writing Topic # 7</p> <p>Week 9: Writing Topic # 8</p> <p>Week 10: Writing Topic # 9</p> <p>Week 11: Writing Topic # 10</p> <p>Week 12: Writing Topic # 11</p> <p>Week 13: Writing Topic # 12</p> <p>Week 14: Writing Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 2.		Assessment will be based on attendance, class participation, quizzes and the writing of a number of papers.	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Week 1: Class orientation</p> <p>Week 2: Paragraph organization, academic style</p> <p>Week 3: Introduction to Quick Write</p> <p>Week 4: Planning a paragraph, correction symbols</p> <p>Week 5: Topics and topic sentences</p> <p>Week 6: Supporting sentences and examples</p> <p>Week 7: Introduction to peer editing</p> <p>Week 8: Cause and effect writing</p> <p>Week 9: Grammar workshop</p> <p>Week 10: Persuasive writing</p> <p>Week 11: Comparison and contrast</p> <p>Week 12: Survey and report</p> <p>Week 13: Grammar workshop 2</p> <p>Week 14: Review</p> <p>Week 15: Return notebooks and consultation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• B5 notebook</li> <li>• Ready to Write 3 (Pearson Longman)</li> </ul>		<p>20% attendance and participation</p> <p>80% class writings</p>	

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Week 1: Class orientation</p> <p>Week 2: Elements of good academic writing</p> <p>Week 3: Introduction to timed free writing</p> <p>Week 4: Choosing topics</p> <p>Week 5: Thesis statements</p> <p>Week 6: Grammar mechanics: common writing errors</p> <p>Week 7: Types of essay organization</p> <p>Week 8: Proofreading and proofreading symbols</p> <p>Week 9: Making good introductory paragraphs</p> <p>Week 10: Types of concluding paragraphs</p> <p>Week 11: Quotations and citations</p> <p>Week 12: Grammar: fragments, dependent clauses</p> <p>Week 13: Summarizing</p> <p>Week 14: Review</p> <p>Week 15: Return all writings and consultation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Ready to Write 3 (Pearson Longman)</li> </ul>		<p>20% attendance and participation</p> <p>80% class writings</p>	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	佐原 彩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a ‘good’ paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a ‘good’ essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. What is a paragraph?</li> <li>2. Understanding functions of a paragraph</li> <li>3. Topic of a paragraph</li> <li>4. Topic sentence</li> <li>5. Writing topic sentences</li> <li>6. Writing process</li> <li>7. Narrative paragraph</li> <li>8. Descriptive paragraph</li> <li>9. Writing the first draft</li> <li>10. Peer evaluation</li> <li>11. Revising organization and details</li> <li>12. Free writing</li> <li>13. Writing final draft</li> <li>14. Peer evaluation</li> <li>15. Sharing final draft</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Introduction to Academic Writing</i> (Oshima &amp; Hogue, Longman) level 3.</p>		<p>Attendance &amp; contribution 25%, Homework 25% Each draft 25% (50% in total). Instruction will be given on the first day of the class.</p>	

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	佐原 彩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students’ writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of ‘good’ essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. What are good essays?</li> <li>2. Functions of essays</li> <li>3. Various types of paragraphs</li> <li>4. Writing practices</li> <li>5. Essay organizations</li> <li>6. Planning an essay</li> <li>7. Writing the first draft</li> <li>8. Revising organization and details</li> <li>9. Opinion essays</li> <li>10. Writing the second draft</li> <li>11. Peer evaluation</li> <li>12. Developing Supporting Details</li> <li>13. Writing final draft</li> <li>14. Peer evaluation</li> <li>15. Sharing final draft</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Introduction to Academic Writing</i> (Oshima &amp; Hogue, Longman), level 3.</p>		<p>Attendance &amp; contribution 25%, Each draft 25% (75% in total). Instruction will be given on the first day of the class.</p>	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a ‘good’ paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a ‘good’ essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Week 1 : Introductions &amp; Course Goals</p> <p>Week 2 : Chapter 1 - Education &amp; Student Life</p> <p>Week 3 : Chapter 2 - City Life + Homework 1</p> <p>Week 4 : Homework 1 – Editing</p> <p>Week 5 : Chapter 3 - Business and Money</p> <p>Week 6 : Chapter 4 - Jobs + Homework 2</p> <p>Week 7 : Homework 2 – Editing</p> <p>Week 8: Chapter 5 - World Lifestyles</p> <p>Week 9 : Chapter 6 - Global Connections + Homework 3</p> <p>Week 10: Homework 3 - Editing</p> <p>Week 11: Chapter 7 –Language &amp; Communication</p> <p>Week 12 : Chapter 8 - Tastes + Homework 4</p> <p>Week 13: Homework 4 - Editing</p> <p>Week 14: Review</p> <p>Week 15: Homework 4 pick-up &amp; advice</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Title: Interactions 2 Writing, Silver Edition</p> <p>Authors: C. Pavlik &amp; M. Segal</p> <p>Publisher: McGraw-Hill</p> <p>ISBN: 0073533866</p>		<p><u>Grading:</u></p> <p>Attendance : 20%</p> <p>In-class effort &amp; participation: 20%</p> <p>Homework: 60%</p>	

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students’ writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of ‘good’ essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Week 1 : Course introduction, goals, homework and grading</p> <p>Week 2 : The Introduction</p> <p>Week 3: The Body part 1 – specific examples</p> <p>Week 4 : The Body part 2 – outlining technique &amp; logical flow</p> <p>Week 5 : The conclusion</p> <p>Week 6 : In-class outlining (essay #1 set)</p> <p>Week 7: Essay # 2 title selection / internet search techniques</p> <p>Week 8 : Peer Editing – draft #1 Essay</p> <p>Week 9: Internet search techniques workshop (essay #1 final due)</p> <p>Week 10: Internet research techniques &amp; outlining (essay #2 set)</p> <p>Week 11: Introduction to dealing with data (essay #2 draft due)</p> <p>Week 12: Editing – essay #2</p> <p>Week 13: Review (essay #2 final due)</p> <p>Week 14 : Test speed outlining practice for the test</p> <p>Week 15: Test results back; guidance</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook</p> <p>Andy’s handouts</p>		<p><u>Grading:</u></p> <p>Attendance : 20%      Test : 20%      Homework: 60%</p>	



06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a ‘good’ paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a ‘good’ essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Review of sentence structure: simple, compound, complex</li> <li>3. Analyzing basic paragraph structure</li> <li>4. The process of academic writing</li> <li>5. Beginning first paragraph assignment</li> <li>6. Peer evaluation; Review of structure, style, and language</li> <li>7. Feedback on first assignment</li> <li>8. Beginning second paragraph assignment</li> <li>9. Peer evaluation; Review of structure, style, and language</li> <li>10. Feedback on second assignment</li> <li>11. Opinion paragraph structure</li> <li>12. Discussion of opinion topics; Beginning opinion paragraph</li> <li>13. Feedback on third assignment</li> <li>14. Final In-Class Writing Test</li> <li>15. Course evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Grades are based on attendance, writing assignments and class participation.	

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students’ writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of ‘good’ essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Review of paragraph structure</li> <li>3. Essay structure: introduction and thesis statement</li> <li>4. The argumentative essay structure</li> <li>5. Outlining the essay</li> <li>6. Peer review of introductions</li> <li>7. Writing logical body paragraphs</li> <li>8. Analysis of concluding paragraphs</li> <li>9. Argumentative essay checklist and revision/editing</li> <li>10. The comparison/contrast essay structure</li> <li>11. Outlining and introductions</li> <li>12. Body paragraph analysis</li> <li>13. Peer review of comparison/contrast essay</li> <li>14. Developing summary skills</li> <li>15. Summary reports/Final writing test</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Grades are based on attendance, writing assignments, and classroom participation	

06 年度以降	Paragraph Writing (金 2)	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Wk 1 Getting to know class, orientation-organisation, general introduction to and overview of content</p> <p>Wk 2-4 Introduction to the concepts of a paragraph, a good topic sentence, paragraph identification and re-construction practice</p> <p>Wk 5 Mid term test #1</p> <p>Wk 6-8 In depth analysis of paragraph organisation</p> <p>Wk 9-10 Paragraph writing mini-projects (in pairs)</p> <p>Wk 11 Mid term test #2</p> <p>Wk 12-14 Paragraph writing assignments (individual)</p> <p>Wk 15 End of term test AND submission deadline for individual writing assignment</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text. Materials will be provided by the teacher.		Students accumulate a passing grade by completing and submitting homework and assignments on time, passing (3) tests, as well as participating actively, and having a high attendance rate.	

06 年度以降	Basic Essay Writing (金 2)	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Wk 1 Getting to know class, orientation-organisation, general introduction to and overview of content</p> <p>Wk 2-4 Review the concepts of a paragraph, and topic sentence, introduce basic structure patterns of essays, practice identification and re-construction of sample essays</p> <p>Wk 5 Mid term test #1</p> <p>Wk 6-8 In depth analysis of essay writing structures, tools, patterns, idea coherence and styles</p> <p>Wk 9-10 Essay writing project (in pairs)</p> <p>Wk 11 Mid term test #2</p> <p>Wk 12-14 Essay writing assignments (individual)</p> <p>Wk 15 End of term test AND submission deadline for individual writing assignment</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text. Materials will be provided by the teacher.		Students accumulate a passing grade by completing and submitting homework and assignments on time, passing (3) tests, as well as participating actively, and having a high attendance rate.	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a ‘good’ paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a ‘good’ essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. The English paragraph</li> <li>3. The topic sentence</li> <li>4. The supporting details</li> <li>5. Characteristics of a good paragraph</li> <li>6. Descriptive paragraph</li> <li>7. Narrative paragraph</li> <li>8. Personal opinion</li> <li>9. Writing a second draft</li> <li>10. Peer evaluation and feedback</li> <li>11. Classification</li> <li>12. Cause and effect</li> <li>13. Comparison</li> <li>14. Contrast</li> <li>15. Test</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).	

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students’ writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of ‘good’ essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Brainstorming and topic selection</li> <li>3. Thesis statement</li> <li>4. Essay organization</li> <li>5. Synthesizing Information</li> <li>6. Detailed outline</li> <li>7. Evaluating outlines</li> <li>8. Descriptive essay</li> <li>9. Narrative essay</li> <li>10. Peer evaluation and feedback</li> <li>11. Writing final draft</li> <li>12. Comparison and contrast essay</li> <li>13. Classification essay</li> <li>14. Persuasion</li> <li>15. Test</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).	

06 年度以降	Paragraph Writing (金 3)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, students will learn how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (e.g., topic sentence, supporting sentences) and a 'good' essay (e.g., introduction, body, conclusion)</li> <li>2. To teach the various patterns of paragraph organization (e.g., comparison/contrast, cause/effect, giving a definition, giving examples)</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the course &amp; diagnostic test</li> <li>2. Grammar issues &amp; free writing</li> <li>3. Grammar issues &amp; paragraph organization</li> <li>4. Grammar issues &amp; essay organization</li> <li>5. Timed writing (sentence writing) &amp; peer feedback</li> <li>6. Descriptive task &amp; brainstorming and outlining</li> <li>7. Descriptive task &amp; self-revision and peer-feedback</li> <li>8. Expository task &amp; model text analysis and signal words</li> <li>9. Expository task &amp; self-/peer evaluation using rubric</li> <li>10. Timed writing (paragraph writing) &amp; peer-feedback</li> <li>11. Expository task &amp; unity and coherence</li> <li>12. Expository task &amp; unity and coherence</li> <li>13. Timed writing</li> <li>14, 15. Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue, <i>Writing Academic English Fourth Edition</i> , Pearson Education.		Attendance and participation (20%); in-class achievement (20%); written assignments (60%)	

06 年度以降	Basic Essay Writing (金 3)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the basic organization</li> <li>2. Descriptive essay &amp; analyzing model essay</li> <li>3. Descriptive essay &amp; genre-specific vocabulary, unity and coherence</li> <li>4. Descriptive essay &amp; paraphrasing and summarizing</li> <li>5. Descriptive essay &amp; timed writing</li> <li>6. Argumentative essay &amp; analyzing model essay</li> <li>7. Argumentative essay &amp; genre-specific vocabulary, unity and coherence</li> <li>8. Argumentative essay &amp; paraphrasing and summarizing</li> <li>9. Argumentative essay &amp; timed writing</li> <li>10. Writing book/movie storyline &amp; analyzing model text</li> <li>11. Writing book/movie review &amp; analyzing model text</li> <li>12. Writing academic poster &amp; synthesizing</li> <li>13. Writing academic poster &amp; timed writing</li> <li>14, 15 Semester Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue, <i>Writing Academic English Fourth Edition</i> , Pearson Education.		Attendance and participation (20%); in-class achievement (20%); written assignments (60%)	

06 年度以降	Basic Essay Writing (再)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<p>This course will continue and expand upon the skills developed in the paragraph writing course. The students will be required to write (5) essays (mostly based on news articles) of increasing complexity. We will again focus on structure and organization (e.g., an introduction, topic sentence, body and conclusion referring back to the topic sentence). In this course the students will be exposed to both effective writing strategies and the discussion of current events.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There will be no text book for this course. The instructor will provide all handouts.</p>		<p>Attendance and the quality of the essays will be the basis for evaluation.</p>	

06 年度以降	Basic Essay Writing (再)	担当者	J . A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays (e.g., introduction, thesis statement, supporting details, conclusion)</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organizations</li> <li>3. To help students plan and revise essays</li> <li>4. To help students write clear and focused paragraphs</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Assignment</li> <li>2. Lesson 1 Assignment</li> <li>3. Continued...</li> <li>4. Lesson 2 Assignment</li> <li>5. Continued...</li> <li>6. Lesson 3 Assignment</li> <li>7. Continued...</li> <li>8. Mid-Term Assignment Due</li> <li>9. Lesson 4 Assignment</li> <li>10. Continued...</li> <li>11. Lesson 5 Assignment</li> <li>12. Continued...</li> <li>13. Lesson Assignment</li> <li>14. End-Term Assignment Due</li> <li>15. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text: To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, and other assignments.	



06 年度以降	E-learning I	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>英語学科 1 年 1, 2 組を対象とする。Reading Strategies や Paragraph Writing/Basic Essay Writing などの対面授業で学んだスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>1 週目の説明会で, オンライン教材とその使用法について指示するので指定教室に集合すること。初回授業後すぐに PC での課題に取りかかることになるため, 自宅あるいは学内の PC を大学から交付された ID とパスワードを用いてログインできるようにしておく。通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし, 自主的に学習を進めること。</p> <p>4 週目以降は隔週で対面授業(確認テスト)を行う。単位取得のためは計画的な学習が必要不可欠である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス, Criterion 練習問題</li> <li>2. Criterion ガイダンス, Criterion (1)</li> <li>3. 自習</li> <li>4. ALC テスト 第 1 回, Criterion (2)</li> <li>5. 自習</li> <li>6. ALC テスト 第 2 回, Criterion (3)</li> <li>7. 自習</li> <li>8. ALC テスト 第 3 回, Criterion (4)</li> <li>9. 自習</li> <li>10. ALC テスト 第 4 回, Criterion (5)</li> <li>11. 自習</li> <li>12. ALC テスト 第 5 回, Criterion (6)</li> <li>13. 自習</li> <li>14. ALC テスト 期末テスト</li> <li>15. 予備日</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン学習教材 (ALC NetAcademy 2, Criterion)		ALC 単語テストの得点、Criterion 課題の提出回数、Criterion 課題のスコア、オンラインフォーラムへの投稿回数から総合評価する。	

06 年度以降	E-learning II	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>英語学科 1 年 1, 2 組を対象とする。Reading Strategies や Paragraph Writing/Basic Essay Writing などの対面授業で学んだスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <p>1 週目の説明会で, 課題について指示するので指定教室に集合すること。初回授業後すぐに PC での課題に取りかかることになるため, 自宅あるいは学内の PC を大学から交付された ID とパスワードを用いてログインできるようにしておく。通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし, 自主的に学習を進めること。4 週目以降は隔週で対面授業(確認テスト)を行う。単位取得のためは計画的な学習が必要不可欠である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス</li> <li>2. ALC テスト 第 1 回, Criterion (1)</li> <li>3. 自習</li> <li>4. ALC テスト 第 2 回, Criterion (2)</li> <li>5. 自習</li> <li>6. ALC テスト 第 3 回, Criterion (3)</li> <li>7. 自習</li> <li>8. ALC テスト 中間テスト, Criterion (4)</li> <li>9. 自習</li> <li>10. ALC テスト 第 4 回, Criterion (5)</li> <li>11. 自習</li> <li>12. ALC テスト 第 5 回, Criterion (6)</li> <li>13. 自習</li> <li>14. ALC テスト 期末テスト</li> <li>15. 予備日</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン学習教材 (ALC NetAcademy 2, Criterion)		ALC 単語テストの得点、Criterion 課題の提出回数、Criterion 課題のスコア、オンラインフォーラムへの投稿回数から総合評価する。	

06 年度以降	E-learning I	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 英語学科1年Group B とC の学生を対象とする。 Reading Strategies, Writing Strategies/Paragraph Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に<u>再履修者も含め</u>全員集合のこと。全体説明会に欠席した再履修者は学習開始が遅れるので注意すること。</li> <li>・2週目はやり方の分からない人のみを対象として、PC教室で補足説明会を行う。参加は任意。</li> <li>・通常授業期間中は学内もしくは自宅PC から指定のオンライン教材にアクセスし、自律学習を進める</li> <li>・4週目以降隔週に語彙、リーディングに関するテストを行うので、指定教室に集合すること</li> <li>・テストのない週にはエッセイ（5段落程度の英作文）やリーディングの課題が課されるので取り組むこと</li> <li>・学習内容は、語彙（ALC）、リーディング（ALC、テキスト）、ライティング（Criterion）</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会</li> <li>2. 補足説明会, Essay Topic (1)</li> <li>3. Reading Workshop (1)</li> <li>4. テスト(1), Essay Topic (2)</li> <li>5. Reading Workshop (2)</li> <li>6. テスト(2), Essay Topic (3)</li> <li>7. Reading Workshop (3)</li> <li>8. テスト(3), Essay Topic (4)</li> <li>9. Reading Workshop (4)</li> <li>10. テスト(4)：中間試験, Essay Topic (5)</li> <li>11. Reading Workshop (5)</li> <li>12. テスト(5), Essay Topic (6)</li> <li>13. Reading Workshop (6)</li> <li>14. ALC 語彙復習テスト(5), Essay Topic (7)</li> <li>15. 自習 テスト(7) (定期試験)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>オンライン教材：ALC, Criterion, DK E-learning Site</p> <p>テキスト：Reading On-line（南雲堂）</p>		7回のテスト、7つの Essay Topic、6つの Reading Workshop（テキストに対する和訳などの課題）に基づいて総合的に評価する	

06 年度以降	E-learning II	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 E-learning I と同じ</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1週目の説明会で、オンラインで提出するエッセイ (Criterion)に関する追加課題の説明をするので<u>再履修者も含め</u>全員集合のこと。全体説明会に欠席した再履修者は学習開始が遅れるので注意すること。</li> <li>・通常授業期間中は学内もしくは自宅PC から指定のオンライン教材にアクセスし、自律学習を進める</li> <li>・隔週にテストを行うので指定教室に集合する</li> <li>・学期末に教室でエッセイテストを行う</li> <li>・学習内容は、学習内容は、語彙（ALC）、リーディング（テキスト）、ライティング（Criterion）</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会</li> <li>2. テスト(1), Essay Topic (1)</li> <li>3. Reading Workshop (1)</li> <li>4. テスト(2), Essay Topic (2)</li> <li>5. Reading Workshop (2)</li> <li>6. テスト(3), Essay Topic (3)</li> <li>7. Reading Workshop (3)</li> <li>8. テスト(4)：中間試験, Essay Topic (4)</li> <li>9. Reading Workshop (4)</li> <li>10. テスト(5), Essay Topic (5)</li> <li>11. Reading Workshop (5)</li> <li>12. テスト(6), Essay Topic (6)</li> <li>13. テスト(7)：総合試験</li> <li>14. Essay Topic (7)</li> <li>15. 復習 エッセイテスト(定期試験)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>オンライン教材：ALC, Criterion, DK E-learning Site</p> <p>テキスト：Reading On-line（南雲堂）</p>		7回のテスト、7つの Essay Topic、6つの Reading Workshop（テキストに対する和訳などの課題）、エッセイテストに基づいて総合的に評価する	

06 年度以降	Pronunciation Practice (火 1)	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。		Week 1 コースの説明・概要 2 Consonant [v]; Rhythm/Stress in English 3 Vowel [a]; Consonant [y]; Rhythm in syllables 4 Consonants [th] + [f]; Rhythm in phrases 5 Vowel [ey]; Loud and quiet word 6 e-Learning + Songs ① 7 中間テスト 8 Consonant [r]-①; Phrasal verbs 9 Vowels [iy], [ow], [uw]; Connecting sounds-①. 10 Consonant [r]-②; Connecting sounds-② 11 Vowel [e]; Consonant [w]; Connecting sounds-③ 12 e-Learning + Songs ② 13 Recording, etc. 14 期末テスト 15 Review + 映画の聞き取りに挑戦	
<u>講義概要</u> CAL教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書：『Speaking Well – Pronunciation for Japanese Students』3rd Edition (2008) Benjamin Willy 著. Seido Language Institute オンライン教材は授業中に提示します		出席：30% 課題提出：30% テスト（2回）40%	

06 年度以降	Pronunciation Practice (火 1)	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。		Week 1 コースの説明・概要 2 Consonant [v]; Rhythm/Stress in English 3 Vowel [a]; Consonant [y]; Rhythm in syllables 4 Consonants [th] + [f]; Rhythm in phrases 5 Vowel [ey]; Loud and quiet word 6 e-Learning + Songs ① 7 中間テスト 8 Consonant [r]-①; Phrasal verbs 9 Vowels [iy], [ow], [uw]; Connecting sounds-①. 10 Consonant [r]-②; Connecting sounds-② 11 Vowel [e]; Consonant [w]; Connecting sounds-③ 12 e-Learning + Songs ② 13 Recording, etc. 14 期末テスト 15 Review + 映画の聞き取りに挑戦	
<u>講義概要</u> CAL教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書：『Speaking Well – Pronunciation for Japanese Students』3rd Edition (2008) Benjamin Willy 著. Seido Language Institute オンライン教材は授業中に提示します		出席：30% 課題提出：30% テスト（2回）40%	

06 年度以降	Pronunciation Practice (火 3)	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。		Week 1 コースの説明・概要 2 Consonant [v]; Rhythm/Stress in English 3 Vowel [a]; Consonant [y]; Rhythm in syllables 4 Consonants [th] + [f]; Rhythm in phrases 5 Vowel [ey]; Loud and quiet word 6 e-Learning + Songs ① 7 中間テスト 8 Consonant [r]-①; Phrasal verbs 9 Vowels [iy], [ow], [uw]; Connecting sounds-①. 10 Consonant [r]-②; Connecting sounds-② 11 Vowel [e]; Consonant [w]; Connecting sounds-③ 12 e-Learning + Songs ② 13 Recording, etc. 14 期末テスト 15 Review + 映画の聞き取りに挑戦	
<u>講義概要</u> CAL教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書：『Speaking Well – Pronunciation for Japanese Students』3rd Edition (2008) Benjamin Willy 著. Seido Language Institute オンライン教材は授業中に提示します		出席：30% 課題提出：30% テスト（2回）40%	

06 年度以降	Pronunciation Practice (火 3)	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。		Week 1 コースの説明・概要 2 Consonant [v]; Rhythm/Stress in English 3 Vowel [a]; Consonant [y]; Rhythm in syllables 4 Consonants [th] + [f]; Rhythm in phrases 5 Vowel [ey]; Loud and quiet word 6 e-Learning + Songs ① 7 中間テスト 8 Consonant [r]-①; Phrasal verbs 9 Vowels [iy], [ow], [uw]; Connecting sounds-①. 10 Consonant [r]-②; Connecting sounds-② 11 Vowel [e]; Consonant [w]; Connecting sounds-③ 12 e-Learning + Songs ② 13 Recording, etc. 14 期末テスト 15 Review + 映画の聞き取りに挑戦	
<u>講義概要</u> CAL教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書：『Speaking Well – Pronunciation for Japanese Students』3rd Edition (2008) Benjamin Willy 著. Seido Language Institute オンライン教材は授業中に提示します		出席：30% 課題提出：30% テスト（2回）40%	

06 年度以降	Introductory Grammar	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。</li> <li>文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。</li> <li>1 と 2 の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション（出席は必須）</li> <li>文 1</li> <li>文 2</li> <li>品詞 1</li> <li>品詞 2</li> <li>準動詞 1</li> <li>準動詞 2</li> <li>関係詞 1</li> <li>関係詞 2</li> <li>構文 1</li> <li>構文 2</li> <li>修飾語句 1</li> <li>修飾語句 2</li> <li>情報構造 1</li> <li>情報構造 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

06 年度以降	Introductory Grammar	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。</li> <li>文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。</li> <li>1 と 2 の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション（出席は必須）</li> <li>文 1</li> <li>文 2</li> <li>品詞 1</li> <li>品詞 2</li> <li>準動詞 1</li> <li>準動詞 2</li> <li>関係詞 1</li> <li>関係詞 2</li> <li>構文 1</li> <li>構文 2</li> <li>修飾語句 1</li> <li>修飾語句 2</li> <li>情報構造 1</li> <li>情報構造 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

06 年度以降	Introductory Grammar	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。</li> <li>2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。</li> <li>3. 1 と 2 の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。</li> </ol>		<p>第 1 回 導入</p> <p>第 2 回～第 14 回 理解度に応じた進度となりますが、各回の授業における基本は問題演習とそのポイントとなる構文・語法の解説です。可能な限り多くの問題を解くこと目標とします。</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回授業にて指示します。		出席＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

06 年度以降	Introductory Grammar	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。</li> <li>2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。</li> <li>3. 1 と 2 の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。</li> </ol>		<p>第 1 回 導入</p> <p>第 2 回～第 14 回 理解度に応じた進度となりますが、各回の授業における基本は問題演習とそのポイントとなる構文・語法の解説です。可能な限り多くの問題を解くこと目標とします。</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回授業にて指示します。		出席＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Critically thinking things through) 英語専門講読 a (Critically thinking things through)	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>価値や意見の多様性を求めていく時代には、論争的な話題について考えていくことが大事になります。この授業では、議論の評価・作成をおこなうことによって、議論とは何か、論争にかかわるとは何かといったことを考えていきます。具体的には主に新聞や雑誌記事を分析、解釈することで、議論に関わるスキルの育成や、議論にかかわる際の望ましい態度の醸成を目指します。</p> <p>授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になります。まず重要な概念を学びそれを用いて考えていくという流れをとるため、学期が進むにつれて授業参加の重要性が増していきます。</p>		1 Course Overview 2 What is argument? 3 Argument structure 4 Argument structure 5 Argument evaluation: acceptability 6 Argument evaluation: acceptability 7 Mid-term exam 8 Argument evaluation: relevance 9 Argument evaluation: relevance 10 Argument evaluation: strength 11 Argument evaluation: strength 12 Evaluating a sidetracking argument 13 Evaluating a sidetracking argument 14 Evaluating a sidetracking argument 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布		授業参加、レポート、試験の総合評価による。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Critically thinking things through) 英語専門講読 b (Critically thinking things through)	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続きです。目的や授業形態は春学期と同じです。この学期では analogy, causality などの特定の議論タイプ、視覚的議論に関して検討した後、実際の社会的論争について考えてみます。</p> <p>授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になりますが、本学期はグループワークの比重が前期よりも高くなります。</p>		1 Retrospect and Prospect 2 Analogical argument 3 Analogical argument 4 Analogical argument 5 Causal argument 6 Causal argument 7 Causal argument 8 Mid-term 9 Visual argument 10 Visual argument 11 Visual argument 12 Controversies 13 Controversies 14 Controversies 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布		授業参加、レポート、試験の総合評価による。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Deconstructing “Japaneseness”) 英語専門講読 a (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションやポスト・コロニアリズムという視点から、現代日本について書かれた論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、国際結婚などを予定している。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるので注意されたい。</p>		<p>1. 趣旨説明・グループ分け (初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。)</p> <p>2. 各課題についての解説(1~2 回)</p> <p>3. 基礎文献の講読・議論 個別の研究プロジェクトに取りかかる前の準備作業として、多文化・多民族という視点から日本社会を論じた文献の講読・議論を行なう。具体的には、テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時までに用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Geographical and Generational Variations</li> <li>• Varieties in Work and Labor</li> <li>• Gender Stratification and the Family System</li> <li>• Minority Groups: Ethnicity and Discrimination</li> <li>• Popular Culture and Everyday Life</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sugimoto, Yoshio 2010. <i>An Introduction to Japanese Society (Third Edition)</i> . Cambridge and New York: Cambridge University Press.		授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4 回以上の欠席(遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算)で単位認定の資格を失う。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Deconstructing “Japaneseness”) 英語専門講読 b (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションやポスト植民地主義的状況という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、国際結婚などを予定している。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるので注意されたい。</p>		<p>1 回 講義</p> <p>2~14 回 プレゼンテーション</p> <p>15 回 総合討論・まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で、論文リスト(基本的には学術雑誌所収論文)を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。		授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4 回以上の欠席(遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算)で単位認定の資格を失う。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（インタビューやニュースのスク립トを読む） 英語専門講読 a（インタビューやニュースのスク립トを読む）	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。 ただこのことは、往々にして忘れられがちである。</p> <p>当講座は、英会話以上の英語（スピーチ・レクチャー・インタビューetc）を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいのか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスク립トを使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらう。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など（英語を聴いて理解するための読みの技術）を教えていきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（インタビューやニュースのスク립トを読む） 英語専門講読 b（インタビューやニュースのスク립トを読む）	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Multiculturalism & Multicultural Education) 英語専門講読 a (Multiculturalism & Multicultural Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Societies around the world have been radically altered by colonialism &amp; globalization. Vast migrations of peoples have either voluntarily or involuntarily embarked on journeys for economic, personal or political reasons to countries and regions far from their homes, and indigenous peoples have suffered from colonialism and territorialism whereby foreign cultures where forced on native populations. In the Spring term this course considers the broader questions of multiculturalism with regard to the political, economic and social policies that multiethnic and multilingual countries face with increasingly diverse populations. This course explores the following questions:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>What is multiculturalism &amp; what historical antecedents precede current multicultural policies in the world?</li> <li>Do societies that <i>claim to be</i> racially homogeneous suffer more social unrest and intercultural tension in adapting to multiculturalism than those with multicultural/multiethnic and multilingual historical 'roots'?</li> <li>How might a laissez-faire attitude toward multiculturalism lead to cultural relativism?</li> <li>What are the standard arguments both for and against multiculturalism?</li> </ul>		<p>Week 1 – Introduction to Course &amp; Each Other Week 2 – What is Multiculturalism (Ch.1, pp.1-18) Week 3 – A Careful Consideration of Terms &amp; Cases (Ch. 1, pp. 18- 41) Week 4 – Culture Matters: Cultural Identity &amp; Recognition Week 5 – Is Multiculturalism Bad for Women? (Ch. 2, pp.42-56) Week 6 – Is Multiculturalism Bad for Women? (Ch. 2 pp. 57-67) Week 7 – Multiculturalism &amp; Cultural Relativism (hand-out) Week 8 – Has Multiculturalism Created Ghettoes &amp; Parallel Lives? (Ch. 3, pp.68-80) Week 9 – Has Multiculturalism Created Ghettoes &amp; Parallel Lives? (Ch. 3, pp.81-93) Week 10 – National Identity &amp; Belonging (What does it mean to 'be Japanese &amp; Who Counts as Japanese'? (Ch. 5, pp.119-126) &amp; (hand-out) Week 11 – Multicultural &amp; Multiethnic Japan – The Changing &amp; Emerging Face(s) of Japan Pt. I (hand-outs) Week 12 – Multicultural &amp; Multiethnic Japan, Pt. II Week 13 – Country Case Study Presentations Week 14 – Country Case Study Presentations Week 15 – Country Case Study Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Rattansi, A. (2011). <i>Multiculturalism: A very short introduction</i>. Oxford: Oxford University Press *Additional readings provided as hand-outs</p>		<p>In-class Participation (40%) Reading Assignments (20%) Case Study Project &amp; Presentation (30%), Newspaper/Magazine journal (10%)</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Multiculturalism & Multicultural Education) 英語専門講読 b (Multiculturalism & Multicultural Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Fall term will narrow the scope to consider the importance and influence of educational institutions to both aid and impede minority ethnic, racial and language groups' integration and transition into the host society. During Pt. II of this course we consider the following questions:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>How have schools been utilized by governments to assimilate ethnic, racial, and language minorities throughout history?</li> <li>Is it the role of schools to support and preserve ethnic and language minority students' heritage language development and ethnic identity?</li> <li>How do economic class, ethnicity, race and gender intersect with educational opportunity and success?</li> <li>What educational programs best support ethnic and language minority students?</li> </ul> <p>*To remain consistent with the Spring term this course will remain focused on ethnic, racial and language minority students .</p>		<p>Week 1 – Introduction to Course &amp; Catch-Up Week 2 – Characteristics &amp; Goals of Multicultural Ed. (Pt. I – article provided) Week 3 – Characteristics &amp; Goals of Multicultural Ed. (Pt. I – article provided) Week 4 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference &amp; Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 1, hand-out) Week 5 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference &amp; Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 2, hand-out) Week 6 – Ethnic/Racial/Linguistic Difference &amp; Schooling Practices: From Cultural Deficit to Empowerment (Pt. I –Case Study 3, hand-out) Week 7 &amp; 8 – Class &amp; Minority Status – Minorities in Japan Week 9 – 10 'Foreign' Children in Japanese Schools Week 11 – Colorblindness &amp; Equal Ed. Opportunity Week 12 – Accepting &amp; Learning from Difference Week 13 –Multicultural Ed. in Practice Presentations Week 14 – Multicultural Ed. in Practice Presentations Week 15 – Multicultural Ed. in Practice Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Selected readings provided in class		<p>In-class Participation (40%) Reading Assignments (20%) Multicultural Education Presentation (30%), Newspaper/Magazine journal (10%)</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (生成文法理論への誘い) 英語専門講読 a (生成文法理論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 20世紀の言語学を先導したNoam Chomskyが1981年に公開した生成文法理論の中心的な考え方と言語学の進むべき方向性を提示した論文を読み、生成文法理論の神髄を理解しながら、英語の読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> この論文は、生成文法理論の基本的な方針である〈原理と媒介変数による研究方法〉を提案している論文である。まず、言語学が取り組むべき三つの課題、①言語の知識とは何か、②この知識はどのように発展するか、③この知識はどのように使用されるかという課題が提示される。人間の生得的言語能力(Language Faculty)を説明するために普遍文法(Universal Grammar)が提唱される。普遍文法は全ての個別言語を可能にするものであり、言語獲得により核心文法(Core Grammar)が形成される。幼児がいかなる言語でも獲得できることを説明するために普遍的な諸原理を仮定し、同時に個別言語の多様性を説明するために媒介変数を仮定する。核心文法として拡大標準理論(Extended Standard Theory)の内容を説明し、変形部門と<math>\alpha</math>移動規則(Move <math>\alpha</math>)を解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Three Fundamental Questions (1)</li> <li>2. Three Fundamental Questions (2)</li> <li>3. The Language Faculty</li> <li>4. Universal Grammar</li> <li>5. The Descriptively Adequate Grammar (1)</li> <li>6. The Descriptively Adequate Grammar (2)</li> <li>7. Universal Grammar and Core Grammar (1)</li> <li>8. Universal Grammar and Core Grammar (2); <u>MIDTERM EXAM</u></li> <li>9. The Extended Standard Theory (1)</li> <li>10. The Extended Standard Theory (2)</li> <li>11. Transformational Component and Wh-movement (1)</li> <li>12. Transformational Component and Wh-movement (2)</li> <li>13. Comparison of Two Theories</li> <li>14. The Theory with Move <math>\alpha</math> (1)</li> <li>15. The Theory with Move <math>\alpha</math> (2); <u>TERM EXAM</u></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>テキスト:</b> Noam Chomsky (1981) "Principles and Parameters in Syntactic Theory," in Hornstein, N. &amp; D. Lightfoot (eds.) <i>Explanation in Linguistics</i>. Longman. pp. 32-75.</p>		<p>中間試験(40%)と期末試験(40%)と出席状況(10%程度)と授業における平常点(10%程度)に基づき総合的に評価する。単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (生成文法理論への誘い) 英語専門講読 b (生成文法理論への誘い)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 20世紀の言語学を先導したNoam Chomskyが1981年に公開した生成文法理論の中心的な考え方と言語学の進むべき方向性を提示した論文を読み、生成文法理論の神髄を理解しながら、英語の読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> <math>\alpha</math>移動規則の適用は一般的な制約を受ける。その制約として複合名詞句制約(Complex NP Constraint), Wh-島条件(Wh-island Condition), 下接の原理(Subjacency Principle)を議論する。下接の原理は、移動される要素の元の位置と移動先の位置の間には最多一つの境界範疇しか存在することができないというものである。英語のWh疑問文を詳細に検討し、さらに、英語とフランス語とイタリア語との比較から、境界範疇として考えられる句範疇は言語によって異なることを明らかにする。このことから、諸原理は媒介変数を仮定することにより、各個別言語では異なる形で働くことを説明する。さらに、<math>\alpha</math>移動規則の適切な適用を保証するためには、下接の原理に加え、空範疇原理(Empty Category Principle)と束縛原理(Binding Principles)が必要になることを例証する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Constraints on Move <math>\alpha</math>: Complex NP Constraint</li> <li>2. Constraints on Move <math>\alpha</math>: Wh-island Condition</li> <li>3. Constraints on Move <math>\alpha</math>: Subjacency Principle</li> <li>4. Successive Cyclic Applications of Move <math>\alpha</math></li> <li>5. Wh-movement over "bridge verbs"</li> <li>6. The Parametric Properties of the Subjacency Principle</li> <li>7. Comparative Clauses as Islands; <u>MIDTERM EXAM</u></li> <li>8. Double Wh-island Constraint</li> <li>9. Comparison among English, French and Italian</li> <li>10. The Empty Category Principle</li> <li>11. The Notion of Government</li> <li>12. Case Assignment and Case Filter (1)</li> <li>13. Case Assignment and Case Filter (2)</li> <li>14. Binding Principles (1)</li> <li>15. Binding Principles (2); <u>TERM EXAM</u></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>テキスト:</b> Noam Chomsky (1981) "Principles and Parameters in Syntactic Theory," in Hornstein, N. &amp; D. Lightfoot (eds.) <i>Explanation in Linguistics</i>. Longman. pp. 32-75.</p>		<p>中間試験(40%)と期末試験(40%)と出席状況(10%程度)と授業における平常点(10%程度)に基づき総合的に評価する。単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（ミステリー&サスペンスを解読する） 英語専門講読 a（ミステリー&サスペンスを解読する）	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>米国19世紀終わりから20世紀半ばまでを舞台にしたショートミステリー、サスペンス、怪奇ものを読み、時代背景を考察していく。味わい深い表現やシンボリックなものについてもみていく。</p> <p>講読する作品が現代どのような意味をもつか、いまの文化表象にみる影響などについても考えてみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ミステリー小説と時代</li> <li>2 ヒッチコック作品</li> <li>3 ヒッチコック作品</li> <li>4 ヒッチコック作品</li> <li>5 エドガー・アラン・ポー作品</li> <li>6 エドガー・アラン・ポー作品</li> <li>7 エドガー・アラン・ポー作品</li> <li>8 ミステリー作家大賞受賞作</li> <li>9 ミステリー作家大賞受賞作</li> <li>10 ミステリー作家大賞受賞作</li> <li>11 「怖さ」「奇異」についての評論</li> <li>12 現代ホラー</li> <li>13 現代ホラー</li> <li>14 Wrap-Up 1</li> <li>15 Wrap-Up 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布。		平常授業時における課題レポート、宿題、発言等 50%、期末試験 50%。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（米国とカリブ社会のアフリカ系作家によるショートストーリー） 英語専門講読 b（米国とカリブ社会のアフリカ系作家によるショートストーリー）	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>米国やカリブ海出身のアフリカ系作家によるショートストーリーを読んでいく。彼/彼女の語りのなかにある歴史性を考察していく。</p> <p>「黒人性」にこだわったスタイリッシュな語り口を特徴とする作品を選ぶので、十分に味わいながら楽しんでほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アフリカ系ディアスポラ</li> <li>2 アフリカ系アメリカ人の表現</li> <li>3 Chicken Soup 1</li> <li>4 Chicken Soup 2</li> <li>5 Chicken Soup 3</li> <li>6 Root へのこだわり 1</li> <li>7 Root へのこだわり 2</li> <li>8 Root へのこだわり 3</li> <li>9 音楽とアイデンティティ 1</li> <li>10 音楽とアイデンティティ 2</li> <li>11 音楽とアイデンティティ 3</li> <li>12 カリブの昔話 1</li> <li>13 カリブの昔話 2</li> <li>14 Wrap-Up 1</li> <li>15 Wrap-Up 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布。		平常授業時における課題レポート、宿題、発言等 50%、期末試験 50%。	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Origin and Evolution of Language) 英語専門講読 a (Origin and Evolution of Language)	担当者	J . N . ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we know so little about its origins and evolution. But in fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding about language origins. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution.</p> <p>A word of advice: This course will require careful reading of many short articles—several of them quite difficult. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2-3 Why learn about languages?</p> <p>4-5 How many languages are there?</p> <p>6-7 Do all languages come from the same source?</p> <p>8-9 Differences between a language and a dialect.</p> <p>10-11 What was the original language?</p> <p>12 Where does grammar come from?</p> <p>13-15 Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Readings will be provided to the students by the instructor on the first day of class.		Students will be evaluated on their attendance, participation in class, written assignments, and presentations.	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Origin and Evolution of Language) 英語専門講読 b (Origin and Evolution of Language)	担当者	J . N . ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we know so little about its origins and evolution. But in fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding about language origins. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution.</p> <p>A word of advice: This course will require careful reading of many short articles—several of them quite difficult. I recommend this course only for students who are genuinely interested in this topic and who are willing to devote the time and effort it takes to understand the issues.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2-3 Language lessons</p> <p>4-5 Pidgins and creoles</p> <p>6-7 Contributions from genetics</p> <p>8-9 Contributions from archeology</p> <p>10-11 Contributions from psychology</p> <p>12 Contributions from animal studies</p> <p>13-15 Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Readings will be provided to the students by the instructor on the first day of class.		Students will be evaluated on their attendance, participation in class, written assignments, and presentations.	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門講読 a (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大な Disney 文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。</p> <p>全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自 (skeptical な観かたで) 視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期コース・オリエンテーション</li> <li>2. Launching the Animated Feature</li> <li>3. Seven Dwarfs for Snow White</li> <li>4. New Tools 1</li> <li>5. New Tools 2</li> <li>6. Disney's Folly</li> <li>7. Pinocchio</li> <li>8. Fantasia</li> <li>9. Bambi</li> <li>10. Economizing: Dumbo</li> <li>11. The New Studio, The Strike, and the War 1</li> <li>12. The New Studio, The Strike, and the War 2</li> <li>13. Cinderella Restores the Glory</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i> , Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。		授業貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (ディズニー・アニメの歴史をたどる) 英語専門講読 b (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。</p> <p>秋学期は、Walt の存命中の作品だけでなく、Walt 亡き後のスタジオの作品 (『リトル・マーメイド』まで) も扱います。受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。</p> <p>全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自 (skeptical な観かたで) 視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Anthology Features</li> <li>2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice)</li> <li>3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan)</li> <li>4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&amp;T)</li> <li>5. Sleeping Beauty Awakens</li> <li>6. Walt Disney's Last Films</li> <li>7. Carrying on the Tradition</li> <li>8. The Black Cauldron</li> <li>9. A New Regime and a Rebirth</li> <li>10. A New Regime and a Rebirth</li> <li>11. Who Framed Roger Rabbit</li> <li>12. Triumph: The Little Mermaid</li> <li>13. The Rescuers Down Under</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i> , Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。		授業貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (日本語学) 英語専門講読 a (日本語学)	担当者	長南 一豪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国人に日本語を教える機会があると、私たちは母語である日本語のことをあまり知らないことに気づかされます。私たちが外国語を使いこなせるようになるためには、日本語について理解する必要があるでしょう。</p> <p>この授業では、英語で書かれた日本語学に関する入門書を読みながら、日本語について考えます。英語や他の言語と比較しながら日本語の特徴を理解するとともに、言語学ではどのような分析がなされ、どのような問題点があるかを概観します。同時に、英語の論文を読むための実践的な読解力を養成します。受講者はテキストを予習し、質疑応答ができるようにしておくことが求められます。</p> <p>日本語学はもちろん、英語学、言語学、異文化理解等に関心のある学生の参加を期待します。</p> <p>春学期のトピックは、「私は本が好きだ」の「本が」は主語か、「雨の降った。」とは言えないが「雨の降った日」と言えるのはなぜか、子どもは「黄色いお花」のかわりに「黄色い<u>の</u>お花」と言うことがあるのはなぜか、など。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 主格目的語構文(1)</li> <li>3. 主格目的語構文(2)</li> <li>4. 主格目的語構文(3)</li> <li>5. 主格目的語構文(4)</li> <li>6. 「が」「の」交替(1)</li> <li>7. 「が」「の」交替(2)</li> <li>8. 「が」「の」交替(3)</li> <li>9. 「が」「の」交替(4)</li> <li>10. 日本語文法の獲得(1)</li> <li>11. 日本語文法の獲得(2)</li> <li>12. 日本語文法の獲得(3)</li> <li>13. 日本語文法の獲得(4)</li> <li>14. 日本語文法の獲得(5)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Miyagawa, S. and M. Saito. (eds.) (2008) <i>The Oxford Handbook of Japanese Linguistics</i> , Oxford. (プリント配布)		期末試験(80%)と出席・授業参加(20%)を評価対象とします。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (日本語学) 英語専門講読 b (日本語学)	担当者	長南 一豪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国人に日本語を教える機会があると、私たちは母語である日本語のことをあまり知らないことに気づかされます。私たちが外国語を使いこなせるようになるためには、日本語について理解する必要があるでしょう。</p> <p>この授業では、英語で書かれた日本語学に関する入門書を読みながら、日本語について考えます。英語や他の言語と比較しながら日本語の特徴を理解するとともに、言語学ではどのような分析がなされ、どのような問題点があるかを概観します。同時に、英語の論文を読むための実践的な読解力を養成します。受講者はテキストを予習し、質疑応答ができるようにしておくことが求められます。</p> <p>日本語学はもちろん、英語学、言語学、異文化理解等に関心のある学生の参加を期待します。</p> <p>秋学期のトピックは、「<u>学生が</u>研究室に<u>3人</u>来た」と言えるのに「<u>学生が</u>本を<u>3人</u>買った」と言えないのはなぜか、「<u>太郎が</u>着物を着く<u>ず</u>ず」と言えるが「<u>太郎が</u>着物を<u>着く</u>ずれる」と言えないのはなぜか、「太郎<u>が</u>来た」と「太郎<u>は</u>来た」はどう違うのか、など。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 数量詞遊離(1)</li> <li>3. 数量詞遊離(2)</li> <li>4. 数量詞遊離(3)</li> <li>5. 数量詞遊離(4)</li> <li>6. 動詞複合語(1)</li> <li>7. 動詞複合語(2)</li> <li>8. 動詞複合語(3)</li> <li>9. 動詞複合語(4)</li> <li>10. 「が」「は」と情報構造(1)</li> <li>11. 「が」「は」と情報構造(2)</li> <li>12. 「が」「は」と情報構造(3)</li> <li>13. 「が」「は」と情報構造(4)</li> <li>14. 「が」「は」と情報構造(5)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Miyagawa, S. and M. Saito. (eds.) (2008) <i>The Oxford Handbook of Japanese Linguistics</i> , Oxford. (プリント配布)		期末試験(80%)と出席・授業参加(20%)を評価対象とします。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (生成文法入門) 英語専門講読 a (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の 1 つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction</li> <li>2 Overview</li> <li>3 Overview</li> <li>4 Overview</li> <li>5 Phrase Structure</li> <li>6 Phrase Structure</li> <li>7 Phrase Structure</li> <li>8 Binding</li> <li>9 Binding</li> <li>10 Binding</li> <li>11 Binding</li> <li>12 Empty Pronoun PRO</li> <li>13 Empty Pronoun PRO</li> <li>14 Review</li> <li>15 Review</li> </ol> <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p> <p>※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p> <p>※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社</p>		<p>出席&amp;授業参加率（30%）、レポート&amp;試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (生成文法入門) 英語専門講読 b (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の 1 つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Anaphors</li> <li>2 Anaphors</li> <li>3 Anaphors</li> <li>4 Government</li> <li>5 Government</li> <li>6 Types of Subject</li> <li>7 Types of Subject</li> <li>8 Types of Subject</li> <li>9 Pronouns</li> <li>10 Pronouns</li> <li>11 Pronouns</li> <li>12 Referential Expressions</li> <li>13 Referential Expressions</li> <li>14 Review</li> <li>15 Review</li> </ol> <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社</p>		<p>出席&amp;授業参加率（30%）、レポート&amp;試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（現代イギリス小説） 英語専門講読 a（現代イギリス小説）	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i>（1948 年作品）を読む。</p> <p>ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は 3 つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。</p> <p>人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”）」である。この 20 世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。</p>		<p>毎回、講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。折をみて、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末にレポートを課す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（現代イギリス小説） 英語専門講読 b（現代イギリス小説）	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		春学期の続き。	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（ビデオゲームと身体） 英語専門講読 a（ビデオゲームと身体）	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>デジタルメディアの発達、人間と表象との関係をどのように変容させたのか。私が担当する授業では、おもな題材としてビデオゲームを取りあげながら、現代的なメディア環境における身体の位置に着眼し、映像表象への没入体験を誘発すると同時に、人間の認識・思考・行為などを制約しめるインターフェイスやデジタルテクノロジーの役割について考察する。</p> <p>春学期に開講される「英語専門講読Ⅰ」では、主要な講読の対象としてジェスパー・ジュールの『A Casual Revolution』を選定する。これは昨今におけるビデオゲーム研究の重要な成果のひとつであり、インターフェイスの発達によって惹起されるゲーム世界の変容について考察するための格好の題材であるといえる。</p>		1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2 ビデオゲームと身体①【講義】 3 ビデオゲームと身体②【講義】 4 ビデオゲームと身体③【講義】 5 A Casual Revolution【講読】 6 What Is Casual?【講読】 7 All the Games You Played Before【講読】 8 Innovations and Clones: The Gradual Evolution of Downloadable Casual Games【講読】 9 Return to Player Space: The Success of Mimetic Interface Games【講読】 10 Social Meaning and Social Goals【講読】 11 Casual Play in a Hardcore Game【講読】 12 Player, Developers, and the Future of Video Games【講読】 13 研究発表 14 研究発表 15 研究発表	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Jesper Juul 『A Casual Revolution』 The MIT Press		出席 40%、 プレゼンテーション 30% レポート 30%	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（映像表象の歴史と理論） 英語専門講読 b（映像表象の歴史と理論）	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、現代の映像文化を読み解くために必要な理論的知識／歴史知識を習得してもらうことにある。そのために本講義では、各種の映像表現を分析するために有効な学問的なアプローチ（記号論や視覚文化論など）を学び、さらには遠近法や写真などの視覚システムについて理解を深めながら、人間と映像との関係性について多角的に考察していく予定である。</p> <p>なお、本講義では複数の文献を講読の題材として設定することになるが、その詳細は初回の授業において紹介する予定である。</p>		1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2 映像表象の歴史と理論①【講義】 3 映像表象の歴史と理論②【講義】 4 映像表象の歴史と理論③【講義】 5 記号論の文献を読む①【講読】 6 記号論の文献を読む②【講読】 7 記号論の文献を読む③【講読】 8 視覚文化論の文献を読む①【講読】 9 視覚文化論の文献を読む②【講読】 10 写真史の文献を読む①【講読】 11 写真史の文献を読む②【講読】 12 写真史の文献を読む③【講読】 13 研究発表 14 研究発表 15 研究発表	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講読の対象となる文献に関しては初回の授業において紹介する。		出席 40%、 プレゼンテーション 30% レポート 30%	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (James Joyce) 英語専門講読 a (James Joyce)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the spring term, we will focus on Joyce's collection of short stories, <i>Dubliners</i> and begin reading his semi-autobiographical novel <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: The Sisters</p> <p>Week 3: Araby</p> <p>Week 4: Araby (video)</p> <p>Week 5: Eveline</p> <p>Week 6: Two Gallants</p> <p>Week 7: A Painful Case</p> <p>Week 8: The Dead</p> <p>Week 9: The Dead (video)</p> <p>Week 10: Review, Nora (video)</p> <p>Week 11: Nora (video)</p> <p>Week 12: Introduction to A Portrait of the Artist</p> <p>Week 13: Portrait, Chapter 1</p> <p>Week 14: Portrait, Chapter 2</p> <p>Week 15: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class. All of Joyce's works are in the public domain, so weekly readings will be sent to students via email.		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (James Joyce) 英語専門講読 b (James Joyce)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the fall term, we will finish <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> and read excerpts from Joyce's most important novel, <i>Ulysses</i>. We will finish the course with a short introduction to Joyce's final and most enigmatic work, <i>Finnegans Wake</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Portrait, Chapter 3</p> <p>Week 2: Portrait, Chapters 4</p> <p>Week 3: Portrait 5</p> <p>Week 4: Review of Portrait</p> <p>Week 5: Introduction to Ulysses</p> <p>Week 6: Telemachus, Nestor (video)</p> <p>Week 7: Calypso, Hades (video)</p> <p>Week 8: Cyclops, The Wandering Rocks (video)</p> <p>Week 9: The Sirens, Circe (video)</p> <p>Week 10: Ithaca</p> <p>Week 11: Penelope (video)</p> <p>Week 12: Review of Ulysses</p> <p>Week 13: Finnegans Wake</p> <p>Week 14: Finnegans Wake</p> <p>Week 15: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class. All of Joyce's works are in the public domain, so weekly readings will be sent to students via email.		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

06年度以降 03年度以降	英語専門講読Ⅰ（コミュニケーションと文化） 英語専門講読a（コミュニケーションと文化）	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. A brief history of communication study (pp. 1-11)</li> <li>3. Communication today (pp. 11-16)</li> <li>4. Defining communication (pp. 17-24)</li> <li>5. It all depends on your point of view (pp. 24-40)</li> <li>6. What is listening (pp. 41-56)</li> <li>7. Responding (pp. 56-66)</li> <li>8. What is language? (pp. 67-85)</li> <li>9. Language and social identity (pp. 85-100)</li> <li>10. What is nonverbal communication? (pp. 101-108)</li> <li>11. The nonverbal codes (pp. 108-131)</li> <li>12. What is interpersonal communication? (pp. 132-148)</li> <li>13. Increasing relational skills (pp. 148-164)</li> <li>14. What is a group? (pp. 165-180)</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Trenholm, S. (2011). <i>Thinking through communication</i> (6th International edition). Boston, MA: Allyn & Bacon. ISBN9780205786848 (Amazon.co.jp等で各自購入してください。)		Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)	

06年度以降 03年度以降	英語専門講読Ⅱ（コミュニケーションと文化） 英語専門講読b（コミュニケーションと文化）	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review and introduction</li> <li>2. Group development (pp.181-198)</li> <li>3. What is an organization? (pp. 199-212)</li> <li>4. Increasing organizational skills (pp. 212-233)</li> <li>5. What is public communication? (pp. 234-239)</li> <li>6. Evaluating public communication (pp. 240-261)</li> <li>7. What is a public speech? (pp. 262-272)</li> <li>8. Managing delivery (pp. 272-280)</li> <li>9. The traditional mass media (pp. 281-303)</li> <li>10. New media (pp. 303-324)</li> <li>11. What is culture? (pp. 325-331)</li> <li>12. Barriers to intercultural communication (pp. 331-347)</li> <li>13. How is communication research done? (pp. 349-377)</li> <li>14. English/Japanese in intercultural contexts (Hashimoto &amp; Kudo, 2010)*</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol> <p>* Hashimoto, H. &amp; Kudo, K. (2010). Investment matters: Supremacy of English and (re)construction of identity in international exchange. <i>Language and Intercultural Communication</i> [Routledge], 10 (4), 373-387</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Trenholm, S. (2011). <i>Thinking through communication</i> (6th International edition). Boston, MA: Allyn & Bacon. ISBN9780205786848 (Amazon.co.jp等で各自購入してください。)		Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Language & Teaching) 英語専門講読 a (Language & Teaching)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at how English rose to become a global language, and at the future potential of English as the international language of communication.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: Chapter 1: Selected sections. Week 3: Chapter 1: Selected sections. Week 4: Chapter 1: Selected sections. Week 5: Chapter 1: Selected sections. Week 6: Chapter 2: Selected sections. Week 7: Chapter 2: Selected sections; Quiz I Week 8: Chapter 2: Selected sections. Week 9: Chapter 2: Selected sections. Week 10: Chapter 2: Selected sections. Week 11: Chapter 3: Selected sections. Week 12: Chapter 3: Selected sections. Week 13: Chapter 3: Selected sections; Quiz II. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Crystal, D. <i>English as a Global Language</i> . (Cambridge University Press).		Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment based on the text and lecture.	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Language & Teaching) 英語専門講読 b (Language & Teaching)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at how English rose to become a global language, and at the future potential of English as the international language of communication.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: Chapter 4: Selected sections. Week 3: Chapter 4: Selected sections. Week 4: Chapter 4: Selected sections. Week 5: Chapter 4: Selected sections. Week 6: Chapter 5: Selected sections. Week 7: Chapter 5: Selected sections; Quiz I. Week 8: Chapter 5: Selected sections. Week 9: Chapter 5: Selected sections. Week 10: Chapter 5: Selected sections. Week 11: Chapter 5: Selected sections. Week 12: Chapter 5: Selected sections. Week 13: Chapter 5: Selected sections; Quiz II. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Crystal, D. <i>English as a Global Language</i> . (Cambridge University Press).		Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment based on the text and lecture.	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (音声科学入門) 英語専門講読 a (音声科学入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> この授業では、音声により実感できるよう、1年生の「英語音声学」ではほとんど触れなかった音響音声学の初歩の初歩を学ぶ。</p> <p>音(=音波)は耳から聞くものであるが、これをグラフ上(波形、ソナグラム等)に示してみると、文字や音声記号から受ける印象とはかなり違う「音の実態」が見えてくる。既に学んだことを、今度は別の視点から考えてみる。</p> <p>ある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、英文の読解力と分析的な視点を養う。</p> <p><u>講義概要</u> 各学生はリーディング課題をこなし、内容について教員が解説をし、質疑応答・議論を行う。また、学生担当者がまとめる。</p> <p>&lt;メッセージ&gt; ・英語で読む: 内容には既に学んだことが多く含まれるので、知っていることを英語で読むことはよい練習となるはずである。 ・理系人間でなくてOK: 波形などを学ぶといっても、極めて基本的なものである。易しく導入するので、恐れずに来たれ。新たな発見もあるはずである。 ・コツコツ: 最初は少し大変かもしれないが、例年見ていると、少しずつ慣れていく。こつこつと継続することで、年度末には必ず読解力向上が実感できると思われる。進捗や理解をチェックしながら進めて行くので、一緒に頑張りましょう。 ・テキストは Duo に若干数を注文しておく。自分でオンライン購入してもよい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Ch-1 Introduction to speech</li> <li>Ch-2 Voice (1)</li> <li>Ch-2 Voice (2)</li> <li>Exercises</li> <li>Ch-3 Place of Articulation (1)</li> <li>Ch-3 Place of Articulation (2)</li> <li>Exercises</li> <li>Ch-4 Manner of articulation (1)</li> <li>Ch-4 Manner of articulation (2)</li> <li>Exercises</li> <li>Ch-5 Vowels</li> <li>Ch-5 Vowels (2)</li> <li>Ch-6 Voice II (1)</li> <li>Ch-6 Voice II (2)</li> <li>Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Michael Ashby and John Maidment. 2005. <i>Introducing Phonetic Science</i> . Cambridge University Press. (ISBN-13: 978-0-521-00496-1 / ISBN-10: 0-521-00496-9) その他 配布資料		授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験 等の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (音声科学入門) 英語専門講読 b (音声科学入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 春学期に引き続き読み進め、さらなる読解力を養う。</p> <p><u>講義概要</u> 春学期と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Review Voice/Vowels/Consonants</li> <li>Ch-7 Airstream mechanisms (1)</li> <li>Ch-7 Airstream mechanisms (2)</li> <li>Exercises</li> <li>Ch-8 Speech sounds and speech movements (1)</li> <li>Ch-8 Speech sounds and speech movements (2)</li> <li>Exercises</li> <li>Ch-9 Basic phonological concepts (1)</li> <li>Ch-9 Basic phonological concepts (2)</li> <li>Exercises</li> <li>Ch-10 Suprasegmentals (1)</li> <li>Ch-10 Suprasegmentals (2)</li> <li>Ch-11 Speaker and hearer (1)</li> <li>Ch-11 Speaker and hearer (2)</li> <li>Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Michael Ashby and John Maidment. 2005. <i>Introducing Phonetic Science</i> . Cambridge University Press. (ISBN-13: 978-0-521-00496-1 / ISBN-10: 0-521-00496-9) その他 配布資料		授業参加(準備・参加)、小テスト、発表、試験等の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（オーストラリアの詩） 英語専門講読 a（オーストラリアの詩）	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>2011 年。東日本大震災、そして福島原発事故が起きました。変動相場制に移行して以降、対米ドルで、史上最高値の円高を更新。日本だけでなく、世界的にも、欧州経済危機やアラブの春など、大変化を経験しました（ここに書ききれない程、本当に沢山の歴史的出来事がありました）。「激動の時代」と表現されることが多くなりましたが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、今の時代にリアルに不安を抱えているのではないのでしょうか。</p> <p>そんな状況の中で、「詩を学ぶ」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、<b>詩を学ぶことも実用的だ</b>と言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「<b>言葉の力</b>」を<b>体感</b>することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「<b>詩を学ぶ＝生き方を学ぶ</b>」と言えるかもしれません。</p> <p>詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れたイメージが詩にあるとしたら、詩を一面的にしか見ていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密着しているものなのですよ。（↓に続きます）</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます（便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です）。</p> <p>発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。</p> <p>1. ガイダンス、グループ作り 2-3 オーストラリアの歴史①② 4-5 アボリジニの歴史①② 6-7 アボリジニの神話・伝説①② 8-9 英訳されたアボリジニの詩①② 10-14 英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15. 講義のまとめ</p> <p><b>第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。 <a href="http://www.leafandletters.com">www.leafandletters.com</a></p>		<p>※ 学期末レポート（提出しなかった場合不可）、授業での参加度（プレゼン発表&amp;発言）、出席状況 ※ 遅刻 3 回（30 分以内）で 1 回の欠席とみなします。欠席 5 回した時点で単位取得が不可能となります。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（オーストラリアの詩） 英語専門講読 b（オーストラリアの詩）	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>（↑からの続きです）</p> <p>「<b>オーストラリアを学ぶ</b>」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しくなると思います。</p> <p>それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいいですね。（例えば「オーストラリア人とは誰を指すか？」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。）</p> <p>講義目的をまとめて書くと、「<b>言葉の力を体感する</b>」「<b>オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す</b>」「<b>オーストラリアを通して己を考える</b>」また、発表形式の授業ですので「<b>自分の言葉で考え、語る</b>」ことになります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「<b>自分の意見を他人に正確に伝える</b>」ことも学んでほしい大事なことです。</p> <p>授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立つことができたら最高に嬉しく思います。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p> <p>春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。</p> <p>春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。</p> <p>1. ガイダンス 2～14. オーストラリアの詩、精読 15. 講義のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。 <a href="http://www.leafandletters.com">www.leafandletters.com</a></p>		<p>※ 学期末レポート（提出しなかった場合不可）、授業での参加度（プレゼン発表&amp;発言）、出席状況 ※ 遅刻 3 回（30 分以内）で 1 回の欠席とみなします。欠席 5 回した時点で単位取得が不可能となります。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (コミュニケーションと異文化理解) 英語専門講読 a (コミュニケーションと異文化理解)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、異文化間コミュニケーション論の専門的な文献(書籍・論文)を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的にしています。すなわち、より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。春学期は特に、一般コミュニケーションに関する基本的な知識を学習した上で、より専門的な文献の内容を理解することを目的にします。</p> <p>授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。グループ発表では、文献の内容を簡潔かつ具体的に説明することが求められます。コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション</li> <li>2. プレゼンテーションの方法</li> <li>3. プレゼングループの決定</li> <li>4. 基本文献講読 pp. 1-10 ※ 教材配布</li> <li>5. 基本文献講読 pp. 11-28 ※ 教材配布</li> <li>6. 基本文献講読 pp. 29-47 ※ 教材配布</li> <li>7. 基本文献講読 pp. 48-59 ※ 教材配布</li> <li>8. 基本文献講読 pp. 59-75 ※ 教材配布</li> <li>9. 基本文献講読 pp. 76-83 ※ 教材配布</li> <li>10. 非言語メッセージ・コード①</li> <li>11. 非言語メッセージ・コード②</li> <li>12. 異文化コミュニケーションの研究意義①</li> <li>13. 異文化コミュニケーションの研究意義②</li> <li>14. 異文化コミュニケーションとは何か①</li> <li>15. 異文化コミュニケーションとは何か②</li> </ol> <p>※ 理解度等により、授業進度が変わることもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Klopff, W. D. &amp; Ishii, S. (1988). Communicating Effectively Across Cultures. Tokyo: Nan'un-do.</li> <li>2) その他にコピー教材を配布します。</li> </ol>		グループワーク(準備、発表の仕方、発表内容)、授業への貢献度(質疑応答、議論への参加)、学期末レポートまたは試験により評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (コミュニケーションと異文化理解) 英語専門講読 b (コミュニケーションと異文化理解)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、コミュニケーション論における専門的な文献(書籍・論文)を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的にしています。すなわち、より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。秋学期では、特にいくつかの理論について書かれた文献を読むため、文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い、およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします。</p> <p>授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重要な文化的価値のパターン①</li> <li>2. 重要な文化的価値のパターン②</li> <li>3. 重要な文化的価値のパターン③</li> <li>4. 二元論の源泉：デカルト的世界観</li> <li>5. 文化アイデンティティの次元</li> <li>6. 自己開示</li> <li>7. Identity Management Theory ①</li> <li>8. Identity Management Theory ②</li> <li>9. Face-Negotiation Theory ①</li> <li>10. Face-Negotiation Theory ②</li> <li>11. Face-Negotiation Theory ③</li> <li>12. Expectancy Violation Theory ①</li> <li>13. Expectancy Violation Theory ②</li> <li>14. Expectancy Violation Theory ③</li> <li>15. 学期のまとめ&amp;レポート課題配布</li> </ol> <p>※ 理解度により、授業進度が変わることもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コピー教材を配布します。</li> <li>2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</li> </ol>		グループワーク(準備、発表の仕方、発表内容)、授業への貢献度(質疑応答、議論への参加)、学期末レポートまたは試験により評価します。	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (戦後国際政治史) 英語専門講読 a (戦後国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。</p> <p>毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお授業終了後には、英文和訳や内容確認の小テストを毎週行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。</p> <p>テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。自信のない学生には、永野が担当する「国際関係特殊講義」（春学期、木曜 2 限）の受講を勧める。</p> <p>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも 5 ページ分は読んでおくこと。<u>テキスト（もしくはコピー）を持参していないものの受講は認めない。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第 1 週）</li> <li>2. 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第 2～第 15 週）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert J. McMahon, <i>Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		評価は次の 3 点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③小テスト (35%)。欠席が 4 回になった時点で不可。遅刻は 2 回で欠席とみなす。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (戦後国際政治史) 英語専門講読 b (戦後国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。</p> <p>毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお授業終了後には、和文英訳の小テストを毎週行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。</p> <p>テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に 2 年生は要注意。</p> <p>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも 5 ページ分は読んでおくこと。<u>テキスト（もしくはコピー）を持参していないものの受講は認めない。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第 1 週）</li> <li>2. 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第 2～第 15 週）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert J. McMahon, <i>Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		評価は次の 3 点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③小テスト (35%)。欠席が 4 回になった時点で不可。遅刻は 2 回で欠席とみなす。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく） 英語専門講読 a（スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく）	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この著者は、スヌーピーの漫画には基督教のメッセージが描かれていると、述べている。</p> <p>そこで、私たちの読者は、そのメッセージとはいかなるものか、読み取ってみたい。</p> <p>昨年、図書の内</p> <p>Ⅱ. "The Whole Trouble": Original Sin と</p> <p>Ⅲ. The Wages of Sin is "Aaughh!" の二章を読んだ。</p> <p>今年度は続いて</p> <p>Ⅳ. Good Grief!</p> <p>Ⅴ. The Hound of Heaven</p> <p>Ⅵ. Concluding Unscientific Postscript の三章を読む。</p> <p>英文は、決して読み易いとは言えない。難易度は高く、読み難い。が、この文章に読み慣れてくると、そうでもなくなる。</p>		<p>1 回目、ガイドンスとテキストコピーの配布。</p> <p>2 回目以後、最終回までは、その日の事情にそって進み具合は変わってくるが、テキストを読み合わせていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要とあれば、その都度配布。		授業への参加と試験とによる。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく） 英語専門講読 b（スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく）	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>初回から最終回まで春学期と同じように英文テキストを読み合わせていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる。		授業への参加と試験とによる。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（英国ユダヤ人史） 英語専門講読 a（英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。</p>		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高価なため、コピーを配布します。		毎回出席をとります。授業日数の1／3以上欠席された方は単位をあげません。遅刻3回で欠席1回にカウント。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（米国ユダヤ人史） 英語専門講読 b（米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
米国ユダヤ人史の概説書を使用します。		最初の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I（現代国際関係論） 英語専門講読 a（現代国際関係論）	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論の中でも紛争、民主化、核拡散、気候変動などの個別イシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>The New York Times</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された論文や記事を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、発表を行ってもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。</p>		<p>第 1 回 オリエンテーション、発表者決め 第 2～15 回 発表、ディスカッション</p> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Lester Brown, The New Geopolitics of Food, <i>Foreign Policy</i>, May/June 2011.</li> <li>・Wang Jisi, China's Search for a Grand Strategy, <i>Foreign Affairs</i>, March/April 2011.</li> <li>・Jeffery Sachs, Can Extreme Poverty Be Eliminated?, <i>Scientific American</i>, September 2005..</li> <li>・Jonathan Glennie, More Aid Is Not the Answer, <i>Current History</i>, May 2010.</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		出席回数、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II（現代国際関係論） 英語専門講読 b（現代国際関係論）	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論の中でも紛争、民主化、核拡散、気候変動などの個別イシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>The New York Times</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された論文や記事を用いる。これら論文を通して、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、発表を行ってもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。</p>		<p>第 1 回 オリエンテーション、発表者決め 第 2～15 回 発表、ディスカッション</p> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Jeff M.Smith, Sino-Indian Relations: A Troubled History, An Uncertain Future, <i>Harvard International Review</i>, Spring 2011.</li> <li>・Timothy M. Shaw, Can the BRICs Become a Bloc? <i>China monitor</i>, June 2010.</li> <li>・Daniel W. Drezner, Does Obama Have a Grand Strategy? Why We Need Doctrines in Uncertain Times, <i>Foreign Affairs</i>, July/August 2009..</li> <li>・Franco Pavoncello, One for All, All for One: The Euro in Crisis, <i>World Affairs</i>, May/June 2011.</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		出席回数、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (20 世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人) 英語専門講読 a (20 世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、20 世紀後半のアメリカの女性作家・詩人たちの作品（エッセイ、短篇小説、詩）を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		1. ガイダンス 2. 日系アメリカ人の歴史と文化 3. 映像や音楽に見られる日系アメリカ人 4. Hisaye Yamamoto (小説) 5. Janice Mirikitani (詩) 6. Janice Mirikitani (インタビュー) 7. 日系からアジア系へ 8. まとめ 復習テスト 9. アフリカ系アメリカ人の文化と歴史 10. Alice Walker (小説) 11. Alice Walker (詩) 12. 女性作家（未定）（インタビューなど） 13. 映像や音楽に見られるアフリカ系アメリカ人 14. 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。 なお、4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (20 世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人) 英語専門講読 b (20 世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に続き、20 世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品（エッセイ、短篇小説、詩）を精読あるいは多読することで、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		1. ガイダンス 2. ネイティヴ・アメリカンの歴史と文化 3. Leslie Marmon Silko (小説) 4. Leslie Marmon Silko (詩) 5. Leslie Marmon Silko (インタビュー) 6. 映像に見られるネイティヴ・アメリカン 7. 関連テーマの評論を読む 8. まとめ 復習テスト 9. 境界からの声—チカーナという生き方 10. Sandra Cisneros (小説) 11. Sandra Cisneros (小説) 12. Sandra Cisneros (インタビュー) 13. 映像に見られるチカーナ文化 14. 関連テーマの評論を読む 15. まとめ 復習テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。なお、4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (グローバルな眼でアジアを読む) 英語専門講読 a (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に引き上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思ひます。</p> <p>グループごとにプレゼンテーションを行ないます。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。</p> <p>グループは2週間を担当し、次のグループに交代します。</p> <p>第1週目には、グループごとにプレゼン資料(レジュメ)を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましよう。</p> <p>第2週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思ひます。</p>		<p>1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 6つのグループを編成 グループ発表の日程を調整</p> <p>2. グループ発表のテーマ候補 以下の中から、グループごとに選びます。</p> <p>アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど</p> <p>南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど</p> <p>東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー(ビルマ)など</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2012.		プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (グローバルな眼でアジアを読む) 英語専門講読 b (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に引き上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思ひます。</p> <p>グループごとにプレゼンテーションを行ないます。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。</p> <p>グループは2週間を担当し、次のグループに交代します。</p> <p>第1週目には、グループごとにプレゼン資料(レジュメ)を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましよう。</p> <p>第2週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思ひます。</p>		<p>1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 6つのグループを編成 グループ発表の日程を調整</p> <p>2. グループ発表のテーマ候補 春学期に扱っていない国を、以下の中から選びます。</p> <p>アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど</p> <p>南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど</p> <p>東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー(ビルマ)など</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2012.		プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (The Learning Brain Lesson for Educa) 英語専門講読 a (The Learning Brain Lesson for Educa)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course text for this class--<i>The Learning Brain: Lesson for Education</i>—looks at how the brain learns and how our understanding of the brain can help in education. It investigates topics such as genetics, environment, emotion and age, and how they influence our abilities to reach the limits of our brains capacity to learn. It also looks at some of the technical processes used in analyzing the brain and neurological systems.</p> <p>Topics will include how our brains:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-develop</li> <li>-learn words and numbers</li> <li>-learn mathematics</li> <li>-learn to read</li> <li>-develop during adolescences</li> <li>-continue lifelong learning</li> <li>-have different ways of learning</li> <li>-harness our mental powers.</li> </ul>		<p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Studying the Brain. a</p> <p>Week 3: Studying the Brain. b</p> <p>Week 4: Lecture &amp; Discussion</p> <p>Week 5: The Developing Brain. a</p> <p>Week 6: The Developing Brain. b</p> <p>Week 7: Lecture &amp; Discussion</p> <p>Week 8: The Mathematical Brain. a</p> <p>Week 9: The Mathematical Brain. b</p> <p>Week 10: Lecture &amp; Discussion</p> <p>Week 11: The Literate Brain. a</p> <p>Week 12: The Literate Brain. b</p> <p>Week 13: Lecture &amp; Discussion</p> <p>Week 14: Final Paper review</p> <p>Week 15: Final Paper presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Learning Brain: Lesson for Education</i> Sarah-Jayne Blakemore and Uta Frith Pub: Blackwell Publishing 2009. 3,100 yen</p>		<p>Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (The Learning Brain Lesson for Educa) 英語専門講読 b (The Learning Brain Lesson for Educa)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course text for this class--<i>The Learning Brain: Lesson for Education</i>—looks at how the brain learns and how our understanding of the brain can help in education. It investigates topics such as genetics, environment, emotion and age, and how they influence our abilities to reach the limits of our brains capacity to learn. It also looks at some of the technical processes used in analyzing the brain and neurological systems.</p> <p>Topics will include how our brains:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-develop</li> <li>-learn words and numbers</li> <li>-learn mathematics</li> <li>-learn to read</li> <li>-develop during adolescences</li> <li>-continue lifelong learning</li> <li>-have different ways of learning</li> <li>-harness our mental powers.</li> </ul>		<p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Learning to Read. a</p> <p>Week 3: Learning to Read. b</p> <p>Week 4: Lecture &amp; Discussion</p> <p>Week 5: Social/Emotional Dev. a</p> <p>Week 6: Social/Emotional Dev. b</p> <p>Week 7: Lecture &amp; Discussion</p> <p>Week 8: The Adolescent Brain. a</p> <p>Week 9: The Adolescent Brain. b</p> <p>Week 10: Lecture &amp; Discussion</p> <p>Week 11: Life Long Learning. a</p> <p>Week 12: Life Long Learning. b</p> <p>Week 13: Lecture &amp; Discussion</p> <p>Week 14: Final Paper review</p> <p>Week 15: Final Paper presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Learning Brain: Lesson for Education</i> Sarah-Jayne Blakemore and Uta Frith Pub: Blackwell Publishing 2009. 3,100 yen</p>		<p>Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 a (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reflecting on your own learning</li> <li>3. Approach, method, and technique</li> <li>4. An eclectic approach</li> <li>5. Teaching by principles</li> <li>6. Motivation in the classroom</li> <li>7. Teaching across age levels</li> <li>8. Overall discussion</li> <li>9. Teaching across proficiency levels</li> <li>10. Sociopolitical and institutional contexts</li> <li>11. Techniques, textbooks, and technology</li> <li>12. Interactive language teaching</li> <li>13. Sustaining interaction through group work</li> <li>14. Classroom management</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムとハンドアウト使用 ( cf. <u>Teaching by Principles</u> , H.D. Brown, Longman )		In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 b (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Integrating the four skills</li> <li>3. Teaching listening</li> <li>4. Teaching speaking</li> <li>5. Teaching reading</li> <li>6. Teaching writing</li> <li>7. Teaching vocabulary</li> <li>8. Overall discussion</li> <li>9. Teaching pronunciation</li> <li>10. Form-focused instruction</li> <li>11. Language assessment I</li> <li>12. Language assessment II</li> <li>13. Strategies-based instruction</li> <li>14. An all-English approach</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムとハンドアウト使用 ( cf. <u>Teaching by Principles</u> , H.D. Brown, Longman )		In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読 a (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読 I (春) と II (秋) は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で1時間程度の英文読解力を計るためのテスト (国際政治経済の時事問題に関する英文和訳) を実施します。</p>		<p>第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第15回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2012-2013</i>, ISEAS, 2012 (近刊)。(150 ページ前後、価格は 2000 円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。</li> <li>・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読 b (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読 I と同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読 I (春) と II (秋) は継続性が強いので、本授業の履修については英語専門講読 I (春学期：金子担当) を履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第15回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2013</i>, ISEAS, 2012 (予定)。(350 ページ前後、価格は 2200 円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。(内容の概略は以下の Web サイトで検索が可能：<a href="http://bookshop.iseas.edu.sg/">http://bookshop.iseas.edu.sg/</a>)</li> <li>・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ) 英語専門講読 a (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インコタームズ®(Incoterms®)とは、国際商業会議所 (the International Chamber of Commerce; ICC) が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。数次の改訂を経て、現在、最新版の Incoterms®2010 と旧版の Incoterms®2000 がもっぱら実務に使用されています。インコタームズ®を貿易取引に採用すれば、FOBやCIF等の貿易条件 (trade terms) の略号を表示することにより、売主と買主の義務、費用負担、貨物の引渡し場所などが明確になり、誤解や紛争が防げます。</p> <p>ところで、貿易実務やビジネス・コミュニケーションの学習者にとって不可欠な知識でありながら、インコタームズ®だけに焦点をあてて広く深く勉強するといった機会はこれまでほとんどありませんでした。そこで、この授業では、海外の文献を使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、単に実務的な知識を身につけるだけでなく、いわゆるロジスティクスの観点からも貿易条件を考察します。(下欄に続く)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件の概略</li> <li>3. E 類型 (出荷地条件) の詳細</li> <li>4-5. F 類型 (主要運賃買主負担条件) の詳細</li> <li>6-8. C 類型 (主要運賃込み条件) の詳細</li> <li>9-11. D 類型 (到着条件) の詳細</li> <li>12. 改正米国貿易定義(1941)と Incoterms®2000 の比較</li> <li>13-14. 主要貿易条件を用いた輸出入価格の積算訓練</li> <li>15. 春学期の総復習および質疑応答</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Petersen, Catherine J., <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center Inc., 2011 および配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ) 英語専門講読 b (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上欄から続く) 春学期は、Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲 (価格の構成要素)、危険負担の分岐点 (貨物の引渡し場所)、適用可能な運送手段などの点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出入価格および輸入価格の積算訓練を行います。また、特に米国との貿易で混乱を生じやすい「改正米国貿易定義」(Revised American Foreign Trade Definitions, 1941) の貿易条件についても学習する機会をもうけます。</p> <p>秋学期は、Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件について、Incoterms®2000 からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各々の貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス (logistics) の観点から有利な貿易条件を選択する戦略考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。</p> <p>この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの分野への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。くれぐれも熟慮して履修の決定をして下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. Incoterms®2000 から Incoterms®2010 への変更点</li> <li>3. Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件の概略</li> <li>4-7. 「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7 条件 (EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP) の詳細</li> <li>8-10. 「海上および内陸水路輸送のための」4 条件 (FAS, FOB, CFR, CIF) の詳細</li> <li>11-12. 各々の貿易条件についての売主側および買主側からみた長所と短所の検討</li> <li>13. 貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討</li> <li>14. 国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討</li> <li>15. 秋学期の総復習および質疑応答</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Petersen, Catherine J., <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center Inc., 2011 および配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Culture and Communication) 英語専門講読 a (Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course provides intensive training on reading different types of articles, and integrated skills building.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. The Importance of NVC</li> <li>3. Greetings: Kiss, Bow or Shake Hands</li> <li>4. Smile across cultures</li> <li>5. The Picture Paints a Thousand Words</li> <li>6. Body Language: Is It Important</li> <li>7. The Confusing World of Gestures</li> <li>8. Time Value Across Cultures</li> <li>9. Communication Style</li> <li>10. The Tempura Metaphor</li> <li>11. The Ping-pong Metaphor</li> <li>12. Gender Styles in Communication</li> <li>13. Women's Language</li> <li>14. Horrifying Or Terrific Language</li> <li>15. Summary and Assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Culture and Communication) 英語専門講読 b (Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course provides intensive training on different types of challenging articles, and integrated skills building		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Computer for Literacy?</li> <li>3. The Power of You Tube</li> <li>4. Pets or noPets?</li> <li>5. Fashion in Italy and around</li> <li>6. Gossiping in the Media?</li> <li>7. Green Profits for Green Forests</li> <li>8. Where have all the Flowers Gone?</li> <li>9. Adventure Tourism</li> <li>10. A Growing Crisis: Fresh Water</li> <li>11. Yoga for Sports</li> <li>12. Culture Exportation</li> <li>13. Film Festivals: are they worth it?</li> <li>14. Japan: Its Aging Population</li> <li>15. Summary and Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（アレン・ギンズバーグの詩を読む） 英語専門講読 a（アレン・ギンズバーグの詩を読む）	担当者	小林 愛明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【概要】「ビート・ジェネレーション」を代表する詩人アレン・ギンズバーグ(Allen Ginsberg, 1926-1997)の作品を中心に読んでいく。西洋だけでなく東洋のエッセンスも詰め込んだギンズバーグの詩は大変難しい。従って作品の精読だけでなく、関連する批評も同時に読み進めていく。</p> <p>【課題】二週間に一度、もしくはそれ以上の頻度で提示される。</p> <p>【発表】一人一スタンザの割合で輪読していく。担当の学生は事前に詩の翻訳と補足資料を作成し、メーリングリストを使ってクラス全員に配布すること。</p> <p>【レポート】班を決定した後、各班で詩を分担し、作品の翻訳と作品論(1,500~2,000 字程度)を作成してもらう。なお、質に問題がある場合は、教員の指示のもとに繰り返し再提出してもらう。</p> <p>上記の理由により、履修する学生にはかなりの忍耐力と語学力（目安：TOEIC 800 点）が必要とされる。また、発表を無断で欠席したり、他の学生に対して無責任な行動を取ったりした場合は評価対象外となる。</p> <p>単位取得のためには相当な努力が必要であることを覚悟して頂きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 映画『ビートニク』</li> <li>3. 作品分析①</li> <li>4. 作品分析②</li> <li>5. 作品分析③</li> <li>6. 作品分析④</li> <li>7. 作品分析⑤</li> <li>8. 作品分析⑥</li> <li>9. 作品分析⑦</li> <li>10. 作品分析⑧</li> <li>11. 作品分析⑨</li> <li>12. 作品分析⑩</li> <li>13. 作品分析⑪</li> <li>14. 作品分析⑫</li> <li>15. 前期のまとめ（※レポート提出日）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>詩： <i>Selected Poems: 1947-1995</i> (Penguin Modern Classics)を購入すること。</p> <p>批評（等）：教員が毎週配布する。</p>		<p>プレゼンテーションと翻訳&amp;作品論を総合して決める。なお、作品論の書式に関しては下記のサイトを参照のこと。</p> <p><a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a></p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（アレン・ギンズバーグの詩を読む） 英語専門講読 b（アレン・ギンズバーグの詩を読む）	担当者	小林 愛明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【概要】前期と同じく「ビート・ジェネレーション」を代表する詩人アレン・ギンズバーグ(Allen Ginsberg, 1926-1997)の作品を中心に読んでいく。西洋だけでなく東洋のエッセンスも詰め込んだギンズバーグの詩は大変難しい。従って作品の精読だけでなく、関連する批評も同時に読み進めていく。</p> <p>【課題】二週間に一度、もしくはそれ以上の頻度で提示される。</p> <p>【発表】一人一スタンザの割合で輪読していく。担当の学生は事前に詩の翻訳と補足資料を作成し、メーリングリストを使ってクラス全員に配布すること。</p> <p>【レポート】班を決定した後、各班で詩を分担し、作品の翻訳と作品論(1,500~2,000 字程度)を作成してもらう。なお、質に問題がある場合は、教員の指示のもとに繰り返し再提出してもらう。</p> <p>上記の理由により、履修する学生にはかなりの忍耐力と語学力（目安：TOEIC 800 点）が必要とされる。また、発表を無断で欠席したり、他の学生に対して無責任な行動を取ったりした場合は評価対象外となる。</p> <p>単位取得のためには相当な努力が必要であることを覚悟して頂きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 作品分析①</li> <li>3. 作品分析②</li> <li>4. 作品分析③</li> <li>5. 作品分析④</li> <li>6. 作品分析⑤</li> <li>7. 作品分析⑥</li> <li>8. 作品分析⑦</li> <li>9. 作品分析⑧</li> <li>10. 作品分析⑨</li> <li>11. 作品分析⑩</li> <li>12. 作品分析⑪</li> <li>13. 作品分析⑫</li> <li>14. 作品分析⑬</li> <li>15. 後期のまとめ（※レポート提出日）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>詩： <i>Selected Poems: 1947-1995</i> (Penguin Modern Classics)を購入すること。</p> <p>批評（等）：教員が毎週配布する。</p>		<p>プレゼンテーションと翻訳&amp;作品論を総合して決める。なお、作品論の書式に関しては下記のサイトを参照のこと。</p> <p><a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a></p>	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（イギリス児童文学） 英語専門講読 a（イギリス児童文学）	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「習うより慣れよ。」(Use makes perfect.) の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。(昨年の実績は、課外のレポートも含めて 423 頁であった。)</p> <p>Lang (Andrew,1844-1922) の『色分け昔話集』(全 12 巻) の内、『ブラウン昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。(1 回 20 頁相当を 2 人の共同責任で読んでもらう。)</p> <p>参考文献 キャサリン・ブリグス編著 『妖精辞典』 平野敬一他訳 富山房 1992 年</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. What the Rose did the Cypress</li> <li>3. Ball-Carrier and the Bad One</li> <li>4. The Bunyip</li> <li>5. Father Grumbler</li> <li>6. The Story of the Yara</li> <li>7. The Cunning Hare</li> <li>8. The Turtle and his Bride</li> <li>9. How Geirald the Coward was Punished</li> <li>10. Habogi</li> <li>11. How the Little Brother set Free his Big Brothers</li> <li>12. The Sacred Milk of Koumongoe</li> <li>13. The Wicked Wolverine</li> <li>14. The Husband of the Rat's Daughter</li> <li>15. Mermaid and the Boy</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lang, Andrew, <i>The Brown Fairy Book</i> . Dover Pubns, (1956/06)		期末試験をする。それとは別に課外に 20 頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（イギリス児童文学） 英語専門講読 b（イギリス児童文学）	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
同 上		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Pivi and Kab</li> <li>2. The Elf Maiden</li> <li>3. How Some Wild Animals became Tame Ones</li> <li>4. Fortune and Woodcutter</li> <li>5. The Enchanted Head</li> <li>6. The Sister of the Sun</li> <li>7. The Prince and the Three Fates</li> <li>8. The Fox and the Lapp</li> <li>9. Kisa and the Cat</li> <li>10. The Lion and the Cat</li> <li>11. Which is the foolishhest!</li> <li>12. Asmund and Signy</li> <li>13. Rubezahl</li> <li>14. Story of King who would be Stronger than Fate</li> <li>15. Story of Wali Dad the Simple-hearted</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Japanese Art & Culture) 英語専門講読 a (Japanese Art & Culture)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting.</p> <p>Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced.</p> <p>Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.</p>		<p>Exhibitions for study during the spring semester will include one or two from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>根津美術館「KORIN 展 国宝『燕子花図』とメトロポリタン美術館所蔵『八橋図』」 4 月 21 日～5 月 20 日</li> <li>東京国立博物館「東京国立博物館 140 周年 特別展『ボストン美術館 日本美術の至宝』 平成館 特別展示室」 3 月 20 日～6 月 10 日</li> <li>三井記念美術館「特別展 ホノルル美術館所蔵 北斎展－葛飾北斎生誕 250 周年記念」 4 月 16 日～6 月 17 日</li> <li>出光美術館「日本の美・発見 VII 祭 MATSURI—遊楽」 6 月 16 日～7 月 22 日</li> </ul> <p>Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next. Class 15 will focus on review and assessment.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (25%) and a final essay (35%).	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Japanese Art & Culture) 英語専門講読 b (Japanese Art & Culture)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting.</p> <p>Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced.</p> <p>Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.</p>		<p>Exhibitions for study during the fall semester will include one or two from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サントリー美術館「お伽草子 この国は物語にあふれている」 9 月 19 日～11 月 4 日</li> <li>MOA 美術館「開館 30 周年記念所蔵名品展 肉筆浮世絵名作展」 10 月 5 日～11 月 14 日</li> <li>出光美術館「琳派芸術 II」 10 月 27 日～12 月 16 日</li> </ul> <p>Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next. Class 15 will focus on review and assessment.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (25%) and a final essay (35%).	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (アメリカにおける人種概念) 英語専門講読 a (アメリカにおける人種概念)	担当者	佐原 彩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は、アメリカ合衆国の文化・政治・社会を理解するために、避けては通れない人種概念を英語で理解することです。そのため Reginald Horsman “Race and Manifest Destiny”を春学期に読み、合衆国の国民国家概念と人種概念の結びつきを学びます。その後の合衆国が白人優越意識を保持し、その勢力を海外に拡張していく過程も考慮にしながら、人種概念が文化・政治・社会に果たす役割を検討していきます。テキストは 19 世紀半ばまでが中心ですが、授業では現在の合衆国の文化・政治・社会も題材に、テキストと結びつけながら合衆国社会における人種概念の変遷と白人性のあり方を考察します。</p> <p>週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その内容を日本語に要約し、毎週提出してもらいます。授業はテキストに基づいた内容の説明、質疑応答、討論を軸に進めます。</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Liberty and the Anglo-Saxon</li> <li>3. Aryans Follow the Sun</li> <li>4. Science and Inequality</li> <li>5. Racial Anglo-Saxonism in England</li> <li>6. Providential Nation</li> <li>7. The Other Americans</li> <li>8. Superior and Inferior Races</li> <li>9. The Dissemination of Scientific Racism</li> <li>10. Romantic Racial Nationalism</li> <li>11. Racial Destiny and the Indians</li> <li>12. Anglo-Saxons and Mexicans</li> <li>13. Race, Expansion, and the Mexican War</li> <li>14. A Confused Minority</li> <li>15. Expansion and World Mission</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Reginald Horsman, <i>Race and Manifest Destiny: The Origins of American Racial Anglo-Saxonism</i> (Cambridge, MA: Harvard University Press, 1981)		出席 30% 授業への参加・貢献度 50% (提出物含む) 学期末研究発表 20%	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (アメリカにおける人種概念) 英語専門講読 b (アメリカにおける人種概念)	担当者	佐原 彩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は、春学期と同様ですが、秋学期は特に冷戦以後の人種概念を英語で理解することを目的とします。そのため Thomas Borstelmann “The Cold War and the Color Line”を読み、冷戦下での合衆国の国民国家概念と人種概念の結びつきを学びます。1945 年から 1990 年代において、合衆国の人種概念が国内にとどまらず国際的に果たした役割を検討していきます。テキストは 1990 年代までが中心ですが、授業では現在の合衆国の文化・政治・社会、とくに“war on terror”を題材に、テキストと結びつけながら冷戦下における人種概念の変遷が現在の世界の状況と密接に結びついていることを考察します。</p> <p>授業は、受講者によるプレゼンテーション、テキストに基づいた内容の説明、質疑応答、討論を軸に進めます。初回の授業でプレゼンテーションの担当者を決めます。また、受講者の関心にしたがって、学期後半の週に研究発表をしてもらいます。</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Prologue</li> <li>3. Race and Foreign Relations before 1945</li> <li>4. Jim Crow's Coming Out</li> <li>5. The Last Hurrah of the Old Color Line</li> <li>6. The Last Hurrah of the Old Color Line II</li> <li>7. The Revolutions in the American South and Southern Africa</li> <li>8. The Revolutions in the American South and Southern Africa II</li> <li>9. The Perilous Path to Equality</li> <li>10. The Perilous Path to Equality II</li> <li>11. The End of the Cold War and White Supremacy</li> <li>12. The End of the Cold War and White Supremacy II</li> <li>13. Epilogue</li> <li>14. Presentations</li> <li>15. Feedback and comments</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Thomas Borstelmann, <i>The Cold War and the Color Line: American Race Relations in the Global Arena</i> (Cambridge, MA: Harvard University Press, 2001)		出席 30% 授業への参加・貢献度 50% (プレゼンテーション含む) 学期末研究発表 20%	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（アメリカ小説） 英語専門講読 a（アメリカ小説）	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に質問表にもとづく質疑応答・討論により作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>20 世紀最大のアメリカ作家と言われる William Faulkner の最高傑作 <i>The Sound and the Fury</i> (1929) に挑戦します。難解な小説と言われていますが、100%理解できなくても十分楽しめ、人間の想像力の素晴らしさを味わうことが出来る作品です。いくつかの例外はありますが、比較的平易な英語で書かれている箇所も多く、一般的に言われているほど英語学習者にとって読むことが困難な小説ではないと考えます。最近インターネット上で難解な箇所を解き明かしてくれるサイトなども出現していますので、それらを利用すればさらに理解を深めることが出来るでしょう。アメリカ南部が舞台の作品ですが、「家族崩壊」、「初恋」、「兄弟間の愛憎」など現代の学生諸君にも十分理解・自己投影できる普遍性をもった作品と考えます。</p> <p>質問表は教師が用意し、教師が討論の司会をしますが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらうかもしれません。</p> <p>授業で積極的に発言して、討論・意見交換に参加する学生の受講を希望します。</p>		<p>第 1 回～10 回：第 1 章 第 11 回～15 回：第 2 章前半</p> <p>第 1 週に授業の進め方などについての説明と質問表にもとづく質疑応答・討論による体験授業を行います。 第 2 週以降、質問表にもとづく同様な方法で毎回平均ほぼ 10～15 ページずつ読んでいく予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
William Faulkner, <i>The Sound and the Fury</i> (Vintage International, 1990) 参考文献：秋学期の授業計画の欄を参照		学期末の定期試験、および平常点（出席点ではありません）。授業での発言による貢献度を加味します）	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（アメリカ小説） 英語専門講読 b（アメリカ小説）	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記を参照。</p> <p>参考までに、春学期第 1 週の質問表を以下に載せます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>On the first line of the first page, the narrator writes, "I could see them hitting." What on earth are they hitting?</li> <li>Why do you think Luster says, "Listen at you, now"?</li> <li>The last paragraph of the first page is italicized. Why do you think is the sudden change in typography?</li> <li>What does Benjamin [Benjy] want to do? Why do you think he wants to go out?</li> <li>What is the first name of Benjamin's mother?</li> <li>Where are Mother and Benjamin going in the carriage T.P. is driving? (Note what Mother tells Jason later.)</li> <li>The first underlined passage on page eight goes: "Then those on one side stopped at the tall white post where the soldier was. But on the other side they went on smooth and steady, but a little slower." What is happening here?</li> <li>What do you think is the content of the letter Uncle Maury asks Caddy to take to Mrs. Patterson?</li> </ol>		<p>第 1 回～5 回：第 2 章後半 第 6 回～15 回：第 3 章と第 4 章</p> <p>左記の質問表の解説が以下のサイトにありますので、参照してください。  <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit2faulkner.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit2faulkner.htm</a></p> <p>また下記のサイトにはこの作品の全文が掲載されており、その上、難解な箇所を読みやすくする工夫がなされています。受講希望者はぜひ参照しておいてください。  <a href="http://www.usask.ca/english/faulkner/">http://www.usask.ca/english/faulkner/</a></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
William Faulkner, <i>The Sound and the Fury</i> (Vintage International, 1990) 参考文献：秋学期の授業計画の欄を参照		学期末の定期試験、および平常点（出席点ではありません）。授業での発言による貢献度を加味します）	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (アメリカ現代詩を読む) 英語専門講読 a (アメリカ現代詩を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲアリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『奥の国』(<i>The Back Country</i>, 1968) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論の形式で行い、レポートを提出してもらいます。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、  <a href="http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm">http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm</a> を参照してください。</p> <p>レポートの書き方については、  <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a> を参照ください。</p> <p>最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. An Introduction to Gary Snyder's Poetry</li> <li>2. "When I went down" (p.72) &amp; "Alysoun" (p.73)</li> <li>3. "To Hell with your Fertility Cult (p.73) &amp; "For a Stone Girl at Sanchi" (p. 74)</li> <li>4. "Robin" (p.69) &amp; " North Beach Alba" (p.75)</li> <li>5. "Could She See the Whole Real World" (p.76)</li> <li>6. "Night" (p. 77) &amp; "A Dry Day Just Before the Rainy Season" (p. 78)</li> <li>7. "Another for the Same"( p.79) &amp; "This Tokyo" (p. 80)</li> <li>8. "Kyoto Footnote" (p. 81) &amp; " The Manichaeans" (pp. 82-83)</li> <li>9. "Artemis" (p. 84) &amp; "Madly Whirling Downhill"(p.85)</li> <li>10. "Xrist" (p.86) &amp; " More Better" (p.87)</li> <li>11. "For Plants" (p.88) &amp; "What Do They Say" (p.89)</li> <li>12. "The Six Hells of the Engine Room" (p.90) &amp; "Maya" (p.91)</li> <li>12. "Mother of Buddhas" (p.92) &amp; " Wandering the Old, Dirty Countries" (p.93)</li> <li>13. "On our Way to Khajuraho" (p.94) &amp; "Anuradhapura City of the Pleiades" (p.95)</li> <li>14. "Circumambulating Arunachala" (p.96) &amp; "7: VII" (p. 97)</li> <li>15. "Nanao Knows" (p.98) &amp; "Lying in Bed on a Late Morning" (p.99)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Gary Snyder, <i>The Back Country</i>. New York: New Directions, 1971. (ISBN 0-8112-0194-5)</p> <p>*各自amazon.co.jpなどで購入のこと。</p>		<p>プリゼンテーションとレポート (4,000 程度の作品論) によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (アメリカ現代詩を読む) 英語専門講読 b (アメリカ現代詩を読む)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲアリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『奥の国』(<i>The Back Country</i>, 1968) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論の形式で行い、レポートを提出してもらいます。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、  <a href="http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm">http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm</a> を参照してください。</p> <p>レポートの書き方については、  <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a> を参照ください。</p> <p>最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. "An Introduction to Gary Snyder's Poetry"</li> <li>2. "Looking at Pictures to be Put Away" (p.100) &amp; "The Truth like the Belly of a Woman Turning" (p.101)</li> <li>3. "For John Chappell" (p.102) &amp; "How Many Times" (p.103)</li> <li>4. "Tasting the Snow" (p.104) &amp; "Go Round" (p.105)</li> <li>5. "After Ramprasad Sen" (p.106) &amp; "The Old Dutch Woman" (pp.109-10) &amp; "7.IV.64"(p.118)</li> <li>6. "Nature Green Shit" (p.110)</li> <li>7. "To the Chinese Comrades" (p.111-14)</li> <li>8. "For the West" (p.115-17)</li> <li>9. "Twelve Hours out of New York" (p.119) &amp; "Across Lamarck Col" (p.120)</li> <li>10. "Hop, Skip, and Jump" (p.121) &amp; "August was Foggy"(122)</li> <li>11. "Beneath my Hand and Eye the Distant Hills" (p.123) &amp; "The Plum Blossom Poem" (p.124)</li> <li>12. "Through the Smoke Hole" (pp.125-27)</li> <li>13. "Oysters" (p.128)</li> <li>14. "A Berry Feast" (p.3-7)</li> <li>15. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Gary Snyder, <i>The Back Country</i>. New York: New Directions, 1971. (ISBN 0-8112-0194-5)</p> <p>*各自 amazon.co.jpなどで購入のこと。</p>		<p>プリゼンテーションとレポート (4,000 程度の作品論) によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (ビート詩人たちの預言) 英語専門講読 a (ビート詩人たちの預言)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2011年3月11日、14:46、比類なき激震が東日本を襲った。そしてその激震は天災であったが、その後、これまた比類なき放射能汚染という人災を引き起こし、それはいまだに終息する気配はない(福島第一原発の終息宣言は、世界の笑い物である)。</p> <p>このような事態に至って「脱原発」は声高に語られているが、このことは、20世紀後半のアメリカ詩においては、すでに語られていることであった。</p> <p>本講座では、20世紀後半に登場してきた「ビート」の詩人たちが、「エネルギー」をどのように考えていたか、それを探る。</p> <p>春学期は、ビート詩人たちが持つにいたった「エネルギー観」がどのような土壌から生まれたか、それを、1950年代の詩的記録である Michael McClure の <i>Scratching the Beat Surface</i> という散文(とはいえ、詩が5編出てくるが)をもとに探る。キーワードは、“margin”である。</p>		<p>1: イン트로ダクション</p> <p>2: Allen Ginsberg “America”、“A Supermarket in California”</p> <p>2~15: <i>Scratching the Beat Surface</i> 所収のエッセイ</p> <p>注) この講座で読む当該部分には、Allen Ginsberg の “Howl” の数行、Gary Snyder の “Berry Feast”、Philip Whalen の “Plus ça Change”、Michael McClure の “Point Lobos: Animism”、“For the Death of 100 Whales” が含まれる。この詩群は、受講者のみなさんがレポーターとなり、プレゼンテーションをしてもらうことになる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント、及び、 <i>Scratching the Beat Surface</i> 。		プレゼンテーション、授業への participation、及び、レポート。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (ビート詩人たちの預言) 英語専門講読 b (ビート詩人たちの預言)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期には、「エネルギー」関連の詩を読むための clear the ground をする。その上で、まずは “energy” とは何なのか、それを考えるために、主に Gary Snyder の作品を読んでいく。キーワードは「転生 (“reincarnation”)」である。このタームは、仏教、そして「再生可能エネルギー」ともつながってくるだろう。</p>		<p>1: 前期レポートの返却</p> <p>2: “LMFBR”</p> <p>3: “Burning the Small Dead”、“Oil”</p> <p>4: “Control Burn”</p> <p>5: “Spel Against the Demons”</p> <p>6: “Tomorrow’s Song”</p> <p>7~8: “What Happened Here Before”</p> <p>9: “One Should Not Talk to a Skilled Hunter about What Happened Here Before”、“A Volcano in Kyushu”</p> <p>10: “Song of the Taste”</p> <p>11: “The Dead by the Side of the Road”</p> <p>12: “Stories in the Night”</p> <p>13: “Bomb Test”、“For the Children”</p> <p>14: “Piute Creek”、“Pine Tree Tops”</p> <p>15: まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Gary Snyder、 <i>No Nature</i> 、及びプリント。		プレゼンテーション、授業への participation、及び、レポート。	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（物語を読んで楽しむ） 英語専門講読 a（物語を読んで楽しむ）	担当者	佐藤 勉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。</p> <p>物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためにいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえことを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。</p>		<p>(序.) 1. J. Thurber の“The Unicorn in the Garden”——物語の面白さへの誘い——寓話と現実; J. C. Oates の “Embrace” における無言の意味;</p> <p>2. I Asimov の “Silly” と A. Clarke の “The Curse” における宇宙科学のアイロニーと人間の愚かさ</p> <p>3. S.V. Benet の “By the Waters of Babylon” における核の脅威と教訓</p> <p>4. 前の授業の続き——読みと文学の解釈</p> <p>5. 前の授業の続き——ドラマとしての語りの手法</p> <p>6. 前の授業の続き——語り手の視点と作者</p> <p>7. L. Newlin の “Our Last Day in Venice” における母と娘の関係</p> <p>8. 前の授業の続き</p> <p>9. 前の授業の続き</p> <p>10. R. Guneseckera の “Carapace” における男女の違い</p> <p>11. 前に授業の続き——物語の究極の意味とは</p> <p>12. 前の授業の続き——作者の本性を探る</p> <p>13. F. Stockton の “The Lady or the Tiger?”——語りの基本</p> <p>14. 前の授業の続き——関係的コミュニケーションとは</p> <p>15. 前の授業の続き——物語の仕組みについて</p> <p>注意：この授業に参加したい学生は予習の分担ができないと次の予習予定者に迷惑がかかります。この分担約束が果たせない学生は受講しないでください。もし一回でも果たせなかった場合は不可とします。それだけ重要なのです。</p> <p>また、自分で発表しないと授業に困難が生じます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはすべてプリント教材を使います。授業の進展によって読むテキストが変更になることがあります。</p>		<p>出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3 分の 2 以上の出席がないと単位は出ない。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（物語を読んで楽しむ） 英語専門講読 b（物語を読んで楽しむ）	担当者	佐藤 勉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。</p> <p>物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためにいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえことを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。</p>		<p>物語の語りの技巧を学ぶとともに、さまざまな人生における物語の意味と重要性を理解します</p> <p>1. Emma Brookess の “Visiting Time” の現代性とは</p> <p>2. 前の授業の続き——罪と罰</p> <p>3. 前の授業の続き——語り手の心の深刻さと変化</p> <p>4. 前の授業の続き——許しとは</p> <p>5. R. Dahl の “The Landlady” 恐怖の本質</p> <p>6. 前の授業の続き</p> <p>7. 前の授業の続き</p> <p>8. S. Jackson の “The Lottery”——伝説と現実</p> <p>9. 前の授業の続き</p> <p>10. 前の授業の続き</p> <p>11. M. Burgess の “Whose face Do You See?” における現代の生と死の意味</p> <p>12. 前の授業の続き</p> <p>13. 前の授業の続き</p> <p>14. T. Williams の “Portrait of a Girl in Glass” における人間の優しさと個性</p> <p>15. 前の授業の続き</p> <p>注意：春学期と同じ内容の注意ですので、そちらを一緒に読んでおいて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはすべてプリント教材を使います。授業の進展によって読むテキストが変更になることがあります。</p>		<p>出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3 分の 2 以上の出席がないと単位は出ない。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（ <i>King Lear</i> を読む） 英語専門講読 a（ <i>King Lear</i> を読む）	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの悲劇 <i>King Lear</i>（『リア王』）を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p><i>King Lear</i> はシェイクスピアの四大悲劇の一つである。古代ブリテンの老いた王が娘たちの心を読み取れなかったことに端を発する悲劇であるが、親子の問題がやがて人間と自然の対立、理性と狂気の混在、諦観と不条理の共存といった壮大なドラマに展開していく。テキストを丹念に読みながら、ドラマティックなアクションと内省的な心理表現とが結びつくシェイクスピアの作劇法を理解する。</p> <p>近代初期の英語の韻文に初めて触れるという人も多いと思うので、現代の日常的な英語との語義や語法の違いなどを少しずつ説明しながら読みなれていく。またイギリス俳優による音声テープを聞き、セリフを音読して、韻文の音のパターンに慣れる。作品への理解を深めるために、シェイクスピア時代の劇場や社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明</li> <li>2. 精読</li> <li>3. 精読</li> <li>4. 精読</li> <li>5. 精読</li> <li>6. 精読</li> <li>7. 小テスト</li> <li>8. 精読</li> <li>9. 精読</li> <li>10. 精読</li> <li>11. 精読</li> <li>12. 精読</li> <li>13. 精読</li> <li>14. 精読</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>Julius Caesar</i>		小テスト：40% 期末テスト：60%	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（ <i>King Lear</i> を読む） 英語専門講読 b（ <i>King Lear</i> を読む）	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期「英語専門講読Ⅰ」に同じ。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精読</li> <li>2. 精読</li> <li>3. 精読</li> <li>4. 精読</li> <li>5. 精読</li> <li>6. 精読</li> <li>7. 精読</li> <li>8. 小テスト</li> <li>9. 精読</li> <li>10. 精読</li> <li>11. 精読</li> <li>12. 精読</li> <li>13. 精読</li> <li>14. 精読</li> <li>15. 精読</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>Julius Caesar</i>		小テスト：40% 期末テスト：60%	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（オープンスカイと北東アジア共通航空市場） 英語専門講読 a（オープンスカイと北東アジア共通航空市場）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今、日本の航空が激動の時期を向かえているのは誰の目にも分かる。どういういきさつの下でこうなったのか。そして今後どうなるのか、否、どうすべきなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際民間航空の枠組みは、第二次大戦中に、米国が中心となり連合国の国々によって作られ、今も世界を規制している。他方、この航空の世界的な枠組みである「シカゴ・バミューダ体制」の生みの親の一方である米国はこの枠組みを脱し二国間でのオープンスカイを世界に広め、又もう一方の親である EU は 27 カ国でバリエーション・フリーの航空圏を作った。世界の空は規制のないオープンスカイに向けて大きく舵を切り始めたのである。</li> <li>・日本は伝統的な「シカゴ・バミューダ体制」の枠を脱しきれず、近隣諸国（韓国、中国など）との連携もなく一国主義の枠からも出ることがない。</li> <li>・講義計画に掲げるテキストを使用し、世界の空を規制する現行の空の枠組み、EU－US の新たな空への動き、日中韓、北東アジアの空のこれからを読み解く。</li> </ul> <p>日本の「おもてなしの心」、アジアで共有する高コンテクスト文化を礎とする「東アジア共通航空市場」（仮称）の姿を探求する。</p>		<p>1 回 オリエンテーション；講義の進め方 2 回 グループ分けと講義（シカゴ・バミューダ体制の基礎） 3～7 回 シカゴ・バミューダ体制を読み解く（7 回はグループ発表、レジュメを用意する） 8 回 講義；現行「シカゴ・バミューダ体制」の問題 9～13 回 現行体制の問題を読み解く（13 回はグループ発表、レジュメを用意する） 14 回 講義；世界の空の問題と EU で起きていること 15 回 まとめ、個人発表</p> <p>テキスト</p> <p>①“Chicago Regime Research Committee Report” by Japan International Transport Institute ②“The US-EU Agreement-A Path to a Global Aviation Agreement” Issues in Aviation Law and Policy ③“Recent developments in China’s air transport : Implications for Northeast Asia Integration” by Professor Anming Zhang, The University of British Columbia その他欧米における関連論文を都度紹介する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義計画の欄に記載のテキスト。プリント教材の形で配布する。その他、講義の中で適宜プリントを配布する。		出席、発表、授業への参画（50%）、期末レポート（50%）	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（オープンスカイと北東アジア共通航空市場） 英語専門講読 b（オープンスカイと北東アジア共通航空市場）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の読み解き、考察をベースに、「北東アジア共通航空市場構想」に力点を向ける。同構想の基礎をなす、又理念ともなるアジアの精神、「ホスピタリティ」の考察にも注力する。</p>		<p>1 回 講義の進め方 新グループ作り 2 回 講義；EU 単一航空市場について 3～7 回 テキスト①の Ch3、Ch4 を中心に読み解く Hospitality についての議論を深める（7 回はグループ発表、レジュメを用意する） 8 回 講義；US、EU の戦略、ASEAN の動き「日本から発信するホスピタリティ」について 9～13 回 テキスト②、③を読み解く（13 回はグループ発表、レジュメを用意する） 14 回 個人発表 北東アジア共通航空市場構想について 15 回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		出席、発表、授業への参画（50%）、期末レポート（50%）	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I（現代における国際関係の展開） 英語専門講読 a（現代における国際関係の展開）	担当者	伊藤 兵馬
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本授業では、現代における国際関係の展開を時系列で追っていきます。第一次世界大戦の勃発から、冷戦後の世界まで、国際政治がどのように発展し、形成されてきたかを明らかにしていきます。</p> <p>授業は、テキストに基づいて行い、受講者によるプレゼンテーションとその後のディスカッションを中心に進めます。受講者の人数によっては、プレゼンテーションをグループで行う可能性もあります。また、テキストの一部を翻訳して、受講者全員に適宜提出してもらいます。</p> <p>なお、本授業は継続性が高いため、基本的には春学期と秋学期両方の履修を求めます。</p>		<p>第 1 回：オリエンテーション、プレゼンテーションの担当者を決定 第 2 回～第 14 回：受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションおよび質疑応答 第 15 回：まとめ</p> <p>テキスト： 有賀貞 『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）</p> <p>英文テキストは、国際関係の歴史を詳細に分析・解説したものです。受講者には、テキストに沿って以下の章からプレゼンテーションを担当してもらいます。</p> <p>The Second Phase of World War I The World in Postwar Confusion The Return of Relative Stability The Collapse of the International Order The Beginning of War in East Asia and in Europe World War II after Pearl Harbor</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
有賀貞 『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）		出席率、プレゼン内容、翻訳内容、ディスカッションへの参加状況を基に評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II（現代における国際関係の展開） 英語専門講読 b（現代における国際関係の展開）	担当者	伊藤 兵馬
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的および概要は、上記の英語専門講読 I と同様です。春学期に扱った年代以降の国際関係史を検討していきます。</p> <p>授業は、テキストに基づいて行い、受講者によるプレゼンテーションとその後のディスカッションを中心に進めます。受講者の人数によっては、プレゼンテーションをグループで行う可能性もあります。また、テキストの一部を翻訳して、受講者全員に適宜提出してもらいます。</p> <p>なお、本授業は継続性が高いため、基本的には春学期と秋学期両方の履修を求めます。</p>		<p>第 1 回：オリエンテーション、プレゼンテーションの担当者を決定 第 2 回～第 14 回：受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションおよび質疑応答 第 15 回：まとめ</p> <p>テキスト： 有賀貞 『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）</p> <p>英文テキストは、国際関係の歴史を詳細に分析・解説したものです。受講者には、テキストに沿って以下の章からプレゼンテーションを担当してもらいます。</p> <p>Turbulence in East Asia The Post-Stalin USSR and East-West Relations The Retreat of Western European Imperialism Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy The Advanced Industrial World and the Challenge of OPEC The End of Cold War</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
有賀貞 『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）		出席率、プレゼン内容、翻訳内容、ディスカッションへの参加状況を基に評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（動詞の意味と文法） 英語専門講読 a（動詞の意味と文法）	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。</p> <p>授業では、下記のテキストのはじめから 4 章の中ほどまでを読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は論述式の予定である。</p>		<p>進度の目安は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（出席は必須）</li> <li>2. Simple Present and Past Tenses 1</li> <li>3. Simple Present and Past Tenses 2</li> <li>4. Simple Present and Past Tenses 3</li> <li>5. Simple Present and Past Tenses 4</li> <li>6. Progressive Aspect 1</li> <li>7. Progressive Aspect 2</li> <li>8. Progressive Aspect 3</li> <li>9. Progressive Aspect 4</li> <li>10. The Expression of Past Time 1</li> <li>11. The Expression of Past Time 2</li> <li>12. The Expression of Past Time 3</li> <li>13. The Expression of Past Time 4</li> <li>14. The Expression of Future Time 1</li> <li>15. The Expression of Future Time 2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (3rd edition). 東京：ひつじ書房.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（動詞の意味と文法） 英語専門講読 b（動詞の意味と文法）	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。</p> <p>授業では、下記のテキストの 4 章の中ほどから終わりまでを読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は論述式の予定である。</p>		<p>進度の目安は次の通りである。題目は章のタイトルに対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Expression of Future Time 3</li> <li>2. The Expression of Future Time 4</li> <li>3. The Primary Modal Auxiliaries 1</li> <li>4. The Primary Modal Auxiliaries 2</li> <li>5. The Primary Modal Auxiliaries 3</li> <li>6. The Primary Modal Auxiliaries 4</li> <li>7. Modality Continued 1</li> <li>8. Modality Continued 2</li> <li>9. Modality Continued 3</li> <li>10. Modality Continued 4</li> <li>11. Indirect Speech 1</li> <li>12. Indirect Speech 2</li> <li>13. Indirect Speech 3</li> <li>14. Indirect Speech 4</li> <li>15. Mood: Theoretical and Hypothetical Meaning</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (3rd edition). 東京：ひつじ書房.		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Reading for Academic Purpose) 英語専門講読 a (Reading for Academic Purpose)	担当者	T. ホサイン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, students will improve their academic reading skills through study and discussion of articles on important issues mentioned in textbook. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. Students will also learn how to get the main points of the text quickly and effectively, without the need for translation into the native language. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. Students will also develop writing skills in English. In addition, students are required to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook. Students are expected to do 90 minutes homework on weekly		<b>授業内容 / contents(15 weeks)</b> 第 1 回 Course Orientation 第 2 回 Language and Learning: Part-1 第 3 回 Language and Learning: Part-2 第 4 回 Danger and Daring: Part 1 & Review test # 1 第 5 回 Danger and Daring: Part II 第 6 回 Gender and Relationships: Part-1 & Review test #2 第 7 回 Book Report 1 第 8 回 Gender and Relationships: Part-II 第 9 回 Beauty and Aesthetics: Part-1 & Review test #3 第 10 回 Beauty and Aesthetics: Part-II 第 11 回 Transitions: Part-1 & Review test # 4 第 12 回 Book Report 2 第 13 回 Transitions: Part-II 第 14 回 & Review test #5 and course review 第 15 回 Final Assessment  <i>The instructor has the right to amend the syllabus.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Mosaic 2 Reading (with CD) by Brenda Wegmann and Miki Knešević (McGraw-Hill) Articles will be provided in the classroom, if necessary		Class work/Midterm: 20 pts Vocabulary quiz: 10 pts Vocabulary notebook: 10 pts Book Report/ Presentations: 20 pts Final assessment: 40 pts	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Reading for Academic Purpose) 英語専門講読 b (Reading for Academic Purpose)	担当者	T. ホサイン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, students will develop their academic speaking, listening, reading, and writing skills. Activities will include listening lectures, taking structured notes, discussion, answering questions, and writing summaries. Students will also develop their communication skills through a variety of pair, group and class activities. Emphasis will be placed on developing a deep understanding of sentence and text structure, and also on micro- and macro-reading skills. They will also be encouraged to read related reading with the referred textbook to gain a deeper understanding of the covered topics. Students will also develop writing skills in English. In addition, students are required to master academic words including their meaning and collocations by studying the words from the textbook. Students are expected to do 90 minutes homework on weekly assignments.		<b>授業内容 / Contents(15 weeks)</b> 第 1 回 Course Orientation 第 2 回 The Mind: Part 1 第 3 回 The Tell-Tale Heart: Part II 第 4 回 Working: Part 1 & Review test # 1 第 5 回 Working: Part II 第 6 回 Breakthroughs: Part-1 & Review test #2 第 7 回 Book Report 1 第 8 回 Breakthroughs: Part-II 第 9 回 Art and Entertainment: Part-1 & Review test #3 第 10 回 Art and Entertainment: Part-II 第 11 回 Conflict and Reconciliation: Part-1 & Review test # 4 第 12 回 Book Report 2 第 13 回 Conflict and Reconciliation: Part-II 第 14 回 Review test #5 and course review 第 15 回 Final Assessment  <i>The instructor has the right to amend the schedule.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Mosaic 2 Reading (with CD) by Brenda Wegmann and Miki Knešević (McGraw-Hill) Articles will be provided in the classroom, if necessary.		Attendance: .....10 Class participation/note taking:..... 20 Homework/ Vocabulary.....10 Summary/report.....20 Midterm Assessment/Presentations.....15 Final Assessment/ Presentations..... 25	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（強制的異性愛社会からの脱出） 英語専門講読 a（強制的異性愛社会からの脱出）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは男女の恋愛こそ正しい結びつきだと迫ってくる「強制的異性愛社会」に生きています。日本で法的に結婚できるのは男女だけであり、バレンタインデーにチョコレートを贈るのも女性から男性へ、となっているように、慣習レベルでも男女の異性愛こそ自然で正しいものと刷り込まれる場面が多く存在しています。</p> <p>けれども海外では同性どうしの恋愛もかなり認められるようになったと聞きます。英語圏で言えば、カナダ、イギリス、アイルランド、オーストラリア、そしてアメリカのいくつかの州で、同性カップルにも男女の法律婚カップルと同じか、それに準じた権利が認められています。</p> <p>ここまでの変化を、人々はどう体験してきたのでしょうか。この授業では、イギリスとアメリカで書かれた20世紀以降の短編小説を手がかりとして、この問いについていっしょに考えます。春学期はゲイ男性たちのストーリーを、秋学期はレズビアン女性たちのストーリーを扱います。当事者たちの体験談や研究論文なども適宜取り上げます。</p> <p>授業の内容上、性的表現が含まれることがあります、了承のうえ受講してください。</p>		<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回～14回：担当者による発表と討論</p> <p>第15回：レポートの書き方の説明</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業でプリントを配布		発表、課題、最終レポートから総合的に評価 （ただし4回を越えての欠席は評価対象としない）	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（強制的異性愛社会からの脱出） 英語専門講読 b（強制的異性愛社会からの脱出）	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回～14回：担当者による発表と討論</p> <p>第15回：レポートの書き方の説明</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業でプリントを配布		発表、課題、最終レポートから総合的に評価 （ただし4回を越えての欠席は評価対象としない）	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (SLA 実証研究論文) 英語専門講読 a (SLA 実証研究論文)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】</p> <p>第二言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文を講読する。それにより SLA に関する知識を得るとともに、研究論文で用いられる英語表現を知ることが目的とする。加えて、複雑ではあっても論理的な研究デザインを読み解くために繰り返し対象論文を読み、ロジカルな思考の訓練、さらなる英語力増強をも目指していく。</p> <p>【概要】</p> <p>「人間はどのようにして自分の母語以外の言語（第二言語）を身に付けていくのか？」ということは、自身英語学習者であるわれわれにとって非常に身近なテーマである。また、より良い英語学習法・教育法を追い求めるなかで、教師や研究者たちはさまざまな「実証研究」を行っている。たとえば「A という教え方と B という教え方のどちらが効果的なのか?」、「日本人の英語語彙力を正確に測るテストはどのように作ったらよいのか?」といったものである。本授業では、そのような実証研究論文を講読する。さらに、それらの研究結果、方法論について批評・議論も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 実証研究とは何か</li> <li>2. 実証研究論文の一例</li> <li>3. 論文 (1) : 内容理解の確認</li> <li>4. 論文 (1) : 内容理解の確認</li> <li>5. 論文 (1) : ディスカッション</li> <li>6. 論文 (2) : 内容理解の確認</li> <li>7. 論文 (2) : 内容理解の確認</li> <li>8. 論文 (2) : ディスカッション</li> <li>9. 論文 (3) : 内容理解の確認</li> <li>10. 論文 (3) : 内容理解の確認</li> <li>11. 論文 (3) : ディスカッション</li> <li>12. 論文 (4) : 内容理解の確認</li> <li>13. 論文 (4) : 内容理解の確認</li> <li>14. 論文 (4) : ディスカッション</li> <li>15. 【まとめ】</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内で出版された、日本人英語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (SLA 実証研究論文) 英語専門講読 b (SLA 実証研究論文)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】</p> <p>春学期同様、SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を行う研究論文を講読する。</p> <p>秋学期は、より広い視野をもって SLA 研究を考えること、より洗練されかつ高度な英語を読むことを目指し、海外で出版された論文を講読する。</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 論文を読み、その内容について理解の確認を行う</li> <li>2) その研究結果、方法論について批評・議論を行う</li> <li>3) 議論をもとに、より良い研究方法を提案する</li> </ol> <p>秋学期はディスカッションとレポート作成を英語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 論文 (1) : 内容理解の確認</li> <li>3. 論文 (1) : 内容理解の確認</li> <li>4. 論文 (1) : 内容理解の確認</li> <li>5. 論文 (1) : ディスカッション</li> <li>6. 論文 (2) : 内容理解の確認</li> <li>7. 論文 (2) : 内容理解の確認</li> <li>8. 論文 (2) : 内容理解の確認</li> <li>9. 論文 (2) : ディスカッション</li> <li>10. 論文 (3) : 内容理解の確認</li> <li>11. 論文 (3) : 内容理解の確認</li> <li>12. 論文 (3) : 内容理解の確認</li> <li>13. 論文 (3) : ディスカッション</li> <li>14. 最終レポート練習</li> <li>15. 【まとめ】</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国外で出版された、第二言語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（アメリカの広告文化史研究 ①） 英語専門講読 a（アメリカの広告文化史研究 ①）	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、「世界を震撼させたアメリカの広告」の歴史を理解することによって、消費者としてではなく、文化研究者として広告をとらえ、私たちが生活する後期資本主義社会について批判的に考えていきます。</p> <p>授業形式は、グループ・ワークとグループ発表が中心となります。</p> <p>学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。</p> <p>使用するテキストは、初回の授業で共同購入申請ができるよう、現在、その手続き方法について検討中です。（もちろん各自で購入しても構いません。）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Overview</li> <li>2. Introduction</li> <li>3. P.T. Barnum</li> <li>4. Lydia E. Pinkham's Vegetable Compound</li> <li>5. Pears' Soap</li> <li>6. Pepsodent</li> <li>7. Listerine</li> <li>8. The Queensboro Corporation</li> <li>9. The Kid in Upper 4</li> <li>10. De Beers</li> <li>11. Coke and Christmas</li> <li>12. The Volkswagen Beetle</li> <li>13. Consultation</li> <li>14. Presentation 1</li> <li>15. Presentation 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
James B. Twitchell, <i>Twenty Ads That Shook the World</i> (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).		<p>①参加&amp;貢献度（発表や発言など）：50%（理由にかかわらず、5回以上の欠席で学期成績が F となります。）</p> <p>②クイズ：50%</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（アメリカの広告文化史研究 ②） 英語専門講読 b（アメリカの広告文化史研究 ②）	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期からの続きです。目的や授業形式は春学期と同じです。</p> <p>学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。</p> <p>12 月に 1 回、関連する映画のスクリーニングを行うため、昼休みからの授業参加が必要となる予定です。（詳細は学期中に事前連絡します。）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Overview</li> <li>2. Miss Clairol's "Does She ... or Doesn't She?"</li> <li>3. The Marlboro Man</li> <li>4. The Hathaway Man</li> <li>5. Anacin and the Unique Selling Proposal</li> <li>6. LBJ vs. Barry Goldwater</li> <li>7. She's Very Charlie</li> <li>8. Absolut</li> <li>9. Apple's 1984</li> <li>10. The Rise and Fall and Rise of the Infomercial</li> <li>11. Nike and Michael Jordan</li> <li>12. Our Life as Advertisement? Screening a Film</li> <li>13. Consultation</li> <li>14. Presentation 1</li> <li>15. Presentation 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
James B. Twitchell, <i>Twenty Ads That Shook the World</i> (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).		<p>①参加&amp;貢献度（発表や発言など）：50%（理由にかかわらず、5回以上の欠席で学期成績が F となります。）</p> <p>②クイズ：50%</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (米国の対外政策) 英語専門講読 a (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>米国の対外政策、特に日米関係及び米中関係について、その背景と現状を学ぶ。その理由は、グローバル化が進展する世界において、米国と中国は、日本にとってこれまで以上に重要な大国となるためである。本講義では、米国の視点からとらえた日米関係及び米中関係に関する知識を習得したのち、問題点を見つけ、解決策を模索することを試みる。</p> <p>講義の進め方は、毎回全員が要約を A4 で 1 枚程度にまとめて提出し、学生同士交換する。それを踏まえた上で、ディスカッションを行う。そのためには、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することも求められる。</p>		<p>第 1 週: Introduction (1) Japan-U.S. Relations 第 2 週: Most Recent Developments 第 3 週: March 2011 “Triple Disaster” 第 4 週: Major Diplomatic and Security Issues 第 5 週: Alliance Issues 第 6 週: Economic Issues 第 7 週: Japanese Politics (2) U.S.-China Relations: Policy Issues 第 8 週: Overview of U.S.-China Relations 第 9 週: Obama Administration Policy 第 10 週: Security Issues 第 11 週: Taiwan 第 12 週: Economic Issues 第 13 週: Climate Change and Clean Energy Cooperation 第 14 週: Human Rights Issues 第 15 週: 授業の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1) Japan-U.S. Relations: Issues for Congress 及び(2) U.S.-China Relations: Policy Issues を扱う。		出席点 (30%)、毎回の要約 (45%)、ディスカッションへの貢献度 (5%)、小テスト (20%) で評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (米国の対外政策) 英語専門講読 b (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語専門講読 I (米国の対外政策) で得た知識を前提に、米国の対外政策、特に日中関係及び中国の台頭が北東アジア諸国 (台湾、日本、韓国) にもたらす影響について学ぶ。春学期で学んだ、日米関係、米中関係と併せて、日本を取り巻く国際政治環境の総合的理解をめざす。</p> <p>講義の進め方は、毎回全員が要約を A4 で 1 枚程度にまとめて提出し、学生同士交換する。それを踏まえた上で、ディスカッションを行う。そのためには、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することも求められる。</p>		<p>第 1 週: Introduction (1) Sino-Japanese Relations: Issue for U.S. Policy 第 2 週: Introduction 第 3 週: Historical Background 第 4 週: Outline of Détente 2006 - Present 第 5 週: Japan-China Economic Ties 第 6 週: Potential Complications and Issues for the U.S. (2) The Rise of China and Its Effect on Taiwan, Japan, and South Korea: U.S. Policy Choices 第 7 週: Globalization and the Rise of China 第 8 週: Bilateral Relationships in Northeast Asia/ ①Beijing-Taipei 第 9 週: ②Beijing-Tokyo 第 10 週: ③Beijing-Seoul 第 11 週: Policy Discussion 第 12 週: Policy Choices for the United States 第 13 週: Policy Choices for Japan 第 14 週: Policy Choices for China 第 15 週: 授業の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
CRS の報告書、(1) Sino-Japanese Relations: Issue for U.S. Policy 及び(2) The Rise of China and Its Effect on Taiwan, Japan, and South Korea: U.S. Policy Choices を扱う。		出席点 (30%)、毎回の要約 (45%)、ディスカッションへの貢献度 (5%)、小テスト (20%) で評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む） 英語専門講読 a（アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(<i>The Grapes of Wrath</i>, 1939)、『エデンの東』(<i>The East of Eden</i>, 1952)の著者であり、1962 年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968) は、20 世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、寓話的中編『真珠』(<i>The Pearl</i>, 1947)を中心に彼の作品を扱ってゆく。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベックの他の作品と比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。</p> <p>授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介 2: 小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3: Introduction by Linda Wagner-Martin 読解 4: 同上 5: <i>The Pearl</i> の時代的文化的背景 6: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 1 7: 同上 8: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 2 9: 同上 10: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 3 11: 同上 12: Chapter 1~3 について詳細解説と問題提起 13: Chapter 1~3 について 学生発表 14: 同上 15: Review／期末レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：John Steinbeck, <i>The Pearl</i> (Penguin Classics)		出席（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む） 英語専門講読 b（アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、<i>The Pearl</i> を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。</p> <p>* 授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: 前期レポートについてグループ発表 2: 同上 3: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 4 4: 同上 5: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 5 6: 同上 7: <i>The Pearl</i> 読解 Chapter 6 8: 同上 9: Chapter 4~6 について詳細解説と問題提起 10: Chapter 4~6 について 学生発表 11: 同上 12: 関連資料 読解と考察 13: 同上 14: Review 15: 期末レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：John Steinbeck, <i>The Pearl</i> (Penguin Classics)		出席（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。	



06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（地球市民のためのフェアトレード入門） 英語専門講読 a（地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。</p> <p>大切なのは身の回りのことから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。</p> <p>授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について</li> <li>2. 教員によるレクチャー（予定）</li> <li>3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore?</li> <li>4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives</li> <li>5. Why is Fair Trade so popular?</li> <li>6. Fair Trade principles and practices</li> <li>7. Fair Trade histories</li> <li>8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』</li> <li>9. Yes, but does it work?</li> <li>10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary</li> <li>11. Will free trade ever be fair?</li> <li>12. The future of Fair Trade</li> <li>13. Daily life with Fair Trade</li> <li>14. 教員によるレクチャー（予定）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。		出席点、レジメ、プレゼン、期末レポート。	

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（地球市民のためのフェアトレード入門） 英語専門講読 b（地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。</p> <p>取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。</p>		<p>授業では、担当する学生がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをを行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
図書館の論文データベース、検索サービスを利用する。		出席点、レジメ、プレゼン、期末レポート。	



06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Brainstorming and topic selection</li> <li>3. Organization</li> <li>4. Collecting and synthesizing information</li> <li>5 Paragraph to short essay</li> <li>6. Descriptive essay</li> <li>7. Narrative essay</li> <li>8. Opinion essay</li> <li>9. Peer evaluation</li> <li>10. writing final draft</li> <li>11. Comparison and contrast essay</li> <li>12. Paraphrasing</li> <li>13. Bibliography</li> <li>14 In-text citations</li> <li>15. Final Examination</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook is to be announced		Evaluation will be based on attendance, assignments, and final examination.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to instruct the students on how to write a well-structured, well-organized, logical and convincing essay in English. The students will be required master the use the basic essay structure (i.e. an introduction, a clear and concise topic sentence, a body and conclusion) and to compose essays on a variety of topics.</p>		<p>In this course, we will focus mainly in essay structure, to compose well-organized, well-thought, persuasive essays. We will write on number of interesting topics of increasing complexity. We hope to have an interesting, useful and educational class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided by the instructor.		Attendance and the quality of the essays.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself.</p> <p>The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing.</p> <p>The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers.</p> <p>By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.</p>		<p>Week1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Analyzing sources</p> <p>Week 3: Prewriting activities</p> <p>Week 4: Brainstorming and narrowing the topic</p> <p>Week 5: Writing a thesis statement</p> <p>Week 6: Organizing ideas; writing task</p> <p>Week 7: Writing an essay outline</p> <p>Week 8: Revising the outline</p> <p>Week 9: Writing the draft</p> <p>Week 10: Quoting other sources; writing task</p> <p>Week 11: Using statistics; writing task</p> <p>Week 12: Revising and Editing</p> <p>Week 13: Final draft due</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Students will need an English-English dictionary</li> <li>Students will be required to have a notebook</li> </ul>		<p>Week1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Analyzing sources</p> <p>Week 3: Prewriting activities</p> <p>Week 4: Brainstorming and narrowing the topic</p> <p>Week 5: Writing a thesis statement</p> <p>Week 6: Organizing ideas; writing task</p> <p>Week 7: Writing an essay outline</p> <p>Week 8: Revising the outline</p> <p>Week 9: Writing the draft</p> <p>Week 10: Quoting other sources; writing task</p> <p>Week 11: Using statistics; writing task</p> <p>Week 12: Revising and Editing</p> <p>Week 13: Final draft due</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	D. H. ケネディ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester course to develop students' confidence and ability to write academic research papers in English. Students will approach this art experientially – by participating meaningfully within a real academic community. In the process, they will understand the relevance of doing primary and secondary research, as well the logic behind expressing their discoveries in an acceptable academic format. The course will culminate in a short research paper with proper citation.</p> <p>Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback.</p> <p>Students are expected to spend plenty of time outside class doing readings, responding to these readings in a casual written format, conducting research, and completing assignments with care. In class, students should be prepared to contribute and to engage with others in the exchange of ideas.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Discussions on first reading</li> <li>3. Discussions on second reading</li> <li>4. Discussions on third reading</li> <li>5. Explanation of primary research project</li> <li>6. Planning and preparation</li> <li>7. Planning and preparation</li> <li>8. Group presentations</li> <li>9. Explanation of secondary research paper</li> <li>10. Discovering the natural structure of research papers</li> <li>11. Introductions, thesis statements, plans</li> <li>12. Plagiarism and the importance of citations</li> <li>13. Peer and instructor consultations</li> <li>14. Research paper due</li> <li>15. Review and feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor. Students are expected to retain these materials until the end of the semester.		Students will be graded on the basis of attendance, preparation, participation, a group presentation, and a final research paper.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	D. H. ケネディ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester course to develop students' confidence and ability to write academic research papers in English. Students will approach this art experientially – by participating meaningfully within a real academic community. In the process, they will understand the relevance of doing primary and secondary research, as well the logic behind expressing their discoveries in an acceptable academic format. The course will culminate in a short research paper with proper citation.</p> <p>Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback.</p> <p>Students are expected to spend plenty of time outside class doing readings, responding to these readings in a casual written format, conducting research, and completing assignments with care. In class, students should be prepared to contribute and to engage with others in the exchange of ideas.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Discussions on first reading</li> <li>3. Discussions on second reading</li> <li>4. Discussions on third reading</li> <li>5. Explanation of primary research project</li> <li>6. Planning and preparation</li> <li>7. Planning and preparation</li> <li>8. Group presentations</li> <li>9. Explanation of secondary research paper</li> <li>10. Discovering the natural structure of research papers</li> <li>11. Introductions, thesis statements, plans</li> <li>12. Plagiarism and the importance of citations</li> <li>13. Peer and instructor consultations</li> <li>14. Research paper due</li> <li>15. Review and feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor. Students are expected to retain these materials until the end of the semester.		Students will be graded on the basis of attendance, preparation, participation, a group presentation, and a final research paper.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing (火 1) 英語エッセイ・ライティング a (火 1)	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
Learning to write in a foreign language takes time and effort, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in a written format in an academic environment. There will be a number of short assignments that students will resubmit after receiving feedback and one short final paper.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Review of writing basics 1</li> <li>3. Review of writing basics 2</li> <li>4. Critical reading</li> <li>5. Summary skills 1</li> <li>6. Summary skills 2</li> <li>7. Book reports</li> <li>8. Academic vocabulary</li> <li>9. Choosing a topic - Outlining</li> <li>10. Academic patterns</li> <li>11. Citations and references</li> <li>12. Introductions and conclusions</li> <li>13. Checking the first draft</li> <li>14. Sharing the final product</li> <li>15. Final paper submission and wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor Reference materials will be introduced during the course.		Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing (火 1) 英語エッセイ・ライティング b (火 1)	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice, the more enjoyable writing will become. There will be a number of short assignments designed to reinforce class content and to enable students to receive detailed feedback from the instructor. Students should resubmit these assignments because it is common practice in academic writing to revise drafts before final submission. Students will also write one short paper on a topic of their choice.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Writing workshop 1</li> <li>3. Writing workshop 2</li> <li>4. Library research skills</li> <li>5. Avoiding plagiarism 1 – summary and paraphrase</li> <li>6. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>7. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>8. Avoiding plagiarism 2 – citations and references</li> <li>9. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>10. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>11. Topics for the final paper</li> <li>12. Questionnaires, graphs and tables</li> <li>13. Checking the first draft</li> <li>14. Sharing the final product</li> <li>15. Final paper submission and wrap up</li> </ol> <p>This syllabus may be modified to better suit student needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
All materials will be provided by the instructor. Reference materials will be introduced during the course.		Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing (火 2) 英語エッセイ・ライティング a (火 2)	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is a designed to build on the writing skills acquired in the Basic Essay Writing course and to help students produce short but more academic pieces of writing. In this semester we will look again at the different types of essays that students can write, such as description, comparing and contrasting, or expressing and supporting opinions in English. We will look at how to gather information and ideas and making an outline in class before writing up the essay. At the end of the semester students will submit three revised essays as a final portfolio.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Review of academic writing basics 1</li> <li>3. Review of academic writing basics 2</li> <li>4. Description, process and narrative in academic writing</li> <li>5. Brainstorming, topic narrowing and essay outline</li> <li>6. How to support an opinion</li> <li>7. Brainstorming, topic narrowing and essay outline</li> <li>8. Comparison and contrast in academic writing</li> <li>9. Brainstorming, topic narrowing and essay outline</li> <li>10. Problem solving and discussion</li> <li>11. Brainstorming, topic narrowing and essay outline</li> <li>12. Writing a review</li> <li>13. Writing workshop – editing and common errors</li> <li>14. Writing workshop – acquiring academic vocabulary</li> <li>15. Portfolio submission and wrap up</li> </ol> <p>The content of this course may change slightly to suit the needs of the students..</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Prints will be supplied by the instructor Reference materials will be discussed on the first day of Class		In class participation 35%; Portfolio 65%	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing (火 2) 英語エッセイ・ライティング b (火 2)	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is a designed to build on the writing skills acquired in the Basic Essay Writing course and to help students produce short but more academic pieces of writing. In this semester we will look again at the different types of essays that students can write, such as description, comparing and contrasting, or expressing and supporting opinions in English. We will look at how to gather information and ideas and making an outline in class before writing up the essay. At the end of the semester students will submit three revised essays as a final portfolio.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Review of academic writing basics 1</li> <li>3. Review of academic writing basics 2</li> <li>4. Description, process and narrative in academic writing</li> <li>5. Brainstorming, topic narrowing and essay outline</li> <li>6. How to support an opinion</li> <li>7. Brainstorming, topic narrowing and essay outline</li> <li>8. Comparison and contrast in academic writing</li> <li>9. Brainstorming, topic narrowing and essay outline</li> <li>10. Problem solving</li> <li>11. Brainstorming, topic narrowing and essay outline</li> <li>12. Writing a review</li> <li>13. Writing workshop – editing and common errors</li> <li>14. Writing workshop – acquiring academic vocabulary</li> <li>15. Portfolio submission and wrap up</li> </ol> <p>The content of this course may change slightly to suit the needs of the students..</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Prints will be supplied by the instructor Reference materials will be discussed on the first day of Class		In class participation 35%; Portfolio 65%	



06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and narrowing a topic Week 3 The five-paragraph essay Week 4 Outlining Week 5 Introductions and conclusions Week 6 Quoting sources Week 7 Choosing a project Week 8 Describing a process Week 9 Cause and effect essay Week 10 Expressing opinions Week 11 Expressing opinions Week 12 Classifying information Week 13 Writing a reaction Week 14 Editing your essay Week 15 Timed essay	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: Summarizing</p> <p>Week 3: Summary Workshop</p> <p>Week 4: Responding</p> <p>Week 5: Responding</p> <p>Week 6: Response Workshop</p> <p>Week 7: Textual Analysis</p> <p>Week 8: Textual Analysis</p> <p>Week 9: Textual Analysis Workshop</p> <p>Week 10: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 11: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 12: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 13: Comparison &amp; Contrast Workshop</p> <p>Week 14: Final Workshop</p> <p>Week 15: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.		Grades will be based on participation and written assignments.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: Cause &amp; Effect</p> <p>Week 3: Cause &amp; Effect</p> <p>Week 4: Cause &amp; Effect Workshop</p> <p>Week 5: Cause &amp; Effect Workshop</p> <p>Week 6: Research Skills</p> <p>Week 7: Documentation &amp; Plagiarism</p> <p>Week 8: Evaluating Sources</p> <p>Week 9: Problem Solving</p> <p>Week 10: Problem Solving</p> <p>Week 11: Problem Solving</p> <p>Week 12: Problem Solving Workshop</p> <p>Week 13: Problem Solving Workshop</p> <p>Week 14: Review</p> <p>Week 15: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary to class each week.		Grades will be determined based on participation and written assignments.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
To Be Announced.		To Be Announced.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced.		To Be Announced.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This positive and active class is for students who are serious about improving their academic writing skills. The lessons will progress step by step allowing the students to improve their essay writing skills.</p> <p>In addition to essay writing, the class will contain many opportunities to debate and discuss important social and world issues.</p> <p>Students who study hard will be able to improve their writing and debating skills. In addition, it is hoped that the students will be able to increase their vocabulary levels.</p> <p>Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English.</p>		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics.  Week 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics  Week 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics.  Week 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics.  Week 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics.  Week 11 - 14, Other important points in essay writing. Discussion topics.  Week 15 - Final assessments.</p> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This positive and active class is for students who are serious about improving their academic writing skills. The lessons will progress step by step allowing the students to improve their essay writing skills.</p> <p>In addition to essay writing, the class will contain many opportunities to debate and discuss important social and world issues.</p> <p>Students who study hard will be able to improve their writing and debating skills. In addition, it is hoped that the students will be able to increase their vocabulary levels.</p> <p>Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English.</p>		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics.  Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics.  Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics.  Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics.  Weeks 11 -14, Editing your writing. Discussion topics.  Week 15 Final assessments.</p> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation with explanation of grading system and student requirements.</li> <li>2. In-class diagnostic writing and Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2: Review of paragraph basics.</li> <li>4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2.</li> <li>5. Chapter 3. Revising and editing.</li> <li>6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook.</li> <li>7. Chapter 4: The five-paragraph essay.</li> <li>8. The process essay.</li> <li>9. The division and classification essay.</li> <li>10. In-class timed division and classification essay.</li> <li>11. Causes and effects essay.</li> <li>12. Finish chapter 7</li> <li>13. The comparison/contrast essay</li> <li>14. Problem – Solution Essays</li> <li>15. Final in-class essay.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Title: <i>Ready To Write 3</i> Author: Blanchard and Root Publisher: Pearson/Longman		Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays..	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation with explanation of grading system and student requirements.</li> <li>2. In-class diagnostic writing and Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2: Review of paragraph basics.</li> <li>4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2.</li> <li>5. Chapter 3. Revising and editing.</li> <li>6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook.</li> <li>7. Chapter 4: The five-paragraph essay.</li> <li>8. The process essay.</li> <li>9. The division and classification essay.</li> <li>10. In-class timed division and classification essay.</li> <li>11. Causes and effects essay.</li> <li>12. Finish chapter 7</li> <li>13. The comparison/contrast essay.</li> <li>14. Problem – Solution Essays</li> <li>15. Final in-class essay.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Title: <i>Ready To Write 3</i> Author: Blanchard and Root Publisher: Pearson/Longman		Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to learn to:</p> <p>a) write grammatically-correct English sentences;</p> <p>b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an <i>International</i> point of view;</p> <p>d) (depending on student abilities &amp; desires) research and write compositions about Academic (university level) topics; and</p> <p>e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Writing about your part-time job.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to international communication)</i>. English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to correct English grammar and sentences.)</p> <p>Week 3: Writing about your (future) <b>plans for Golden Week</b> (including elaborating (explaining) about your plans.</p> <p>Week 4: "<b>How was your Golden Week?</b>" writing about what you did, during Golden Week. English re-writing exercises. Continuous assessments.</p> <p>Week 5: Finishing &amp; re-drafting compositions about pre- and post-Golden Week activities. Continuous assessment.</p> <p>Week 6: Writing and explaining about your plans for <b>Mother's Day</b>. Writing about your mother...in <b>English paragraph format</b></p> <p>Week 7: Re-drafting and completing compositions re: Mother's Day. Continuous assessment.</p> <p>Week 8: <b>Writing to express your opinions</b>, part one: "How do you feel about ____?" &amp; "What do you think of ____?" [Discussion and writing about News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 9: Writing to expressing your opinions, part two. Ongoing assessments. Re-writing exercises. Continuous assessment.</p> <p>Week 10: Writing (and talking) about your <b>hobbies</b>, with elaboration thereof.</p> <p>Week 11: Finalizing compositions re: hobbies (with elaboration). Optionally: <i>perhaps</i> student research/writing/discussion about a variety of themes which are of students interest, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Continuous assessment.</p> <p>Week 12: "<b>What kind of ____ do you like?</b>" Discussing and writing about <b>music, movies, magazines, TV shows, books, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance.</p> <p>Week 13: International News exercise, and/or video exercise, with writing &amp; discussion about that. Re-writing exercises.</p> <p>Week 14: Second drafts of composition re: current News topic and/or video. Ongoing assessment of students.</p> <p>Week 15: Writing, discussing, and elaborating about plans for the <b>Summer Break</b>. Final opportunity to submit final drafts of all compositions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles; Internet research; some songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>write/speak/elaborate</b> (explain)/<b>communicate</b> in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 25%); class participation (20%); compositions (including several 'draft' versions) (40%); and attendance (15%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes</b>, for <b>any</b> reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course (One late = 1/2 absence)</b>;</p> <p>c) if you are late/absent, and somehow miss submitting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, <u>before</u> the deadline. <u>Late submissions will not be accepted.</u></p>	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to learn to:</p> <p>a) write grammatically-correct English sentences;</p> <p>b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an <i>International</i> point of view;</p> <p>d) (depending on student abilities &amp; desires) research and write compositions about Academic (university level) topics; and</p> <p>e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Discussing/communicating/writing/elaborating about your <b>Summer Break</b>, using correct modern English. Sentence re-writing exercises.</p> <p>Week 2: Finishing &amp; re-drafting the composition, re: Summer Break. Continuous assessment.</p> <p>Week 3: "<b>What do you usually do ...?</b>" discussing, communicating, and writing about <b>your usual activities</b> on holidays/weekends/weeknights, English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to grammatically- &amp; culturally-correct English sentences.)</p> <p>Week 4: "What do you usually do...?", part two. (A News topic of current interest might be chosen, instead, for students to write opinions about.) Perhaps selection of a research topic for an Academic essay. Ongoing assessments.</p> <p>Week 5: <b>Hallowe'en</b>: researching, discussing, and writing about this international 'festival'. Parts of a Hallowe'en video might be shown, to stimulate the imagination.</p> <p>Week 6: "<b>If you went to a Hallowe'en party, what would you dress up as?</b>" using your imaginative abilities to write about a possible Hallowe'en costume, and about what you would do at such a party. Re-writing exercises.</p> <p>Week 7: Research, discussion, and writing about <b>Thanksgiving</b>. (A Song-listening exercise may be used, to stimulate discussion &amp; writing.). Writing to answer the question, "<b>What are you thankful for?</b>"</p> <p>Week 8: Thanksgiving, part two: continuing to write (&amp; re-draft) a composition about what you are thankful for. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Christmas writing &amp; discussion--perhaps involving research about Christmas in various countries. (Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities.) Continuous assessments.</p> <p>Week 10: Finishing/Re-drafting Christmas compositions. Sentence re-writing exercises.</p> <p>Week 11: "<b>What are your plans for Christmas?</b>" discussing and writing about student plans for Christmas.(A Christmas song exercise may be introduced, in order to stimulate thinking/discussion/writing.) Re-writing exercises.</p> <p>Week 12: Writing about Christmas plans, part two (final drafts re: Christmas plans). Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities. Continuous assessments.</p> <p>Week 13: Discussion &amp; writing about "<b>How was your O Sho Gatau?</b>". Ongoing student assessment..</p> <p>Week 14: Discussing and writing about "<b>New Year's Resolutions</b>". Continuous assessment.</p> <p>Week 15: Final drafts, re: <i>specific</i> New Year's Resolutions. Continuous assessment, and submission of final drafts of all compositions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles; Internet research; some songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>write/speak/elaborate</b> (explain)/<b>communicate</b> in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 25%); class participation (20%); compositions (including several 'draft' versions) (40%); and attendance (15%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes</b>, for <b>any</b> reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course (One late = 1/2 absence)</b>;</p> <p>c) if you are late/absent, and somehow miss submitting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, <u>before</u> the deadline. <u>Late submissions will not be accepted.</u></p>	



06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to improve and refine academic writing skills. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement, in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life.</p> <p>Students will evaluate basic writing structures, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, Etymology and referencing in order to synthesize information to produce clear and coherent discourse.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start writing topic # 1</p> <p>Week 2: Writing Topic # 2</p> <p>Week 3: Writing Topic # 3</p> <p>Week 4: Writing Topic # 4</p> <p>Week 5: Writing Topic # 5</p> <p>Week 6: Writing Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Writing Topic # 7</p> <p>Week 9: Writing Topic # 8</p> <p>Week 10: Writing Topic # 9</p> <p>Week 11: Writing Topic # 10</p> <p>Week 12: Writing Topic # 11</p> <p>Week 13: Writing Topic # 12</p> <p>Week 14: Writing Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		Attendance, weekly exercises, quizzes, participation, class writing activities and writing of a number of papers.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to improve and refine academic writing skills. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement, in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life.</p> <p>Students will evaluate basic writing structures, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, Etymology and referencing in order to synthesize information to produce clear and coherent discourse.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start writing topic # 1</p> <p>Week 2: Writing Topic # 2</p> <p>Week 3: Writing Topic # 3</p> <p>Week 4: Writing Topic # 4</p> <p>Week 5: Writing Topic # 5</p> <p>Week 6: Writing Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Writing Topic # 7</p> <p>Week 9: Writing Topic # 8</p> <p>Week 10: Writing Topic # 9</p> <p>Week 11: Writing Topic # 10</p> <p>Week 12: Writing Topic # 11</p> <p>Week 13: Writing Topic # 12</p> <p>Week 14: Writing Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		Attendance, weekly exercises, quizzes, participation, class writing activities and writing of a number of papers.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	佐原 彩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, the students will learn how to write academic essays in English. The aim of the class is to write an organized research paper in English (1000-1300 words). To reach this goal, the student will be taught how to write thesis statement, show evidences and cite sources. This is a process to learn how to develop ideas into academic essay topics.</p> <p>Students are expected to turn in a couple of drafts before the final draft. To produce an English academic essay, students need to do some research, write drafts and revise them.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Choosing a topic</li> <li>3. Research skills (citation format, quotation, plagiarism)</li> <li>4. Analyzing research findings</li> <li>5. Writing a thesis statement</li> <li>6. Writing outline (flow of argument)</li> <li>7. Writing a first draft</li> <li>8. Revising organization (overall argument, each paragraph)</li> <li>9. Revising thesis statement</li> <li>10. Writing the second draft</li> <li>11. Peer evaluation</li> <li>12. Revising and editing the second draft</li> <li>13. Writing the final draft</li> <li>14. Peer evaluation</li> <li>15. Feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Writing Academic English Level 4</i> (Hogue & Oshima, Pearson Education)		Attendance & participation 25%, Each draft 25% (75%). Instruction will be given on the first day of the class.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	佐原 彩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, the students will learn how to write academic essays in English. The aim of the class is to write an organized research paper in English (1000-1300 words). To reach this goal, the student will be taught how to write thesis statement, show evidences and cite sources. This is a process to learn how to develop ideas into academic essay topics.</p> <p>Students are expected to turn in a couple of drafts before the final draft. To produce an English academic essay, students need to do some research, write drafts and revise them.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Choosing a topic</li> <li>3. Research skills (citation format, quotation, plagiarism)</li> <li>4. Analyzing research findings</li> <li>5. Writing a thesis statement</li> <li>6. Writing outline (flow of argument)</li> <li>7. Writing a first draft</li> <li>8. Revising organization (overall argument, each paragraph)</li> <li>9. Revising thesis statement</li> <li>10. Writing the second draft</li> <li>11. Peer evaluation</li> <li>12. Revising and editing the second draft</li> <li>13. Writing the final draft</li> <li>14. Peer evaluation</li> <li>15. Feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Writing Academic English Level 4</i> (Hogue & Oshima, Pearson Education)		Attendance & participation 25%, Each draft 25% (75%). Instruction will be given on the first day of the class.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay.</p> <p>The 1000-word essay is on an academic topic of each student's choosing. It will incorporate researched sources, using paraphrases/summaries and quotations.</p> <p>This assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Review of essay structure/ Analyzing model essays</li> <li>3. Analyzing introductions and thesis statements</li> <li>4. Brainstorming/ Outlining</li> <li>5. Analyzing logical body paragraph structure</li> <li>6. Finding sources</li> <li>7. Finding sources</li> <li>8. Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>9. Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>10. Revision/Editing of body paragraphs</li> <li>11. Analyzing concluding paragraphs</li> <li>12. Revision and editing checklists</li> <li>13. Peer review of latest draft</li> <li>14. Final essay submission/Course review test</li> <li>15. Return of essays/Self-reflection</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Grades are based on attendance, submissions of work in progress, final writing assignment.	

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this one-semester Academic Writing course students develop their ability to write an essay that has logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in an argumentative style essay.</p> <p>The 1000-word essay is on an academic topic of each student's choosing. It will incorporate researched sources, using paraphrases/summaries and quotations.</p> <p>This assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Review of essay structure/ Analyzing model essays</li> <li>3. Analyzing introductions and thesis statements</li> <li>4. Brainstorming/ Outlining</li> <li>5. Analyzing logical body paragraph structure</li> <li>6. Finding sources</li> <li>7. Finding sources</li> <li>8. Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>9. Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>10. Revision/Editing of body paragraphs</li> <li>11. Analyzing concluding paragraphs</li> <li>12. Revision and editing checklists</li> <li>13. Peer review of latest draft</li> <li>14. Final essay submission/Course review test</li> <li>15. Return of essays/Self-reflection</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required for this course.		Grades are based on attendance, submissions of work in progress, final writing assignment.	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らかにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。</p> <p>翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。</p> <p>授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p> <p>コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について 第2回 翻訳の難しさと面白さについて 第3回 機械翻訳の可能性について 第4回 翻訳の実例比較検討 第5回 復習テスト 第6～14回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第2回日英および英日翻訳の実例検討 その1 第3回日英および英日翻訳の実例検討 その2 第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第7回復習テスト 第8～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション 第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。</p> <p>問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉え、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、考慮すべき問題はかわってきますので、そこにも注目していきます。また後半にはグループでミニ翻訳プロジェクトに取り組んでもらいます。</p> <p>受講生に求める英語力のレベル： <i>Guardian</i> 紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。（時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません）そこに達していない学生は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。</p>		<p>*授業はひとつの教材について次の流れで行う。 教材の紹介（授業）→教材を読んで不明点を洗い出す＋翻訳開始（課題）→不明点を解決する（授業）→訳了＋提出（課題）→添削＋解説（授業）。</p> <p>*15 回の授業は原則として以下のとおりにすすめる。紙幅の都合によりここに提示できない詳細については一回目の授業で説明する。</p> <p>_____15 回の授業は以下のとおり_____</p> <p>1. 導入とトライアル（短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う）＋教材 1 の紹介 2～10. 教材 1－8 までを上記のプロセスで訳了。 （第 2 回めの半分は図書館で辞書・事典の紹介を行う。適切なところで、11 回目以降のプロジェクトについての解説と下準備を行う。） 11～15. グループ・プロジェクト （邦訳されていない本を選び、一冊読了したうえで、最初の章、あるいは数頁を翻訳し、その本の書評の翻訳と、自分たちで作成した本の紹介文とともに提出。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1 回から 10 回までは、ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用する。また、講師が実際に仕事としてやってきた業務翻訳から文学作品まで、翻訳の実際のプロセスも提示する。11 回以降のプロジェクト用には、自分が選んだ本を購入していただく。対象テキストは散文とする。辞書や参考書については、授業内で指示する。</p>		<p>出席 20% 教材 1～8 までの提出物の評価 50% グループ・プロジェクトの評価 30%</p>	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳するといっても英語から日本語への翻訳である。その中でも扱うことの少ない英詩の翻訳をするのが目的である。とはいってもいきなり本格的な詩の訳は難しいので、入門と銘うって、易しい詩の翻訳を心掛ける。初めに詩の成り立ち、形などについて説明し、右に示したポップスの歌詞や比較的易しい詩の翻訳を心掛ける。</p>		<p>1. ガイダンス、A. 詩の形について、B. 授業の進め方 2~14 実践 eg. “Masachusetts”, “Release Me”, “Green, Green, Grass of Home”, “Vacation”, “Mona Lisa” 他、Walter de la Mare(1873-1956), Emily Dickinson(1830-86)など比較的易しい詩を選んでそれぞれ若干ずつ翻訳してもらう予定。 15. 総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布。参考文献：阿部公彦『英詩のわかり方』 研究社 2007</p>		<p>1. 平常の参加具合を態度価値として一定の評価をする。 2. テストを課す。詳細は追って説明する。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	翻訳（木 3） 翻訳 a（木 3）	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 01 番から 25 番を扱います。</p>		<p>1 翻訳という仕事① 2 試練に立つ文明 3 文体論 4 技師の親指 5 過激の効用 6 神経質な私 7 独立独歩 8 詩人の感性 9 文化伝達の経路 10 旅の楽しみ 11 興味をもつこと 12 食べ物の話題 13 余暇の過ごし方 14 自分の基準をもって 15 翻訳のための文法①</p> <p>*各回、他に 1 題を扱います</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』（青弓社、2012 年）。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳（木 3） 翻訳 b（木 3）	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋学期は 26 番から 50 番を扱います。</p>		<p>1 翻訳という仕事② 2 集団と個人 3 編集者の誇り 4 歴史が証明するもの 5 親であるよろこび 6 隣人について 7 民主主義国家の政治 8 イギリスの官界の習い 9 あるがままの人生 10 赤ずきんのお話 11 人から尊敬をうけるには 12 話すことと書くこと 13 日本人論 14 都市問題 15 翻訳のための文法②</p> <p>*各回とも上記ほか 1 編を扱う</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』（青弓社、2012 年）。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

06年度以降 03年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳するためには、テキストにどっぷり浸かり込んで、他者のなかに入り込み、声に耳を澄ませ、沢山ある可能性のなかから選択し削り取り、懇切丁寧に別の言語に変えていくという必要があります。翻訳は、自分を表現する場、というよりは、愛情持ってテキストの内容を伝える場、となるのかもしれません。</p> <p>この授業では、名訳と評される翻訳文と英文を照らし合わせて検証、実際自分で訳し提出、授業内で訳の過程と結果を発表、グループで訳を作成等、行っていきます。</p> <p>翻訳とは「もっとも効率の悪い読書」であり、「何かを真剣に学びとろうという作業」。そして翻訳者にとって一番必要なのは「偏見ある愛情」で、「悲観的な人には翻訳なんてできない」。村上春樹はこう表現しました。「翻訳」の好きな方、どうぞお待ちしております。</p>		<p>1. ガイダンス 2-14 演習 15. 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：初回の授業で指示します。		<p>※ 授業参加度、提出物、発表などを総合的に評価します。 ※ 遅刻3回（30分以内）で1回の欠席とみなします。 欠席5回した時点で単位取得が不可能となります。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳（木 4） 翻訳 a（木 4）	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。</p> <p>木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。</p> <p>秋学期同時限(木 4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。</p>		1、英語の規則 ① 2、児童文学「幸福の王子」Ⅰ 3、児童文学「幸福の王子」Ⅱ 4、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅰ 5、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅱ 6、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ 7、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ 8、子供百科「フクロウの目」 9、子供百科「恐竜」 10、子供百科「宇宙」 11、ミュージカル「オクラホマ」 12、詩「虹の歌」 13、小説「マダム・ロゼット」 14、歴史「トロイ戦争」 15、歴史「ミノタウロス」	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』（青弓社、2012 年）。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、を見ます。	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳（木 4） 翻訳 b（木 4）	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600 ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。</p> <p>木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。</p> <p>抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。</p>		1、英語の規則② 2、音楽「スライ・ストーン」 3、ロマンス小説「サラの冒険」 4、ロマンス小説「サラの冒険」(続き) 5、評論「日本人」 6、文学「二都物語」 7、評伝「吉田寅次郎」 8、評伝「吉田寅次郎」(続き) 9、ジャック・ニコラウス自伝 10、精神世界「ミーガンの奇跡」 11、歴史「ギロチン」 12、短編小説「悲劇のはじまり」① 13、短編小説「悲劇のはじまり」② 14、短編小説「悲劇のはじまり」③ 15、短編小説「悲劇のはじまり」④	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』（青弓社、2012 年）。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、を見ます。	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 原文の言葉を置き換えるのではなく、内容を厳密に読み取り、意味と形式の両面を考えて等価の訳文を作るのが翻訳です。このクラスでは、翻訳と英文和訳はどう違うのか、翻訳をするとはどういうことかを学び、実践の場で役に立つ基礎的なスキルを身につけます。</p> <p><b>講義概要</b> 演習を中心に、名訳の解析・訳文の比較、グループ・ディスカッションや発表を通じ、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2 翻訳とは</li> <li>3 翻訳の考え方</li> <li>4. 翻訳の方法</li> <li>5. 翻訳演習(1)</li> <li>6. 翻訳演習(2)</li> <li>7. 翻訳演習(3)</li> <li>8. 翻訳演習(4)</li> <li>9. 翻訳演習(5)</li> <li>10 翻訳演習(6)</li> <li>11. 翻訳演習(7)</li> <li>12. 翻訳演習(8)</li> <li>13. 翻訳演習(9)</li> <li>14. 翻訳演習(10)</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>予定している内容は適宜必要に応じテーマを差し替えることもあります。辞書は毎回必ず持参してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：適宜プリントを配布する。		出席回数、授業への参加態度、課題の取り組みを総合的に評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 春学期に引き続き、翻訳をするための基本姿勢を学び、実践の場で応用できるように翻訳の基礎的なスキルを身につけます。</p> <p><b>講義概要</b> 詳しい内容は第 1 回の授業で説明します。春学期同様、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていきます。訳文の発表やグループ・ディスカッションも行ってもらいますので、積極的に授業に参加する姿勢が求められます。</p>		<p>第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 翻訳演習 第 15 回 総括</p> <p>毎回必ず辞書を持参してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：適宜プリントを配布する。		出席回数、授業への参加態度、課題の取り組みを総合的に評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	山中 章子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。</p> <p>翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。</p> <p>授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。</p> <p>本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。</p> <p>なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 演習 15. 講義のまとめ</p> <p>進度は遅いかもかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Sudden Fiction (Continued)</i> . R. Shapard and J. Thomas eds. New York: Norton, 1996. Aimee Bender. <i>Willful Creatures</i> . New York: Anchor Books, 2005. などを使用。必要箇所のコピーを配布します。		授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	山中 章子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。</p> <p>翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。</p> <p>授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。</p> <p>本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。</p> <p>なお、履修登録のみの幽霊学生を予防するため、初回の授業に出席することを履修の条件とします。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 演習 15. 講義のまとめ</p> <p>進度は遅いかもかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Sudden Fiction (Continued)</i> . R. Shapard and J. Thomas eds. New York: Norton, 1996. Aimee Bender. <i>Willful Creatures</i> . New York: Anchor Books, 2005. などを使用。必要箇所のコピーを配布します。		授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from English to Japanese</u>. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include <u>poems</u> (by Robert Frost, et al.), <u>novels</u> (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) <u>newspaper and magazine articles</u> (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with Western (Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1.1 Introduction 1.2 Document #1 1.3 Document #2 1.4 Document #3 1.5 Document #4 1.6 Document #5 1.7 Document #6 1.8 Document #7 1.9 Document #8 1.10 Document #9 1.11 Document #10 1.12 Document #11 1.13 Document #12 1.14/15 Final Examination and Self-Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Class participation 25%, Homework 25%, Final examination and self-evaluation 25%	

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from Japanese to English</u>. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include <u>English translations of novels and essays by famous Japanese authors</u> (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with <u>movies</u> based on those authors's works, and Japanese <u>animated features</u> (looking at the English and Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		2.1 Introduction 2.2 Author #1 2.3 Author #2 2.4 Author #3 2.5 Author #4 2.6 Author #5 2.7 Author #6 2.8 Author #7 2.9 Author #8 2.10 Author #9 2.11 Author #10 2.12 Author #11 2.13 Author #12 2.14/15 Final Examination and Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Class participation 25%, Homework 25%, Final examination and self-evaluation 25%	



06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (月 4) カレッジ・グラマー b (月 4)	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ(授業計画2~4参照)。次に、各構文について学ぶ(授業計画5~14参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 時制</li> <li>3. 呼応と時制の一致 (1)</li> <li>4. 呼応と時制の一致 (2)</li> <li>5. 態</li> <li>6. 仮定法</li> <li>7. 不定詞</li> <li>8. 分詞</li> <li>9. 動名詞</li> <li>10. 関係代名詞 (1)</li> <li>11. 関係代名詞 (2)</li> <li>12. 関係副詞</li> <li>13. 比較</li> <li>14. 否定</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧(改訂版)』開拓社</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (月 5) カレッジ・グラマー a (月 5)	担当者	長南 一豪
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。その際、講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるのではなく、意味や用例を自分の手で調べ、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。</p> <p>受講者は、テキストの内容についてきちんと予習し、講師の質問に対して答えられるようにしておくことが求められます。また、学期中に、テキストや講義の内容について 5 回程度の簡単なレポートが課されます。</p> <p>春学期は、語や句に関する内容が中心となります。</p> <p>知識としての英文法ではなく、言葉について考えることの面白さをお伝えしたいと思いますので、英語学・言語学に関心のある学生の受講を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のイントロダクション</li> <li>2. 1 章：英文法の概観</li> <li>3. 2 章：語の構造と語形成(1)</li> <li>4. 2 章：語の構造と語形成(2)</li> <li>5. 3 章：品詞と単純な句(1)</li> <li>6. 3 章：品詞と単純な句(2)</li> <li>7. 3 章：品詞と単純な句(3)</li> <li>8. 3 章：品詞と単純な句(4)</li> <li>9. 4 章：文法機能・意味役割・樹形図(1)</li> <li>10. 4 章：文法機能・意味役割・樹形図(2)</li> <li>11. 4 章：文法機能・意味役割・樹形図(3)</li> <li>12. 5 章：複雑な句と等位接続(1)</li> <li>13. 5 章：複雑な句と等位接続(2)</li> <li>14. 5 章：複雑な句と等位接続(3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Bas Aarts (2011), <i>Oxford Modern English Grammar</i> , Oxford. (一括注文し、実費で頒布。2100 円程度)		期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (月 5) カレッジ・グラマー b (月 5)	担当者	長南 一豪
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。その際、講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるのではなく、意味や用例を自分の手で調べ、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。</p> <p>受講者は、テキストの内容についてきちんと予習し、講師の質問に対して答えられるようにしておくことが求められます。また、学期中に、テキストや講義の内容について 5 回程度の簡単なレポートが課されます。</p> <p>秋学期は、文や節に関する内容が中心となります。</p> <p>知識としての英文法ではなく、言葉について考えることの面白さをお伝えしたいと思いますので、英語学・言語学に関心のある学生の受講を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習</li> <li>2. 6 章：節の種類と否定</li> <li>3. 7 章：定形従属節(1)</li> <li>4. 7 章：定形従属節(2)</li> <li>5. 8 章：非定形節と動詞のない節(1)</li> <li>6. 8 章：非定形節と動詞のない節(2)</li> <li>7. 8 章：非定形節と動詞のない節(3)</li> <li>8. 9 章：時制と相(1)</li> <li>9. 9 章：時制と相(2)</li> <li>10. 10 章：法(1)</li> <li>11. 10 章：法(2)</li> <li>12. 10 章：法(3)</li> <li>13. 11 章：情報構造(1)</li> <li>14. 11 章：情報構造(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Bas Aarts (2011), <i>Oxford Modern English Grammar</i> , Oxford. (一括注文し、実費で頒布。2100 円程度)		期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（水 3） カレッジ・グラマー a（水 3）	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画2~6参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画7~14参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 文</li> <li>3. 主部・文型</li> <li>4. 述語動詞 I</li> <li>5. 述語動詞 II</li> <li>6. 文の種類・8 品詞</li> <li>7. 名詞</li> <li>8. 代名詞</li> <li>9. 形容詞</li> <li>10. 冠詞</li> <li>11. 副詞・動詞</li> <li>12. 助動詞</li> <li>13. 接続詞</li> <li>14. 前置詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：安井稔（1986）<i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社</p>		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（水 3） カレッジ・グラマー b（水 3）	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ（授業計画2~4参照）。次に、各構文について学ぶ（授業計画5~14参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 時制</li> <li>3. 呼応と時制の一致（1）</li> <li>4. 呼応と時制の一致（2）</li> <li>5. 態</li> <li>6. 仮定法</li> <li>7. 不定詞</li> <li>8. 分詞</li> <li>9. 動名詞</li> <li>10. 関係代名詞（1）</li> <li>11. 関係代名詞（2）</li> <li>12. 関係副詞</li> <li>13. 比較</li> <li>14. 否定</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：安井稔（1986）<i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社</p>		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。	

06年度以降 03年度以降	College Grammar（水4） カレッジ・グラマー a（水4）	担当者	韮江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画2~6参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画7~14参照）。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。</p> <p>なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 文</li> <li>3. 主部・文型</li> <li>4. 述語動詞Ⅰ</li> <li>5. 述語動詞Ⅱ</li> <li>6. 文の種類・8品詞</li> <li>7. 名詞</li> <li>8. 代名詞</li> <li>9. 形容詞</li> <li>10. 冠詞</li> <li>11. 副詞・動詞</li> <li>12. 助動詞</li> <li>13. 接続詞</li> <li>14. 前置詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：安井稔（1986）<i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社</p> <p>参考文献：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』開拓社</p>		<p>出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (水 4) カレッジ・グラマー a (水 4)	担当者	長南 一豪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。その際、講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるのではなく、意味や用例を自分の手で調べ、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。</p> <p>受講者は、テキストの内容についてきちんと予習し、講師の質問に対して答えられるようにしておくことが求められます。また、学期中に、章末の練習問題や講義の内容について 5 回程度の簡単なレポートが課されます。</p> <p>春学期は、語や句に関する内容が中心となります。</p> <p>知識としての英文法ではなく、言葉について考えることの面白さをお伝えしたいと思いますので、英語学・言語学に関心のある学生の受講を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のイントロダクション</li> <li>2. 1 章：イントロダクション</li> <li>3. 2 章：概観</li> <li>4. 3 章：動詞と時制・相・法(1)</li> <li>5. 3 章：動詞と時制・相・法(2)</li> <li>6. 3 章：動詞と時制・相・法(3)</li> <li>7. 4 章：節の構造と補部・付加部(1)</li> <li>8. 4 章：節の構造と補部・付加部(2)</li> <li>9. 5 章：名詞と名詞句(1)</li> <li>10. 5 章：名詞と名詞句(2)</li> <li>11. 5 章：名詞と名詞句(3)</li> <li>12. 6 章：形容詞と副詞</li> <li>13. 7 章：前置詞と前置詞句(1)</li> <li>14. 7 章：前置詞と前置詞句(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Huddleston, R, and G. Pullum. (2005), <i>A Student's Introduction to English Grammar</i> , Cambridge. (一括注文し、実費で頒布。2500 円程度)		期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (水 4) カレッジ・グラマー b (水 4)	担当者	長南 一豪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、英語で書かれた最近の英文法書を読みながら、英文法の全体像をつかみ、理解を深めることを目的とします。その際、講義やテキストの内容をただ受動的に受け入れるのではなく、意味や用例を自分の手で調べ、問題点を自分の頭で考えることに重点を置きます。同時に、英文法書を読むために必要な英語力・読解力を身につけます。さらに、「日本人（日本語を母語とする者）にとっての英文法」という観点から、英語と日本語の違いについても考えます。</p> <p>受講者は、テキストの内容についてきちんと予習し、講師の質問に対して答えられるようにしておくことが求められます。また、学期中に、章末の練習問題や講義の内容について 5 回程度の簡単なレポートが課されます。</p> <p>秋学期は、文や節に関する内容が中心となります。</p> <p>知識としての英文法ではなく、言葉について考えることの面白さをお伝えしたいと思いますので、英語学・言語学に関心のある学生の受講を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習</li> <li>2. 8 章：否定と関連現象</li> <li>3. 9 章：節の種類：疑問・感嘆・命令</li> <li>4. 10 章：従位接続と内容節</li> <li>5. 11 章：関係節</li> <li>6. 12 章：級と比較</li> <li>7. 13 章：非定形節と動詞のない節(1)</li> <li>8. 13 章：非定形節と動詞のない節(2)</li> <li>9. 14 章：等位接続</li> <li>10. 15 章：節内の情報提示(1)</li> <li>11. 15 章：節内の情報提示(2)</li> <li>12. 15 章：節内の情報提示(3)</li> <li>13. 16 章：形態論：語と語彙(1)</li> <li>14. 16 章：形態論：語と語彙(2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Huddleston, R, and G. Pullum. (2005), <i>A Student's Introduction to English Grammar</i> , Cambridge. (一括注文し、実費で頒布。2500 円程度)		期末試験(60%)とレポート・出席・授業参加(40%)を評価対象とします。	



06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文（1） 4・移動が関与する構文（2） 5・移動が関与する構文（3） 6・補部と付加部の区別（1） 7・補部と付加部の区別（2） 8・補部と付加部の区別（3） 9・条件の副詞節（1） 10・条件の副詞節（2） 11・条件の副詞節（3） 12・Be 動詞の機能（1） 13・Be 動詞の機能（2） 14・Be 動詞の機能（3） 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性（1） 4・解釈の曖昧性（2） 5・SVOC 構文の下位区分（1） 6・SVOC 構文の下位区分（2） 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（1） 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（2） 9・一般動詞の意味特性（1） 10・一般動詞の意味特性（2） 11・一般動詞の意味特性（3） 12・情報構造（1） 13・情報構造（2） 14・情報構造（3） 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合もあります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英文法に対する理解を深めること、および、英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くのものにとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めていない。試験は論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（出席は必須）</li> <li>2. 場所扱いか道具扱いか（1）</li> <li>3. 場所扱いか道具扱いか（2）</li> <li>4. 自動詞＋前置詞は他動詞か（1）</li> <li>5. 自動詞＋前置詞は他動詞か（2）</li> <li>6. 〈道具〉はいつ主語になれるか（1）</li> <li>7. 〈道具〉はいつ主語になれるか（2）</li> <li>8. 再帰代名詞の不思議（1）</li> <li>9. 再帰代名詞の不思議（2）</li> <li>10. EAT AT は EAT とどう違うのか（1）</li> <li>11. EAT AT は EAT とどう違うのか（2）</li> <li>12. Mary hit John on the head. の構文（1）</li> <li>13. Mary hit John on the head. の構文（2）</li> <li>14. I did the book. = 「私はその本をした」？（1）</li> <li>15. I did the book. = 「私はその本をした」？（2）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実（1995-1998）「発見の英文法 連載 1～7」『高校英語展望』第 8 号～第 14 号。小学館・尚学図書。		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英文法に対する理解を深めること、および、英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くのものにとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めていない。試験は論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（出席は必須）</li> <li>2. 「数の一致」はどのように決まるか（1）</li> <li>3. 「数の一致」はどのように決まるか（2）</li> <li>4. 絶対複数名詞 trousers の不思議（1）</li> <li>5. 絶対複数名詞 trousers の不思議（2）</li> <li>6. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか（1）</li> <li>7. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか（2）</li> <li>8. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか（3）</li> <li>9. 秤の変遷：scales から scale への道（1）</li> <li>10. 秤の変遷：scales から scale への道（2）</li> <li>11. なぜ in a car なのに on a bus なのか（1）</li> <li>12. なぜ in a car なのに on a bus なのか（2）</li> <li>13. なぜ in a car なのに on a bus なのか（3）</li> <li>14. なぜ at night というのに at day とはいわないか（1）</li> <li>15. なぜ at night というのに at day とはいわないか（2）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実（1998-2001）「発見の英文法 連載 8～20」『高校英語展望』第 15 号～第 20 号。小学館・尚学図書。		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。そうすると、次第に表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、ネイティブスピーカーが無意識に身につけてきた英語の感覚・イメージを探っていく習慣が身につく、結局はこの方法がもっとも効率の良い英語が学習方法である、ということがわかるようになります。この授業は、日本語には無くて日本人にはもっとも習得の難しいとされる<b>冠詞の a と the およびゼロ冠詞の付いた名詞</b>（冠詞も複数の語尾変化もない名詞形）の使用法をと<b>前置詞の用法</b>を会得することを目的とします。そのためには、ほぼ毎時間、練習問題を徹底的に解いてもらうこととなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. a と the およびゼロ冠詞のドリルと答え合わせと解説</li> <li>2. 同上</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 同上</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. まとめ</li> <li>10. 前置詞のドリルと答え合わせと解説</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> <li>15. 同上</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：講義支援システムを通じて配布するプリント		課題と定期試験および授業への参加度によります。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ドアをノックする」を英語では knock the door ではなく knock on the door ですが、ではなぜそう言うのかと問うと、「そう習ったから」としか答えない人がほとんどです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことです。そしてこの間にたいする答（＝理屈）に「なるほど！」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり、それがひいては英語学習への強い動機づけにつながります。そうやって動機づけられれば、「そういえば、ああいうような<b>前置詞の使い方</b>をするのも同じように理屈があるのでは」という思考を通じ、ネイティブスピーカーが無意識に身につけた自然な感覚に迫るための「気づき」を持てるようになります。この授業では、そういった観点から、<b>前置詞の本当のイメージ</b>を理解してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. つづき</li> <li>3. toward(s), to, in/into, inward, outward,</li> <li>4. through, out (of), from (vs. of), away (from)</li> <li>5. on vs. of, onto, on vs. in, on vs. out, off, vs. from</li> <li>6. 続き</li> <li>7. in vs. on &amp; out, in vs. inside, within, during</li> <li>8. beside, along, near, alongside, against</li> <li>9. between, among, amid, inter-</li> <li>10. across (from), opposite, catty-corner</li> <li>11. in front (of), behind, before, next</li> <li>12. above, over, across, through, throughout, via</li> <li>13. (a)round, about vs. by/past, over, on</li> <li>14. under, below, beneath, underneath</li> <li>15. back, backward(s), at vs. in, on, toward(s), by,</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： Lindstromberg, S. 1997. <i>English Prepositions Explained</i>. John Benhamins Publishing Company. (プリント配布)</p>		課題と定期試験および授業への参加度によります。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (金 3) カレッジ・グラマー a (金 3)	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものであるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられる。まず、基本的な文は5文型によって説明することが可能である。拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、派生的な文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文などを学習する。文の枠組みを捉えた上で、その構成要素である名詞、形容詞、冠詞、副詞などを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」,節・句・語</li> <li>2. 主部:主部の要素と述部の要素</li> <li>3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型</li> <li>4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語</li> <li>5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部</li> <li>6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文</li> <li>7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文</li> <li>8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞, 不可算名詞, 集合名詞</li> <li>9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞</li> <li>10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞</li> <li>11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞</li> <li>12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法</li> <li>13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置</li> <li>14. 助動詞, 助動詞の用法</li> <li>15. 接続詞, 前置詞</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)		出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (金 3) カレッジ・グラマー b (金 3)	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> (春学期と同じ) 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> (春学期の続き) 秋学期ではまず、不定詞・分詞・動名詞を学習する。さらに、不定詞と動詞のing分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する。</p> <p>次に、関係代名詞、関係副詞を扱い、制限的用法と非制限的用法について学習する。また、英語において重要な時制を扱い、英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する。さらに、能動態と受動態について学ぶことにより、受動態の構造や意味上の特徴を学習する。</p> <p>秋学期の後半では、複文に関わる現象として時制の一致や語法について学習する。さらに、英語の文の構成に重要な役割を果たしている仮定法、比較表現、否定表現の用法を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不定詞</li> <li>2. 分詞, 動名詞</li> <li>3. 関係代名詞, 関係副詞</li> <li>4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法</li> <li>5. 現在完了の用法, 過去完了の用法</li> <li>6. 進行形の用法</li> <li>7. 能動態と受動態</li> <li>8. 呼応と時制の一致</li> <li>9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現</li> <li>10. 語法, 直接語法と間接語法</li> <li>11. 比較, 原級の用法</li> <li>12. 比較級の用法, 最上級の用法</li> <li>13. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定</li> <li>14. 文の主語と情報構造,</li> <li>15. 強調, 省略・挿入</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)		出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (金 4) カレッジ・グラマー a (金 4)	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものであるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられる。まず、基本的な文は5文型によって説明することが可能である。拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、派生的な文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文などを学習する。文の枠組みを捉えた上で、その構成要素である名詞、形容詞、冠詞、副詞などを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」,節・句・語</li> <li>2. 主部:主部の要素と述部の要素</li> <li>3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型</li> <li>4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語</li> <li>5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部</li> <li>6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文</li> <li>7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文</li> <li>8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞, 不可算名詞, 集合名詞</li> <li>9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞</li> <li>10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞</li> <li>11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞</li> <li>12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法</li> <li>13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置</li> <li>14. 助動詞, 助動詞の用法</li> <li>15. 接続詞, 前置詞</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)		出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar (金 4) カレッジ・グラマー b (金 4)	担当者	坂本 洋子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> (春学期と同じ) 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> (春学期の続き) 秋学期ではまず、不定詞・分詞・動名詞を学習する。さらに、不定詞と動詞のing分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する。</p> <p>次に、関係代名詞、関係副詞を扱い、制限的用法と非制限的用法について学習する。また、英語において重要な時制を扱い、英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する。さらに、能動態と受動態について学ぶことにより、受動態の構造や意味上の特徴を学習する。</p> <p>秋学期の後半では、複文に関わる現象として時制の一致や語法について学習する。さらに、英語の文の構成に重要な役割を果たしている仮定法、比較表現、否定表現の用法を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不定詞</li> <li>2. 分詞, 動名詞</li> <li>3. 関係代名詞, 関係副詞</li> <li>4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法</li> <li>5. 現在完了の用法, 過去完了の用法</li> <li>6. 進行形の用法</li> <li>7. 能動態と受動態</li> <li>8. 呼応と時制の一致</li> <li>9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現</li> <li>10. 語法, 直接語法と間接語法</li> <li>11. 比較, 原級の用法</li> <li>12. 比較級の用法, 最上級の用法</li> <li>13. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定</li> <li>14. 文の主語と情報構造,</li> <li>15. 強調, 省略・挿入</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)		出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.		1. Introduction 2. Exchanging personal information 3. Personality Types 4. Appearances 5. Attitudes 6. Comparing experiences 7. Getting information 8. Events 9. Quiz 10. Movies 11. Music 12. Media 13. Education 14. Commercials 15. Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation and tests.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.		1. Summer vacation 2. Personal opinions 3. Japan 4. Preferences 5. Religions 6. Film and TV 7. Language 8. Poverty 9. War and Peace 10. Diet and nutrition 11. Green issues 12. Natural Disasters 13. Sexism 14. Poster Presentations 15. Poster Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation and tests	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (月 1) COMMUNICATIVE ENGLISH II b (月 1)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to introduce the students to modern American idiomatic English and to improve both their speaking and listening ability. We will focus on vocabulary development, idioms and useful grammatical structures as well. It is hoped that the students will greatly expand both their vocabulary and listening ability in this class, and also enjoy the opportunity to practice the English they have learned.</p>		<p>We will utilize subtitled American movies in this class. The students will receive handouts for each scene and will study vocabulary, idioms and grammatical structures in each lesson, as well as engage in a speaking exercise to practice the English they have learned. It is hoped that this will be an interesting and effective method of study that will motivate the students to do their best and make this course a productive experience.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provide by the teacher.		Attendance, Participation, (1) test, (1) report	



06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	P. M. ホーネス
講義目的、講義概要		授業計画	
This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.		1 Introduction 2 Future, Suprasegmentals (intonation) 3 Simple Past 4 Alibi 5 Alibi 6 Culture Presentation: food & tourist attractions 7 Comparisons and superlatives 8 Conditionals 9 Conditionals 10 Reading presentation 11 Survey: Movies 12 Survey: Personality 13 Culture Presentation 14 Speaking tests 15 Speaking tests (written summaries due)  Subject to change based on class's needs.	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance (Absence = -5 points) 20 Participation Unit 10 Summary 10 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 30	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	P. M. ホーネス
講義目的、講義概要		授業計画	
This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.		1 Introduction 2 Survey: Bilinguals 3 Survey: Dating 4 Culture Presentation: language & art 5 Survey: MASK 6 School festival 7 Survey: Travel 8 Analyzing Poetry 9 Survey: Music 10 Music presentation 11 Fashion and design: Is there a universal concept? 12 Culture Presentation 13 Christmas party 14 Speaking tests (written summaries due) 15 Speaking tests  Subject to change based on class's needs.	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance (Absence = -5 points) 15 Participation In class 15 Summary 20 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 20	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Japanese work ethics.</li> <li>3 Attitudes towards women.</li> <li>4 Other gender issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:</p> <p>Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40%</p> <p>End of term speaking tests: 40%</p> <p>Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Beat the Monday morning blues with this dynamic and exciting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Brief introduction/welcome back to class.</li> <li>2 Computers and society.</li> <li>3 Ageing Society.</li> <li>4 The Automobile.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:</p> <p>Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40%</p> <p>End of term speaking tests: 40%</p> <p>Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (月 5) COMMUNICATIVE ENGLISH II a (月 5)	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may be assigned and can include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point individually and in groups depending on class size. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Demonstration /Assignment Choose Topics Today</li> <li>2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions</li> <li>3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions</li> <li>4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions</li> <li>5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions</li> <li>6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions</li> <li>7. Mid-term</li> <li>8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions</li> <li>9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions</li> <li>10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions</li> <li>11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions</li> <li>12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions</li> <li>13. Final</li> <li>14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews</li> <li>15. Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced		Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (火 1) COMMUNICATIVE ENGLISH II a (火 1)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to <b>international communication</b>)</i>.</p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication</i>? <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about ...?" &amp; "What do you think of ...?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?" "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song/listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <i>etiquette</i> and <i>manners</i>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <i>street directions</i>, and/or <i>train directions</i>. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: <b>Body Language &amp; 'EQ'</b> Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <i>future plans (for the Summer)</i>, in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (火 1) COMMUNICATIVE ENGLISH II b (火 1)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your <b>Summer Break</b> using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: <b>"What do you usually do ...?"</b> discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do ...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: <b>Halloween</b>: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Halloween, Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive <b>advice</b>, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about <b>"EQ"</b>, and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: <b>Thanksgiving</b>. Song-listening exercise. Student answersto <i>"What are you thankful for?"</i> Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: <b>"How often do you ...?"</b>: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: <b>Christmas</b>, and <b>Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about <b>New Year's wishes and plans</b>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: <b>"How was your Christmas?"</b> &amp; <b>"How was your O Sho Gatan?"</b>: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your <b>"New Year's Resolutions"</b>. Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of <i>specific</i> New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: <i>future plans</i> for the February &amp; March Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions. The materials for spring and autumn will be different.</p> <p>There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course</p> <p>Week 2 Consolidation</p> <p>Week 3 Giving opinions</p> <p>Week 4 Background introduction to the UK</p> <p>Week 5 Work and daily lives</p> <p>Week 6 Discussion and introduction to the project</p> <p>Week 7 Health</p> <p>Week 8 A famous author</p> <p>Week 9 Discussion and project follow up</p> <p>Week 10 Language development quiz</p> <p>Week 11 Social English</p> <p>Week 12 Language development: conditionals</p> <p>Week 13 Project corrections</p> <p>Week 14 Review</p> <p>Week 15 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions. The materials for spring and autumn will be different.</p> <p>There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course</p> <p>Week 2 Consolidation</p> <p>Week 3 Giving opinions</p> <p>Week 4 Discussion</p> <p>Week 5 Vocabulary game</p> <p>Week 6 Fluency activity and introduction to the project</p> <p>Week 7 Language development: phrasal verbs</p> <p>Week 8 Roleplay</p> <p>Week 9 Language development quiz</p> <p>Week 10 Discussion and project follow up</p> <p>Week 11 London taxi</p> <p>Week 12 More about London</p> <p>Week 13 Project corrections</p> <p>Week 14 Review</p> <p>Week 15 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.	



06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve discussion and presentation skills.</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher. Most of the topics will be popular in the media.</p> <p>In 2011 we discussed topics such as</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gun Control</li> <li>2. Global Warming</li> <li>3. Japanese Population</li> <li>4. Japanese Education</li> <li>5. Homelessness in the World</li> <li>6. Religion</li> <li>7. Arab Spring</li> <li>8. Do you have Passion</li> <li>9. Chewing Gum</li> <li>10. British food</li> <li>11. Clever Mums and Maths</li> <li>12. Blood Tests Predict when you Die</li> <li>13. Seven Billion People</li> <li>14. Energy Saving Haircuts</li> <li>15. Blood Test Predicts when you Die</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Student Attendance</li> <li>2. Student participation</li> <li>3. Interview test</li> <li>4. Homework</li> </ol>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	P. アップス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve discussion and presentation skills.</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher. Most of the topics will be popular in the media.</p> <p>In 2011 we discussed topics such as</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gun Control</li> <li>2. Global Warming</li> <li>3. Japanese Population</li> <li>4. Japanese Education</li> <li>5. Homelessness in the World</li> <li>6. Religion</li> <li>7. Arab Spring</li> <li>8. Do you have Passion</li> <li>9. Chewing Gum</li> <li>10. British food</li> <li>11. Clever Mums and Maths</li> <li>12. Blood Tests Predict when you Die</li> <li>13. Seven Billion People</li> <li>14. Energy Saving Haircuts</li> <li>15. Blood Test Predicts when you Die</li> </ol> <p>Also please note there is homework after every class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Student Attendance</li> <li>2. Student participation</li> <li>3. Interview test</li> <li>4. Homework</li> </ol>	



06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will provide students with the opportunity to develop their English oral communication skills and vocabulary. Along the way, students will also develop their critical thinking skills and broaden their background knowledge in a number of issues facing Japan and the world today.</p> <p>Each week, students will bring in authentic materials from newspapers or news magazines and give short presentations to their groups on their chosen articles. Following their presentations, students will be responsible for leading a follow-up discussion. We will focus on a different topic every other week.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Social issues in Japan</li> <li>3. Issues in education in Japan</li> <li>4. Social issues around the world</li> <li>5. The economy</li> <li>6. The economy</li> <li>7. Entertainment</li> <li>8. Entertainment</li> <li>9. The media</li> <li>10. The media</li> <li>11. The environment</li> <li>12. The environment</li> <li>13. Politics</li> <li>14. Politics</li> <li>15. Summary and wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Students will select articles from English language newspapers (e.g., The New York Times) and magazines (e.g., The Economist).		Evaluation will be based on attendance, participation in class discussions, and submission of a class notebook.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will provide students with the opportunity to develop their English oral communication skills and vocabulary. Along the way, students will also develop their critical thinking skills and broaden their background knowledge in a number of issues facing Japan and the world today.</p> <p>Each week, students will bring in authentic materials from newspapers or news magazines and give short presentations to their groups on their chosen articles. Following their presentations, students will be responsible for leading a follow-up discussion. We will focus on a different topic every other week.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Social issues in Japan</li> <li>3. Issues in education in Japan</li> <li>4. Social issues around the world</li> <li>5. The economy</li> <li>6. The economy</li> <li>7. Entertainment</li> <li>8. Entertainment</li> <li>9. The media</li> <li>10. The media</li> <li>11. The environment</li> <li>12. The environment</li> <li>13. Politics</li> <li>14. Politics</li> <li>15. Summary and wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Students will select articles from English language newspapers (e.g., The New York Times) and magazines (e.g., The Economist).		Evaluation will be based on attendance, participation in class discussions, and submission of a class notebook.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
To Be Announced.		To Be Announced.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced.		To Be Announced.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (火 3) COMMUNICATIVE ENGLISH II a (火 3)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to <b>international communication</b>)</i>.</p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication</i>? <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about ...?" &amp; "What do you think of ...?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?" "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song/listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <i>etiquette</i> and <b>manners</b>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <i>street directions</i>, and/or <i>train directions</i>. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: <b>Body Language &amp; 'EQ'</b> (Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <i>future plans (for the Summer)</i>, in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (火 3) COMMUNICATIVE ENGLISH II b (火 3)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your <b>Summer Break</b> using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: <b>"What do you usually do ...?"</b>: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: <b>Hallowe'en</b>: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive <b>advice</b>, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: <b>Thanksgiving</b>. Song-listening exercise. Student answersto "<i>What are you thankful for?</i>" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: <b>"How often do you ...?"</b>: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: <b>Christmas</b>, and <b>Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about <b>New Year's wishes and plans</b>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: <b>"How was your Christmas?"</b> &amp; <b>"How was your O Sho Gatsu?"</b>: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your <b>"New Year's Resolutions"</b>. Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of <i>specific</i> New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: <i>future plans</i> for the February &amp; March Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <i>work together</i> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an intermediate-level context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class</li> <li>2. Presentation Class</li> <li>3. Introduction to Britain</li> <li>4. British Pop</li> <li>5. London</li> <li>6. The Train</li> <li>7. Heathrow Airport</li> <li>8. William Shakespeare</li> <li>9. Tea</li> <li>10. Climbers</li> <li>11. Sherlock Holmes</li> <li>12. The Purple Violin</li> <li>13. An English Summer</li> <li>14. Review</li> <li>15. Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also recommended.		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation & Essay.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an upper-intermediate context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Preview</li> <li>2. Presentation Class</li> <li>3. The Seven Wonders of Britain</li> <li>4. Wales</li> <li>5. BBC World Service</li> <li>6. The Mini</li> <li>7. The Village</li> <li>8. Agatha Christie</li> <li>9. The Sea</li> <li>10. Taxi</li> <li>11. Public School</li> <li>12. WOMAD</li> <li>13. A British Christmas</li> <li>14. Review</li> <li>15. Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also recommended.		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation & Essay.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (水 5) COMMUNICATIVE ENGLISH II a (水 5)	担当者	J. A. グレイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may be assigned and can include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point individually and in groups depending on class size. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Demonstration /Assignment Choose Topics Today</li> <li>2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions</li> <li>3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions</li> <li>4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions</li> <li>5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions</li> <li>6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions</li> <li>7. Mid-term</li> <li>8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions</li> <li>9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions</li> <li>10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions</li> <li>11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions</li> <li>12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions</li> <li>13. Final</li> <li>14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews</li> <li>15. Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced		Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	D. マツキヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	D. マツキヤン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	



06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to improve students' communicative English in speaking and listening. The class will emphasize developing fluency for everyday speaking, improving listening comprehension, and developing effective presentation skills.</p> <p>Most of class time will be devoted to speaking. Students are expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Most of the listening will take place outside of class.</p> <p>Grades will be based on attendance and participation, listening tests, a class presentation and a speaking test at the end of the semester.</p>		<p>Week 1: Class orientation</p> <p>Week 2: Listening introduction</p> <p>Week 3: Small talk, family; self-introductions</p> <p>Week 4: Travel; interrupting</p> <p>Week 5: Music; natural openers and closings</p> <p>Week 6: Health; reported speech</p> <p>Week 7: Beliefs; responding naturally</p> <p>Week 8: Movies; inviting</p> <p>Week 9: Reading; speaking from notes</p> <p>Week 10: Presentation workshop</p> <p>Week 11: Presentation</p> <p>Week 12: Free time; pronunciation workshop</p> <p>Week 13: Restaurants; keeping a conversation going</p> <p>Week 14: Speaking test</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sound Bytes 2: Listening for Today's World (Pearson Longman)		<p>20% attendance and participation</p> <p>20% class presentation</p> <p>40% listening tests</p> <p>20% speaking test</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to improve students' communicative English in speaking and listening. The class will emphasize developing fluency for everyday speaking, improving listening comprehension, and developing effective presentation skills.</p> <p>Most of class time will be devoted to speaking. Students are expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Most of the listening will take place outside of class.</p> <p>Grades will be based on attendance and participation, listening tests, a class presentation and a speaking test at the end of the semester.</p>		<p>Week 1: Class orientation</p> <p>Week 2: Famous people; likes and dislikes</p> <p>Week 3: Comedy; telling a joke</p> <p>Week 4: Food; describing Japanese food</p> <p>Week 5: Fashion; tag questions</p> <p>Week 6: TV; talking about experiences</p> <p>Week 7: Sleep; pronunciation workshop</p> <p>Week 8: Work; informal vs. formal usage</p> <p>Week 9: Dating; describing Japanese things</p> <p>Week 10: Presentation workshop</p> <p>Week 11: Presentation</p> <p>Week 12: Technology and online; asking for advice</p> <p>Week 13: Review</p> <p>Week 14: Speaking test</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sound Bytes 2: Listening for Today's World (Pearson Longman)		<p>20% attendance and participation</p> <p>20% class presentation</p> <p>40% listening tests</p> <p>20% speaking test</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II a	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions &amp; text - unit 1 Week 6: Discussions &amp; text - unit 1 continued Week 7: Discussions &amp; text - unit 2 Week 8: Discussions &amp; text - unit 2 continued Week 9: Discussions &amp; text - unit 3 Week 10: Discussion &amp; text - unit 3 continued Week 11: Discussion &amp; text - unit 4 Week 12: Discussion &amp; text - unit 4 continued Week 13: Discussion &amp; text - unit 5 Week 14: Discussion &amp; text - unit 5 continued Week 15: Review and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson Longman		Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH II b	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues in the textbook.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions &amp; text - unit 1 Week 6: Discussions &amp; text - unit 1 continued Week 7: Discussions &amp; text - unit 2 Week 8: Discussions &amp; text - unit 2 continued Week 9: Discussions &amp; text - unit 3 Week 10: Discussion &amp; text - unit 3 continued Week 11: Discussion &amp; text - unit 4 Week 12: Discussion &amp; text - unit 4 continued Week 13: Discussion &amp; text - unit 5 Week 14: Discussion &amp; text - unit 5 continued Week 15: Review and feedback</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Impact Issues 3 Richard R. Day Pearson Longman		Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (金 1) COMMUNICATIVE ENGLISH II a (金 1)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this class is to provide the students with an effective course of study in modern American idiomatic English. Useful vocabulary, common idioms and effective grammatical structures will be focused upon. It is hoped that this course will augment the student's ability to effectively use English in real world situations.		In this course, I will use a video as well as handouts for the main text. We will use a Disney movie because the English is clear, standard, and replete will useful vocabulary and common idioms. The scenes studied in class are also subtitled in English. Thus, we will focus on vocabulary, idioms, useful grammar and listening comprehension. This should be an interesting class, with a varied, challenging curriculum, and the students should have ample opportunity to speak with each other and the instructor.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided.		Attendance, a test and a report	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (金 1) COMMUNICATIVE ENGLISH II b (金 1)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as the first semester		A continuation of the above	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same as above		Same as above	

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English (金 3) COMMUNICATIVE ENGLISH II b (金 3)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to introduce the students to modern American idiomatic English and to improve both their speaking and listening ability. We will focus on vocabulary development, idioms and useful grammatical structures as well. It is hoped that the students will greatly expand both their vocabulary and listening ability in this class, and also enjoy the opportunity to practice the English they have learned.</p>		<p>We will utilize subtitled American movies in this class. The students will receive handouts for each scene and will study vocabulary, idioms and grammatical structures in each lesson, as well as engage in a speaking exercise to practice the English they have learned. It is hoped that this will be an interesting and effective method of study that will motivate the students to do their best and make this course a productive experience.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provide by the teacher.		Attendance, Participation, (1) test, (1) report	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION a	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman</p>		<p>Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination.</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION b	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman</p>		<p>Due to the necessity of participating in discussions, regular class attendance is essential. Students will be evaluated on their level of preparedness for class, the discussions they prepare, and the final examination</p>	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION a	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Can man and woman be close without romance?</li> <li>4. This session will focus on environmental issues.</li> <li>5. Teenage life with student presentations.</li> <li>6. Is plagiarism a crime?</li> <li>7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>8. What are the options for pregnant teenagers?</li> <li>9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues.</li> <li>10. How important is appearance in a relationship?</li> <li>11. Should adult children move out? Quiz on previous issue.</li> <li>12. Should employees go out with their bosses?</li> <li>13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. The changing role of women in society.</li> <li>15. Explanation of summer homework projects.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
no textbook		Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION b	担当者	J. ウォールドマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discussion will focus on summer projects.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Is money more important than life style?</li> <li>4. Story telling techniques.</li> <li>5. The problems faced by immigrants.</li> <li>6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations.</li> <li>7. Does technology create distance in relationships?</li> <li>8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue.</li> <li>9. Career choices.</li> <li>10. Story telling techniques.</li> <li>11. When is war justified?</li> <li>12. The art of compromise.</li> <li>13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. Unrequited love will be the topic of this class.</li> <li>15. Story telling techniques.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
no textbook		Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.	



06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION a	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.		Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION b	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.		Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 5 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 6 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 7 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 8 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course.		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION a	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will provide training on the principles of effective discussion through practical and hands-on exercises.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Course</li> <li>2. Discussion and Chat: what's the difference?</li> <li>3. Principles of a Good Discussion</li> <li>4. The Ability to Listen</li> <li>5. The Ability to Agree/Disagree</li> <li>6. Graded Exercise 1</li> <li>7. Information: knowledge of the topic</li> <li>8. Graded Exercise 2</li> <li>9. Organization of ideas</li> <li>10. Graded Exercise 3</li> <li>11. The importance of language</li> <li>12. Graded Exercise 4</li> <li>13. Mind-mapping: can't be overlooked</li> <li>14. Graded Exercise 5</li> <li>15. Summary and evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION b	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will provide training on the principles of effective discussion through practical and hands-on exercises.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Course</li> <li>2. Discussion and Chat: what's the difference?</li> <li>3. Principles of a Good Discussion</li> <li>4. The Ability to Listen</li> <li>5. The Ability to Agree/Disagree</li> <li>6. Graded Exercise 1</li> <li>7. Information: knowledge of the topic</li> <li>8. Graded Exercise 2</li> <li>9. Organization of ideas</li> <li>10. Graded Exercise 3</li> <li>11. The importance of language</li> <li>12. Graded Exercise 4</li> <li>13. Mind-mapping: can't be overlooked</li> <li>14. Graded Exercise 5</li> <li>15. Summary and evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION a	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication and speaking skills.</p> <p>The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current and interesting topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English speaking, comprehension and knowledge.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic # 1</p> <p>Week 2: Discussion Topic # 2</p> <p>Week 3: Discussion Topic # 3</p> <p>Week 4: Discussion Topic # 4</p> <p>Week 5: Discussion Topic # 5</p> <p>Week 6: Discussion Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Discussion Topic # 7</p> <p>Week 9: Discussion Topic # 8</p> <p>Week 10: Discussion Topic # 9</p> <p>Week 11: Discussion Topic # 10</p> <p>Week 12: Discussion Topic # 11</p> <p>Week 13: Discussion Topic # 12</p> <p>Week 14: Discussion Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		Attendance, discussion involvement, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION b	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication and speaking skills.</p> <p>The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current and interesting topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English speaking, comprehension and knowledge.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic #1</p> <p>Week 2: Discussion Topic # 2</p> <p>Week 3: Discussion Topic # 3</p> <p>Week 4: Discussion Topic # 4</p> <p>Week 5: Discussion Topic # 5</p> <p>Week 6: Discussion Topic # 6</p> <p>Week 7: Quiz</p> <p>Week 8: Discussion Topic # 7</p> <p>Week 9: Discussion Topic # 8</p> <p>Week 10: Discussion Topic # 9</p> <p>Week 11: Discussion Topic # 10</p> <p>Week 12: Discussion Topic # 11</p> <p>Week 13: Discussion Topic # 12</p> <p>Week 14: Discussion Topic # 13</p> <p>Week 15: Quiz</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		Attendance, discussion involvement, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION a	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
To Be Announced.		To Be Announced.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced.		To Be Announced.	

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION b	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
To Be Announced.		To Be Announced.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To Be Announced.		To Be Announced.	

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking I PUBLIC SPEAKING I a	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.		1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.		Assessment will be based on classroom participation, written assignments, and speeches and presentations.	

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking II PUBLIC SPEAKING I b	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.		1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.		Assessment will be based on classroom participation, written assignments, and speeches and presentations.	

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking I PUBLIC SPEAKING I a	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
The class aims to familiarize students with the principles of public speaking. It will prepare students public speaking presentations through hands-on exercises in guidelines		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course: brainstorming</li> <li>2. Preliminary Exercises: the effective speaker</li> <li>3. What is Public Speaking?</li> <li>4. Why is Public Speaking necessary?</li> <li>5. Different Types of Public Speeches</li> <li>6. Informative Speech Outline Exercises</li> <li>7. Informative Speech: Presentations</li> <li>8. Narrative Speech Outline Exercises</li> <li>9. Narrative Speech: Presentations</li> <li>10. Demonstration Speech Outline Exercises</li> <li>11. Demonstration Speech: Presentations</li> <li>12. Persuasive Speech Outline: Exercises</li> <li>13. Persuasive Speech: Presentations</li> <li>14. Summary</li> <li>15. Evaluation and assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on speeches delivered in class, submission of requirements, and participation in class exercises.	

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking II PUBLIC SPEAKING I b	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
The class aims to familiarize students with the principles of public speaking. It will prepare students public speaking presentations through hands-on exercises in guidelines		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course: brainstorming</li> <li>2. Preliminary Exercises: the effective speaker</li> <li>3. What is Public Speaking?</li> <li>4. Why is Public Speaking necessary?</li> <li>5. Different Types of Public Speeches</li> <li>6. Informative Speech Outline Exercises</li> <li>7. Informative Speech: Presentations</li> <li>8. Narrative Speech Outline Exercises</li> <li>9. Narrative Speech: Presentations</li> <li>10. Demonstration Speech Outline Exercises</li> <li>11. Demonstration Speech: Presentations</li> <li>12. Persuasive Speech Outline: Exercises</li> <li>13. Persuasive Speech: Presentations</li> <li>14. Summary</li> <li>15. Evaluation and assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on speeches delivered in class, submission of requirements, and participation in class exercises.	



06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking I PUBLIC SPEAKING I a	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Visual Message, Story Message によって如何により効果的にプレゼンテーションが出来るようになるかを学びます。</p> <p>講義概要： プレゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは'What', 'Why', 'How', 'Practice' の四項目から成り、更に'Performance'と'Evaluation'のセクションで自分のプレゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプレゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。</p> <p>カラーの愉快的イラストを使いながら、100パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。DVD が大きな助けとなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: What is Physical Message?</li> <li>3. Posture and Eye Contact</li> <li>4. Informative Speech</li> <li>5. Performance</li> <li>6. Gestures</li> <li>7. Layout Speech</li> <li>8. Performance</li> <li>9. Voice Inflection</li> <li>10. Demonstration Speech</li> <li>11. Performance</li> <li>12. [II] THE VISUAL MESSAGE: Effective Visuals (1)</li> <li>13. Effective Visuals (2)</li> <li>14. Performance(1)</li> <li>15. Performance(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Harrington,D. &amp; LeBeau, C. , <i>Speaking of Speech – New Edition-Basic Presentation Skills for Beginners</i>. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2009. 2500 円 + 税</p>		出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプレゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。	

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking II PUBLIC SPEAKING I b	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 春学期と同じ。</p> <p>講義概要： 春学期に引き続く。</p> <p>注意： 何らかの理由で秋学期から履修する場合は、春学期の授業内容を理解し、且つ実際にそこまでの段階のパフォーマンスが出来るようにしておく必要があります。秋学期の最初の授業で指導致します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [II] THE VISUAL MESSAGE (春学期の続き) Explaining Visuals (1)</li> <li>2. Explaining Visuals (2)</li> <li>3. Performance</li> <li>4. [III] THE STORY MESSAGE: What is Story Message? Presentation Structure</li> <li>5. Introduction What is the Story Message?</li> <li>6. Introductory Phrases Model Introduction</li> <li>7. Performance (Introduction)</li> <li>8. The Body Evidence</li> <li>9. Transitions</li> <li>10. Sequencers</li> <li>11. Performance (Body)</li> <li>12. The Conclusion – How to Make a Conclusion?</li> <li>13. Performance (Conclusion)</li> <li>14. Final performance(1)</li> <li>15. Final performance(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

06 年度以降 03 年度以降	Debate I DEBATE I a	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In our lives, we sometimes have to develop a position on certain controversial topics, consider objections and counterarguments and respond to them. English debate helps us understand the fundamentals of argumentation through conducting and judging debates.</p> <p>In the spring semester, students will learn debate procedures, criteria for assessing arguments, cross-examination and refutation skills and will join individual and team debate activities.</p>		1 Course overview 2 Introduction to debate 3 Practice of judging debate 4 Individual Debate 5 What is argument? 6 Constructing argument 7 Constructing argument 8 Cross-examination 9 Refuting argument 10 Individual Debate 11 Team Debate Preparation 12 Team Debate 13 Team Debate 14 Team Debate 15 Team Debate	
テキスト、参考文献		評価方法	
小西卓三、菅家知洋、P. J. Collins 『Let the Debate Begin!』 (東海大学出版会)		Students will be graded on class participation (doing and judging debate and providing feedback to class members) and writing assignments.	

06 年度以降 03 年度以降	Debate II DEBATE I b	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Based on what we've learned in the spring semester, we will decide topics for policy debate, analyze and constructs arguments on the topics, and conduct Individual Debate and Team Debate.</p>		1 Retrospect and Prospect 2 Deciding on Fall Semester debate topic 3 Analyzing the proposition of policy (affirmative) 4 Analyzing the proposition of policy (negative) 5 Analyzing the proposition of policy (counterplan) 6 Individual Debate 7 Individual Debate 8 Team Debate preparation 9 Team Debate preparation 10 Team Debate 11 Team Debate 12 Team Debate 13 Team Debate 14 Team Debate 15 Team Debate	
テキスト、参考文献		評価方法	
小西卓三、菅家知洋、P. J. Collins 『Let the Debate Begin!』 (東海大学出版会)		Students will be graded on class participation (doing and judging debate and providing feedback to class members) and writing assignments.	

06 年度以降 03 年度以降	Debate I DEBATE I a	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.		Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

06 年度以降 03 年度以降	Debate II DEBATE I b	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.		Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 5 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 6 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 7 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 8 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

06 年度以降 03 年度以降	通訳 I 通訳 I a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳の基礎訓練というのは、コミュニケーション能力としての総合的語学力をアップするためシステムティックなトレーニングにはかならない。</p> <p>このため、様々な方法で、リーディング、リスニング、スピーキングの技術を強化していくための練習を具体的に行っていく。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>1～2回は通訳全般についての話。3回目以降から実際のトレーニングに入るが、その内容は次のとおり：</p> <p>リピーティング、クイック・レスポンス、シャドーイング、ボキャビル、サイト・トランスレーション、サラマイゼーション、ワンセンテンスからパラグラフ通訳、リテンション、通訳メモの取り方 etc.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用する予定		平常の授業から、通訳技術をどれくらい身に付けたかで評価する。授業はステップ・アップ形式で進むので欠席すると大変不利。	

06 年度以降 03 年度以降	通訳 I 通訳 I b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>同上</p> <p>ただし、春学期よりも内容の種類と難易度が増す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

06 年度以降 03 年度以降	通訳 I (金 3) 通訳 I a	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般論ですが、英語ができる人は通訳もできるという誤解が世の中には広まっています。リスニングテストは下記の①だけでよいので楽なものです。通訳には①～③までの力が必要です。あなたは②と③を学んだことがありますか。②や③に自信が無い学生にはぜひ学習してもらいたいと思います。</p> <p>① 英語を聴き取ること ② 要点をメモすること ③ 即座に、的確、かつ、丁寧な日本語に通訳する (通訳に必須不可欠な「敬語」の使い方を学習する)</p> <p>教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。</p> <p>一年後のめあてとしては、理解できた内容であればすべて即座に通訳できる能力を身につけることです。</p>		<p>&lt;第1回&gt; 皆さんの英語力を把握するため、TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーを持参して下さい。 また、一回目から毎週 USB フラッシュメモリーを持参して下さい。</p> <p>&lt;第2回以降～&gt; CALL 教室で英語教材を聞き、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行います。自分のパフォーマンスはすべて USB に保存します。</p> <p>教材は、通訳に欠かせないアナウンス、ビジネスシーンでの会話、ストーリー、異文化コミュニケーション、などできるだけ多岐にわたる教材を用いつもりです。教科書以外のものはプリントで配布します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で 1 冊はテキストを指定します。		授業中の通訳、ディクテーションの課題、数回の単語テスト、定期試験などの総合評価	

06 年度以降 03 年度以降	通訳 I (金 3) 通訳 I b	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。</p> <p>英語が終わったら、一呼吸考えてから声を出す人が前期はよく見受けられます。すぐ通訳を始める瞬発力がものを言います。後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。</p> <p>また、通訳にふさわしい、洗練された日本語に訳す必要性に気づくでしょう。</p> <p>実践的な訓練を継続する中で、100%の力を出すために緊張感をコントロールできるようになり、無意識のうちにその緊張感を楽しめるようになります。</p>		<p>&lt;第1回&gt; 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p>&lt;第2回以降～&gt; 上記の春学期に準じます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期のテキストとプリント配布。		授業中の通訳、ディクテーションの課題、数回の単語テスト、定期試験などの総合評価	

06 年度以降 03 年度以降	通訳 I (金 5) 通訳 I a	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般論ですが、英語ができる人は通訳もできるという誤解が世の中には広まっています。リスニングテストは下記の①だけでよいので楽なものです。通訳には①～③までの力が必要です。あなたは②と③を学んだことがありますか。②や③に自信が無い学生にはぜひ学習してもらいたいと思います。</p> <p>① 英語を聴き取ること ② 要点をメモすること ③ 即座に、的確、かつ、丁寧な日本語に通訳する (通訳に必須不可欠な「敬語」の使い方を学習する)</p> <p>教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。</p> <p>一年後のめあてとしては、理解できた内容であればすべて即座に通訳できる能力を身につけることです。</p>		<p>&lt;第1回&gt; 皆さんの英語力を把握するため、TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーを持参して下さい。 また、一回目から毎週 USB フラッシュメモリーを持参して下さい。</p> <p>&lt;第2回以降～&gt; CALL 教室で英語教材を聞き、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行います。自分のパフォーマンスはすべて USB に保存します。</p> <p>教材は、通訳に欠かせないアナウンス、ビジネスシーンでの会話、ストーリー、異文化コミュニケーション、などできるだけ多岐にわたる教材を用いつもりです。教科書以外のものはプリントで配布します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で 1 冊はテキストを指定します。		授業中の通訳、ディクテーションの課題、数回の単語テスト、定期試験などの総合評価	

06 年度以降 03 年度以降	通訳 I (金 5) 通訳 I b	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。</p> <p>英語が終わったら、一呼吸考えてから声を出す人が前期はよく見受けられます。すぐ通訳を始める瞬発力がものを言います。後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。</p> <p>また、通訳にふさわしい、洗練された日本語に訳す必要性に気づくでしょう。</p> <p>実践的な訓練を継続する中で、100%の力を出すために緊張感をコントロールできるようになり、無意識のうちにその緊張感を楽しめるようになります。</p>		<p>&lt;第1回&gt; 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p>&lt;第2回以降～&gt; 上記の春学期に準じます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期のテキストとプリント配布。		授業中の通訳、ディクテーションの課題、数回の単語テスト、定期試験などの総合評価	



06 年度以降 03 年度以降	通訳 II 通訳 II a	担当者	原口 友子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨年度から、以下のように一新しました。</p> <p>昨年までは、通訳 I の advanced level と捉え、難易度の高い授業でしたが、今年度からは、レベル的には通訳 I よりやや難易度が上がる程度にし、長時間通訳し続けることができるようになることを講義の目的とします。</p> <p>講義概要は以下のようになります。</p> <p>① 通訳の現場のように、教材をぶっつけ本番で訳す練習をします。</p> <p>② 通訳 I では、細切れに通訳を録音しましたが、通訳 II では、長い時間通訳し続ける訓練をします。</p> <p>③ 訳した後スクリプトを配布します。授業以外の時間に、USB に保存した自分の通訳をスクリプトでチェックし、完全に通訳できるように練習して下さい。</p> <p>④ 同時通訳についても学びます。</p>		<p>全員、1 回目の授業で、<u>TOEIC (TOEFL, 英検等もあれば) スコアのコピーと USB フラッシュメモリーを持ってくる</u>こと。</p> <p>「通訳 I」を履修していることが望ましいですが、TOEIC スコア 800 以上の英語力があれば、いきなり「通訳 II」から始めても問題ありません。</p> <p>通訳の実践的な訓練を行う「学生参加型」の授業です。</p> <p>教材としては、異文化コミュニケーションやビジネスに関する対談、ニュース現場からの実況中継、アナウンス、長いスピーチなどです。</p> <p>話す速度の速い人の英語を聞き取るためのトレーニング、尊敬語と謙譲語の正しい使い方なども学びます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教材は多岐にわたるので、主にプリントで配布しますが、1 回目の授業で 1 冊はテキストを指定します。		授業中の通訳、ディクテーションの課題、小テスト、定期試験の総合評価	

06 年度以降 03 年度以降	通訳 II 通訳 II b	担当者	原口 友子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨年度から、以下のように一新しました。</p> <p>昨年までは、通訳 I の advanced level と捉え、難易度の高い授業でしたが、今年度からは、レベル的には通訳 I と同じにし、長時間通訳し続けることができるようになることを講義の目的とします。</p> <p>講義概要は以下のようになります。</p> <p>① 通訳 I では、細切れに通訳を録音しましたが、通訳 II では、長い時間通訳し続ける訓練をします。</p> <p>② その教材を用いて同時通訳の方法を学びます。</p> <p>③ 訳した後スクリプトを配布します。授業以外の時間に、USB に保存した自分の通訳とスクリプトを照らし合わせ、確認作業をし、通訳を完成させる。</p> <p>④ 同時通訳についても学びます。</p>		<p>通訳の実践的な訓練を行う「学生参加型」の授業です。実際の通訳は常にぶっつけ本番であり、一度聞いてから二回目に訳するということはありえません。したがって、通訳 II では、「ぶっつけ本番」の臨場感のある練習をできるだけ多くさせたいと考えています。そのほうが、社会に出てから役に立つからです。</p> <p>しかしながら、そうなると、訳の確認作業に十分な時間を確保できません。授業ではポイントだけの説明にとどめざるを得ない場合が出てきますから、授業後に必ず③の作業を行ってください。次の授業で確認チェック作業の時間を設けるようにしましょう。</p> <p>会議の場で必要な英語表現や、ビジネスシーンでのスピーチ表現やプレゼンテーションの表現も学習します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
前期同様、テキストとプリント配布。		授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月 1） 英語ビジネス・コミュニケーション I a（月 1）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的</p> <p>ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要</p> <p>基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①（英文ビジネスコラム）</li> <li>3 国際取引概略 I</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略 II</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合（inquiry）</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファー I（offer）</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファー II</li> <li>12 プリント⑥</li> <li>13 プリント⑦</li> <li>14 プリント⑧</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月 1） 英語ビジネス・コミュニケーション I a（月 1）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的</p> <p>ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要</p> <p>基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約 1（contract）</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約 II</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレーム I（claim）</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレーム II</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> <li>10-15 プレゼンテーションの実習</li> </ol> <p>授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月 2） 英語ビジネス・コミュニケーション I a（月 2）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っでの演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①（英文ビジネスコラム）</li> <li>3 国際取引概略 I</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略 II</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合（inquiry）</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファー I（offer）</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファー II</li> <li>12 プリント⑥</li> <li>13 プリント⑦</li> <li>14 プリント⑧</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月 2） 英語ビジネス・コミュニケーション I a（月 2）	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約 1（contract）</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約 II</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレーム I（claim）</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレーム II</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> <li>10-15 プレゼンテーションの実習</li> </ol> <p>授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火 3） 英語ビジネス・コミュニケーション I a（火 3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 <b>Business Writing</b> の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。</p> <p>水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。一緒に勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」）</li> <li>3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と練習問題 1</li> <li>4. 効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」）</li> <li>5. 効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と練習問題 2</li> <li>6. よく使用される表現（その 1—「取引の申込み」）</li> <li>7. よく使用される表現（その 2—「引合い」）練習問題 3</li> <li>8. よく使用される表現（その 3—「オファー」）</li> <li>9. よく使用される表現（その 4—「信用状」）練習問題 4</li> <li>10. よく使用される表現（その 5—「積出し」）</li> <li>11. よく使用される表現（その 6—「クレーム」）</li> <li>12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方</li> <li>13. 英文 Business Writing 実践練習問題（その 1）</li> <li>14. 英文 Business Writing 実践練習問題（その 2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢達郎著 『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年） プリント：必要に応じて随時配布する		学期末の試験（80%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（20%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火 3） 英語ビジネス・コミュニケーション I b（火 3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済を」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。同時に、例えば、「歴史的円高なのに、なぜ原油・綿花・小麦・大豆・コーヒー豆と言った外国からの輸入品が（それ程）値下がりしないのでしょうか」。それには理由があるのです。こういう勉強もしていきます。水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「英字新聞の特徴について（1）」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴について（2）」</li> <li>4. 「Headline の読み方実践練習（1）」</li> <li>5. 「Headline の読み方実践練習（2）」</li> <li>6. 「Lead の読み方実践練習（1）」</li> <li>7. 「Lead の読み方実践練習（2）」</li> <li>8. 「Lead の読み方実践練習（3）」</li> <li>9. 「Lead の読み方実践練習（4）」</li> <li>10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>12. 「国際経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>13. 「国際経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>14. 「国際経済記事の読み方実践練習（3）」</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>随時、授業中に経済用語等について分かりやすく解説・説明していきます。尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（80%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（20%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。	



06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水 3） 英語ビジネス・コミュニケーション I a（水 3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事がある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済を」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。同時に、例えば、「歴史的円高なのに、なぜ原油・綿花・小麦・大豆・コーヒー豆と言った外国からの輸入品が（それ程）値下がりしないのでしょうか」。それには理由があるのです。こういう勉強もしていきます。火曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「英字新聞の特徴について（1）」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴について（2）」</li> <li>4. 「Headline の読み方実践練習（1）」</li> <li>5. 「Headline の読み方実践練習（2）」</li> <li>6. 「Lead の読み方実践練習（1）」</li> <li>7. 「Lead の読み方実践練習（2）」</li> <li>8. 「Lead の読み方実践練習（3）」</li> <li>9. 「Lead の読み方実践練習（4）」</li> <li>10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>12. 「国際経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>13. 「国際経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>14. 「国際経済記事の読み方実践練習（3）」</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>随時、授業中に経済用語等について分かりやすく解説・説明していきます。尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		<p>学期末の試験（80％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（20％）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水 3） 英語ビジネス・コミュニケーション I b（水 3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 <b>Business Writing</b> の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。</p> <p>火曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。一緒に勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」）</li> <li>3. ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と練習問題 1</li> <li>4. 効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・"You" Attitude・礼儀正しさ」）</li> <li>5. 効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」）と練習問題 2</li> <li>6. よく使用される表現（その 1－「取引の申込み」）</li> <li>7. よく使用される表現（その 2－「引合い」）練習問題 3</li> <li>8. よく使用される表現（その 3－「オファー」）</li> <li>9. よく使用される表現（その 4－「信用状」）練習問題 4</li> <li>10. よく使用される表現（その 5－「積出し」）</li> <li>11. よく使用される表現（その 6－「クレーム」）</li> <li>12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方</li> <li>13. 英文 Business Writing 実践練習問題（その 1）</li> <li>14. 英文 Business Writing 実践練習問題（その 2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>海老沢達郎著『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年）</p> <p>プリント：必要に応じて随時配布する</p>		<p>学期末の試験（80％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（20％）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木 3) 英語ビジネス・コミュニケーション I a (木 3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元 (春学期は Unit1~12) における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙 (technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解 (英文和訳) と作成 (和文英訳) の訓練を行います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意:</b> このシラバスは木曜日3時限の授業のものです。 杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。</li> <li>3. 「市況」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>4. 「取引先の発見」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>5. 「取引の申込み」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>6. 「信用照会」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>7. 「引合い」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>8. 「引合いに対する返事」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>9. 「オファー」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>10. 「カウンター・オファー」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>11. 「注文」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>12. 「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>13. 「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>14. 「成約」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講 (改訂版)』(三恵社、2010 年) および配布プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)</p>		出席状況、授業貢献度など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木 3) 英語ビジネス・コミュニケーション I b (木 3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元 (秋学期は Unit13~21) における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙 (technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解 (英文和訳) と作成 (和文英訳) の訓練を行います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意:</b> このシラバスは木曜日 3 時限の授業のものです。 杉山担当のもう 1 つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。</li> <li>3. 「信用状の開設と訂正」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>4. 「海上保険」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>5. 「輸出手配」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>6. 「船積み」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>7. 「輸入手配」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>8. 「決済」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>9. 「クレーム」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>10. 「クレーム調整」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>11. 「会社社交文」(推薦状) の読解・作成を行います。</li> <li>12. 「会社社交文」(案内状) の読解・作成を行います。</li> <li>13. 「会社社交文」(礼状) の読解・作成を行います。</li> <li>14. 「会社社交文」(見舞状) の読解・作成を行います。</li> <li>15. 秋学期の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講 (改訂版)』(三恵社、2010 年) および配布プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)</p>		出席状況、授業貢献度など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	



06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木 4) 英語ビジネス・コミュニケーション I a (木 4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、成約にいたるまでの段階に登場する代表的なビジネス文書として、レター・オブ・インテント (Letter of Intent ; LOI) 、スポット売買契約(One-shot Sales Contract) の表面約款と裏面約款、長期売買契約書(Long-term Sales Contract) 、取扱説明書(Instruction Manual) などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意：このシラバスは木曜日 4 時限の授業のものです。</b></p>		<p>1. 春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。</p> <p>2.-3. LOI の意義と目的や作成上の注意点について説明し実際のサンプルを検討します。</p> <p>4.-5. 実際の案件に基づき LOI 作成の実習を行います。</p> <p>6.-8. スポット売買契約書の目的や作成上の注意点について説明し、「表面約款」および「裏面約款 (一般取引条件)」の現物のサンプルを検討します。</p> <p>9.-10. 長期売買契約書について説明し、現物のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。</p> <p>11.-12. 製造物責任 (Product Liability) の観点から英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。</p> <p>13.-14. “Plain English” を用いた取扱説明書作成の方略を検討します。</p> <p>15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)</p>		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木 4) 英語ビジネス・コミュニケーション I b (木 4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、履行および決済の段階に登場する代表的なビジネス文書として、商業送り状(Commercial Invoice)、船荷証券 (Bill of Lading; B/L)、保険証券 (Insurance Policy) 等の船積書類、輸出申告書と輸入(納税)申告書、荷為替信用状 (Documentary Letter of Credit; L/C) などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意：このシラバスは木曜日 4 時限の授業のものです。</b></p>		<p>1. 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。</p> <p>2. 各種の船積書類(Shipping Documents; S/D)の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。</p> <p>3.-4. 商業送り状のサンプルを検討し、作成する実習を行います。</p> <p>5.-6. 船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。</p> <p>7. 輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。</p> <p>8.-9. 輸出申告書 (Export Declaration; E/D) を作成する実習を行います。</p> <p>10.-11. 輸入(納税)申告書 (Import Declaration; I/D) を作成する実習を行います。</p> <p>12.-14. 荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。</p> <p>15. 秋学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)</p>		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーション II a	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。</p> <p>具体的には、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階）に属するテーマを詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など</li> <li>3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観</li> <li>4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関</li> <li>5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など</li> <li>6. 貿易マーケティング段階(1)：”Market Research”</li> <li>7. 貿易マーケティング段階(2)：”Marketing Research”</li> <li>8. 取引関係創設段階(1)：取引先選定と引合い</li> <li>9. 取引関係創設段階(2)：信用照会(credit inquiry)</li> <li>10. 成約段階(1)：「一般取引条件」の意義と内訳</li> <li>11. 成約段階(2)：オファー(offer)と承諾(acceptance)</li> <li>12. 成約段階(3)：品質と数量に関する条件</li> <li>13. 成約段階(4)：価格と決済に関する条件</li> <li>14. 成約段階(5)：船積みと保険に関する条件</li> <li>15. 春学期の授業の総復習および質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)</p>		<p>出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーション II b	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。</p> <p>具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. 履行段階(1)：”Incoterms 2010”の各貿易条件の概観</li> <li>3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認</li> <li>4. 履行段階(3)：輸出通関手続き</li> <li>5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き</li> <li>6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き</li> <li>7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き</li> <li>8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き</li> <li>9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き</li> <li>10. 履行段階(9)：各種運送書類 (transport document)</li> <li>11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法</li> <li>12. 決済段階(1)：信用状(Letter of Credit: L/C)と荷為替手形による決済の仕組み</li> <li>13. 決済段階(2)：L/C によらない決済の仕組み</li> <li>14. クレームおよびクレーム調整の段階：クレームの種類、クレームの予防、クレームの種々の解決法など</li> <li>15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)</p>		<p>出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I (月 3) メディア英語 I a (月 3)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.		1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Military 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation Subject to Change	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I (月 3) メディア英語 I b (月 3)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.		1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation Subject to Change	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度、春学期は「映画で学ぶ言葉と文化」と題して、マスメディアの一つである「映画」を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、「日本語字幕と音声英語の違い」、「原作小説との比較」などを通して、「映画で学ぶ言葉と文化」を分かりやすく講義していきます。同時に、映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います。就活や社会に出てから必要な「考える力」も養います。学生諸君にとっては、きっと「目から鱗が落ちる」講義となるでしょう。 m</p> <p>アメリカの文豪でノーベル賞作家のヘミングウェイの作品の映画を 2 本とりあげます。最初の映画は“Killers (殺人者)” (1946 年) で、主にハードボイルドと言われている彼の文体と film noir(フィルム・ノアール)について考えてみたいと思います。2 本目の映画は“The Sun Also Rises (陽はまた昇る)” (1957 年) で、主人公ジェイク・バーンズらの生き方とアメリカについて考えてみたいと思います。</p> <p>半期完結型の講義ですので、授業に出席し、積極的な学生の参加を望みます。一緒に勉強していきましょう。</p>		<p>1. 講義の説明</p> <p>2. 「ヘミングウェイ」についての講義 (1)</p> <p>3. 「ヘミングウェイ」についての講義 (2)</p> <p>4. 「殺人者 (その 1)」部分観賞と講義</p> <p>5. 「殺人者 (その 2)」部分観賞と講義</p> <p>6. 「殺人者 (その 3)」部分観賞と講義</p> <p>7. 「殺人者 (その 4)」部分観賞と講義</p> <p>8. 「殺人者 (その 5)」部分観賞と講義</p> <p>9. まとめ (講義では、当時の社会的状況、原作の一部を読みハードボイルドの文体説明と映画との比較、film noir 等について解説いたします。)</p> <p>10. 「陽はまた昇る (その 1)」部分観賞と講義</p> <p>11. 「陽はまた昇る (その 2)」部分観賞と講義</p> <p>12. 「陽はまた昇る (その 3)」部分観賞と講義</p> <p>13. 「陽はまた昇る (その 4)」部分観賞と講義</p> <p>14. 「陽はまた昇る (その 5)」部分観賞と講義</p> <p>(講義では、当時の社会的状況、Lost Generation, Pax Americana, ユダヤ人問題等について解説いたします。)</p> <p>15. まとめ (尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		<p>学期末の試験 (80%) を中心にして、これに出席、授業への貢献度 (20%) を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期も「映画で学ぶ言葉と文化」と題して、マスメディアの一つである「映画」を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、「日本語字幕と音声英語の違い」、「原作小説との比較」などを通して、「映画で学ぶ言葉と文化」を分かりやすく講義していきます。同時に、映画が社会にどのような影響を与えるかについて考えたいと思います。就活や社会に出てから必要な「考える力」も養います。学生諸君にとっては、きっと「目から鱗が落ちる」講義となるでしょう。</p> <p>マーガレット・ミッチェル原作・ヴィヴィアン・リー、クラーク・ゲーブル主演でアカデミー賞 10 部門を受賞したアメリカ映画の名作 “Gone with the Wind(風と共に去りぬ)” (1933 年) を取り上げ、150 年前の南北戦争前後のアメリカの状況と南部の文明やスカーレットの生き方などを講義していきます。</p> <p>アカデミックな講義を目指します。また、半期完結型の講義ですので、積極的な学生の参加を望みます。一緒に勉強していきましょう。</p>		<p>1. 講義の説明</p> <p>2. 「マーガレット・ミッチェル」についての講義</p> <p>3. 「当時の社会的状況」についての講義</p> <p>4. 「風と共に去りぬ (その 1)」部分観賞と講義</p> <p>5. 「風と共に去りぬ (その 2)」部分観賞と講義</p> <p>6. 「風と共に去りぬ (その 3)」部分観賞と講義</p> <p>7. 「風と共に去りぬ (その 4)」部分観賞と講義</p> <p>8. 「風と共に去りぬ (その 5)」部分観賞と講義</p> <p>9. 「風と共に去りぬ (その 6)」部分観賞と講義</p> <p>10. 「風と共に去りぬ (その 7)」部分観賞と講義</p> <p>11. 「風と共に去りぬ (その 8)」部分観賞と講義</p> <p>12. 「風と共に去りぬ」関連問題について (その 1)</p> <p>13. 「風と共に去りぬ」関連問題について (その 2)</p> <p>14. 「風と共に去りぬ」関連問題について (その 3)</p> <p>15. まとめ (講義では、アイルランド (人) との関連、プランテーション、キング牧師との関連、南北戦争の背景、ジョージア州焦土作戦、Carpetbagger と Scalawag、KKK、スカーレットの生き方などについて解説いたします。)</p> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		<p>学期末の試験 (80%) を中心にして、これに出席、授業への貢献度 (20%) を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「メディア英語を学ぶ」とは何を意味するのでしょうか。</p> <p>＊英字新聞・雑誌やネットの記事を効率よく読む学習 (頻出単語なども、項目ごとに暗記したりする)</p> <p>＊テレビ・ラジオの音声学習教材にして学ぶ (ニュースや演説のみならず、CMも題材になりえる)</p> <p>＊マスメディアの流す記事を鵜呑みにせず、懐疑的に読む</p> <p>「メディア英語学習法」のいくつか例を挙げてみましたが、学習者の目的・興味によって、「メディア英語の学習法」は様々な方法があると思います。</p> <p>今回この授業では、日々のニュースや現在世界で起こっている様々な出来事を、表面的ではなく深く理解するために、その発端となった重大事件や現在に至るまでの経緯、関連した歴史上重要な演説や論争を学習します。</p> <p>背景知識をしっかりと理解した上で、自分自身の意見を言うように論理的思考を身につけることも、この授業の目的となります。(↓に続きます)</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます。<b>第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね！</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、グループ作り</li> <li>2. テーマ <b>公民権運動</b> 概論</li> <li>3. 演説：キング牧師 議論：差別是正案は是か非か</li> <li>4. テーマ <b>9. 11</b> 概論</li> <li>5. 演説：G. W. ブッシュ 議論：テロは正当化できるか</li> <li>6. テーマ <b>アポロ計画</b> 概論</li> <li>7. 演説：J. F. ケネディ 議論：宇宙開発を推進すべきか</li> <li>8. テーマ <b>大恐慌とサブプライムローン</b> 概論</li> <li>9. 演説：バーナンキ 議論：政府は銀行を救済すべきか</li> <li>10. テーマ <b>ソ連の解体</b> 概論</li> <li>11. 演説：ゴルバチョフ 議論：旧ソ連国（グルジアとウクライナ）の NATO 加盟を認めてもいいか</li> <li>12. テーマ <b>EU 誕生</b> 概論</li> <li>13. 演説：シューマン 議論：EU は加盟希望国をすべて受け入れるべきか</li> <li>14. テーマ <b>ベルリンの壁崩壊</b> 概論</li> <li>15. 演説：レーガン 議論：NATO は解体すべきか</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
植田十三他著『 <i>Global Dynamics</i> : 世界情勢を英語で読む』 (センゲージラーニング、2011 年) ISBN: 978-4-86312-183-6		※ 成績は以下の配分で評価します。 期末試験 60%、授業内での発表 40% ※ 遅刻 3 回（30 分以内）で 1 回の欠席とみなします。 欠席 5 回した時点で単位取得が不可能となります。	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2011 年。東日本大震災、そして福島原発事故が起きました。変動相場制に移行して以降、対米ドルで、史上最高値の円高を更新。日本だけでなく、世界的にも、欧州経済危機やアラブの春など、大変化を経験しました（ここに書ききれない程、本当に沢山の歴史的出来事がありました）。</p> <p>このような情勢のなか、メディアの流す情報をどのように解釈すればいいのか、一層考えさせられた方も多いのではないのでしょうか。</p> <p>上記の背景をもとに、この授業の目的を以下のように設定しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す (極端な考えに偏らないようにするため)</p> <p>＊↑をもとに、自分の考えを創りだす</p> <p>＊自分の考えを他人に正確に伝える</p> <p>＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 (議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。)</p> <p>＊行動を起こす</p> </div> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<p>引き続き、グループ発表形式で進めていきます。学生同士、話し合う時間も、出来る限り作りたいとも考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. テーマ <b>中国民主化運動</b> 概論</li> <li>3. 演説：江沢民 議論：政府の言論規制は是か非か</li> <li>4. テーマ <b>朝鮮戦争</b> 概論</li> <li>5. 演説：マッカーサー 議論：北朝鮮への経済制裁</li> <li>6. テーマ <b>ベトナム戦争</b> 概論</li> <li>7. 演説：チザム 議論：米のベトナム戦争関与の是非</li> <li>8. テーマ <b>高度経済成長</b> 概論</li> <li>9. 演説：中曽根康弘 議論：資本主義と社会主義</li> <li>10. テーマ <b>中東情勢</b> 概論</li> <li>11. 演説：ラビン 議論：中東和平「ロードマップ」計画</li> <li>12. テーマ <b>キューバ危機</b> 概論</li> <li>13. 演説：J. F. ケネディ 議論：核兵器は廃絶すべきか</li> <li>14. テーマ <b>アパルトヘイト</b> 概論</li> <li>15. 演説：マンデラ 議論：アパルトヘイトの是非</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
植田十三他著『 <i>Global Dynamics</i> : 世界情勢を英語で読む』 (センゲージラーニング、2011 年) ISBN: 978-4-86312-183-6		※ 成績は以下の配分で評価します。 期末試験 60%、授業内での発表 40% ※ 遅刻 3 回（30 分以内）で 1 回の欠席とみなします。 欠席 5 回した時点で単位取得が不可能となります。	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	小林 愛明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【概要】インターネットに載せられている最新のニュース記事を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。</p> <p>【発表】クラスを4つの班に分け、右の「授業計画」に記した順番に従って発表をしてもらう。</p> <p>【課題】各班は、発表の一週間前に英文記事を選択し、翻訳と補足資料を作成した後、火曜日までにメーリスを使ってクラス全員に資料を配布する。他の学生は水曜日に必ず予習をしてから木曜日の授業に臨むこと。</p> <p>履修する学生にはかなりの忍耐力と語学力が必要とされる。また、一回でも発表を無断欠席したり、他の学生に対して無責任な行動を取ったりした場合は評価対象外となる。さらに、発表に対する評価基準に関しては班内の「連帯責任」となる可能性がある所以要注意。</p> <p>単位取得のためには相当な努力と責任感が必要であることを覚悟して頂きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション①（班決定&amp;連絡網確立）</li> <li>2. イントロダクション②（班決定&amp;連絡網確立）</li> <li>3. A 班発表</li> <li>4. B 班発表</li> <li>5. C 班発表</li> <li>6. D 班発表</li> <li>7. A 班発表</li> <li>8. B 班発表</li> <li>9. C 班発表</li> <li>10. D 班発表</li> <li>11. A 班発表</li> <li>12. B 班発表</li> <li>13. C 班発表</li> <li>14. D 班発表</li> <li>15. 前期まとめ（※レポート提出日）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>①テキストはプリントにて配布。</li> <li>②『リーダーズ英和辞典』レベルの辞書を持参すること。</li> </ol>		発表と学期末レポートの質を総合して決める。レポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合は評価対象外となる。	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	小林 愛明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【概要】インターネットに載せられている最新のニュース記事を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。</p> <p>【発表】クラスを4つの班に分け、右の「授業計画」に記した順番に従って発表をしてもらう。</p> <p>【課題】各班は、発表の一週間前に英文記事を選択し、翻訳と補足資料を作成した後、火曜日までにメーリスを使ってクラス全員に資料を配布する。他の学生は水曜日に必ず予習をしてから木曜日の授業に臨むこと。</p> <p>履修する学生にはかなりの忍耐力と語学力が必要とされる。また、一回でも発表を無断欠席したり、他の学生に対して無責任な行動を取ったりした場合は評価対象外となる。さらに、発表に対する評価基準に関しては班内の「連帯責任」となる可能性がある所以要注意。</p> <p>単位取得のためには相当な努力と責任感が必要であることを覚悟して頂きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション①（班決定&amp;連絡網確立）</li> <li>2. イントロダクション②（班決定&amp;連絡網確立）</li> <li>3. A 班発表</li> <li>4. B 班発表</li> <li>5. C 班発表</li> <li>6. D 班発表</li> <li>7. A 班発表</li> <li>8. B 班発表</li> <li>9. C 班発表</li> <li>10. D 班発表</li> <li>11. A 班発表</li> <li>12. B 班発表</li> <li>13. C 班発表</li> <li>14. D 班発表</li> <li>15. 後期まとめ（※レポート提出日）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>①テキストはプリントにて配布。</li> <li>②『リーダーズ英和辞典』レベルの辞書を持参すること。</li> </ol>		発表と学期末レポートの質を総合して決める。レポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合は評価対象外となる。	



06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I (金 2) メディア英語 I a (金 2)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.		1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Military 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation Subject to Change	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I (金 2) メディア英語 I b (金 2)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.		1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation Subject to Change	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is aimed at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>political and economic/business stories, with a focus on Japan</u>. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa.</p>		1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is aimed at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>cultural and entertainment stories from around the world</u>, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 II メディア英語 II a	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.		1 Introduction 2 Route 66, Weekly Current Event 3 The American RED Cross, Weekly Current Event 4 The Boston Ballet, Weekly Current Event 5 Comedy, Weekly Current Event 6 Political Protest, Weekly Current Event 7 The Yellow Pages, Weekly Current Event 8 The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event 9 The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event 10 Healthy Life Styles, Weekly Current Event 11 Supermarkets, Weekly Current Event 12 Apples in the US Northwest, Weekly Current Event 13 Social Welfare Change 14.15 Final Evaluation Subject to Change	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 II メディア英語 II b	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.		1 Introduction 2 Tennessee, Weekly Current Event 3 The Special Olympics, Weekly Current Event 4 Sports Shoes, Weekly Current Event 5 Charities for Children, Weekly Current Event 6 Health and Comedy, Weekly Current Event 7 Broadway Musical, Weekly Current Event 8 Country Western Singers, Weekly Current Event 9 Space Exploration, Weekly Current Event 10 Analysis of Commercial 11 You tube music analysis 12 Critique of Viral video 13 The Cove 14 Whaling Issues 15 Final Presentations Subject to Change	
テキスト、参考文献		評価方法	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Quizzes 35%, Attendance 15%, Participation 15% Homework 35%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 II メディア英語 II a	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。		毎回、授業の初めに単語小テストを行う。授業では主に和訳をしながら記事を読み進める。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		主として単語小テストの結果の平均点により評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 II メディア英語 II b	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		主として単語小テストの平均点により評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 II メディア英語 II a	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.</p>		1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay or Presentation #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay or Presentation #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay or Presentation #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay or Presentation #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 II メディア英語 II b	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English II.</p>		2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay or Presentation #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay or Presentation #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay or Presentation #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay or Presentation #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%	

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this one-semester course we focus on a film from three angles:</p> <p>first of all we study its background</p> <p>next we watch the film itself in the context of its background, and we focus in on key extracts from its screenplay</p> <p>then we broaden our focus once more to examine the film's wider implications</p> <p>In this way we shall not only enjoy rich, meaningful content but also benefit from close attention to language skills. No student presentations required.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction &amp; Orientation</li> <li>2 Backgrounding 1</li> <li>3 Backgrounding 2</li> <li>4 Backgrounding 3</li> <li>5 Film 1</li> <li>6 Film 2</li> <li>7 Screenplay Focus 1</li> <li>8 Screenplay Focus 2</li> <li>9 Screenplay Focus 3</li> <li>10 Reading rotation and discussion 1</li> <li>11 Reading rotation and discussion 2</li> <li>12 Panning out 1</li> <li>13 Panning out 2</li> <li>14 Panning out 3</li> <li>15 Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There is no set textbook</p> <p>E-J/J-E dictionary required</p>		<p>Minimum two-thirds attendance required to pass</p> <p>Evaluation based upon continuous assessment of class participation and one written assignment</p>	

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	D. ベーカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this one-semester course we focus on another film from three angles:</p> <p>first of all we study its background</p> <p>next we watch the film itself in the context of its background, and we focus in on key extracts from its screenplay</p> <p>then we broaden our focus once more to examine the film's wider implications</p> <p>In this way we shall not only enjoy rich, meaningful content but also benefit from close attention to language skills. No student presentations required.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction &amp; Orientation</li> <li>2 Backgrounding 1</li> <li>3 Backgrounding 2</li> <li>4 Backgrounding 3</li> <li>5 Film 1</li> <li>6 Film 2</li> <li>7 Screenplay Focus 1</li> <li>8 Screenplay Focus 2</li> <li>9 Screenplay Focus 3</li> <li>10 Reading rotation and discussion 1</li> <li>11 Reading rotation and discussion 2</li> <li>12 Panning out 1</li> <li>13 Panning out 2</li> <li>14 Panning out 3</li> <li>15 Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>There is no set textbook</p> <p>E-J/J-E dictionary required</p>		<p>Minimum two-thirds attendance required to pass</p> <p>Evaluation based upon continuous assessment of class participation and one written assignment</p>	



06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>公開後 60 年を経ても今尚その輝きを失わない名画、「カサブランカ」。(アカデミー賞受賞) 第二次世界大戦のヨーロッパ、モロッコを舞台に繰り広げられる物語をDVDで観賞し、生き生きとしたオーセンティックな使える英語を学び、発表などを通じて実際に使えるようにしていきます。時代的背景の中で深みのある台詞でつづられていくストーリーを楽しみながら学べると思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>DVD を見てスクリプトをよく理解し、Exercise で確認します。チャプターごとに好きな表現を選び、ペアでスキットを作成し発表して、生きた英語を身につけていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Unit 1. I'll Die in Casablanca</li> <li>3. Unit 2. Where Were You Last Night?</li> <li>4. Unit 3 Yeah? What's His Name? Afternoon Tea Break 1</li> <li>5. Unit 4. Play "As Time Goes By"</li> <li>6. Unit 5. Here's Looking at You, Kid.</li> <li>7. Unit 6. Kiss Me As If It Were the Last Time Afternoon Tea Break 2</li> <li>8. Unit 7. Your Story Had Me a Little Confused</li> <li>9. Unit 8. Nobody Ever Loved Me That Much</li> <li>10. Unit 9. This Café Is Closed Until Further Notice! Afternoon Tea Break 3</li> <li>11. Unit 10. I Wish I Didn't Love You So Much</li> <li>12. Unit 11. She Isn't Just Any Woman</li> <li>13. Unit 12. We Always Have Paris</li> <li>14. まとめ (1)</li> <li>15. まとめ (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by Hiromi Akimoto/Mayumi Hamada. <i>Casablanca -- Cool and Unforgettable English</i> . Macmillan Languagehouse, ¥2500 +税		出席状況、授業への参加度、宿題、発表、エッセイ提出等から総合的に評価します。授業中のプレゼンテーションも重要視しますので、出席は最も重要。	

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>3つの有名なアメリカ映画、マーガレット ミッチェルの「風と共に去りぬ」、ルイザ メイ オルコットの「若草物語」、ライマン フランク ボームの「オズの魔法使い」を通してアメリカの歴史的、社会的、文化的背景を理解し、アメリカの心を感じとることが出来れば嬉しいと思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>DVDを観て、練習問題をして内容の理解を確認します。それからその場面場面にちりばめられた多くの英語表現を学び、それらの表現を使い各自スキットを作成して発表することにより実際に使えるようにしていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. "Gone With the Wind" Unit 1. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>3. Unit 2. Same as Above</li> <li>4. Unit 3. "</li> <li>5. Unit 4. Vocabulary Exercises/Scene 1,2, 3/Summary</li> <li>6. "Little Women" Unit 5. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>7. Unit 6. Same as above</li> <li>8. Unit 7. "</li> <li>9. Unit 8 Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Summary</li> <li>10. "The Wizard of Oz" Unit 9. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>11. Unit 10. Same as Above</li> <li>12. Unit 11. "</li> <li>13. Unit 12. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/ Summary</li> <li>14. Performance</li> <li>15. まとめ (1)(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by M. Ishizuka, M. Kobayashi, M. Maass, M. Nagasaki. <i>American Spirits in Movies</i> . Seibido. ¥2400.		春学期に同じ。	

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 a		担当者	T. ホサイン
講義目的、講義概要		授業計画		
<p>This course explores the complex interplay between film and literature. Selected novels, short stories and plays are analyzed in relation to film versions of the same works in order to gain an understanding of the possibilities—and problems—involved in the transposition to film.</p> <p>The class is designed to show students how film is like a form of literature. By viewing films(classic and modern), students will learn that good films, like good literature, have certain elements in common. Students will be expected to understand motifs, symbols, metaphors, allusions, plot, theme and other literary elements as they relate to both film and literature. In addition, students will develop an appreciation for the interaction of film elements such as scripting, directing, acting, producing, editing, cinematography, music, lighting, sound, special effects, set design and costuming. Students will learn to recognize such film genres as drama, comedy, western, musical, science fiction, mystery, action/adventure, and animation. Students will use their knowledge of the various elements of cinema to analyze and critique each film studied in class discussions and in compositions. Students will use a variety of writing forms that include note taking, paragraphs, and formal essays.</p>		<p>第 1 回 Course Orientation 第 2 回 Read 1984, Part-I 第 3 回 Read 1984, Part-I 第 4 回 Read 1984, Part-I 第 5 回 In-class assessment 第 6 回 Read 1984, Part-II 第 7 回 Read 1984, Part-II 第 8 回 Read 1984, Part-II 第 9 回 Read 1984, Part-II 第 10 回 In-class assessment 第 11 回 Read 1984, Part-III 第 12 回 Read 1984, Part-III 第 13 回 Read 1984, Part-III 第 14 回 Review test 第 15 回 Final Assessment The instructor has the right to amend the schedule.</p>		
テキスト、参考文献		評価方法		
Orwell, George. <i>Nineteen Eighty Four</i> . NY: Signet Classics		<p>Class Participation = 20 % Composition, Projects, Tests, Quizzes = 30 % Student Notebook = 20 % Semester Final = 30 %</p>		

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 b		担当者	T. ホサイン
講義目的、講義概要		授業計画		
<p>This course explores the complex interplay between film and literature. Selected novels, short stories and plays are analyzed in relation to film versions of the same works in order to gain an understanding of the possibilities—and problems—involved in the transposition to film.</p> <p>The class is designed to show students how film is like a form of literature. By viewing films (classic and modern) , students will learn that good films, like good literature, have certain elements in common. Students will be expected to understand motifs, symbols, metaphors, allusions, plot, theme and other literary elements as they relate to both film and literature. In addition, students will develop an appreciation for the interaction of film elements such as scripting, directing, acting, producing, editing, cinematography, music, lighting, sound, special effects, set design and costuming. Students will learn to recognize such film genres as drama, comedy, western, musical, science fiction, mystery, action/adventure, and animation. Students will use their knowledge of the various elements of cinema to analyze and critique each film studied in class discussions and in compositions. Students will use a variety of writing forms that include note taking, paragraphs, and formal essays.</p>		<p>第 1 回 Course Orientation 第 2 回 Tess-chapter 1-5 第 3 回 Tess-chapter 6-10 第 4 回 Tess-chapter 11-15 第 5 回 Tess-chapter 16-20 第 6 回 Tess-chapter 21-25 第 7 回 Tess-chapter 26-30 第 8 回 In-class assessment &amp;Tess-chapter 31-35 第 9 回 Tess-chapter 36-40 第 10 回 Tess-chapter 11-45 第 11 回 Tess-chapter 46-50 第 12 回 Tess-chapter &amp;Tess-chapter 51-55 第 13 回 Tess-chapter 56-59 第 14 回 Review test 第 15 回 Final Assessment The instructor has the right to amend the syllabus.</p>		
テキスト、参考文献		評価方法		
Thomas Hardy. <i>Tess</i>		<p>Class Participation = 20 % Composition, Projects, Tests, Quizzes = 30 % Student Notebook = 20 % Semester Final = 30 %</p>		

06 年度以降 03 年度以降	英語学の世界 英語学概論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者は TOEIC900 点以上の取得者から break の過去形を <b>broked</b> と、また <b>dog</b> に冠詞も <b>s</b> も付けずに書く人までさまざまですが、9 割は教諭免許取得希望者ですから、授業の狙いは、言語学の最近の成果を踏まえ、英語その本来の姿についての知識をしっかりと身につけてもらうことにあります。したがって、授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対する「なるほど!」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。</p> <p>この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、予習・復習をしていればそのようなことは無いはず。参考のために、単位を落とす人の傾向を示しておきます。</p> <p>★授業当日までにプリントに目を通し、例文の意味を調べず、授業後も復習をしない。</p> <p>★欠席しがちで、出席しても集中して聴かない。</p> <p>★講義内容でわからないところを（メール等で）質問せず、ほったらかしておく。</p> <p>★英語の知識を身につけたいという意欲がありません。</p> <p>要するに、学習の基本的態度さえ身につけていれば容易に単位をとることができるということです。&lt;以下に続く&gt;</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前置詞の意味</li> <li>2. 前置詞と動詞の意味ネットワーク</li> <li>3. 不定冠詞 <b>vs.</b> はだか名詞</li> <li>4. 英語と日本語の情報構造</li> <li>5. 情報の新旧と冠詞</li> <li>6. 自動詞構文と他動詞構文</li> <li>7. 英語受動文</li> <li>8. GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>9. 再帰代名詞の使い方</li> <li>10. 動詞の意味と構文（結果構文）</li> <li>11. 動詞の意味と構文（二重目的語構文）</li> <li>12. 動詞の意味と構文（壁塗り構文）</li> <li>13. 動詞の意味と構文（<b>tough</b> 構文と中間構文）</li> <li>14. 書き換え構文はどこまで交替可能か</li> <li>15. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相）</li> </ol> <p>※ 上のトピックに変更を加える場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：第 2 週目からは講義支援ポータルサイトを通じて配布しますので、各自で印字して下さい。</p> <p>参考書：授業中に適宜紹介します。</p>		<p>最終成績は平常テストと課題が 4 割～5 割を占め、定期試験が 5 割～6 割を占めます。なお、<u>平常の成績が一定基準を満たさないと定期試験が受験できない場合があります。</u></p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語学の世界 英語学概論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業を受ける利点には次のようなこともあります。</p> <p>(1) 3 通りのかたちの名詞それぞれの使い分けが出来るようになる。</p> <p>a. Anyone who plays <u>piano</u> knows that is no great feat.</p> <p>b. He hates playing <u>a piano</u> which is out of tune.</p> <p>c. Do you play <u>the piano</u>?</p> <p>(2) 上の c の the と the sun, the wines of France などに使う the の規則に共通性のあること知ることができる。</p> <p>(3) “I was standing ( ) the corner.” のカッコに at も in も on も入るが意味 (=見方) が違うことがわかる。</p> <p>(4) 疲れている人に向かって「一所懸命働いたから疲れているんだよ」という場合には a のほうがよいとわかる。</p> <p>a. You feel tired because you've worked hard.</p> <p>b.??Because you've worked hard, you feel tired.</p> <p>(5) 日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“I persuaded John out of smoking, but he didn't quit smoking.” とは言えない理由がわかるようになる。</p> <p>(6) The President of the United States is Barack Obama, に付く付加疑問は isn't he?ではなく isn't it?になることがわかるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前置詞の意味</li> <li>2. 前置詞と動詞の意味ネットワーク</li> <li>3. 不定冠詞 <b>vs.</b> はだか名詞</li> <li>4. 英語と日本語の情報構造</li> <li>5. 情報の新旧と冠詞</li> <li>6. 自動詞構文と他動詞構文</li> <li>7. 英語受動文</li> <li>8. GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>9. 再帰代名詞の使い方</li> <li>10. 動詞の意味と構文（結果構文）</li> <li>11. 動詞の意味と構文（二重目的語構文）</li> <li>12. 動詞の意味と構文（壁塗り構文）</li> <li>13. 動詞の意味と構文（<b>tough</b> 構文と中間構文）</li> <li>14. 書き換え構文はどこまで交替可能か</li> <li>15. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相）</li> </ol> <p>※ 上のトピックに変更を加える場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：第 2 週目からは講義支援ポータルサイトを通じて配布しますので、各自で印字して下さい。</p> <p>参考書：授業中に適宜紹介します。</p>		<p>最終成績は平常テストと課題が 4 割～5 割を占め、定期試験が 5 割～6 割を占めます。なお、<u>平常の成績が一定基準を満たさないと定期試験が受験できない場合があります。</u></p>	

03 年度以降	言語情報処理 I a	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】</p> <p>この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる。たとえば「流暢さ」、「使用する単語の種類」、「使用する文法の複雑さ」、「正確さ」などである。この授業は、これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする。それにより、自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり、将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は、生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを目指す。<u>英語学習に強い興味関心がある人、教職を目指す人</u>に適した内容と考える。</p> <p>【概要】</p> <p>ごく基本的な言語学の知識の講義から始め、その後は1人1台のコンピューターを使い、演習を中心に授業を進める。自分で学習者言語データを分析し結果をレポートにまとめることも課題となる。コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが、授業を通して学習することも十分可能。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 言語の基本（1）：品詞</li> <li>3. 言語の基本（2）：形態素、単語、句、節</li> <li>4. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（1）</li> <li>5. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（2）</li> <li>6. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（3）</li> <li>7. 学習者言語の分析：文法力とは何か（1）</li> <li>8. 学習者言語の分析：文法力とは何か（2）</li> <li>9. 学習者言語の分析：文法力とは何か（3）</li> <li>10. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（1）</li> <li>11. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（2）</li> <li>12. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（3）</li> <li>13. 最終レポート準備（1）</li> <li>14. 最終レポート準備（2）</li> <li>15. 【まとめ】</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03 年度以降	言語情報処理 I b	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】</p> <p>春学期に引き続き、学習者言語の分析を行う。それにより、英語学習を進める上で直面する困難点を、具体的な数量的に把握する視点や分析方法を身につける。</p> <p>【概要】</p> <p>春学期の内容を総合的に復習し、それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める。そのため、春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい。秋学期から履修する場合は、言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。</p> <p>授業においては、実際に学習者言語のデータ収集を行い、その分析を進めていく。受講人数によって、グループ活動または個人活動になるが、受講生の作業、演習、発表が中心になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 学習者言語の分析の視点（1）：概要</li> <li>3. 学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ</li> <li>4. 学習者言語の分析の視点（3）：語彙力</li> <li>5. 学習者言語の分析の視点（4）：文法力</li> <li>6. 学習者言語の分析の視点（5）：正確性</li> <li>7. データ収集と学習者コーパスの作成（1）</li> <li>8. データ収集と学習者コーパスの作成（2）</li> <li>9. 学習者コーパスの加工：tagging（1）</li> <li>10. 学習者コーパスの加工：tagging（2）</li> <li>11. 分析（1）</li> <li>12. 分析（2）</li> <li>13. プレゼンテーション（1）</li> <li>14. プレゼンテーション（2）</li> <li>15. 【まとめ】</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	



03 年度以降	言語情報処理 I a	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいたとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析(下に続く↓)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</li> <li>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</li> <li>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</li> <li>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</li> <li>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</li> <li>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</li> <li>7 Excel 関数のネスト(1)</li> <li>8 Excel 関数のネスト(2)</li> <li>9 Excel 関数のネスト(3)</li> <li>10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</li> <li>11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</li> <li>12 データベース上のデータの蓄積方法</li> <li>13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</li> <li>14 データベースの活用</li> <li>15 まとめと演習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03 年度以降	言語情報処理 I b	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</li> <li>2 Access 上にデータを格納</li> <li>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</li> <li>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</li> <li>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</li> <li>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</li> <li>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</li> <li>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</li> <li>9 品詞の使われ方と英文の特徴</li> <li>10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ</li> <li>11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1)</li> <li>12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2)</li> <li>13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3)</li> <li>14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</li> <li>15 まとめと演習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03 年度以降	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「言語情報処理Ⅱ」は「言語情報処理Ⅰ」の履修を前提としません。はじめての人も受講を歓迎します。</p> <p>現代社会にあって、外国語を習得することと同様に学生時代に身につけておきたい能力が情報処理です。英語が使えることに加えて、コンピュータが使いこなせなければ、どのような分野で仕事をしていても、速く、正確に遂行することができます。</p> <p>この講義では、英語を使って、将来教職に就きたい人、ビジネスの第一線で働きたい人、研究職に就きたい人などを対象に、基本的な情報処理について学びます。単にスキルを身につけるといっただけでなく、情報処理することとはどのようなことなのかをアカデミックに、しかも楽しく勉強します。できれば通年で履修してもらいたいと思います。もちろん、はじめての人にもわかりやすくゆっくりと進めます。</p> <p>春学期には、基本的な情報処理の考え方を学びます。使うソフトは主に、Microsoft Excel ですが、PowerPoint や Word などの連携などにも触れたいと思います。</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数の扱い</p> <p>5 Excel 関数のネスト</p> <p>6 データベース処理</p> <p>7 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>8 PowerPoint や Word との連携</p> <p>9-15 *受講生の皆さんの関心、理解度、反応によって、コンテンツを提供していきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03 年度以降	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「言語情報処理Ⅱ」ははじめての人の受講を歓迎します。ただし、Ⅱb から始めるのではなく、なるべくⅡa から履修することを推奨します。</p> <p>「新しい英語学習法が開発されて、3 ヶ月で TOEIC のスコアが 100 点アップしました！」こんな教材の宣伝文句を聞いたら、気になりますよね。ただ、100 点アップした人が、たった 1 人だったと聞いたら、がっかりしますね。10 人だったら、50 人だったら、どうでしょう。一体どのような形で説明を聞いたら、納得できますか？</p> <p>統計は実は専用ソフトを使うといういろいろな統計上の計算はできますが、その考え方を理解していないとんでもない結果を出してしまう危険もあります。</p> <p>本講義では、春学期に学んだ Microsoft Excel(以下 Excel)を使って、データの処理の仕方を学んでいきます。また、処理した結果をグラフ化したり、Word に貼り付けてレポートを作ったり、PowerPoint で表示させてみましょう。分からないことは何でも質問してください。</p> <p>この講義が終わることには、Excel の使い方に精通しているだけでなく、統計処理の基本概念が身についていることでしょう。この知識は将来、きっと様々なところで役に立つと思います。</p>		<p>1 講義のガイダンス：Excel と統計</p> <p>2 統計って何？平均にだまされるな</p> <p>3 ばらつきって何？</p> <p>4 度数分布</p> <p>5 信頼区間</p> <p>6 カイ 2 乗分布</p> <p>7 「偏差値」とは何だったのか</p> <p>8 仮説を立てよう！</p> <p>9 t 検定(対応しないデータ)</p> <p>10 t 検定(対応するデータ)</p> <p>11-15 *受講生の皆さんの関心、理解度、反応によって、コンテンツを提供していきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	



09年度以降 06年度以降 03年度以降	実践英語音声学 英語発音教授法 スピーチ・クリニック	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<u>講義目的</u> 世界共通語としての英語は各言語の訛で話されている。多種の訛が歩みよる方向として「英語」というその言語らしい音があると思われる。それは、どのようなものなのか、理論と実践を通して学習する。 学習者として日本語の特徴と比較しながら練習し、さらには、英語教師を目指す者として、どのような点に注意して教えるかを考え、発案し、練習する。 <u>講義概要</u> 毎回、各項目についてミニ講義を行い、それに関して練習をし、課題を出す。		1. Introduction, Calabo/Movie Teleco 練習 学習の目的・日本人発音はいけなにか 2. 音が運ぶ情報 (segment vs. prosody) 3. 母音 日本語との比較 4. 母音 ミニマルペア 5. 語アクセント 第二アクセント 6. 子音 日本語との比較 7. 子音 音素と異音 8. 子音 連鎖 9. リズム フット、強勢衝突 10. リズム リズム表記の問題点と注意点 11. イントネーション 文アクセントと音調核の意味 12. イントネーション リズムとの兼ね合い 13. イントネーション 意味 14. 指導の順番 15. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業内にて指示、他、配布資料		出席、クイズ、課題、期末試験/課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。	

09年度以降 06年度以降 03年度以降	実践英語音声学 英語発音教授法 スピーチ・クリニック	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<u>講義目的</u> 世界共通語としての英語は各言語の訛で話されている。多種の訛が歩みよる方向として「英語」というその言語らしい音があると思われる。それは、どのようなものなのか、理論と実践を通して学習する。 学習者として日本語の特徴と比較しながら練習し、さらには、英語教師を目指す者として、どのような点に注意して教えるかを考え、発案し、練習する。 <u>講義概要</u> 毎回、各項目についてミニ講義を行い、それに関して練習をし、課題を出す。		1. Introduction, Calabo/Movie Teleco 練習 学習の目的・日本人発音はいけなにか 2. 音が運ぶ情報 (segment vs. prosody) 3. 母音 日本語との比較 4. 母音 ミニマルペア 5. 語アクセント 第二アクセント 6. 子音 日本語との比較 7. 子音 音素と異音 8. 子音 連鎖 9. リズム フット、強勢衝突 10. リズム リズム表記の問題点と注意点 11. イントネーション 文アクセントと音調核の意味 12. イントネーション リズムとの兼ね合い 13. イントネーション 意味 14. 指導の順番 15. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業内にて指示、他、配布資料		出席、毎回の課題、期末テスト/課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。	

03 年度以降	音声・音韻論 a	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 1年生の「英語音声学」で学んだことを基にさらに発展させ、英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考えていく。 音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。音声は常に変化する量的なもので千差万別であり、空中に音波としての実体がある。一方、音韻はその変化する音声に、A なら A, B なら B という質的(非量的)な記号を当てて脳に格納されている抽象的実体である。 音声の特徴や変化の法則性(音韻)について、その背後にある音声実態(音声)の多様性を紹介しながら、音声と音韻の関係という言葉音声の表裏一体性について導入を試みる。 <u>講義概要</u> 毎回の読み課題や練習課題をもとに、解説・補足の講義をする。クイズで理解を確認する。予習、出席、提出などに積極的な参加が求められる。 <u>メッセージ</u> 2 年生秋に音声学ゼミ志望 (2, 3 次希望でも) の可能性がある学生は是非学んで欲しい。(下の秋学期欄に続く。) 窪菌(1998)は以前の学生評では若干難しいが、丁寧に説明を補足するので大丈夫。1 年生の英語音声学の勉強とはかなり違う印象をもたずである。		1. 第 1 章 音声学と音韻論 2. 第 2 章 音声産出, 母音の調音 3. 第 2 章 母音: (K) exercise 4. 第 2 章 子音の調音 5. 第 3 章 子音: (K) exercise 6. 第 3 章 音素と音素体系) 7. 第 3 章 音素と異音 (K) exercise 8. 第 4 章 音節とモーラ 9. 第 4 章 音節とモーラ (2) (K) exercise 10. 第 5 章 語アクセント 11. 第 5 章 語アクセント (2) 12. 第 5 章 語アクセント(3) , (K) exercise 13. 第 6 章 文アクセント 14. 15. 第 6 章 文アクセント	
テキスト、参考文献		評価方法	
窪菌晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版 (1998) ISBN4-87424-156-5 (参考書) 川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館 (1999) (ISBN4-469-21232-6), その他 配布資料		出席、クイズ、課題、期末試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。	

03 年度以降	音声・音韻論 b	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>講義目的</u> 春学期に同じ。 <u>講義概要</u> 春学期に同じ。 <u>メッセージ</u> 2 年秋に音声学ゼミ入志望 (2, 3 次希望でも) の可能性がある学生は是非学んで欲しい。 春学期と学習内容は変わるので秋のみの受講も可能であり歓迎ではあるが、春の内容が前提となることもあるので、その分、各自補足が必要になるであろう。(春に足し算を学んで、秋に掛け算を学ぶと、秋に足し算なしでは問題が語りにくいようなもの。川越(1999)の前半が一人でも読みやすいのでお勧めである。) 1 年次の英語音声学の勉強とはかなり違う印象をもたずである。		1. Review セグメント, 音節、モーラ、Exercises 2. アクセント (語アクセント, 句アクセント), Exercises 3. リズムとイントネーション (1) 4. リズムとイントネーション (2) 5. (K) 第 5 章 音声特徴 弁別素性 6. (K) 第 7 章 音韻現象を探る (1) 7. 音韻現象を探る (2) , Exercises 8. (K) 第 8 章 同化現象 9. 同化現象 (2) 10. (K) 第 9 章 形態音素 (1) 11. 形態音素 (2) 12. 統語構造, 意味構造とのインターフェース 13. 音声と音韻の研究音声 (1)音韻表示と音声実現 14. 音声と音韻の研究音声 (2) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館 (1999) (ISBN4-469-21232-6) (参考書) 窪菌晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版 (1998) (ISBN4-87424-156-5), その他 配布資料		出席、毎回の課題、期末テスト・課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。	

06 年度以降 03 年度以降	シンタクス a 統語論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 英語の文は様々な視点から分析・説明することができる。今年度は〈<u>英語の基本文・拡張文・派生文</u>〉というテーマで講義を行う。春学期では、英語の基本的な構造をもつ<u>基本文</u>と基本文の主語・補語・目的語に節要素が用いられている<u>拡張文</u>を取り上げ、その特徴を明らかにする。</p> <p><b>講義概要:</b> まず、文を構成する基本的な要素である主語・述語動詞・補語・目的語・修飾語としての副詞的要素の定義を行う。次に、英語の文にとって義務的な要素である主語・述語動詞・補語・目的語だけから構成される文を基本文と考え、補語の明確化により5文型によって説明できることを明らかにする。次に、主語・補語・目的語として節要素が用いられている拡張文を説明し、特に、「動詞＋目的語＋不定詞」という構造を取り上げ、この構造には繰り上げ動詞と制御動詞があることを論じる。さらに、非定形動詞であるto-不定詞と動詞ing形には、名詞的・形容詞的・副詞的・動詞的用法があることを明らかにする。最後に、3種類の関係詞節と副詞節の種類とそれらの特徴を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本文・拡張文・派生文の概要</li> <li>2. 主語・補語・目的語の定義</li> <li>3. 5文型の概要(1)</li> <li>4. 5文型の概要(2)</li> <li>5. 7文型と補語の定義の再確認</li> <li>6. 5文型・7文型・8文型の比較</li> <li>7. 第5文型(SVOC)の多様性; <u>中間試験</u></li> <li>8. 拡張文について</li> <li>9. 補文構造の種類と特徴</li> <li>10. 「動詞＋目的語＋不定詞」の多様性</li> <li>11. 繰り上げ動詞と制御動詞</li> <li>12. 非定形動詞(to-不定詞と動詞ing形)の四つの用法</li> <li>13. 修飾語節(副詞節と形容詞節)について</li> <li>14. 3種類の関係詞節(特に自由関係詞と譲歩関係詞)</li> <li>15. 副詞節の種類と特徴; <u>期末試験</u></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>テキスト:</b> プリントを使用。 <b>参考文献:</b> 長谷川欣佑 (2004)『生成文法の方法』研究社、斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一 (編) (1995)『英文法への誘い』(開拓社)、鈴木英一 (1990)『統語論』(開拓社)。</p>		<p>中間試験(40%)と期末試験(40%)と出席状況(10%程度)と授業における平常点(10%程度)に基づき総合的に評価する。単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	シンタクス b 統語論 b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 英語の文は様々な視点から分析・説明することができる。今年度は〈<u>英語の基本文・拡張文・派生文</u>〉というテーマで講義を行う。秋学期では、基本文と拡張文の根底にある構造に移動規則を適用して派生される<u>派生文</u>を取り上げ、派生文の全体像とその特徴を明らかにする。</p> <p><b>講義概要:</b> 英語には基本文と拡張文のように比較的単純な構造をもつ文に加え、文構成素が移動されて派生される派生文もある。文要素の移動を行う操作にはWh-移動、名詞句移動、主要部移動の三つがあると考えられる。主要部移動はWh移動と否定要素前置が起こった場合に助動詞の移動を行うもので、主語・述語倒置と呼ばれる現象を説明する。Wh移動の適用を制約する諸条件を明らかにし、Wh移動の適用によって派生される疑問文、感嘆文、関係詞節を説明する。さらに、Wh移動と関連すると考えられている話題化構文、分裂文、疑似分裂文の特徴を明らかにする。これらの構文は要素が文頭に移動されている構文であるが、要素が文末に移動される外置構文も取り上げる。最後に、名詞句移動規則によって派生される受動文と主語繰り上げ構文の特徴を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3種類の移動規則: 主要部移動・名詞句移動・Wh移動</li> <li>2. 主要部移動規則と相対的最小性条件</li> <li>3. 主要部移動の適用構造: Wh疑問文と否定要素前置構文</li> <li>4. 英語の3種類の疑問文と統合化</li> <li>5. Wh移動規則と諸条件(下接の条件、統率・束縛条件)</li> <li>6. Wh移動を含む構文: 疑問文、感嘆文、関係詞節</li> <li>7. Wh移動規則の一般的特徴; <u>中間試験</u></li> <li>8. Wh要素のないWh移動構文(1): 比較構造、話題化構文</li> <li>9. Wh要素のないWh移動構文(2): 分裂文、疑似分裂文</li> <li>10. 話題化構文と左方転移構文</li> <li>11. 重名詞句移動構文・右節点繰り上げ構文・右方転移構文</li> <li>12. 3種類の外置構文(1): 節要素の外置</li> <li>13. 3種類の外置構文(2): 名詞句からの外置・前置詞句外置</li> <li>14. 名詞句移動による構文(1): 受動文</li> <li>15. 名詞句移動による構文(2): 主語繰り上げ構文; <u>期末試験</u></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>テキスト:</b> プリントを使用。 <b>参考文献:</b> 中島平三(編)(1999)『最新英語構文事典』、斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)(1995)『英文法への誘い』(開拓社)、鈴木英一(1990)『統語論』(開拓社)。</p>		<p>中間試験(40%)と期末試験(40%)と出席状況(10%程度)と授業における平常点(10%程度)に基づき総合的に評価する。単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

03 年度以降	意味論 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。これにより、英語に対する理解が深まり、間違いのない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また、英語に対する深い理解は、同時に、多くのものにとっての母語である日本語に対する理解をも深めることになるであろう。</p> <p>授業では、下記のテキストの第 1 章「ことばと意味」、第 2 章「語彙の中の意味関係」、第 3 章「文法と意味」及び第 4 章「意味とコンテキスト」の前半部分の内容を講義する予定である。</p> <p>学期末には、たとえば、A large peach flowed down the river. という文が不適格であるという事実や I believe John honest. と I believe that John is honest. の間の意味の違いを知識として知るだけでなく、これらの事実に対する説明を与えることができるようになっていくはずである。英語に対するこのような接し方は、単なる暗記の対象としての英語、コミュニケーションの道具としての英語という見方を考え直す契機となるであろう。</p>		<p>1. オリエンテーション（出席は必須）</p> <p>2. ことばと意味 1</p> <p>3. ことばと意味 2</p> <p>4. ことばと意味 3</p> <p>5. 語彙の中の意味関係 1</p> <p>6. 語彙の中の意味関係 2</p> <p>7. 語彙の中の意味関係 3</p> <p>8. 文法と意味 1</p> <p>9. 文法と意味 2</p> <p>10. 文法と意味 3</p> <p>11. 文法と意味 4</p> <p>12. 意味とコンテキスト 1</p> <p>13. 意味とコンテキスト 2</p> <p>14. 意味とコンテキスト 3</p> <p>15. 意味とコンテキスト 4</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノートなどの持ち込みは認めていない。試験は論述式の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
池上嘉彦 (2006)『英語の感覚・日本語の感覚—〈ことばの意味〉のしくみ』東京：日本放送出版協会。		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

03 年度以降	意味論 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学・英語学における意味論と呼ばれる分野の基本的な考え方を身につけることである。これにより、英語に対する理解が深まり、間違いのない英語から英語らしい英語へと関心の持ち方が変わるはずである。また、英語に対する深い理解は、同時に、多くのものにとっての母語である日本語に対する理解をも深めることになるであろう。</p> <p>授業では、下記のテキストの第 4 章「意味とコンテキスト」の後半部分、第 5 章「意味の変化のダイナミズム」、第 6 章「言語の普遍性と相対性」及び第 7 章「ことばの限界を越えて」の内容を講義する予定である。</p> <p>学期末には、たとえば、I listened but heard nothing. という文が矛盾なく使えるという事実や“Where am I?”に対応する日本語が「ここはどこですか」であることを知識として知るだけでなく、これらの事実に対する説明を与えることができるようになっていくはずである。英語に対するこのような接し方は、単なる暗記の対象としての英語、コミュニケーションの道具としての英語という見方を考え直す契機となるであろう。</p>		<p>1. オリエンテーション（出席は必須）</p> <p>2. 意味とコンテキスト 1</p> <p>3. 意味とコンテキスト 2</p> <p>4. 意味とコンテキスト 3</p> <p>5. 意味の変化のダイナミズム 1</p> <p>6. 意味の変化のダイナミズム 2</p> <p>7. 意味の変化のダイナミズム 3</p> <p>8. 言語の普遍性と相対性 1</p> <p>9. 言語の普遍性と相対性 2</p> <p>10. 言語の普遍性と相対性 3</p> <p>11. 言語の普遍性と相対性 4</p> <p>12. ことばの限界を越えて 1</p> <p>13. ことばの限界を越えて 2</p> <p>14. ことばの限界を越えて 3</p> <p>15. ことばの限界を超えて 4</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノートなどの持ち込みは認めていない。試験は論述式の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
池上嘉彦 (2006)『英語の感覚・日本語の感覚—〈ことばの意味〉のしくみ』東京：日本放送出版協会。		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	



03 年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>あなた自身の英語学習を振り返ると教科書などの教材がもっとも身近な英語の言語資料であり、言語資源であったことでしょう。「英語教材論 1：教科書」では、学習の主体である英語学習者の視点からだけでなく、別の視点、すなわち教育の主体である教師の視点から英語教材を概観します。</p> <p>この講座では英語教育の主たる教材である教科書を中心に概説します。英語教育に限らず、学校教育において「教科書を」教えることと「教科書で」教えることの違いは重要な論点となってきました。授業では学校教育、特に英語教育における教材観について議論することから始めます。</p> <p>次に、日本と他国の英語教科書を比較しながら、日本の英語教科書の特徴について考察します。そして、英語教科書の実物を手にとって観察し、授業計画の中盤では、教材分析の視点や質的あるいは量的分析の方法を紹介します。また特定の教科書を使って教材分析の方法も体験し、自主教材の作成実習も行います。</p> <p>この講座を通して英語教師を志望する学生の皆さんが将来、教壇に立った時に、英語教育学の知見を基にした教材活用、分析、作成に関わる基礎的な技術を得ることができればと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教材観と言語教育における教材の意味について</li> <li>2. 世界の英語教科書 (1) ELT、ESL 教科書</li> <li>3. 世界の英語教科書 (2) アジアの教科書</li> <li>4. 日本の英語教科書 (1) 小学校外国語活動の教材</li> <li>5. 日本の英語教科書 (2) 学習指導要領と教科書</li> <li>6. 日本の英語教科書 (3) 検定教科書 (上記 1 から 6 に関する中間ミニレポート提出)</li> <li>7. 教材分析の視点と手法 講義</li> <li>8. 教科書分析の実際 (1) 実習</li> <li>9. 教科書分析の実際 (2) 実習</li> <li>10. 教科書分析の実際 (3) 口頭発表</li> <li>11. 教科書分析の実際 (4) 口頭発表 (上記 7 から 10 に関する発表資料提出)</li> <li>12. 教材作成法 (1) CLT/Grammarizing 教材</li> <li>13. 教材作成法 (2) authentic material と教材</li> <li>14. 教材作成法 (3) 自主教材の作成</li> <li>15. 教材作成法 (4) 自主教材の製作発表 (上記 12 から 15 の内容を踏まえた作品提出)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(使用テキスト)</p> <p>小串雅則 (2011) 『英語検定教科書 制度、教材、そして活用』三省堂</p>		<p>中間ミニレポート (20%)、発表資料 (30%)、自習教材作成 (30%)、講義における聴講態度・活動への積極的関与・貢献 (20%)</p>	

03 年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では「英語教材論 2：学習者辞書」として英語教育学における教材論の視点から、学習者辞書について考察します。皆さんはこれまでどのような英語辞書を、どのように使ってきたのでしょうか。‘Keiko _____ an English dictionary.’ という文において空欄にどのような言葉を入れることができるのでしょうか。いくつかの可能性があるなかで初めに浮かんだのはどのような単語・表現でしょうか。あるいは英和辞書をアルファベット順に配列しなにとしたら、どのような配列が考えられ、そこからどのような利点が生まれるのでしょうか。この授業ではまずこれらの質問の意味について考え、実際に様々な英語辞書に触れながら、専門的な知見を学びます。さらに次の 5 つの疑問について皆さんと一緒にいくつかの答えを見つけていきます。1) 英語学習に辞書は必要か、2) 高校時代の恩師はなぜ紙辞書を勧めたのか、3) 紙辞書を軽くすることはできるのか、4) 理想の辞書用例とはどんな英文か、5) 辞書が活用できる学習者を育てるにはどうすればよいのか。</p> <p>また自らの辞書活用スキルを身につけることもこの授業の目的です。講義で学んだ内容を踏まえて実際に辞書を引く 7 つのタスクを行います。そして講義内容に合わせて、同時進行で右記の課題に取り組んでもらいます。おもに自らの英語力向上を目指す受講生は課題 A または B を、教員志望者は課題 B または C を選択してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語学習者と辞書の関わり</li> <li>2. 英語教育における辞書の位置づけ</li> <li>3. 身の回りの英語辞書</li> <li>4. 英語辞書学という学問 (1) 歴史</li> <li>5. 英語辞書学という学問 (2) 現在</li> <li>6. 関連領域の文献検索</li> <li>7. LD 特有の表記法・タスク 1</li> <li>8. 辞書媒体 (冊子体辞書、電子辞書、Web 辞書)</li> <li>9. 一般英英辞書と学習英英辞書・タスク 2</li> <li>10. 学習英和・和英・英英和辞書とタスク 3</li> <li>11. 辞書用例検索・タスク 4</li> <li>12. 辞書指導と辞書活用指導・タスク 5</li> <li>13. 学習支援ツールとして辞書と 4 技能・タスク 6</li> <li>14. 学習支援ツールとして辞書と 4 技能・タスク 7</li> <li>15. 課題発表</li> </ol> <p>課題 A 私家版「理想の辞書」：Web 辞書をカスタマイズする</p> <p>課題 B 「辞書が使える」日本人育成計画案作成</p> <p>課題 C 理想の英和辞書の紙面執筆</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(参考文献)</p> <p>磐崎弘貞 (2011) 『英語辞書をフルに活用する 7 つの鉄則』大修館書店</p>		<p>発表課題 (40%)、辞書活用スキルタスク (40%)、講義における聴講態度・活動への積極的関与・貢献 (20%)</p>	

03 年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語には、主語の有無、動詞の形などが異なる色々な節 (clause)がある。例えば、(1)(2)の下線部 (時制節) は、単独で文として使えるが、意味的にはほぼ同じ(2) (分詞節) (3) (不定詞節) の[ ]はできない。また、動詞knowの形が(1)(2)で異なり、(2)(3)では動詞remainと代名詞の形が異なる。</p> <p>(1) He said that <u>he didn't know what to do</u>.</p> <p>(2) [Not knowing what to do], <u>he remained silent</u>.</p> <p>(3) They expected [him to remain silent].</p> <p>これらの事実は節の主要部が時制であるという仮定によって説明できる。これに関する入門的論文をweeks 3-7に皆さんに授業でレポートしてもらう。学期後半にこの論文の内容を復習しながら、様々な英語の節構造を分析していく。</p> <p>この授業では、ライティング力を上げるのみならず、どの言語にも見られる意味と発音の間にみられる単純で美しい関係を「発見」し、人間言語に対する洞察を深めてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不定詞節の時制節への書き換え</li> <li>2. 分詞節の時制節への書き換え</li> <li>3. Syntactic structure</li> <li>4. Deep and surface structure</li> <li>5. A case study: interrogative inversion</li> <li>6. A case study: interrogative inversion (continued)</li> <li>7. VP deletion</li> <li>8. 句と主要部</li> <li>9. 時制節の構造と疑問文</li> <li>10. 時制節と補文構造</li> <li>11. 名詞句の格</li> <li>12. 発音されない主語</li> <li>13. 分詞節の構造</li> <li>14. 不定詞節の構造</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Howard Lasnik (1995) "The Forms of Sentences." <i>Language: An Invitation to Cognitive Science</i> , Vol.1 Chapter 10.		weeks 3-7 の担当者は必ずレポーターをすること。これが満たされた上で、評価は毎回の授業の初めに行う復習クイズ (30%)、定期試験(70%)とする。	

03 年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>辞書にはそれぞれの単語の品詞(parts of speech, syntactic categories)情報が記載されている。例えば、destroyは動詞であり、名詞や形容詞ではない。しかし、run, clearなど多くの単語が2つ以上の品詞で使用可能である。これはゼロ派生 (もしくは転換) と呼ばれる。名詞と動詞の両方で使えるものに限ると、combineのようにいわゆる「名前動後」でアクセントが異なるもの、advanceのようにどちらもアクセントが後ろにあるもの、commentのように前にあるものがある。これは単に暗記しなければならないのだろうか。それとも何か規則性があるのだろうか。</p> <p>学期の前半では英語の名詞、動詞のアクセント位置がかなりの程度予測できることを辞書で単語の発音 (正確には音節構造) を調べることによって「発見」してもらう。その上で、名詞と動詞の両方で使える単語のアクセント位置とその意味の間に規則性があることを「発見」してもらう。</p> <p>学期の後半は、テキストで指定した英語の統語構造、特に代名詞とその先行詞との間の構造条件に関する入門的論文をweeks 7-10で皆さんにレポートしてもらった後、日本語母語話者としての皆さんの言語能力を使って日本語の代名詞や再帰形とその先行詞の間の構造関係について分析してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2つ以上の品詞で使用可能な英語の単語とアクセント位置</li> <li>2. 英語の名詞の音節構造とアクセント位置</li> <li>3. 英語の動詞の音節構造とアクセント位置</li> <li>4. 名詞と動詞の用法がある英語の単語の意味</li> <li>5. 名詞と動詞の用法がある英語の単語のアクセント</li> <li>6. 名詞と動詞の用法がある英語の単語のアクセント</li> <li>7. 英語の統語構造に関する論文のレポート</li> <li>8. 英語の統語構造に関する論文のレポート</li> <li>9. 英語の統語構造に関する論文のレポート</li> <li>10. 英語の統語構造に関する論文のレポート</li> <li>11. 英語の代名詞とその先行詞の間の構造関係</li> <li>12. 英語の再帰形とその先行詞の間の構造関係</li> <li>13. 日本語の代名詞とその先行詞の間の構造関係</li> <li>14. 日本語の再帰形とその先行詞の間の構造関係</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Howard Lasnik (1990) "Syntax." <i>Language: An Invitation to Cognitive Science</i> , Vol.1 Chapter 1.		weeks 7-10の担当者は必ずレポーターをすること。これが満たされた上で、評価は毎回の授業の初めに行う復習クイズ(30%)、定期試験(70%)とする。	



03 年度以降	英語学文献研究 a	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英語学に関する知識を増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の方法などを身につけることを目標としたい。合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、テキストを一行一行丹念に読み進めてゆく。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては、内田義彦『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めていない。試験は論述式である。</p>		<p>Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i>. New York: Cambridge University Press. の第 16 章 6 節 “Existential and Presentational Clauses” を読む。進度の目安は次の通りである。題目は節のタイトルに対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（出席は必須）</li> <li>2. Dummy <i>there</i> vs locative <i>there</i> 1</li> <li>3. Dummy <i>there</i> vs locative <i>there</i> 2</li> <li>4. Subject and displaced subject 1</li> <li>5. Subject and displaced subject 2</li> <li>6. <i>There</i> as a raised complement 1</li> <li>7. <i>There</i> as a raised complement 2</li> <li>8. Position of the displaced subject 1</li> <li>9. Position of the displaced subject 2</li> <li>10. Survey of structures 1</li> <li>11. Survey of structures 2</li> <li>12. Survey of structures 3</li> <li>13. Survey of structures 4</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布プリントによる。		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

03 年度以降	英語学文献研究 b	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英語学に関する知識を増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の方法などを身につけることを目標としたい。合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、テキストを一行一行丹念に読み進めてゆく。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては、内田義彦『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めていない。試験は論述式である。</p>		<p>Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i>. New York: Cambridge University Press. の第 16 章 6 節 “Existential and Presentational Clauses” を前期の続きから読む。進度の目安は次の通りである。題目は節のタイトルに対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Indefinites 1</li> <li>3. Indefinites 2</li> <li>4. Indefinites 3</li> <li>5. Displaced definite NPs 1</li> <li>6. Displaced definite NPs 2</li> <li>7. Displaced definite NPs 3</li> <li>8. Quantified NPs 1</li> <li>9. Quantified NPs 2</li> <li>10. Quantified NPs 3</li> <li>11. The presentational construction 1</li> <li>12. The presentational construction 2</li> <li>13. The presentational construction 3</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布プリントによる。		評価は試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。ただし、出席そのものが加点の対象となることはない。	

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の文学・文化 英語圏の文学・文化概論 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「イギリス近代を考える」</p> <p>イギリスの歴史から 3 つの時代を取り上げ、それぞれの時代の文学・科学・宗教の 3 つの視点から、「イギリス近代」についての理解を深めることを目指す。取り上げる 3 つの時代は下記のとおりである。</p> <p>1. エリザベス一世の時代 2. ヴィクトリアの時代 3. エリザベス二世の時代</p> <p>この3人の女王の治世は、初期近代(early-modern)、近代(modern)、ポストモダン(postmodern)と区分される時代にあたっている。それぞれの時代の文化を理解することによって、イギリス近代がどのように成立し、変容してきたのかが見えてくる。それぞれの時代の様相を示す英文テキストを読みながら、各時代の文化について考えていきたい。</p>		<p>1. イントロダクション―「近代」とはなにか 2. Elizabeth I の時代(1) : 宗教改革と近代の始まり 3. Elizabeth I の時代(2) : Shakespeare と近代英語 4. Elizabeth I の時代(3) : Shakespeare と大衆文化 5. Elizabeth I の時代(4) : Bacon と近代科学の始まり 6. Victoria の時代(1) : 世界の工場と大英帝国 7. Victoria の時代(2) : Dickens を読んだ中流市民 8. Victoria の時代(3) : Dickens が描いた貧困層 9. Victoria の時代(4) : Darwin と進化論 10. Elizabeth II の時代(1) : Pax Britannica の終焉 11. Elizabeth II の時代(2) : Beckett と不条理演劇 12. Elizabeth II の時代(3) : The Beatles と若者文化 13. Elizabeth II の時代(4) : 羊の Dolly と遺伝子の時代 14. Elizabeth II の時代(5) : Diamond Jubilee と Olympic 15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布する。 参考文献は授業内で適宜紹介する。</p>		<p>学期末試験の成績で評価する。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の文学・文化 英語圏の文学・文化概論 b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>みなさんは「英語圏の文学・文化入門」で、いくつかのイギリス文学の古典と、現在のポストコロニアル文学について学んできていると思います。この講義で紹介するのはさらに知ってほしい英語圏の文学作品。右欄にリストした作品は、担当者の偏愛も多分に混じっていますが、世界的によく知られたものばかりです。これらの作品を知ること、英語圏の文学の特徴と多様性についてイメージを広げてもらうのが、この講義の主目的です。また、担当者から解説を聞くだけでなく、実際に作品を自分で読んで、文学に触れる体験もしてもらいます。</p> <p>講義では、はじめにイギリスを中心に英語圏の歴史をたどります。文学も歴史と社会の産物なので、大まかな歴史の流れをいっしょに押さえましょう。そのあとイギリス、アメリカ、カナダ、南アフリカなどで書かれた文学作品を年代順に取り上げ、どんな社会背景のもとで書かれ、どこがよいと思われているのか、どこが解釈が別れるところなのか、文学研究の言葉を使いながら解説します。文学作品はストーリーだけでなく小さな言葉の積み重ねがキモなので、原文の抜粋もみんなで読みます。映像がある場合は一部見せて、作品理解の手がかりにします。</p>		<p>1. 英語圏の歴史早わかり (1) 2. 英語圏の歴史早わかり (2) 3. William Shakespeare, <i>Macbeth</i> 4. Daniel Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> 5. Edgar Allan Poe, "The Black Cat" 6. Emily Bronte, <i>Wuthering Heights</i> 7. E.M. Forster, <i>Passage to India</i> 8. Virginia Woolf, <i>Orlando</i> 9. J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i> 10. Alice Walker, <i>Color Purple</i> 11. Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> 12. J.M. Coetzee, <i>Disgrace</i> 13. Kazuo Ishiguro, <i>Never Let Me Go</i> 14. まとめ (1) 15. まとめ (2)</p> <p>*授業で取り上げる作品は一部変更することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業中にプリントを配布</p>		<p>小レポート2つと定期試験による</p>	

03 年度以降	英語圏の小説 a	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。</p> <p>1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。</p> <p>2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します）</p> <p>3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。</p> <p>講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。</p> <p>注意事項:TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。</p>		<p>1. 新奇なるもの、小説？（1）</p> <p>2. 新奇なるもの、小説？（2）</p> <p>3. 英語圏の拡大（1）</p> <p>4. English Bestsellers of all time（1）</p> <p>5. English Bestsellers of all time（2）</p> <p>6. 英語圏の拡大（2）</p> <p>7. 国民文学と政治的無意識</p> <p>8. 小説の新たな挑戦（1）</p> <p>9. 小説の新たな挑戦（2）</p> <p>10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図(1)</p> <p>11. ポストコロニアルの文学地図（2）</p> <p>12. ポストコロニアルの文学地図（3）</p> <p>13. ポストコロニアルの文学地図（4）</p> <p>14. テキストの思わぬ旅路（1）</p> <p>15. テキストの思わぬ旅路（2）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。</p>		<p>出席 30%</p> <p>定期試験 70%</p>	

03 年度以降	英語圏の小説 b	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的</p> <p>アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。</p> <p>講義概要</p> <p>まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。</p> <p>講義形式が主であるが、希望があれば、学生諸君による作家や作品に関するプレゼン形式も採り入れる予定。</p> <p>なお、昨年度単位取得者の履修は許可しません。</p>		<p>1：アメリカ小説の概略（歴史・文化・社会）</p> <p>2：アメリカ小説の創生期</p> <p>3：アメリカン・ルネッサンス</p> <p>4：リアリズム小説 1（第一世代と第二世代のリアリズム作家たち）</p> <p>5：リアリズム小説 2（Mark Twain と <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>）</p> <p>6：リアリズム小説 3（Naturalism）</p> <p>7：モダニズム小説 1（アメリカ小説のモダニストたち）</p> <p>8：モダニズム小説 2（William Faulkner と "That Evening Sun"）</p> <p>9：モダニズム小説 3（"That Evening Sun"）</p> <p>10：モダニズム小説 4（William Faulkner と <i>The Sound and the Fury</i>）</p> <p>11：多文化主義小説 1（多文化主義とアメリカ小説）</p> <p>12：多文化主義小説 2（黒人作家とユダヤ系作家）</p> <p>13：多文化主義小説 3（Bernard Malamud と "The First Seven Years"）</p> <p>14：多文化主義小説 4（"The First Seven Years"）</p> <p>15：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：プリントを使用</p> <p>参考書：随時、授業にて紹介する</p>		<p>定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。</p>	

03 年度以降	英語圏の詩 a	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b></p> <p>「アメリカ詩史」をたどる。</p> <p>山登りをしようすると、いくつかルートがある。もちろん、各々のルートによって見える眺望は異なる。同じことは歴史にも言える。歴史とは作られるものだ。移民の国であるアメリカ合州国の詩の歴史も、元々住んでいた人のものからはじめるか、それとも移民のものから始めるか、それで大きな眺望の違いが見られるだろう。</p> <p>この授業では、後者の立場からはじめた「アメリカ詩史」をたどる。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>「アメリカ詩史」をどこからはじめるか、これは大問題だ。「アメリカ文学史」などでは Anne Bradstreet から始まることになっているが、この授業では、Native American（いわゆる、インディアン）の口承詩からはじめる。そして、着地点は、昨年来日し、谷川俊太郎と朗読会をして、その健在ぶりを見せた Gary Snyder だ。</p> <p>さて、Native American の詩と、Snyder の詩、そのあいだになにがあったのか、それが重要だ。なぜ Snyder と Native American の詩がつながるのか。そのあいだに、どのような詩が書き継がれてきたのか、それを考察する。</p>		<p>1: introduction 2: Native American Poems. 3: Walt Whitman, “Poets to Come!,” “I Hear America Singing” など。 4: Emily Dickinson, “Because I could not Stop for Death” “I Taste a Liqueur Never Brewed” など 5: Robert Frost, “Stopping bu Woods on a Snowy Evening” 6~8: Ezra Pound の初期の Imagism の短詩など。 9~10: William Carlos Williams の詩 11~12: Wallace Stevens の詩 13~14: T. S. Eliot の詩 14~15: H.D. の短詩、Gary Snyder の詩、そして全体のまとめ。</p> <p>授業へは予習をして、頭をカラにしてくる。受講生にはときおり、質問をする。7, 80 人の前でも、はっきりと自分の考えを、恥ずかしがらずに言えるようにすること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		レポートおよび出席。ときに、こちらから質問をし、そこで答えてくれた学生には、ボーナスあり。	

03 年度以降	英語圏の詩 b	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義の目的</b></p> <p>ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。</p> <p><b>参考文献</b></p> <p>新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<p>1. 詩形について 2. &lt;マザーグース&gt; I 3. &lt;マザーグース&gt; II (video 鑑賞) 4. &lt;現代英詩アラカルト&gt; I T.S. Eliot (1888-1965) (video 鑑賞、字幕なし、以下同じ) 5. &lt;同&gt; II T. Hughes (1892-1985) など (video 鑑賞) 6. Alfred Tennyson (1809-92), Robert Browning (1812-89) 7. &lt;ロマン派の曙&gt; W. Blake (1757-1827), video 鑑賞 8. &lt;ロマン派の詩&gt; I ワーズワス、video 鑑賞 9. &lt;ロマン派の詩&gt; II S. T. Coleridge (1772-1834) と G. G. Byron (1788-1824) (video 鑑賞) 10. &lt;ロマン派の詩&gt; III P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) 11. &lt;ロマン派の詩&gt; 総括 解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray (1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard” (1751) を読む。 Video 鑑賞 13. John Milton (1608-74) Paradise Lost (1667) のさわり、ソネット 23. Video 鑑賞 14. William Shakespeare (1564-1616), 詩の紹介と解説 DVD, video 鑑賞 15. 総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987 (プリント)</p>		<p>テストを課す。 数回の video は、時に字幕なしなので、100% の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。</p>	

03 年度以降	英語圏の社会と思想 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（父性神と母性神）</li> <li>2. ヘレニズムとヘブライズム</li> <li>3. ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教</li> <li>4. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争</li> <li>5. イングランドのキリスト教化</li> <li>6. デーン人とアルフレッド大王</li> <li>7. カロリング王朝とイングランドのキリスト教</li> <li>8. グレゴリウス7世の教会改革</li> <li>9. イングランドの教会改革</li> <li>10. 中世の異端</li> <li>11. 地獄堕ちへの恐怖</li> <li>12. 黒死病と農民一揆</li> <li>13. 教皇権の栄光と下降</li> <li>14. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。		出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。	

03 年度以降	英語圏の社会と思想 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ルター：我ここに立つ</li> <li>2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人</li> <li>3. イングランドの宗教改革：ヘンリー8世</li> <li>4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興</li> <li>5. エリザベス1世の宗教改革</li> <li>6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立</li> <li>7. スチュワート王朝の国教会</li> <li>8. 国王の処刑とピューリタニズム</li> <li>9. ビルグリム＝ファーザーズ</li> <li>10. 王政復古から名誉革命以降</li> <li>11. 啓蒙主義時代</li> <li>12. 19世紀以降現代</li> <li>13. アメリカの場合（1）</li> <li>14. アメリカの場合（2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	



03年度以降	英語圏の歴史 a	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。</p> <p>毎回 10 本近い映像ソフトを担当者が持参し、具体的場면을ピックアップしながら、各エスニックグループが抱えているジレンマ、課題などを解説してゆきます。つまり、エスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。</p> <p>かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では 20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 先住民インディアン</li> <li>3. 越境するヒスパニック</li> <li>4. 今を生きる黒人</li> <li>5. 歴史の中の黒人</li> <li>6. 〃</li> <li>7. 等身大のユダヤ人</li> <li>8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター</li> <li>9. 歴史の中のユダヤ人</li> <li>10. アジア系－日系、中国系、韓国系－</li> <li>11. ホワイト・エスニック－アイルランド系、イタリア系、など過去において蔑視された白人集団</li> <li>12. 異人種・異教徒間カップル</li> <li>13. 〃 〃</li> <li>14. おわりに</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤唯行著、『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（2008 年 NTT 選書）1,600 円		評価はクイズ形式による筆記試験（8 択 20 問）によるのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。	

03年度以降	英語圏の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際情勢の中で中東がかつてなかった程重みを増す今日、中東政策はアメリカ外交の大きな柱となっている。その米中東政策に力をふるっているのがユダヤ・ロビーである。秋学期の授業ではこのユダヤ・ロビーを中心に同盟関係にあるキリスト教右派等に焦点をすえることで、これまで見えてこなかったアメリカ政治史の特質を解明する。</p> <p>「ユダヤの視点でみるアメリカ政治史」が春学期後半のテーマとなる。</p> <p>前半は彼らがアメリカの地でパワーエリートに成り上がる以前、中世から近代の英国で負け犬として「下積み」をすごした時代を概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中世英国のユダヤ人金融</li> <li>2. 中世英国からのユダヤ人追放</li> <li>3. 隠れユダヤ教徒の足跡 1290～1656</li> <li>4. 千年王国とユダヤ人再入国</li> <li>5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人</li> <li>6. 英国人地主貴族社会への同化現象</li> <li>7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム</li> <li>8. 英国ファシスト勢力との対決</li> <li>9. ユダヤ・ロビーとオバマ政権</li> <li>10. キリスト教右派との同床異夢の同盟</li> <li>11. ユダヤ人議員団の実力</li> <li>12. ユダヤ・マネーの仕組</li> <li>13. 歴代政権とユダヤ人社会 FDR～LBJ</li> <li>14. 〃 〃 〃 ニクソン以後</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤唯行著『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（2009 年 新潮文庫）438 円 佐藤唯行著、『英国ユダヤ人』（1995 年 講談社選書）1,600 円		評価はクイズ形式による筆記試験（8 択 20 問）によるのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。	



03 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『イギリスの現在』</p> <p>「エリア・スタディーズ」の目的とは、ある地域の、ある時代について、歴史、政治、社会、文学など、多角的な視点と学際的な手法によって理解を深めることである。</p> <p>今年度春学期は「イギリスの現在」に焦点をあてる。フィッシュ・アンド・チップスと『ハリー・ポッター』の国イギリスというイメージは、富士山、桜、スシという日本のイメージと同じくらい紋切り型で、観光誘致ポスターのイメージに過ぎない。国際金融都市ロンドンを首都とし、オリンピック開催を目前に控えたイギリスは、世界に対し次々と新しい文化や情報を発信する創造的エネルギーにあふれ、またそれにとまなう問題点を多く抱え込んだ先進国の一つである。</p> <p>この「イギリスの現在」について、3 人の教師が講義をする。ジェンダーやセックスの問題、多民族と多文化の共存、クリエイティブ・インダストリーと政治の関係といった視点から講義を行う。</p> <p>現代のイギリスが抱える新しい問題は、古い伝統や長い歴史と無関係ではない。イギリスの現在について理解を深めながら、それらの問題を歴史的なパースペクティブの中でとらえることが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（前沢）</li> <li>2. 1948~ Has London Been a Place for Me?（上野）</li> <li>3. 70s&amp;80s Black &amp; British（上野）</li> <li>4. 400years (1562/ 1808/ 2008)（上野）</li> <li>5. Mixed Britannia (1)（上野）</li> <li>6. Mixed Britannia (2)（上野）</li> <li>7. <i>Macbeth</i> : Pre-performance lecture（前沢）</li> <li>8. 母を探して——映画 <i>Secrets and Lies</i> より（片山）</li> <li>9. 妊娠中絶の物語——映画 <i>Vera Drake</i> より（片山）</li> <li>10. 男たちの問題——映画 <i>Full Monty</i> より（片山）</li> <li>11. Diana の死とセレブリティの時代（前沢）</li> <li>12. Cool Britannia と商品としての文化（前沢）</li> <li>13. City の現在（前沢）</li> <li>14. Diamond Jubilee と Olympic（前沢）</li> <li>15. まとめ（前沢）</li> </ol> <p>注意事項(1): 2011 年度に『英語圏のエリア・スタディーズ b』の単位を取得した人は受講できません。</p> <p>注意事項(2): 5 月 30 日は外国語学部主催で <i>Macbeth</i> の上演が予定されている。当日、この授業で上演前の講義を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。</p> <p>参考書は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>毎回の授業でのコメント：25%</p> <p>定期試験成績：75%</p>	

03 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『アメリカの現在』</p> <p>秋学期は「アメリカの現在」に焦点をあてる。その世界覇権に陰りが出ているとはいえ、アメリカ合衆国は最も影響力の大きな国家であり、現在のアメリカ合衆国の問題を考えることは、グローバルな視点で現在の世界について考えることにつながる。アメリカ合衆国の現在について理解を深めながら、今日の世界についての問題意識を新たにすることが本講義の目的である。</p> <p>5 人の講師が、それぞれ異なった視点から、今日のアメリカが抱える問題や現状を講義する。多様性と自由を認めてきた多民族国家アメリカは、宗教、政治、外交、経済、文化、社会など、いずれの分野においても、今日、複雑な問題を抱え込んでいる。価値観の多様性の問題、ユダヤ人、アメリカ先住民など民族の問題が今日のアメリカの社会・政治・外交・経済にどのように関わっているのか、また常に変化する多様な文化が共存する状況の問題点とは何かといった視点から講義を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカの中絶論争 1—産むか産まないかの葛藤(片山)</li> <li>2. アメリカの中絶論争 2—果てしない対立（片山）</li> <li>3. レオ・フランクのリンチ殺人事件（佐藤）</li> <li>4. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ主義（佐藤）</li> <li>5. 閉ざされた象牙の塔（佐藤）</li> <li>6. 公民権闘争期におけるユダヤ教会堂爆破事件（佐藤）</li> <li>7. <i>King Lear</i>: Pre-performance lecture（前沢）</li> <li>8. Native American って誰？（原）</li> <li>9. Walt Whitman って誰？（原）</li> <li>10. Modernism って何？（原）</li> <li>11. Counterculture って何？（原）</li> <li>12. 崩壊する「アメリカの夢」(1)（島田）</li> <li>13. 崩壊する「アメリカの夢」(2)（島田）</li> <li>14. シビック・アグリカルチャー(1)（北野）</li> <li>15. シビック・アグリカルチャー(2)（北野）</li> </ol> <p>注意事項(1): 2011 年度に『英語圏のエリア・スタディーズ a』の単位を取得した人は受講できません。</p> <p>注意事項(2): 11 月 7 日は外国語学部主催で <i>King Lear</i> の上演が予定されている。当日、この授業で上演前の講義を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。ただし第 3～6 回の佐藤先生担当分については、集英社新書『アメリカのユダヤ人迫害史』(680 円)を必ず持参すること。ハンドアウトは配布しない。参考書は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>毎回の授業でのコメント：25%</p> <p>定期試験成績：75%</p>	

03 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>ユダヤ系アメリカ人は、合衆国総人口に占める割合は3%未満とされていますが、アメリカの政治、経済、芸術、エンターテインメントなどの分野で、強い影響力を持っています。この講義では、<i>The Joys of Yiddish</i> という旧世界のユダヤ語 Yiddish の語彙を紹介した書籍を通して、ユダヤ系アメリカ人や彼らの文化の特質を考察します。</p> <p>講義概要</p> <p>毎回 Yiddish 語のキーワードを幾つかとりあげ、その単語にまつわるエピソードなどを紹介し、そこからうかがうことのできる価値観、文化などを考察します。</p> <p>授業はあらかじめ配布したプリントを予習してきてもらい、講義形式だけではなく、質疑応答、希望者によるプレゼン形式などもとり入れる予定です。</p>		<p>1：ユダヤ系アメリカ人と Yiddish 語</p> <p>2-14：ユダヤ系アメリカ人や社会を理解する上で役立つと思われる Yiddish 語の語彙を解説し、意見交換や討論をする。</p> <p>15：まとめ：ユダヤ系アメリカ人を理解するイディッシュ語キーワード、ベスト3は？</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leo Rosten, <i>The Joys of Yiddish</i> (1968) プリントを配布します。		不定期に課す課題、学期末の定期試験、および平常点（プレゼンや授業・討論への貢献度で、出席点ではない）	

03 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：Shakespeare and Modern Popular Culture</p> <p>「高尚な文学作品」と位置づけられがちな Shakespeare の戯曲であるが、本来は安価な大衆娯楽であった。だがヨーロッパの近代化の歴史の中で、Shakespeare は次第に市民的教養の一部としての洗練された芸術作品へと押し上げられていった。その Shakespeare が現在、デジタル・テクノロジーとメディアの発達にともない、再びサブ・カルチャーあるいはポップ・カルチャーとして流通する様相もみせている。</p> <p>この授業では Shakespeare 受容の歴史の変遷を、「媒体」の変化とともに考える。劇場と役者の肉体というきわめてアナログな媒体から、映画やテレビの時代を経て、DVD やウェブ全盛の今日に至るまで、Shakespeare 受容はどのように姿を変えてきたかを俯瞰する。</p> <p>この歴史的变化を理解するとともに、その変化をくぐりぬけて生き延び続ける「テキスト」の意味を考えることもこの講義のもう一つの目的である。変化する「媒体」と変化しない「テキスト」の関係を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクションー「大衆文化」とはなにか</li> <li>2. ロンドン/ルネサンス/劇場</li> <li>3. 劇場閉鎖と王政復古</li> <li>4. 18 世紀の Shakespeare</li> <li>5. “Bardolatry”の時代</li> <li>6. 日本の近代化と Shakespeare</li> <li>7. 20 世紀の“Shakespearean Stars”</li> <li>8. Shakespeare の映画化</li> <li>9. Kenneth Branagh の映画作り</li> <li>10. Shakespeare の adaptation</li> <li>11. イギリスの文化政策</li> <li>12. 21 世紀の“Shakespearean Stars”</li> <li>13. デジタル・テクノロジーと劇場</li> <li>14. まとめ(1)</li> <li>15. まとめ(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業中にプリントを配布する。 参考文献は適宜紹介する。</p>		<p>授業中のコメント：30% 学期中のレポート：30% 学期末試験：40%</p>	

03 年度以降	英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語圏のフェミニズムの流れを理解する。これにはフェミニズムの入門的概説書を使用する。また、より深く、よりリアルに、異なる時代、場所、人種、階級の女性の状況と問題を理解するために、フェミニズム的な要素が色濃い小説やエッセイ、代表的なフェミニストの論文を読む。</p> <p>春学期の本講義では、女性運動が胎動しはじめた 19 世紀はじめから、イギリスや合衆国で女性が選挙権を獲得した 20 世紀はじめまでを扱う。</p> <p>b とのセット受講が望ましいが、a のみでの受講でもまったく問題はない。なお、授業計画の欄、各回のタイトルの後の括弧のなかに(chap4)のようにあるのは、「テキスト・参考文献」の箇所に指定した概説書の章である。</p> <hr/> <p>*二回目の授業までに、各自で <i>Jane Eyre</i> を原書、翻訳、映画等で確認しておくこと。</p>		<p>1. 導入（全体の流れやプレゼンテーションのやり方の説明）</p> <p>2-4. フェミニズム小説としての <i>Jane Eyre</i>(1848)を読む</p> <p>5. 'Declaration of Sentiment' (1948)を読む</p> <p>6. The early 19 century: reforming women (chap4)</p> <p>7. 奴隷解放運動と女性運動</p> <p>8. The late 19 century: campaigning women (chap5)</p> <p>9. Sojourner Truth, 'Ain't I a Woman?' (1851)を読む</p> <p>10. Fighting for the vote: suffragists (chap6)</p> <p>11. Fighting for the vote: suffragettes (chap7)</p> <p>12&amp;13. 目覚めた女の悲劇: <i>The Awakening</i> (1899)を読む</p> <p>14. Early 20th-century feminism (chap 8)</p> <p>15. <i>A Room of One's Own</i> (1929)を読む *左の欄へ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Margaret Walters, <i>Feminism: A Very Short Introduction</i>, Oxford: Oxford University Press, 2005</p> <p>(受講人数が決定してから講師が一括して注文するが、事前に個人購入して、授業開始に先立って予習しておくのもよい。)</p> <p>*授業計画に挙げたテキストについては開講時に指示する。原則として購入の必要はない。</p>		出席、プレゼンテーション、コメントカード、小テスト、レポートを総合的に評価する。	

03 年度以降	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語圏のフェミニズムの流れを理解する。これにはフェミニズムの入門的概説書を使用する。また、より深く、よりリアルに、異なる時代、場所、人種、階級の女性の状況と問題を理解するために、フェミニズム的な要素が色濃い小説やエッセイ、代表的なフェミニストの論文を読む。</p> <p>秋学期の本講義は、現代のフェミニズム運動のはじまりである 1960 年代から、現在までを扱う。ジェンダー・スタディーズ、ポスト構造主義、クィア・セオリー、グローバリゼーションと女性の問題などについても、そのエッセンスを説明する。</p> <p>春学期からの継続受講が望ましいが、b のみの受講でも問題はない。</p> <hr/> <p>b のみの受講者は個人購入してください。ただ授業で読むのは 9 章と 10 章ですので、他の方法でテキストを用意してもかまいません。</p>		<p>1. 導入</p> <p>2. Second-wave feminism: the late 20th century (chap9)</p> <p>3&amp;4. <i>Feminine Mystique</i> (1963)を読む</p> <p>5. <i>Sexual Politics</i> (1970)を読む</p> <p>6. <i>The Millstone</i> (1965)を読む</p> <p>7. 差異とフェミニズム——人種とセクシュアリティを考える</p> <p>8. ポスト構造主義とフェミニズム</p> <p>9. フェミニズムからジェンダー・スタディーズへ</p> <p>10. Feminist across the world (chap10)</p> <p>11&amp;12 <i>Global Woman</i> (2004)を読む</p> <p>13-15. <i>Autobiography of My Mother</i> (1995)を読む</p> <p>Wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>*春学期からのテキストを一部使用する。書名は a のシラバスを参照のこと。(上の欄に注を記したので確認のこと) *Jamaica Kincaid, <i>Autobiography of My Mother</i>, New York: Plume, 1997 (購入については開講時に指示するが、事前に個人購入して、授業開始に先立って予習しておくのもよい。)</p> <p>*授業計画に挙げたテキストについては開講時に指示する。原則として購入の必要はない。</p>		出席、プレゼンテーション、コメントカード、小テスト、レポートを総合的に評価する。	

03 年度以降	英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	小林 愛明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスは、卒業論文を書く人や英語圏の留学を考えている人、そして大学院での文学研究を目指す人のためのものです。</p> <p>アメリカの 20 世紀を代表する詩人の特徴や文学批評を精読しながら、MLA 論文の書き方をマスターできるようにするのがこのクラスの狙いです。</p> <p>授業の進め方は、まずペアーを作り、担当箇所を決め、プレゼンテーションをしてもらいます。プレゼンの前に担当者は、発表のレジュメと疑問点をメーリングリストで受講者に送ります。受講者はそれをもとに準備をします。プレゼンの後、質疑応答を行います。学期の終わりには、作品論（本文 4,000 字程度）を書いてもらいます。</p> <p>TOEIC700 点以上のスコアを持っている受講生が望ましいです。</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2-3 A New Century: from the genteel poets to Robinson and Frost</p> <p>4-5 Modernist expatriates: Ezra Pound and T. S. Eliot</p> <p>6-7 Lyric modernism: Wallace Stevens and Hart Crane</p> <p>8-9 Gendered modernism</p> <p>10-11 William Carlos Williams and the modernist American</p> <p>12-13 The New Criticism and poetic formalism</p> <p>14-15 The New American Poetry and the postmodernism avant-garde</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Christopher Beach, <i>The Cambridge Introduction to Twentieth-Century American Poetry</i>. Cambridge: Cambridge UP, 2003. (ISBN: 0-521-89149-3) テキスト</p> <p>各自 amazon.co.jp などで購入のこと。</p>		<p>プレゼンテーションと <i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> (7th Edition) に準拠したレポートとによって決めます。ただし、1 / 3 以上欠席した場合は、評価の対象としません。</p>	

03 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	工藤 和宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間のコミュニケーション」という字面通りの意味でよいのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化（間）」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。</p> <p>本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。</p> <p>講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Intercultural communication: A very short introduction</li> <li>2. 異文化間コミュニケーション論の落とし穴</li> <li>3. Key concepts (基本教材: pp. 2-5)</li> <li>4. Communication and culture (基本教材: pp. 6-10)</li> <li>5. Identity and cultural resources (基本教材: pp. 10-15)</li> <li>6. Discourse, identity and agency (基本教材: pp. 16-20)</li> <li>7. Otherisation and culturist traps (基本教材: pp. 21-25)</li> <li>8. Language, meaning and culture (基本教材: pp. 25-30)</li> <li>9. Power, identity and discourse (基本教材: pp. 30-35)</li> <li>10. Representation: 'International understanding' as ideology (基本教材: pp. 36-41)</li> <li>11. Dominant/counter discourse (基本教材: pp. 41-47)</li> <li>12. Disciplines for intercultural communication (基本教材: pp. 48-49)</li> <li>13. ケース・スタディーズ</li> <li>14. ケース・スタディーズ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>&lt;主要参考文献&gt;  伊佐雅子 監修 (2007)『多文化社会と異文化コミュニケーション』(改訂新版) 三修社。  稲賀繁美 編著 (2000)『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント教材を使用します。(講義支援システムより各種教材をダウンロードしてください。)		英語によるエッセーの試験 (100%)	

03 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	工藤 和宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間のコミュニケーション」という字面通りの意味でよいのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化（間）」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。</p> <p>本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。</p> <p>講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Intercultural communication: A very short introduction</li> <li>2. 異文化間コミュニケーション論の落とし穴</li> <li>3. Key concepts (基本教材: pp. 2-5)</li> <li>4. Communication and culture (基本教材: pp. 6-10)</li> <li>5. Identity and cultural resources (基本教材: pp. 10-15)</li> <li>6. Discourse, identity and agency (基本教材: pp. 16-20)</li> <li>7. Otherisation and culturist traps (基本教材: pp. 21-25)</li> <li>8. Language, meaning and culture (基本教材: pp. 25-30)</li> <li>9. Power, identity and discourse (基本教材: pp. 30-35)</li> <li>10. Representation: 'International understanding' as ideology (基本教材: pp. 36-41)</li> <li>11. Dominant/counter discourse (基本教材: pp. 41-47)</li> <li>12. Disciplines for intercultural communication (基本教材: pp. 48-49)</li> <li>13. ケース・スタディーズ</li> <li>14. ケース・スタディーズ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>&lt;主要参考文献&gt;  伊佐雅子 監修 (2007)『多文化社会と異文化コミュニケーション』(改訂新版) 三修社。  稲賀繁美 編著 (2000)『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント教材を使用します。(講義支援システムより各種教材をダウンロードしてください。)		英語によるエッセーの試験 (100%)	



03 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。		1. ガイダンス 2. コミュニケーションとは何か 3. 異文化コミュニケーションから何を学ぶか 4. 異文化コミュニケーションと心理世界 5. 異文化コミュニケーションの難しさ 6. 異文化コミュニケーションの歴史 7. 異文化コミュニケーションの重要性 8. 異文化コミュニケーション研究のスタート 9. 異文化コミュニケーションの背景 10. 異文化コミュニケーションの現状 11. 異文化コミュニケーションの体験 12. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代① 13. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代② 14. 文化とグローバル化 15. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによる。	

03 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。		1. ガイダンス 2. コミュニケーションとは何か 3. 異文化コミュニケーションから何を学ぶか 4. 異文化コミュニケーションと心理世界 5. 異文化コミュニケーションの難しさ 6. 異文化コミュニケーションの歴史 7. 異文化コミュニケーションの重要性 8. 異文化コミュニケーション研究のスタート 9. 異文化コミュニケーションの背景 10. 異文化コミュニケーションの現状 11. 異文化コミュニケーションの体験 12. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代① 13. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代② 14. 文化とグローバル化 15. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによる。	

06 年度以降 03 年度以降	メディア・コミュニケーション論 a マス・コミュニケーション論 a	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現から複雑なテクノメディアに至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それを媒介するメディアなしに文化的活動を営むことはできない。</p> <p>本講義では、わたしたち人間にとって重要な意味をもつ「メディア・コミュニケーション」の本質に迫るために、コミュニケーション研究やメディア論における基本的な考え方を、現代社会にあふれる豊富な具体例とともに解説してゆく。またメディア史の代表的なモデルを概観しながら、メディア・テクノロジーの発達によって、人間のコミュニケーション形態がどのように変化してきたのかを理解していく。</p>		1 本講義をつうじて学んでほしいこと 2 コミュニケーションの諸相① 3 コミュニケーションの諸相② 4 コミュニケーションの諸相③ 5 メディアとトライブカルチャー① 6 メディアとトライブカルチャー② 7 メディアとトライブカルチャー③ 8 メディアの媒介作用と延長作用① 9 メディアの媒介作用と延長作用② 10 メディア・コミュニケーションの歴史① 11 メディア・コミュニケーションの歴史② 12 ポスト・ヒューマンの肖像① 13 ポスト・ヒューマンの肖像② 14 ポスト・ヒューマンの肖像③ 15 前期の総括	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
池田理知子・松本健太郎編 『メディア・コミュニケーション論』（ナカニシヤ出版、2011年）		出席 50%、 定期試験 50%	

06 年度以降 03 年度以降	メディア・コミュニケーション論 b マス・コミュニケーション論 b	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は春学期の「メディア・コミュニケーション論 a」と連続をなすものである。春学期では「メディア・コミュニケーション」という事象を理解するための理論的／歴史的モデルを集中的に学習する予定であるのに対して、秋学期ではその内容を前提としながら、また今日的な事例およびトピックを取りあげながら、われわれ現代人をとりまくメディア環境を総合的に考察していくことが目標となる。とくに秋学期「メディア・コミュニケーション論 b」の前半では、記号学・視覚文化論・ナラトロジーなどの考え方を援用しながら、写真・映画・ビデオゲームなどの各種メディアによって媒介される映像コミュニケーションの実相を照明していく。さらに本講義の後半では「ビデオゲームにおける記号／メディアの次元」「監視社会と権力」「複製技術と二次創作」を基軸的なテーマとして、幅広く様々な題材を渉猟しながら、現代的なメディア環境の諸相にアプローチしていく。</p>		1 本講義をつうじて学んでほしいこと 2 時間を超える情報① 3 時間を超える情報② 4 映像記号における意味解釈のメカニズム 5 写真以降の映像メディアとその視覚性 6 映画におけるカメラと視点人物との関係 7 ビデオゲームにおける記号／メディアの次元① 8 ビデオゲームにおける記号／メディアの次元② 9 監視社会と権力① 10 監視社会と権力② 11 監視社会と権力③ 12 複製技術と二次創作① 13 複製技術と二次創作② 14 複製技術と二次創作③ 15 後期の総括	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
池田理知子・松本健太郎編 『メディア・コミュニケーション論』（ナカニシヤ出版、2011年）		出席 50%、 定期試験 50%	

03 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a (春学期 火 4)	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> 現代のコミュニケーション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テキストを解説することを学ぶ。		1 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点 2 時計時間の支配 3 空間と権力 4 アイデンティティの問い 5 レトリックと権力 6 レトリックと権力 7 家庭内コミュニケーション 8 ジェンダーとコミュニケーション 9 ジェンダーとコミュニケーション 10 テクノロジーとコミュニケーション 11 テクノロジーとコミュニケーション 12 メディアのレトリック 13 メディアのレトリック 14 多文化主義とコミュニケーション 15 グローバル化と日本社会／総括	
<b>講義概要</b> 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーションの問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』（有斐閣）を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、＜今＞に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.		評価は定期試験又はレポート及び不定期に課すクイズ等による総合評価。	

03 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b (春学期 木 3)	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第1に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第2にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。		1 オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 2 フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 3 ハイデガーと存在論 4 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L. オースティンと発話行為理論 5 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L. オースティンと発話行為理論 6 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク 7 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク 8 ミシェル・フーコーと表象 9 ミシェル・フーコーと表象 10 ミシェル・フーコーと表象 11 ミシェル・フーコーと表象 12 エドワード・サイードとオリエンタリズム 13 エドワード・サイードとオリエンタリズム 14 スチュアート・ホールと文化研究 15 総括	
<b>講義概要</b> 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 b では、20 世紀のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。			
<b>参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
立川健二・山田広昭『現代言語論――ソシュール フロイト ウィトゲンシュタイン』新曜社 土田土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論――テキスト・読み・世界』新曜社		評価は定期試験又はレポート及び不定期に課すクイズ等による総合評価。	

03 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーションとは、「はなし」が関わるコミュニケーションのみに限定されるものではないし、スピーチは「ことば」に限定されるわけでもない。本授業では、様々な社会事象をコミュニケーションとしてとらえ、様々なメッセージをスピーチとしてとらえることで、現代を生きる我々がいかに関係や意味の産出に関わっているのか講義していく。</p> <p>春学期は&lt;する・おこる&gt;、&lt;対称性&gt;、&lt;記号の均質性&gt;、&lt;時間&gt;、&lt;主体&gt;などのキーワードを足がかりとして、様々な事象(新聞、雑誌、漫画、小説、映画)の検討をおこなう。</p> <p>授業参加には課題の読書をすすめ、考えてくることが出発点になり、授業内での話し合いに積極的に関わることが必要となる。</p>		1 授業概要の説明 2 コミュニケーションとは？スピーチとは？ 3 コミュニケーションと認識 4 発生するコミュニケーション 5 コミュニケーションの対称性 6 CM とコミュニケーション 7 映画とコミュニケーション 8 共通記号とコミュニケーション 9 共通記号、笑い、コミュニケーション 10 物語とコミュニケーション 11 音楽とコミュニケーション 12 物語とコミュニケーション 13 ナショナリズムとコミュニケーション 14 歴史とコミュニケーション 15 時間、自己・他者認識、コミュニケーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に配布		授業参加、試験またはレポートによる総合評価。	

03 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の「スピーチ・コミュニケーション論 a」をふまえ、比較的理論的な考察をおこなう。</p> <p>まずは、スピーチ・コミュニケーションにとって重要となる、「記号・象徴・表象・言説・シンボル・サイン」といったことばで語られる概念を、異なる領域の研究者がどのように捉えてきたのかを検討し、これらの概念を提唱する諸理論家の考えによってどのような研究が可能になるのか考察する。これらの諸概念を検討した後、ハーバマスの公共圏に関する理論を踏まえつつ、公共圏の構築、そこからの排除に関連する処理論を扱う。</p>		1 授業概要の説明 2 記号論: ソシュールとバルト 3 記号論: パース 4 記号論: パース 5 レトリック論: ケネス・パーク 6 レトリック論: ケネス・パーク 7 公共圏とコミュニケーション: ハーバマス 8 対抗的下位の公共圏とコミュニケーション: フレイザー 9 ネットワークと公共圏 10 権力とコミュニケーション: フーコー 11 主体とコミュニケーション: フーコー 12 オリエンタリズム: サイド 13 オリエンタリズム: サイド 14 日本とオリエンタリズム 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に配布		授業参加、試験またはレポートによる総合評価。	

03 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「よき日本人こそが よき世界人」(天野貞祐)を知っていますか。諸君が日本人であるというアイデンティティをどのように獲得する(している)か分からないが、まずは日本の文化・社会を知ろう。</p> <p>そこで「コミュニケーション」という視点から日本文化社会の断面を再検討、再確認、再評価してみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明</li> <li>2. コミュニケーション(モデルを再検討)とは?①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. 同上③</li> <li>5. カナダの‘CCCJ’紹介</li> <li>6. 日本語の特徴①</li> <li>7. 同上②</li> <li>8. 歴史と言語①</li> <li>9. 同上②</li> <li>10. ビジネスと言語①</li> <li>11. 同上②</li> <li>12. 言語と非言語①</li> <li>13. 同上②</li> <li>14. プレゼンテーション①</li> <li>15. 同上②</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトとコピーを使用する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション：30%</li> <li>・定期試験：50%</li> <li>・個人レポート：20%</li> </ul> <p>※授業計画と評価方法は受講生数によって変更する！</p>	

03 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期とは若干内容を変えて、社会的・文化的事象の分析を試みる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明</li> <li>2. コミュニケーション(関数の利用)とは?①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. 同上③</li> <li>5. 多文化間コミュニケーション①</li> <li>6. 同上②</li> <li>7. 同上③</li> <li>8. ハムレットと忠臣蔵①</li> <li>9. 同上②</li> <li>10. 同上③</li> <li>11. 同上④</li> <li>12. プレゼンテーション①</li> <li>13. 同上②</li> <li>14. 同上③</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトとコピーを使用する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション：30%</li> <li>・定期試験：50%</li> <li>・個人レポート：20%</li> </ul> <p>※授業計画と評価方法は受講生数によって変更する！</p>	

03 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Argumentation Theories</p> <p>Argumentation(議論研究)はコミュニケーション研究の中ではディベート教育と密接に関連しながら発展してきたが、哲学や言語学では異なった状況下で発展してきた、学際的な研究である。本講義は、歴史的に重要な研究を概括的に検討していく。</p> <p>前期は現在の議論研究に影響を与えているペレルマンとオルブレツ・テテカの「新しいレトリック」、トゥールミンの議論へのアプローチを簡単に紹介した後、アメリカのコミュニケーション研究における議論研究・教育の実例を紹介する。これらの研究者のアプローチを理解する際には、(1)議論とはなにか、(2)よい・望ましい議論とはどういったものか、(3)可能な研究・教育プログラムはどのような形をとった(とりうるのか)という点を取り上げる。</p> <p>受講生は授業前に課題を読み終え、意見・質問を考えてくることが求められる。</p>		<p>1 Course Overview: Argumentation in the US, Canada, and the Netherlands</p> <p>2-6 Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca's New Rhetoric Project</p> <p>7 Mid-term</p> <p>8-12 Stephen Toulmin on Rationality/Reasonability and Argument</p> <p>13-14 Argumentation and Debate</p> <p>15 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に配布する。		授業参加、試験またはレポートによる総合評価。	

03 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Argumentation Theories</p> <p>「新しいレトリック」、トゥールミンの研究が先鞭をつけた議論研究が、80 年代以降のどのような軌跡をたどってきたのかを、重要な著作を検討することで概括的に講義する。具体的には様々な議論圏(spheres of argument)、推論・議論のパターン(argumentation schemes)、行為・目的を中核に捉える対話的議論の理論(pragmatic theory/new dialectic)、視覚的議論(visual argument)、フェミニズムと議論を取り上げて講義する。</p> <p>受講生は授業前に課題を読み終え、意見・質問を考えてくることが求められる。</p>		<p>1 Retrospect and prospect</p> <p>2-4 Spheres of argument</p> <p>5-7 Argumentation schemes and pragmatic theory</p> <p>8 Mid-term</p> <p>9-11 Visual argument</p> <p>12-14 Gender and argumentation</p> <p>15 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に配布する。		授業参加、試験またはレポートによる総合評価。	



03 年度以降	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オーラルヒストリー</p> <p>インタビューで得られる語りをもとに「歴史」を記録し、執筆すること。「オーラルヒストリー」という副題の本授業では、この2点に関する実践と理論的考察をおこなう。歴史とコミュニケーションはいかに関わるのか、「文字」と「声」の資料をどのように位置づけるべきか? 「声」を掘りおこすとはどういうことか? インタビュー時の「記憶」「記録」をどのように考えるべきか? これらの比較的論理的考察に加え、インタビュー実践を行って作品に仕上げることを目指します。歴史とコミュニケーションに関心のある学生、インタビュー実践に関わる職（例えばライターや編集者）に関心のある学生の受講を望む。受講者はインタビューのために録音機器が必要となる。</p>		<p>1 授業概要の説明</p> <p>2 コミュニケーション、歴史、オーラルヒストリー</p> <p>3 声と文字</p> <p>4 プロジェクト検討</p> <p>5 質問の作成・研究上の倫理規定・著作権について</p> <p>6 記録と記憶</p> <p>7 記録と記憶</p> <p>8 作品化</p> <p>9 作品化</p> <p>10 事例検討</p> <p>11 事例検討</p> <p>12 事例検討</p> <p>13 発表</p> <p>14 発表</p> <p>15 発表</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で紹介する。		授業参加、宿題、発表、最終レポートをもとに総合的に判断する。	

03 年度以降	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オーラルヒストリー</p> <p>インタビューで得られる語りをもとに「歴史」を記録し、執筆すること。「オーラルヒストリー」という副題の本授業では、この2点に関する実践と理論的考察をおこなう。</p> <p>本学は春学期のプロジェクトをさらに発展させて作品を執筆するか、新たなプロジェクトを立ち上げてインタビューと執筆をおこなうことが求められる。歴史とコミュニケーションに関心のある学生、インタビュー実践に関わる職（例えばライターや編集者）に関心のある学生の受講を望む。受講者はインタビューのために録音機器が必要となる。</p>		<p>1 授業概要の説明</p> <p>2 オーラルヒストリーの流れ</p> <p>3-8 事例検討</p> <p>9 インタビュー結果報告</p> <p>10 インタビュー結果報告</p> <p>11-12 事例検討</p> <p>13 発表</p> <p>14 発表</p> <p>15 発表</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で紹介する。		授業参加、宿題、発表、最終レポートをもとに総合的に判断する。	

03 年度以降	コミュニケーション論文献研究 a (春学期 火 5)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的</b> 視覚コミュニケーション論において重要な主題の一つである絵画を題材として、批評的な分析と考察を深めていく。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる。1) 20 世紀の思想の中心となった構造主義以降の理論とは何か、2) 視覚文化批評とは何か、3) 表象のコミュニケーション論とは何か。これら3点について、絵画の分析を理解しつつ、その批評的意義を探っていく。		1. Course Orientation 2. Introduction 3. Introduction 4. Representation 5. Ideology 6. Authorship 7. Panofsky's Melancolia 8. The Paradox of Mimesis 9. The Paradox of Mimesis 10. Seeing Through 11. Making "Genius" 12. Making "Genius" 13. Making "Genius" 14. Making "Genius" 15. Wrap up	
<b>講義概要</b> 西洋美術史で取り上げられる絵画を題材に、構造主義以降の諸理論の立場から絵画とその解釈を批評する文献を精読する。課題となる文献の精読を通して視覚テキストの分析とはいかなるものかを考察し、その諸相を学んでいく。絵画という視覚的にコミュニケーションされた表象をテキストとすることで、視覚メディアの批評に必要な諸理論を学ぶことになる。			
テキスト、参考文献		評価方法	
Keith Moxey. <u>The Practice of Theory: Poststructuralism, Cultural Politics, and Art History</u> . (Ithaca; London: Cornell UP, 1994)		定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻 2 回は欠席 1 回に相当）等から総合的に評価する。	

03 年度以降	コミュニケーション論文献研究 b (春学期 水 2)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋近代の文化史において、視覚技術はカメラの発明から映画技術として発展したと考えるのが一般的である。しかし、視覚コミュニケーション論においては、この近代化と共に発想された歴史的変遷と技術決定論は批判の対象となっている。この歴史的な分岐点となるのは 19 世紀であり、新たな知の条件によって、近代的な観察者が生まれる。この視覚技術の変遷と同時に発生する近代の観察者はいかに生まれたのか。当時の視覚技術の主体となる観察者の構成が課題となる。 本授業では、当時の歴史的状況を踏まえつつ、視覚コミュニケーション論において重要な絵画や図版を主な題材として、近代の観察者の歴史的な誕生を分析した、Crary の以下の文献を読んでいく。 単なる視覚技術の発展ではない、知の条件の変容が視覚メディアとして近代的な観察者を産み出す際、様々な出来事や力の諸相が絡み合う様子を把握していく。それによって、映画技術がカメラとは異なる視覚技術の系譜を踏まえたものであることが明らかとなる。		1. Course Orientation 2. Modernity and the Problem of the Observer 3. Modernity and the Problem of the Observer 4. Modernity and the Problem of the Observer 5. The Camera Obscura and Its Subject 6. The Camera Obscura and Its Subject 7. The Camera Obscura and Its Subject 8. The Camera Obscura and Its Subject 9. Subjective Vision and the Separation of the Senses 10. Subjective Vision and the Separation of the Senses 11. Subjective Vision and the Separation of the Senses 12. Techniques of the Observer 13. Techniques of the Observer 14. Techniques of the Observer 15. Visionary Abstraction / Wrap up	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jonathan Crary. <u>Techniques of the Observer: On Vision and Modernity in the Nineteenth Century</u> . (Cambridge, MA: MIT Press, 1992).		定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻 2 回は欠席 1 回に相当）等から総合的に評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	グローバル社会論 a,b 国際社会論 a,b	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目標は、一年時に学習した国際関係論の概要から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。</p> <p>本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組である主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体例として取り上げ、理論的アプローチを適用することによってグローバル社会の実態像の把握をめざす。</p>		<p>第1回 ガイダンス、グローバル化する国際社会</p> <p>第2回 国際政治の理論とは何か</p> <p>第3回 国際政治の分析枠組み①国際関係</p> <p>第4回 国際政治の分析枠組み②国家</p> <p>第5回 国際政治の分析枠組み③個人</p> <p>第6回 国際政治アプローチ①現実主義</p> <p>第7回 国際政治アプローチ②理想主義</p> <p>第8回 国際政治アプローチ③コンストラクティズム</p> <p>第9回 (前半まとめ) 中間小テスト</p> <p>第10回 安全保障①伝統的安全保障</p> <p>第11回 安全保障②人間の安全保障</p> <p>第12回 国際経済</p> <p>第13回 地球環境</p> <p>第14回 貧困と開発</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で参考文献を紹介する。		出席状況、中間小テスト、学期末試験で評価する。	

06 年度以降 03 年度以降	グローバル社会論 a,b 国際社会論 a,b	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目標は、一年時に学習した国際関係論の概要から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。</p> <p>本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組である主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体例として取り上げ、理論的アプローチを適用することによってグローバル社会の実態像の把握をめざす。</p>		<p>第1回 ガイダンス、グローバル化する国際社会</p> <p>第2回 国際政治の理論とは何か</p> <p>第3回 国際政治の分析枠組み①国際関係</p> <p>第4回 国際政治の分析枠組み②国家</p> <p>第5回 国際政治の分析枠組み③個人</p> <p>第6回 国際政治アプローチ①現実主義</p> <p>第7回 国際政治アプローチ②理想主義</p> <p>第8回 国際政治アプローチ③コンストラクティズム</p> <p>第9回 (前半まとめ) 中間小テスト</p> <p>第10回 安全保障①伝統的安全保障</p> <p>第11回 安全保障②人間の安全保障</p> <p>第12回 国際経済</p> <p>第13回 地球環境</p> <p>第14回 貧困と開発</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で参考文献を紹介する。		出席回数、中間テスト、学期末試験で評価とする。	

06 年度以降 03 年度以降	グローバル社会論 a,b 国際社会論 a,b	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。</p> <p>国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>この授業では、そのノウハウを伝えていきます。</p> <p>一緒に、国際問題を料理してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」 グローバル社会を見る眼</li> <li>2 国際社会の誕生——大航海時代のスタート</li> <li>3 国際システム</li> <li>4 国際システム</li> <li>5 国際社会と国内社会の相違</li> <li>6 国際社会と国内社会の相違</li> <li>7 政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性</li> <li>8 まとめ</li> <li>9 米英欧の世界観</li> <li>10 イギリスの思想家</li> <li>11 ヨーロッパの思想家</li> <li>12 国際社会の比較</li> <li>13 国際社会の比較</li> <li>14 国際社会の比較</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

06 年度以降 03 年度以降	グローバル社会論 a,b 国際社会論 a,b	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。</p> <p>国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>この授業では、そのノウハウを伝えていきます。</p> <p>一緒に、国際問題を料理してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」 グローバル社会を見る眼</li> <li>2 国際社会の誕生——大航海時代のスタート</li> <li>3 国際システム</li> <li>4 国際システム</li> <li>5 国際社会と国内社会の相違</li> <li>6 国際社会と国内社会の相違</li> <li>7 政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性</li> <li>8 まとめ</li> <li>9 米英欧の世界観</li> <li>10 イギリスの思想家</li> <li>11 ヨーロッパの思想家</li> <li>12 国際社会の比較</li> <li>13 国際社会の比較</li> <li>14 国際社会の比較</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の国際関係 a 国際関係史 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義の問題意識】</p> <p>今般、日本の外交・安全保障分野の専門家の間で、防衛協力のパートナーとしてのオーストラリアに対する関心がこれまでに高まってきている。6 年ぶりとなる「防衛計画の大綱（防衛大綱）」（2010 年 12 月 17 日閣議決定）でも、政府は中国の台頭を念頭に、日米同盟の深化とともに、オーストラリアなど友好国との防衛協力強化を謳っている。</p> <p>こうした関心の高まりとは裏腹に、オーストラリアに対する理解は浅いのが現状である。本講義では、オーストラリアがどのような歴史を歩んできたのかを概観し、同国に対する理解を深める一助となることを願うものである。</p> <p>【講義概要】</p> <p>春学期の講義では、イギリスによるオーストラリア植民地の形成（18 世紀後半）から、第二次世界大戦終結までのオーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国）やアメリカ、アジア地域との関係性のなかで概観していく。</p> <p>本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。</p>		<p>第 1 回：イントロダクションーオーストラリアを学ぶ意義</p> <p>第 2 回：植民地オーストラリア①ー植民地の誕生と発展</p> <p>第 3 回：植民地オーストラリア②</p> <p>ー大英帝国とオーストラリア</p> <p>第 4 回：ゴールドラッシュと白豪主義政策</p> <p>第 5 回：多文化主義社会オーストラリア</p> <p>第 6 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア</p> <p>ー「二つのナショナリズム」</p> <p>第 7 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア</p> <p>ー第一次世界大戦とアンザック精神</p> <p>第 8 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア</p> <p>ー第一次世界大戦とオーストラリア国内社会</p> <p>第 9 回：第二次世界大戦ーアジア国際関係と黄禍論</p> <p>第 10 回：2 つの捕虜収容所①ーアンボン捕虜収容所</p> <p>第 11 回：2 つの捕虜収容所②ーカウラ捕虜収容所</p> <p>第 12 回：対日講和問題とオーストラリア</p> <p>第 13 回：オーストラリアにおける先住民問題①</p> <p>ー1970 年代まで</p> <p>第 14 回：オーストラリアにおける先住民問題②</p> <p>ーラッド首相の「謝罪演説」まで</p> <p>第 15 回：総括と質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：永野隆行他編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。</p> <p>参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		<p>不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の国際関係 b 国際関係史 b	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義の問題意識】</p> <p>今般、日本の外交・安全保障分野の専門家の間で、防衛協力のパートナーとしてのオーストラリアに対する関心がこれまでに高まってきている。6 年ぶりとなる「防衛計画の大綱（防衛大綱）」（2010 年 12 月 17 日閣議決定）でも、政府は中国の台頭を念頭に、日米同盟の深化とともに、オーストラリアなど友好国との防衛協力強化を謳っている。</p> <p>こうした関心の高まりとは裏腹に、オーストラリアに対する理解は浅いのが現状である。本講義では、戦後のアジアにおいてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、日豪協力の今後を考える一助となることを願うものである。</p> <p>【講義概要】</p> <p>秋学期の講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。</p> <p>春学期同様、本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。</p>		<p>第 1 回：イントロダクション</p> <p>ーオーストラリア外交を見る眼</p> <p>第 2 回：チフリー労働党政権の外交</p> <p>ー新たな国際関係構築の模索</p> <p>第 3 回：アンザス同盟の実現</p> <p>第 4 回：冷戦下のアジア①</p> <p>ー中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争</p> <p>第一次インドシナ危機</p> <p>第 5 回：冷戦下のアジア②</p> <p>ーイギリスのアジアの戦争「対決政策」</p> <p>第 6 回：冷戦下のアジア③</p> <p>ーアメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」</p> <p>第 7 回：ポストベトナムのオーストラリア外交</p> <p>第 8 回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交</p> <p>ーオーストラリアの「アジア化」</p> <p>第 9 回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義</p> <p>第 10 回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助</p> <p>第 11 回：ミドルパワー外交③核軍縮</p> <p>第 12 回：ミドルパワー外交④国際テロとの戦い</p> <p>第 13 回：日豪関係の歴史的展開ー敵国から同盟国へ</p> <p>第 14 回：ギラード労働党政権の政治と外交</p> <p>第 15 回：21 世紀オーストラリア外交の行方&amp;質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。</p> <p>参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		<p>不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	国際開発論 国際開発協力論 a	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、開発途上国における貧困および開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。</p> <p>講義は3つのシリーズから構成されます。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。第2の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。第3の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション：開発と国際関係  <b>&lt;開発途上国の貧困&gt;</b>  2. 貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響  3. 歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治  4. 政治的要因（1）：民主主義と開発  5. 政治的要因（2）：開発独裁体制  6. 社会・文化的要因：インド・カースト制度  <b>&lt;開発途上国の開発とその実態&gt;</b>  7. 経済開発の方法とパターン  8. 高度経済成長の要因と弊害  9. 開発途上国にとってのグローバリゼーション  10. 中国経済発展の光と影（1）：発展の勢い  11. 中国経済発展の光と影（2）：弊害と矛盾  <b>&lt;グローバル化時代の国際開発&gt;</b>  12. 国際ビジネスの新展開（1）：ツーリズム関連産業  13. 国際ビジネスの新展開（2）：ポップカルチャー  14. 国際ビジネスの新展開（3）：イスラム関連産業  15. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。</p>		<p>学期末試験の成績を中心に評価を行います。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	国際協力論 国際開発協力論 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ほぼ毎回の授業で、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみます。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際協力に関連した 2 つのトピックを取り上げます。</p> <p>第 1 のトピックは、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。</p> <p>第 2 のトピックは、現代の海賊問題です。インド洋に出没するソマリア海賊に注目します。世界の海運に脅威を与える海賊問題への対応が、国際協力で大きな課題となっています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」</li> <li>2 オーストラリアは、どんな国</li> </ol> <p>&lt;国際協力の表とウラ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 国境を越える</li> <li>4 国境を越える</li> <li>5 国内の紛争</li> <li>6 国内の紛争</li> <li>7 地域の協力</li> <li>8 ニッチ外交</li> <li>9 まとめ</li> </ol> <p>&lt;現代の海賊問題を考えてみよう&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10 現代の海賊問題</li> <li>11 現代の海賊問題</li> <li>12 現代の海賊問題</li> <li>13 国際協力——海賊対策</li> <li>14 国際協力——海賊対策</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書)など		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の 3 点セットです。	

06 年度以降	国際交流論	担当者	小松 諄悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、国際交流基金活動の三本柱である、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の各分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。</p> <p>分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察して行きます。</p> <p>国際交流基金環境の変化が、文化交流にいかに関与しているかについても、検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要（国際交流と国際交流基金）</li> <li>2. 国際交流基金の歴史</li> <li>3. 国際文化交流政策の変遷</li> <li>4. 芸術交流</li> <li>5. 芸術交流の実践</li> <li>6. 芸術交流の実践（2）</li> <li>7. 日本語教育</li> <li>8. 日本語教育の実践</li> <li>9. 日本研究</li> <li>10. 日本研究の実践</li> <li>11. 知的交流</li> <li>12. 知的交流の実践</li> <li>13. 知的交流の実践（2）</li> <li>14. 国際交流基金環境の変化と国際文化交流の変遷</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要に応じ、授業でレジュメを配布		<p>期末レポートによって評価（80％）するが、出席率も考慮に入れる（20％）。</p>	

06 年度以降	国際ツーリズム論	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 我々の身近な生活の一部になっている観光は、「人類の最も望ましい基本的活動」だとされる。ツーリズムによる文化や人の交流が、これからの社会や地球環境と向き合う姿を捉え、ツーリズムの実像を探求する。</p> <p>講義概要 アフリカの地から始まった「人類の偉大な旅」、17 世紀、英国貴族の子弟が指導者としての識見を身につける為のイタリア旅行(Grand Tour)、明治の新たな時代へと繋がる岩倉遣欧使節団の渡航、ベルリンの壁の崩壊に結びついた東ドイツ個人旅行の自由化等々、国際ツーリズムが社会と係り、社会を動かす力を考察する。</p> <p>併せて、メディアや商業が作り出す擬似イベントとしてのツーリズムの虚像と実像を探求する。</p> <p>(*) ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。</p>		<p>1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について</p> <p>2. 国際ツーリズムの持つ力、ベルリンの壁の崩壊</p> <p>3. “Grand Tour” から Thomas Cook</p> <p>4. ツーリズムの経済力</p> <p>5. ツーリズムと観光収支</p> <p>6. アウトバウンド・ツーリズム</p> <p>7. インバウンド・ツーリズムとその背景</p> <p>8. ソフトパワー、日本の「和」とツーリズム</p> <p>9. ツーリズムの実像を掴む</p> <p>10. エコロジーとエコツーリズム</p> <p>11. 景観とツーリズム</p> <p>12. 世界遺産とツーリズム</p> <p>13. ツーリズムとホスピタリティ</p> <p>14. アジア・ツーリズム圏を考える</p> <p>15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点</p> <p>(*) 専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：レジュメを配布する</p> <p>参考文献：須藤廣『観光社会学』（明石書店）、白幡洋三郎『旅行のススメ』（中公新書）、山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）他</p>		<p>期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。</p>	

06 年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化、多極化、多様化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。</p> <p>本講義は4つのシリーズから構成されます。第1の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。第2の「NGO の役割と課題」では NGO やボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。第3の「日本の NGO 活動」では、日本における国際協力 NGO に焦点を当て、歴史、実態、課題について検討します。最後に、「国際協力の新たなテーマと NGO」として、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな NGO の役割と課題について検討します。</p>		<p>1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO  <b>&lt;開発援助の仕組みと展開&gt;</b>  2. ODA の仕組みとトレンド  3. 日本の ODA の特徴  4. 日本の援助実績と問題点  5. 日本の ODA の課題  <b>&lt;NGO の役割と課題&gt;</b>  6. 国際援助の新たなテーマと NGO  7. NGO の定義と歴史的経緯  8. NGO の機能と途上国での役割  9. 開発と NGO：ケーススタディ(1)バングラデシュ  10. 開発と NGO：ケーススタディ(2)マレーシア  <b>&lt;日本の NGO 活動&gt;</b>  11. 市民活動の歴史と国際協力 NGO  12. 国際協力 NGO の実態と課題  <b>&lt;国際協力の新たなテーマと NGO&gt;</b>  13. マイクロクレジットという方法  14. ジェンダー問題と開発  15. 震災と NGO・ボランティア</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

06 年度以降 03 年度以降	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>W・ディズニー映画「カリブの海賊」を手掛かりに、世界の危険な海を舞台に、航海のリスクを抱えつつ、歴史に登場した海賊の正体に迫ります。</p> <p>授業の前半でディズニー映画、もしくはアメリカ CNN やイギリス BBC の国際ニュースを取り上げます。国際ニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。また観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目して、観光、宿泊、航空産業の世界的な動向もつかめます。エアライン時刻表や海外旅行パンフレットも読み解きます。</p> <p>授業の後半はツーリズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊に光をあてます。16～18 世紀の海賊に焦点をあて、なぜリスクを冒してまで世界中を移動したのか——その謎を解きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 ディズニー映画「カリブの海賊」解説</li> <li>3 ディズニー映画「カリブの海賊」解説</li> <li>4 ディズニー映画の解説、海賊の用語解説</li> <li>5 海賊ドレークの世界一周</li> <li>6 海洋覇権のゆくえ——海賊の役割</li> <li>7 海洋覇権のゆくえ——海賊の役割</li> <li>8 まとめ</li> <li>9 スパイス争奪戦——海賊の「東インド会社」</li> <li>10 スパイス争奪戦——海賊ビジネス</li> <li>11 コーヒーから「午後の紅茶」へ</li> <li>12 砂糖生産——海賊の「密輸」ビジネス</li> <li>13 国名・カレンダー(暦)・宗教勢力—用語解説</li> <li>14 ディズニー映画「カリブの海賊」解説</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『世界史をつくった海賊』(ちくま新書)		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

06 年度以降 03 年度以降	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【本講義の目標】</p> <p>本講義の目的は、20 世紀の国際関係の歴史を把握し、それを 21 世紀の国際関係の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論的な枠組みと歴史的背景である。前者の理論的枠組みについては、「グローバル社会論」（国際コース必修科目）を中心に講義がなされているが、歴史関連科目については、学生諸君が学ぶ機会に限られており、この講義が歴史的知識を習得する機会を与える一つとなるだろう。</p> <p>【講義概要】</p> <p>本講義は三部構成となっている。第一部では 20 世紀という時代の特徴を考える。第二部では第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていく。第三部では「脱植民地化」をキーワードに第二次世界大戦後の国際関係を分析していく。</p> <p>本講義は、パワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。また必要に応じて映像資料を用いる。抜き打ちで出欠調査を兼ねたリアクションペーパーの提出を求める。</p>		<p>第 1 回：イントロダクションー歴史を学ぶとは？</p> <p>第 2 回：20 世紀はどんな時代であったか① ーナショナリズムの時代</p> <p>第 3 回：20 世紀はどんな時代であったか② ー大量破壊兵器の時代</p> <p>第 4 回：20 世紀はどんな時代であったか③ ー国際関係の多民族化・多文化化</p> <p>第 5 回：20 世紀はどんな時代であったか④ ー資本主義経済のグローバル化</p> <p>第 6 回：冷戦とは何であったのか①</p> <p>第 7 回：冷戦とは何であったのか②</p> <p>第 8 回：冷戦とは何であったのか③</p> <p>第 9 回：冷戦とは何であったのか④</p> <p>第 10 回：脱植民地化とは？</p> <p>第 11 回：冷戦と脱植民地化</p> <p>第 12 回：脱植民地化と経済発展</p> <p>第 13 回：脱植民地化と現地社会</p> <p>第 14 回：脱植民地化と現代国際関係</p> <p>第 15 回：まとめ（質疑応答）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特に指定しない。</p> <p>講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。</p>		<p>抜き打ち的に実施するリアクションペーパーの提出（30%）と学期末試験（論述形式、70%）による。</p>	



06 年度以降 03 年度以降	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	小松 諄悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「国際交流論」で分野ごとに検証した国際文化交流事業の実践を、この講義では、日本にとって重要な地域（東南アジア）・国（中国、韓国、アメリカ）ごとの、国際文化交流事業の実践を検証します。</p> <p>アメリカ、中国、韓国、東南アジアの、それぞれの現代史と特性、日本との関係史を考察しながら、その特性に応じた、適正な文化交流事業を検討していきます。</p> <p>近年注目されている東アジア共同体の中核をなすべき「東アジア文化共同体」構想についての私論も展開します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 国際文化交流の歴史と政策の変遷</li> <li>3. アメリカの特性</li> <li>4. 日米関係の近現代史</li> <li>5. 日米文化交流の実践</li> <li>6. 中国の近現代史</li> <li>7. 日中関係の近現代史</li> <li>8. 日中文化交流の実践</li> <li>9. 韓国の近現代史</li> <li>10. 日韓関係の近現代史</li> <li>11. 日韓文化交流の実践</li> <li>12. 東南アジアの近現代史</li> <li>13. 日本と東南アジアの関係史</li> <li>14. 東南アジアとの文化交流の実践</li> <li>15. 東アジア文化共同体（講義のまとめ）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じ、授業でレジュメを配布		<p>期末レポートによって評価（80％）するが、出席率も考慮に入れる（20％）。</p>	

06 年度以降 03 年度以降	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、サハラ以南アフリカ諸国に焦点を当て、政治、経済、社会などさまざまな側面からアフリカの実情を把握し、グローバル社会の中でのアフリカ諸国の位置づけを試みる。</p> <p>数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1960 年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀が経過した今なお、アフリカ諸国はいろいろな意味で国際社会の関心を得続けている。</p> <p>本講義では、現代のアフリカを取り巻く国際関係を理解するのに必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用いる予定である。</p>		<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2～4 回 歴史</p> <p>第 5～7 回 国際支援の動向</p> <p>第 8～9 回 紛争と平和構築</p> <p>第 10 回 民主主義とガバナンス</p> <p>第 11 回 食糧問題</p> <p>第 12 回 地域協力</p> <p>第 13 回 女性と人権</p> <p>第 14 回 環境問題</p> <p>第 15 回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考資料を紹介する。		出席と学期末試験の総合評価とする。	

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 a 国際関係論文研究 a	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、国際関係分野で卒論を執筆しようとする学生諸君を対象に、卒論をはじめとするアカデミックな論文を作成するために必要な知識・ノウハウの習得、ならびに英文を含めた資料・文献の選び方、読み方の習熟を目指す。</p> <p>具体的には、(1) 論文・レポートの書き方(形式論および方法論)、(2) リサーチの方法と資料の選択、(3) 資料・文献の読解と解釈、といった点を学ぶとともにそれらのトレーニングを行う。リサーチと資料・文献読解のテーマとしては特定の国のカンントリー・リスクや重要な時事問題などを取り上げる。</p> <p>受講者にはほぼ毎週レポートの提出や事前リサーチを課し、それらの報告を基に授業を進める。受講希望者は、初回の授業の際に下記の要領に従って書いたレポートを持参すること(授業の材料に使う)。*テーマ:「在日外国人問題」、字数:2千字以内(A4で2枚以内に収める)、条件:サブタイトルは各自付ける。また、テーマに関して自らの体験談を一部に必ず盛り込む。</p> <p>この授業は金子担当の国際関係文献研究 b(秋学期)と極めて継続性が強いので、a,b の継続履修を強く推奨する。</p>		<p>1. インTRODakション</p> <p>2~4. 論文の書き方: 各受講者が提出したレポートを題材に、論文・レポートを書く際に不可欠なルールやレベルの高いレポートの書き方について、テキストを利用しながら解説する。また、受講者から提出されたレポートを受講者全員で添削しながら、アカデミックな論文の書き方について考えるとともに、他者の文章に対する校正力、批判力を養う。</p> <p>5~8. 論文の書き方(2): テーマの選択や論文の構成作りなどについて、グループワークを含めて、実践的な方法の習得を図る。</p> <p>9~14. リサーチ・分析の方法: 特定のテーマについて、いかに的確かつバランス良く資料(書籍、定期刊行物、インターネットなど)を収集できるかについて考え、トレーニングする。また、国際関係や各国の政治・経済・社会についての基礎的な知識の習得を図る、</p> <p>15. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應大学出版会、2002年(事前に用意する必要はない)。その他、教材として英文の書籍、定期刊行物、ホームページ資料などを適宜使用。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、基本的に特定の理由がない欠席が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 b 国際関係論文研究 b	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、春学期の「国際関係文献研 a」に引き続き、国際関係分野で卒論を執筆しようとする学生諸君を対象に、卒論をはじめとするアカデミックな論文を作成するために必要な知識・ノウハウの習得、ならびに英文を含めた資料・文献の選び方、読み方の習熟を目指す。</p> <p>秋学期開講の国際関係文献研究 b では、リサーチの方法と資料の選択、具体的な資料・文献の読解と解釈についての習得を図る。また、それらを基に、論文作成過程におけるプレゼンテーションの方法についても検討する。</p> <p>資料・文献の読解と解釈については、特定のテーマ(比較的時事的なトピック:例えば、沖縄の米軍基地移転問題、日本の人口縮小問題など)を取り上げ、種々の視点から書かれた資料・文献を収集するとともに、それらを読み解き、自らの論文に効果的に活用する方法を考える。</p> <p>金子担当の国際関係文献研究 a(春学期)との継続性が強いので、本授業の履修については a, b の継続履修を強く推奨します。</p>		<p>1. インTRODakション</p> <p>2~4. リサーチの方法と資料の選択: 統一テーマを設定し、そのテーマについていかに的確かつバランス良く資料(書籍、定期刊行物、インターネットなど)を収集できるかについて考え、トレーニングする。</p> <p>5~11. 資料・文献の読解: 特定の統一テーマ(主に国際関係に関する時事的問題)についてリサーチ・分析するために有効と考えられる英文および邦文の資料・文献(雑誌・新聞記事、各種論文・レポート、公文書など)を選び、それらを個人、グループ、もしくはクラス全体で読み解きながら、専門用語・概念を学ぶとともに読解力の向上を図り、同時にテーマに関する分析力を高める。読解、解釈については課題を課し、その成果を基に授業を進める。</p> <p>12~15. プレゼンテーション 特定のテーマについてのリサーチ・分析の成果をプレゼンテーション形式で発表する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
文献・資料については、そのつど配布もしくは指定します。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、基本的に特定の理由がない欠席が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	



06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 a 国際関係論文献研究 a	担当者	高木 綾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションについて、英語文献を講読しながら理解を深めることを目指す。その理由は、今後どのような進路に進もうとも、グローバリゼーションへの理解なくして正しい判断を行うことはできないと考えられるためである。</p> <p>講義の進め方は、毎回全員が要約を A4 で 1 枚程度にまとめて提出し、学生同士交換する。それを踏まえた上で、ディスカッションを行う。そのためには、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することも求められる。</p>		<p>第 1 週: Introduction 第 2 週: Discussion(1) 第 3 週: Discussion(2) 第 4 週: Discussion(3) 第 5 週: Discussion(4) 第 6 週: Discussion(5) 第 7 週: Discussion(6) 第 8 週: Discussion(7) 第 9 週: Discussion(8) 第 10 週: Discussion(9) 第 11 週: Discussion(10) 第 12 週: Discussion(11) 第 13 週: Discussion(12) 第 14 週: Discussion(13) 第 15 週: 授業の総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Manfred Steger, <i>Globalization: A Very Short Introduction</i> , Second Edition, (Oxford: Oxford University Press, 2009).		出席点 (30%)、毎回の要約 (45%)、ディスカッションへの貢献度 (5%)、小テスト (20%) で評価します。	

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	高木 綾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際関係文献研究 a. に引き続き、グローバリゼーションについて、英語文献を講読しながら理解を深めることを目指す。その理由は、今後どのような進路に進もうとも、グローバリゼーションへの理解なくして正しい判断を行うことはできないと考えられるためである。</p> <p>講義の進め方は、毎回全員が要約を A4 で 1 枚程度にまとめて提出し、学生同士交換する。それを踏まえた上で、ディスカッションを行う。そのためには、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することも求められる。</p>		<p>第 1 週: Introduction 第 2 週: Discussion(1) 第 3 週: Discussion(2) 第 4 週: Discussion(3) 第 5 週: Discussion(4) 第 6 週: Discussion(5) 第 7 週: Discussion(6) 第 8 週: Discussion(7) 第 9 週: Discussion(8) 第 10 週: Discussion(9) 第 11 週: Discussion(10) 第 12 週: Discussion(11) 第 13 週: Discussion(12) 第 14 週: Discussion(13) 第 15 週: 授業の総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Manfred Steger, <i>Globalization: A Very Short Introduction</i> , Second Edition, (Oxford: Oxford University Press, 2009).		出席点 (30%)、毎回の要約 (45%)、ディスカッションへの貢献度 (5%)、小テスト (20%) で評価します。	

# 交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)



09 年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。</p> <p>近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。</p> <p>本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えたいきます。</p> <p>なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. マスツーリズムとサステイナブル・ツーリズム</li> <li>3. 開発と持続可能性概念</li> <li>4. 開発と持続可能性概念（続き）</li> <li>5. 地球環境問題</li> <li>6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産）</li> <li>7. エコツーリズム（歴史と概説）</li> <li>8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例）</li> <li>9. エコミュージアム（歴史と概説）</li> <li>10. LOHAS（ロハス）と観光</li> <li>11. 欧米のグリーンツーリズム</li> <li>12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開）</li> <li>13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾</li> <li>14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流）</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。</p> <p>参考文献は適宜紹介。</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。</p> <p>講義概要</p> <p>旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。</p> <p>旅行業の発展経緯と機能役割、商品形態等について重点的に触れ、又、I T時代における旅行ビジネスの今日的課題及び将来像についても考察する。</p> <p>宿泊産業では、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホテル業のサービスの実態についても学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要・旅行市場の現状</li> <li>2. 旅行業の機能・役割</li> <li>3. 旅行業の歩み①</li> <li>4. 旅行業の歩み②</li> <li>5. 旅行業の商品と形態</li> <li>6. 旅行業法と消費者保護</li> <li>7. 旅行業界の現状と課題</li> <li>8. 旅行業の今後</li> <li>9. ホテル業とは・ホテル業の分類</li> <li>10. 欧米におけるホテル業の歴史</li> <li>11. 日本におけるホテル業の歴史</li> <li>12. ホテル業の動向</li> <li>13. ホテルの組織と経営特性</li> <li>14. ホテル業界のホスピタリティー</li> <li>15. ホテル業の今後・講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて判断する。	

09 年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	横村 出
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。</p> <p>文章の難しさは、単に経験や訓練を積み上げれば上達するものではないということだ。書くことの根底には、個人としての確たる「ものの見方」が不可欠である。そこには、書き手の全人格が投影されると言っている。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。これらの心構えを理解し、書くための基礎的な力をつけてもらう。</p> <p>新聞業界の現状についても言及する。新聞が紙からデジタル化されても、文字情報の重要性は変わらない。刻々と発信される記事の事実と背景を読み解き、正しく把握するための力を養ってほしい。</p> <p>講義では、文章力を高めるために実践的に参加をしてもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。</p> <p>受講にあたって新聞は日々必読。将来、メディアや広報分野での仕事を選択肢に入れる学生の参加を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 新聞報道の歴史と変遷</li> <li>3. ジャーナリズムと「ものの見方」</li> <li>4. ジャーナリスト列伝</li> <li>5. 新聞記事（１）構成と執筆手法概論</li> <li>6. 新聞記事（２）取材とインタビュー法</li> <li>7. 新聞記事（３）事実と真実の表現法</li> <li>8. 新聞記事（４）論説・社説とは</li> <li>9. 新聞記事（５）編集のプロセス</li> <li>10. 新聞記事（６）国際取材の方法</li> <li>11. ルポルタージュ（１）題材</li> <li>12. ルポルタージュ（２）取材</li> <li>13. ルポルタージュ（３）発表</li> <li>14. ルポルタージュ（４）評価</li> <li>15. メディアの未来を考える</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。		課題ルポルタージュなどの成果（７０％）と出席・質疑応答など授業中の実績（３０％）で評価する。	

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>人やモノ、文化の移動、交流を担う航空産業における世界的な規制緩和の潮流を検証しながら、日本の空、アジアの空のこれからを考察する。又、航空を通して見えるホスピタリティ、国籍を超える人間活動、地球環境への取り組みを広い視野から考える。</p> <p>講義概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経済のグローバル、ボーダレス化を支え、牽引する航空産業の構造を検証し、これからの空の仕組み、動向を考える基礎を学ぶ。</li> <li>米のオープンスカイ戦略、EUの単一航空市場を検証し、規制緩和の世界的な動きを捉える。</li> <li>国籍規制の壁を超えるグローバル・アライアンスの動向、戦略を学ぶ。</li> <li>航空のサービスを通して見えてくるホスピタリティを捉え、これからのサービスのあり方、対抗するLCCの低運賃、その先を考察する。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について</li> <li>2. 日本の空で起きていること、航空産業の枠組み</li> <li>3. 民間航空の史的考察と、シカゴ・バミューダ体制</li> <li>4. 米のオープンスカイ戦略とLCC、CRS、H&amp;S</li> <li>5. EUの戦略；単一航空市場、“Community Air Carrier”</li> <li>6. ディスカッション；「LCCとLegacy Carrierの今後」</li> <li>7. グローバル・アライアンス（1）誕生の背景、動向</li> <li>8. グローバル・アライアンス（2）増収、世界戦略</li> <li>9. 日本の航空のこれから</li> <li>10. 航空のサービスとホスピタリティ</li> <li>11. ホスピタリティ v s LCCの低運賃</li> <li>12. 航空と観光</li> <li>13. 航空とCSR，地球環境</li> <li>14. 北東アジア共通航空市場を考える</li> <li>15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点</li> </ol> <p>* 専門家の講話も検討する</p> <p>* 上記関連で、講義の順番など事前に通知の上、一部変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：ANA総研『航空産業入門』（東洋経済新報）</p> <p>参考文献：伊藤元重他『日本の空を問う』（日経出版社）、山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）、ANA総研『エアライン・オペレーション入門』（ぎょうせい）他</p>		<p>期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢など総合的に評価する。</p>	

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。</p> <p>近年、alternative（もう1つの）という言葉の時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。</p> <p>この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものを中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>（参考文献）  W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か</li> <li>3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』）</li> <li>4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話</li> <li>5. 教育・学び・文化</li> <li>6. ジェンダーとフェミニズム</li> <li>7. 宗教と社会開発 NGO</li> <li>8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略</li> <li>9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ</li> <li>10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定）</li> <li>11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛</li> <li>12. 巨大開発計画と地域住民・NGO</li> <li>13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定）</li> <li>14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から</li> <li>15. まとめ、試験対策</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください</p> <p>（参考文献）上欄を参照。</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 食の文化を見る眼：文化とは何か</li> <li>3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定）</li> <li>4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに</li> <li>5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ）</li> <li>6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間</li> <li>7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み</li> <li>8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える</li> <li>9. 食育と学校</li> <li>10. コーヒーのグローバルヒストリー</li> <li>11. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費</li> <li>12. イタリアのスローフード、米国のシビック・アグリカルチャー、日本の地産地消</li> <li>13. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助</li> <li>14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定）</li> <li>15. 講義のまとめ、試験対策</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	



09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. グローバリゼーションの民族誌 1</li> <li>3. グローバリゼーションの民族誌 2</li> <li>4. 観光の誕生</li> <li>5. ビデオ上映</li> <li>6. 表象の政治学—情報資本主義と観光</li> <li>7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史</li> <li>8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生</li> <li>9. 文化装置としてのホテル</li> <li>10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例</li> <li>11. セックス・ツーリズム—タイの事例</li> <li>12. 少数民族と観光—タイの事例</li> <li>13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」</li> <li>14. 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在</li> <li>15. まとめ・予備日</li> </ol> <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。</p> <p>講義概要 観光を、疑似イベント、イメージ、メディアの視点から考察し、観光現象を多面的に理解する。</p> <p>併せて、貧困ツーリズム、戦場ツーリズムに見る観光形態の多様性や、バリ島の観光開発の光と影に触れ、文化の変容についても考える。又、ディズニーランドを模型文化としての視点より考察し観光現象の多様性を学ぶ。</p> <p>近年若者の海外旅行離れが懸念されているが、その現象を観光メディアの視点から考えてみたい。</p> <p>又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. 文化への新しいアプローチとしての観光</li> <li>3. 観光の誕生・疑似イベントとしての観光</li> <li>4. メディアと観光・イメージの形成とメディア</li> <li>5. バリ島観光開発の植民地政策と文化の流れ</li> <li>6. 楽園バリ島誕生の形成と文化の流れ</li> <li>7. 観光文化のグローバル化と商品化</li> <li>8. 文化観光と観光行動（疑似体験としての観光旅行）</li> <li>9. 疑似体験としての貧困・戦場ツーリズム</li> <li>10. 文化の商品化と観光文化・観光芸術</li> <li>11. 模型文化とディズニーランド</li> <li>12. ディズニー化とマクドナルド化</li> <li>13. 観光メディアと旅行市場形成</li> <li>14. 観光メディアと海外旅行</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考文献：『観光文化学』（山下晋司編）新曜社</p> <p>その他は適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて評価する。	

09 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b>          今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。</p> <p><b>講義概要</b>          国際会議、博覧会やイベントとは何か、その歴史的経緯、現状と市場を考える。          又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。          併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。</p> <p>講義では、国際会議、博覧会、イベントを中心に観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p> <p>履修希望者は 2012 年度 JATA 旅博（9 月 21 日～23 日）を必ず見学しておいて下さい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. イベント・コンベンションの発生と発展</li> <li>3. イベント・コンベンションとは①</li> <li>4. イベント・コンベンションとは②</li> <li>5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向</li> <li>6. イベント・コンベンションの仕組みと実務①</li> <li>7. イベント・コンベンションの仕組みと実務②</li> <li>8. イベント・コンベンション産業①</li> <li>9. イベント・コンベンション産業②</li> <li>10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備</li> <li>11. コンベンション・ビューローの役割と機能</li> <li>12. イベント・コンベンションの推進機関</li> <li>13. イベント・コンベンションの課題と展望①</li> <li>14. イベント・コンベンションの課題と展望②</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。          参考文献：『イベント&amp;コンベンション概論』（JTB 能力開発）その他は適宜指示する。</p>		試験結果に基づいて判断する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>ツーリズムの持つ、社会（地域、国、世界）や政治、経済との係り、これまでの“お上”主導のツーリズム政策の問題を検証し、“観光立国”のあるべき姿、方向を考察する。</p> <p>講義概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治期、不平等条約改正の一助として用いられたインバウンド・ツーリズム政策、貿易収支のバランス材だったツーリズム、地域や景観破壊に結びつくツーリズムの商業的側面を検証しながら、ツーリズムのあり方を政策の観点から点検する。</li> <li>・日本人の豊かな感性、自然観に根差したツーリズムの姿を探究する。</li> <li>・以上の文脈の中で「若者の旅離れ」や観光立国推進基本政策など現代的課題について考察する。</li> </ul> <p>（＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について</li> <li>2. ツーリズム政策の位置づけ</li> <li>3. 日本の観光政策の史的考察</li> <li>4. 観光の経済力、規模、影響力</li> <li>5. アウトバウンド・ツーリズム政策</li> <li>6. インバウンド・ツーリズム政策の検証、国際比較</li> <li>7. 「若者の旅離れ」とツーリズム政策</li> <li>8. ディスカッション；「若者の旅離れ」</li> <li>9. 貿易立国から観光立国へ</li> <li>10. 「観光立国」を考える</li> <li>11. ツーリズム政策の課題（1）；ツーリズム行政</li> <li>12. ツーリズム政策の課題（2）；景観を守る</li> <li>13. エコロジーを考える</li> <li>14. ツーリズム政策論</li> <li>15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点</li> </ol> <p>（＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：レジュメを配布する</p> <p>参考文献：鈴木茂他『観光立国と地域観光政策』（晃洋書房）、川村晃生他『崩れゆく景観』（慶応大学出版）、その他授業の中で紹介する。</p>		<p>期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>ツーリズム政策論を国レベルの視点で捉え、ツーリズム・マネジメント論では産業レベルでの取り組みや政策を捉える。景観や地域の破壊に繋がる近視眼的な商業主義、大量生産・大量消費型のツーリズムから脱し、自然や景観、地域を守ることも視野に入れたツーリズム・マネジメントのあるべき姿を考察する。</p> <p>講義概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観、地域環境、自然の破壊に繋がる儲け第一主義のツーリズム運営のあり方を検証し、景観や自然と共に発展するツーリズム産業のあり方を考える。</li> <li>・インターネットの普及の下での旅行会社離れ、若者の旅離れの実体を通してツーリズム産業の今、これからを探究する。</li> <li>・「和」、日本人の感性が生み出すツーリズムの形、「着地型観光」、体験型の観光に目をむけ、これからのツーリズム・マネジメントを考える。</li> </ul> <p>(*) ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について</li> <li>2. 観光産業の構造と観光の要素</li> <li>3. 観光の経済波及効果</li> <li>4. 観光産業の規模と観光収支</li> <li>5. 縮小する旅行業の課題</li> <li>6. 宿泊産業；衰退する日本旅館のマネジメント</li> <li>7. ディスカッション；「和 - 日本旅館を救済する」</li> <li>8. 航空産業とツーリズム</li> <li>9. ホスピタリティとツーリズム</li> <li>10. ツーリズム・マネジメントから見える日本の課題</li> <li>11. 着地型観光；マスツーリズムからの脱却</li> <li>12. 自然保護とツーリズム（1）；エコツーリズム</li> <li>13. 自然保護とツーリズム（2）；景観法、テーマパーク</li> <li>14. ツーリズム・マネジメント；既成を超える</li> <li>15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点</li> </ol> <p>(*) 専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：レジュメを配布する</p> <p>参考文献：横山秀司『観光のための環境景観学』（古今書院）、尾家建生他『着地型観光』（学芸出版）、その他授業の中で紹介する</p>		<p>期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。</p>	

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】            表象(representation)と文化の関係を、「他者の展示」という文脈から考察する。</p> <p>【講義概要】            テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客である Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997)から抜粋(pp.153-222)を用いる。            テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーすることもできる。そうでない場合は、アマゾン等で購入すること。</p>		<p>1-2 (2.2 What is a museum?)            初回、2 回目では教科書の 155~160 ページを扱う。章末の READING A も必ず読んでおくこと。履修登録が済んでいない学生でも、この部分の予習をしていなければ、次回以降の授業への参加は認めない。(単位は認定されない。)</p> <p>3-4 教科書の 160~167 ページ</p> <p>5-9 教科書の 168~184 ページ</p> <p>10-14 表象とパフォーマンスの関係を、他のテキストも参照しながらディスカッションしていく。</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記のほかは、授業中に指示する。		授業中のディスカッション、発表、期末の課題。	



09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、「ツーリズム」と「メディア」の新しい動向について学習するとともに、「両者の係わり方」について考察することです。</p> <p>講義内容としては、新聞・業界紙等のメディアを通して、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、企業の広報・広告、メディア販売、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。</p> <p>地域観光推進の事例、及び、海外旅行、国内旅行、訪日旅行、新しいツーリズムの各分野等にわたる事例を幅広く取り上げます。また、代表的な世界遺産についても学習します。</p> <p>「グループ討議」、「テーマレポート」及び「プレゼン発表」を実践することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 多様化するメディア(1)</li> <li>3. 多様化するメディア(2)</li> <li>4. ツーリズムの新たな動向(1)</li> <li>5. ツーリズムの新たな動向(2)</li> <li>6. 進化するマーケティング(1)</li> <li>7. 進化するマーケティング(2)</li> <li>8. 観光誘致策(1)</li> <li>9. 観光誘致策(2)</li> <li>10. メディア販売(1)</li> <li>11. メディア販売(2)</li> <li>12. 企業広報(1)</li> <li>13. 企業広報(2)</li> <li>14. 旅行業法の枠組み</li> <li>15. 世界遺産セレクト 10 (日次の順序は前後します)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（約 50％）＋平常授業における課題レポート等（約 50％）＝100 点満点	

09年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 地域とは何か、発展とは何か</li> <li>3. 住民参加の意義と多義性</li> <li>4. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ</li> <li>5. 組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例</li> <li>6. 地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例</li> <li>7. 共益から公益の創出へ：NYと東京の事例</li> <li>8. ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』</li> <li>9. 地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例</li> <li>10. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例</li> <li>11. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』</li> <li>12. ソーシャル・キャピタル</li> <li>13. (予定)つながりと居場所の構築：大阪の事例</li> <li>14. まとめ：まちづくりは人づくり</li> <li>15. 試験対策</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。</p> <p>21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 社会学とはどのような学問か</li> <li>3. 国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは</li> <li>4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア</li> <li>5. 国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路</li> <li>6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム</li> <li>7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容</li> <li>8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰</li> <li>9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史</li> <li>10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達</li> <li>11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定）</li> <li>12. アイデンティティについて</li> <li>13. 民際協力としての自治体国際協力</li> <li>14. 講義全体のまとめ</li> <li>15. 試験対策</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明</li> <li>オルタナティブ・ツーリズムの背景</li> <li>ビデオ上映（ジャマイカの観光開発）</li> <li>場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略</li> <li>環境主義の商品化—エコリゾート</li> <li>世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例</li> <li>世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例</li> <li>ビデオ上映（バックパッカーの窮状）</li> <li>先住民と観光—北米インディアン事例</li> <li>先住民と開発—開発的遭遇</li> <li>先住民と環境主義</li> <li>12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例</li> <li>現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として</li> <li>ダーク・ツーリズムの現状と可能性—西アフリカの事例から</li> </ol> <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		<p>授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。</p> <p>4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。</p>	

# 外国語学部共通科目シラバス

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的な前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 1</li> <li>3. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 2</li> <li>4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 3</li> <li>5. 第 2 次大戦と欧州統合</li> <li>6. 戦後復興と欧州統合 1</li> <li>7. 戦後復興と欧州統合 2</li> <li>8. ECSC の成立 1</li> <li>9. ECSC の成立 2</li> <li>10. EEC の成立 1</li> <li>11. EEC の成立 2</li> <li>12. EEC の定着期 1</li> <li>13. EEC の定着期 2</li> <li>14. EEC の定着期 3</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし</p> <p>参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）</p>	

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 通貨統合 1</li> <li>3. 通貨統合 2</li> <li>4. 通貨統合 3</li> <li>5. マーストリヒト条約以降の EU1</li> <li>6. マーストリヒト条約以降の EU2</li> <li>7. EU の制度 1</li> <li>8. EU の制度 2</li> <li>9. EU の政策 1</li> <li>10. EU の政策 2</li> <li>11. 加盟国と EU1</li> <li>12. 加盟国と EU2</li> <li>13. 加盟国と EU3</li> <li>14. EU の現在の課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし</p> <p>参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）</p>	



03 年度以降	総合講座（性と芸術）	担当者	コーディネーター 谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の総合講座は、「性と芸術」というテーマによるリレー講義です。</p> <p>「ジェンダー」「セクシュアリティ」「エロス」等をキーワードにした場合、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、その他の国の、たとえばどんな芸術作品がどんなふうに浮かび上がってくるのか。どのような問題意識があり、どのような背景があったのか。そこには、どんな表現、抵抗、当惑、禁忌、偏見、検閲、欺瞞、挑戦があったのか。そして、それらの作品を受容する現代の私たちには、いかなる態度が可能なのか。</p> <p>時代も国も異なるさまざまな作品に触れながら、「芸術」と「性」をめぐる多様な視点を手に入れてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 谷口亜沙子（フランス語学科）：初めに ― 性と芸術</li> <li>2. 原成吉（英語学科）：アメリカ詩にみるホモセクシュアリティ ― アレン・ギンズバーグを中心に</li> <li>3. 若森栄樹（フランス語学科）：フランス文学とセクシュアリティ</li> <li>4. 前沢浩子（英語学科）：「恋」か「友情」か ― Shakespeare の男たち</li> <li>5. 片山亜紀（英語学科）：19・20 世紀イギリスの同性愛文学</li> <li>6. 一條由紀（早稲田大学非常勤講師）：少年愛と吸血鬼 ― 『マルドロールの歌』を中心に</li> <li>7. 江花輝昭（フランス語学科）：18 世紀フランス文学に見る男と女</li> <li>8. 柿田秀樹（英語学科）：絵画の視覚論</li> <li>9. 上野直子（英語学科）：フェミニスト文学批評入門</li> <li>10. 渡部重美（ドイツ語学科）：グリム童話の男の子と女の子</li> <li>11. 青山愛香（ドイツ語学科）：アダムとイブ ― 北方世界におけるヌード（Akt）の誕生</li> <li>12. 下川浩（ドイツ語学科）：なぜ不倫小説が多いのか？</li> <li>13. 前田直子（ドイツ語学科非常勤講師）：ドイツの移民女性たち</li> <li>14. 谷口亜沙子：ユディットとルクレチア ― 女性の表象を読む</li> <li>15. 谷口亜沙子：総論</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に提示されます。		出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。	

03 年度以降	総合講座（神は細部に宿る）	担当者	コーディネーター 谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の総合講座は、「神は細部に宿る」という言葉から連想されるものならどんなテーマでも結構です、という呼びかけに応じてくださった多彩な講師陣によるリレー講座です。</p> <p>「細部」や「具体」への注目が真理の発見や手ごたえのある喜びにつながるという例や、「徴候」や「めだたないもの」への注意深さが全体の理解や新しい変化の鍵となることがあるというお話を、様々な分野で聞くことができれば、というのが当初の構想でした。</p> <p>さて、文学、思想、言語学、美術、歴史、人類学、精神医学、宗教、神話、社会、都市、政治、教育、コミュニケーション学などにおいて、一体どんな「神」と「細部」が登場するのか――？</p> <p>「神は細部に宿る」という言葉を、ひとつの方法論あるいは問いかけとして身に持っていることによって、目の前の世界や時間にどんな変化が起こるのかを体験してみてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 谷口亜沙子：初めに ― シャーロック・ホームズに倣って</li> <li>2. 田村毅（フランス語学科）：一編の詩から詩人とその時代の宗教思想を読み解く</li> <li>3. 工藤達也（ドイツ語学科）：ヴァルター・ベンヤミンのモノドロジーと歴史について</li> <li>4. 安井美代子（英語学科）：神の設計 ― 言語の単純性と無限性</li> <li>5. 辻田麻里（ドイツ語学科）：メタファーに聞く人間の心</li> <li>6. 工藤和宏（英語学科）：世界を変える大学生たち</li> <li>7. 佐野康子（英語学科）：「ダーウィンの箱庭」― タンザニアから世界へ</li> <li>8. 日野克美（交流文化）：地名の不思議 ― モントリオールの街路名</li> <li>9. 須永和博（交流文化）：＜周辺＞という「細部」― 寄せ場と貧困の人類学</li> <li>10. 佐藤唯行（英語学科）：ユダヤ教の成立 ― 613 もの戒律</li> <li>11. 下川浩（ドイツ語学科）：神と仏と愛と</li> <li>12. A.ゾーリンジャー（英語学科）：Utsushi: The Art of Copying（英語による講義）</li> <li>13. 青山愛香（ドイツ語学科）：神は細部に宿る ― ファン・アイク兄弟の『ゲントの祭壇画』（1432 年）</li> <li>14. 鈴木隆（フランス語学科）：細部に宿る都市空間の秩序</li> <li>15. 谷口亜沙子：総論 ― 詩の生まれる瞬間</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に提示されます。		出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2. データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3. コンピュータの構成要素</li> <li>4. ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5. オペレーティングシステム（OS）</li> <li>6. プログラム言語</li> <li>7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木</li> <li>8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9. コンピュータによる言語情報処理技術（１）</li> <li>10. コンピュータによる言語情報処理技術（２）</li> <li>11. 機械翻訳システムの演習</li> <li>12. 情報検索と質問応答システム</li> <li>13. インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14. 授業のまとめ</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PC の基本操作</li> <li>2. OS と Office の基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PC の基本操作</li> <li>2. OS と Office の基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	〔入門〕 情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、〔応用〕科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または〔応用〕の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PC の基本操作</li> <li>2. OS と Office の基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	〔入門〕 情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、〔応用〕科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または〔応用〕の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PC の基本操作</li> <li>2. OS と Office の基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PC の基本操作</li> <li>2. OS と Office の基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PC の基本操作</li> <li>2. OS と Office の基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	



08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	〔応用〕 情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、〔入門〕 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

08 年度以降	〔応用〕 情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、〔入門〕 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

08 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTML と FTP の復習 (1)</li> <li>3 HTML と FTP の復習 (2)</li> <li>4 インタラクティブなページ (HTML と CGI)</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript (1)</li> <li>7 JavaScript (2)</li> <li>8 JavaScript (3)</li> <li>9 JavaScript (4)</li> <li>10 JavaScript (5)</li> <li>11 CGI の利用</li> <li>12 総合課題 (1)</li> <li>13 総合課題 (2)</li> <li>14 総合課題 (2)</li> <li>15 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過を含む) で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。</p>	

03 年度以降	経済原論 a	担当者	未定（掲示で確認）
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。春学期のミクロ経済学では主に家計と企業の意思決定と、市場の機能について説明する予定である。</p> <p><b>講義目的</b> 日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではミクロ経済学を学習するが、消費者（家計）や生産者（企業）がどのようなことを考えながら行動しているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロ経済学とは何か</li> <li>2. 市場機能の働き①</li> <li>3. 市場機能の働き②</li> <li>4. 数学的予備知識の準備</li> <li>5. 消費者の行動理論①</li> <li>6. 消費者の行動理論②</li> <li>7. 消費者の行動理論③</li> <li>8. 生産者の行動理論①</li> <li>9. 生産者の行動理論②</li> <li>10. 生産者の行動理論③</li> <li>11. 市場均衡と資源配分</li> <li>12. 市場の失敗</li> <li>13. 政府による市場介入①</li> <li>14. 政府による市場介入②</li> <li>15. 試験前まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に指定しない。参考文献としてスティグリッツ『ミクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。</p>	

03 年度以降	経済原論 b	担当者	未定（掲示で確認）
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。秋学期のマクロ経済学では主に日本経済の概要とマクロ経済モデルに基づいた財政金融政策について説明する予定である。</p> <p><b>講義目的</b> 日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではマクロ経済学を学習するが、日本のマクロ経済の実態や、経済がどのような政策によって運営されているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学とは何か</li> <li>2. スtock変数とフロー変数</li> <li>3. GDP の概念</li> <li>4. 経済成長と寄与度</li> <li>5. 消費と貯蓄</li> <li>6. 投資</li> <li>7. GDP の決定</li> <li>8. 財市場分析</li> <li>9. 貨幣需要</li> <li>10. 貨幣供給</li> <li>11. 政府の役割と財政金融政策①</li> <li>12. 政府の役割と財政金融政策②</li> <li>13. 総需要と総供給</li> <li>14. インフレーションとデフレーション</li> <li>15. 試験前まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に指定しない。参考文献として伊藤元重『マクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。</p>	



シラバス 英語学科

---

2012年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	